愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第42集

東光寺遺跡

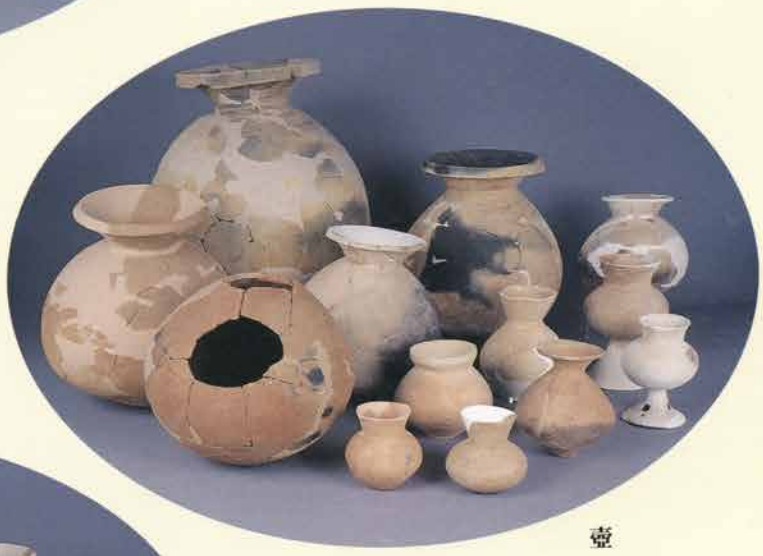
とうこうじいせき

1993

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

SD 09

SD 08



壺

SD 10

高杯

甕・鉢

序

額田郡幸田町は三河山地の地峡部から三河平野南部に位置します。山林や田園の広がるこの地域の人々の生活の跡は縄文時代から辿ることができ、昔から古い時代の遺物が各所から発見されています。ことに近年の激しい「開発」により、新たに見つかる遺跡・遺物の量は今までとは比較できないほどであります。

今回の東光寺遺跡の調査は、県道建設に伴うものであります。調査の結果、縄文時代から近世にかけての遺構・遺物が見つかり、従来知られていなかった事実が次第に明らかになってきました。これにより地域の歴史に新しい知見が加わり、その内容がさらに豊かなものになると思われます。

調査に当たり、愛知県教育委員会のご指導、並びに地元住民の方々と幸田町をはじめとする関係諸機関から格別のご協力を頂きましたことに深く感謝申し上げる次第であります。

本書が、地域史研究や埋蔵文化財に対するご理解の一助ともなれば幸いです。

1993年3月

財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
理事長　高　木　鐘　三

例　　言

1．本書は、愛知県額田郡幸田町深溝に所在する東光寺遺跡(県遺跡番号61088)の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、愛知県土木部が実施する県道蒲郡碧南線建設に伴うもので、愛知県教育委員会を通じて県土木部の委託を受け、㈶愛知県埋蔵文化財センターが実施した。

3．調査期間は、平成元年４月から９月、及び同２年４月から９月である。

4．調査担当者は、福岡晃彦（主査）・大橋正明（主事）・山田　基（同）・川井啓介（同）・酒井俊彦（同）・松田　訓（嘱託員）・山口昌直（同）・伊藤隆彦（同）である。

5．調査に際しては、次の関係機関の指導・協力を受けた。
愛知県教育委員会文化財課・愛知県埋蔵文化財調査センター・愛知県土木部・幸田町

6．遺物整理、製図については次の方々の協力を得た。
古橋佳子（調査研究補助員）・多田富代・田中和子・服部英子・玉造美智子・早川久美

7．本書の執筆は、酒井俊彦（調査研究員）・大橋正明（課長補佐兼主査）・都築暢也（同）・宮腰健司（調査研究員）・川井啓介（同）・服部俊之（同）・森　勇一（元課長補佐兼主査、現県立明和高校）・加藤安信（調査課長）が担当し、文責は各文末に記した。出土遺物の写真撮影は石黒立人（調査研究員）・城ヶ谷和広（課長補佐兼主査）が行い、石器の石材鑑定は楯真美子（調査研究員）が行った。本書の編集は、加藤調査課長が各執筆分担者と討議のうえ行った。

8．調査区の座標は、建設省告示に定められた平面直角座標第Ⅶ系に準拠し、これを示した。

9．調査記録、出土遺物は、㈶愛知県埋蔵文化財センターが保管する。

10．報告書をまとめるにあたり、岩瀬彰利（豊橋市美術博物館)、杉浦　知（刈谷市郷土資料館）、矢田直幸、設楽博巳（国立歴史民俗博物館）、家根祥多（立命館大学）、安井俊則（小坂井西小学校）の方々からご教示を賜った。記して感謝する。

目　　次

序
例　　言
目　　次

第Ⅰ章　調査の概要
第１節　調査の経緯 …… 1
第２節　調査の経過 …… 2
第３節　遺跡の位置と歴史的環境 …… 4
(1)　位置と地形 …… 4
(2)　遺跡立地 …… 5
(3)　歴史的環境 …… 5

第Ⅱ章　遺　　構
第１節　遺跡の広がりと基本層序 …… 8
(1)　遺跡の広がりと発掘調査区 …… 8
(2)　基本層序 …… 9
(3)　遺構の時期区分 …… 14
第２節　Ⅰ期の遺構 …… 15
(1)　窪地 …… 15
(2)　土器棺墓 …… 16
(3)　その他の縄文時代遺構 …… 18
第３節　Ⅱ期の遺構 …… 19
(1)　竪穴住居 …… 19
(2)　溝 …… 19
(3)　土坑 …… 29
第４節　Ⅲ期の遺構 …… 30
第５節　Ⅳ期の遺構 …… 33
第６節　Ⅴ期の遺構 …… 35
(1)　遺構の概観 …… 35
(2)　埋立柱建物 …… 36
(3)　溝 …… 37
(4)　土坑 …… 39

第Ⅲ章　遺　　物
第１節　Ⅰ期の遺物 …… 41
(1)　縄文土器 …… 41
(2)　土製品 …… 54
(3)　石器 …… 55
第２節　Ⅱ期の遺物 …… 60
(1)　弥生時代中期 …… 60
(2)　弥生時代後期 …… 61
第３節　Ⅲ期の遺物 …… 67
第４節　Ⅳ期の遺物 …… 67
第５節　Ⅴ期の遺物 …… 68

第Ⅳ章　自然科学的分析
第１節　縄文土器の胎土分析 …… 69
(1)　分析の目的 …… 69
(2)　試料 …… 69
(3)　分析方法 …… 69
(4)　分析結果 …… 70
(5)　考察 …… 70
第２節　「黒ボク」土壌の分析 …… 78
(1)　はじめに …… 78
(2)　黒ボク土の生成年代について …… 79
(3)　黒ボク土の母材・生成環境・起源について …… 83
(4)　おわりに …… 88
＜要約＞ …… 88

第Ⅴ章　まとめ …… 92

報告書抄録 …… 95

挿　図　目　次

第１図　調査日程 …… 1
第２図　調査区位置図 (1) …… 2
第３図　調査区位置図 (2) …… 3
第４図　遺跡位置図 …… 4
第５図　周辺地質図 …… 5
第６図　東光寺遺跡周辺の小字名 …… 6
第７図　東光寺遺跡と周辺の遺跡 …… 7
第８図　深溝断層と発掘調査区 …… 9
第９図　基本層序 …… 11
第10図　89A区の旧河道 …… 12
第11図　90B区の旧河道 …… 13
第12図　NR01平面図及び断面図 …… 16
第13図　土器棺出土状態図 …… 17
第14図　縄文中期土器出土状態図 …… 18
第15図　Ⅱ期の竪穴住居 …… 20
第16図　SD02・SD03平面図・断面図 …… 21
第17図　SD04・SD05平面図・断面図 …… 22
第18図　SD08～SD11付近の土層図 …… 23
第19図　SD08・SD09平面図・断面図 …… 24
第20図　SD10・SD11平面図・断面図 …… 25
第21図　SD10弥生土器出土状態図 …… 26～27
第22図　Ⅲ期の竪穴住居 (1) …… 31
第23図　Ⅲ期の竪穴住居 (2) …… 32
第24図　Ⅳ期の竪穴住居 …… 34
第25図　Ⅴ期の遺構配置図 …… 35
第26図　SA01平面図・断面図 …… 36
第27図　SA02平面図・断面図 …… 36
第28図　SD06平面図・断面図 …… 37
第29図　SD12～ＳＤ19平面図・断面図（除くSD12） …… 38
第30図　SK189平面図・断面図 …… 40
第31図　SK530平面図・断面図 …… 40

第32図　縄文時代中期土器 …… 42
第33図　石　　棒 …… 59
第34図　勾玉・臼玉・管玉 …… 59
第35図　SK558・560出土弥生土器 …… 60
第36図　試料の重鉱物組成ダイアグラム (1) …… 75
第37図　試料の重鉱物組成ダイアグラム (2) …… 76
第38図　試料の重鉱物組成ダイアグラム (3) …… 77
第39図　愛知県とその周辺の黒ボク土分布図 …… 78
第40図　岐阜県養老町の扇状地上における露頭断面図 …… 82
第41図　三重県多度町の扇状地堆積物の露頭スケッチ …… 82
第42図　蒲郡市竹谷町の黒ボク土堆積状況 …… 82
第43図　腐植土層中の全炭素とプラント・オパールの関係 …… 85
第44図　弥生時代（Ⅱ期）環濠集落変遷図 …… 94

表　目　次

第１表　東光寺遺跡関連胎土分析試料 …… 73
第２表　試料の重鉱物組成 …… 74
第３表　東海地方の黒ボク土の放射線炭素年代値 …… 81
第４表　黒ボク土試料の植物珪酸体・鉱物分析結果 …… 84

付　表

１．遺構一覧表 …… 98
２．遺物一覧表 …… 106

図　版　目　次

図版 1　遺構全体図 (1)
図版 2　遺構全体図 (2)
図版 3　遺構全体図 (3)
図版 4　遺構全体図 (4)
図版 5　遺構全体図 (5)
図版 6　遺構全体図 (6)
図版 7　遺構全体図 (7)
図版 8　遺構全体図 (8)
図版 9　遺構全体図 (9)
図版10　縄文土器 (1)
図版11　縄文土器 (2)
図版12　縄文土器 (3)
図版13　縄文土器 (4)
図版14　縄文土器 (5)
図版15　縄文土器 (6)
図版16　縄文土器 (7)
図版17　縄文土器 (8)
図版18　縄文土器 (9)
図版19　縄文土器 (10)
図版20　縄文土器 (11)
図版21　縄文土器 (12)
図版22　縄文土器 (13)
図版23　縄文土器 (14)
図版24　縄文土器 (15)
図版25　縄文土器 (16)
図版25　縄文土器 (17)
図版27　縄文土器 (18)
図版28　縄文土器 (19)
図版29　縄文土器 (20)
図版30　縄文土器 (21)
図版31　縄文土器 (22)
図版32　縄文土器 (23)
図版33　縄文土器 (24)
図版34　縄文土器 (25)
図版35　縄文土器 (26)
図版36　縄文土器 (27)
図版37　縄文土器 (28)
図版38　縄文土器 (29)
図版39　縄文土器 (30)
図版40　縄文土器 (31)
図版41　縄文土器 (32)
図版42　土製品 (1)
図版43　土製品 (2)
図版44　石　器 (1)
図版45　石　器 (2)
図版46　石　器 (3)
図版47　石　器 (4)
図版48　石　器 (5)
図版49　石　器 (6)
図版50　石　器 (7)
図版51　石　器 (8)
図版52　石　器 (9)
図版53　石　器 (10)
図版54　石　器 (11)
図版55　石　器 (12)
図版56　弥生土器 (1)
図版57　弥生土器 (2)
図版58　弥生土器 (2)
図版59　弥生土器 (3)
図版60　弥生土器 (4)
図版61　弥生土器 (5)
図版62　弥生土器 (6)
図版63　弥生土器 (7)
図版64　弥生土器 (8)
図版65　弥生土器 (9)
図版66　弥生土器 (10)
図版67　弥生土器 (11)
図版68　弥生土器 (12)
図版69　弥生土器 (13)
図版70　弥生土器 (14)
図版71　弥生土器 (15)
図版72　弥生土器 (16)
図版73　弥生土器 (17)
図版74　弥生土器 (18)
図版75　弥生土器 (19)
図版76　弥生土器 (20)
図版77　弥生土器 (21)
図版78　弥生土器 (22)
図版79　弥生土器 (23)
図版80　弥生土器 (24)
図版81　弥生土器 (25)
図版82　古墳時代の土師器・須恵器ほか
図版83　古代の土器
図版84　中世以降の土器・陶磁器 (1)
図版85　中世以降の土器・陶磁器 (2)

写 真 図 版 目 次

写真図版１　89A区全景（西から）
写真図版２　89A区全景（東から）
写真図版３　89B区全景（西から）
写真図版４　90A区全景（東から）
写真図版５　90B区全景（西から）
写真図版６　90B区全景（東から）
写真図版７　NR01、縄文土器出土状況
写真図版８　SZ02・06・07
写真図版９　SD02
写真図版10　SD02・04・05
写真図版11　SD08～SD11
写真図版12　SD10
写真図版13　SD08・09
写真図版14　SD08～SD11
写真図版15　SB05～SB08他
写真図版16　SB01・02・03・10
写真図版17　SK70・189、Ⅴ期の溝
写真図版18　SA01、SD06
写真図版19　縄文土器
写真図版20　縄文土器
写真図版21　縄文土器
写真図版22　縄文土器
写真図版23　縄文土器
写真図版24　縄文土器
写真図版25　縄文土器
写真図版26　縄文土器
写真図版27　縄文土器
写真図版28　縄文土器
写真図版29　縄文土器
写真図版30　石　　器
写真図版31　石製品・土製品
写真図版32　弥生土器
写真図版33　弥生土器
写真図版34　弥生土器
写真図版35　弥生土器
写真図版36　弥生土器
写真図版37　弥生土器
写真図版38　弥生土器
写真図版39　弥生土器
写真図版40　弥生土器
写真図版41　弥生土器
写真図版42　弥生土器
写真図版43　弥生土器
写真図版44　弥生土器
写真図版45　弥生土器
写真図版46　弥生土器
写真図版47　土師器・須恵器

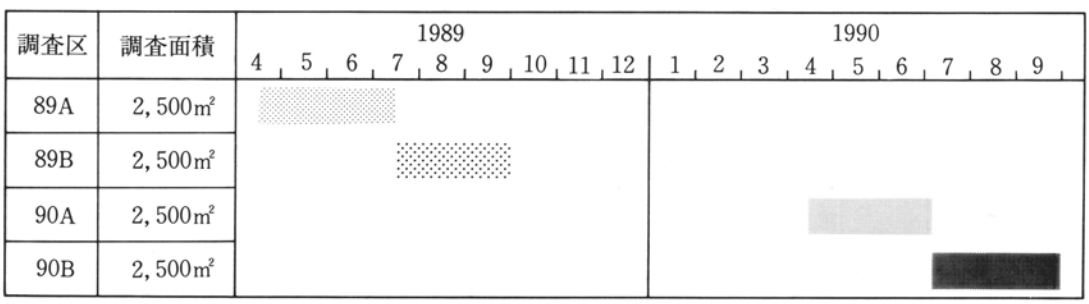
第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査の経緯

東光寺遺跡は愛知県額田郡幸田町大字深溝字上天白、字天白、及び字城跡にかけて所在する。遺跡は、近年までその存在が知られておらず、この地区の県道蒲郡碧南線と同安城蒲郡線建設に伴う圃場整備事業に先立って行われた幸田町教育委員会の調査によって確認された。東光寺遺跡は同教育委員会によって命名されたものである。同教育委員会は、1985年（昭和60年）に試掘調査を行い、1986年度（昭和61年度）に第１次から第３次、1987年度（昭和62年度）に第４次から第６次の調査を行った。調査部分は、第２図に示す。この調査によって、主な遺構としては弥生時代後期の溝２条、中世の溝１条が検出された。また、遺物として縄文時代中期から中世までの遺物が出土している。この結果、三河山地南端をなす三ヶ根山を中心とする山塊の北麓の山地と拾石川に挟まれた河岸段丘上に縄文時代から中世にかけての遺跡が展開することが推定されるに至った。県道建設計画では、蒲郡碧南線はこの細長い段丘上を東西に横断し、安城蒲郡線は段丘を北西方向から南東方向に縦断して十字に交差する。前者は推定される遺跡範囲のほぼ中央部を横断し、後者は同様に縦断するものと予想された。

今回の調査は、建設が計画されている二本の県道のうち、先行して建設される蒲郡碧南線部分を対象としたものである。建設にあたり㈶愛知県埋蔵文化財センターは愛知県土木部から調査依頼を愛知県教育委員会を通じて受け、発掘調査を実施した。調査範囲は、県道建設予定地のうち、県道深溝西浦線との交差地点から東側、拾石川との交差地点までである。安城蒲郡線との交差地点を境に、1989年度（昭和63年度）は調査範囲を西半地区、1990年度（平成元年度）は東半地区に区切って調査を行った（第１・３図）。

（酒井俊彦）



福岡晃彦、山田　基、川井啓介、山口昌直、松田　訓、酒井俊彦

福岡晃彦、川井啓介、伊藤隆彦、酒井俊彦

福岡晃彦、川井啓介、酒井俊彦

福岡晃彦、大橋正明、川井啓介、酒井俊彦

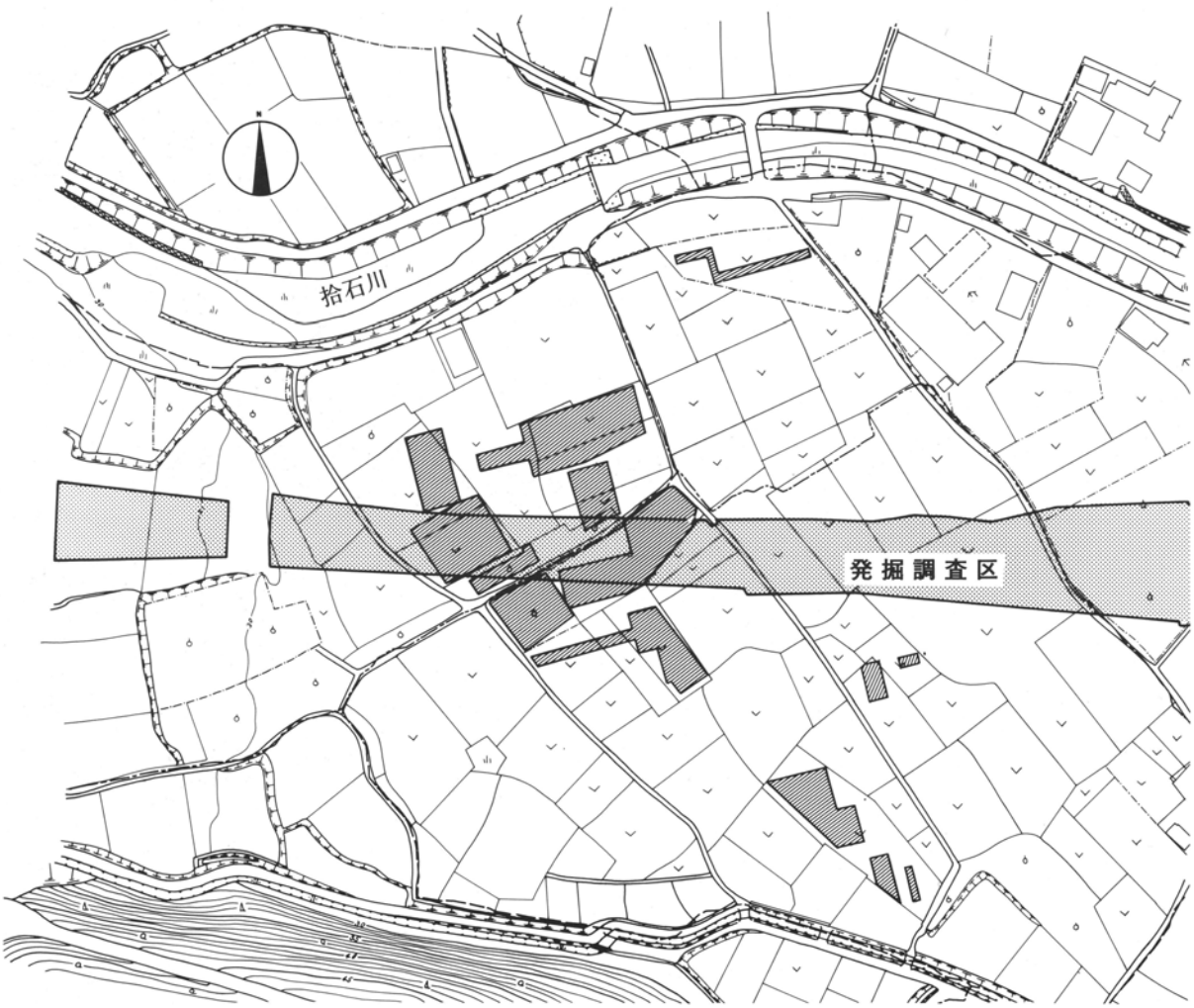
第１図　調　査　日　程

第２節　調査の経過

1989年度の調査は、地形上の制約から２調査区に分割して行った。調査地区の中央に断層による南北に走る段差があり、これを境界にして西半部分に89A区を、東半部分に89B区を設定した。1990年度の調査地区は、地形上の差異から西半の段丘上の平坦面の部分に90A区を、拾石川に向かってやや傾斜する東半部分に90B区を設定した（第３図）。総調査面積は10,000㎡であり、各調査区の調査面積は第１図に示した。

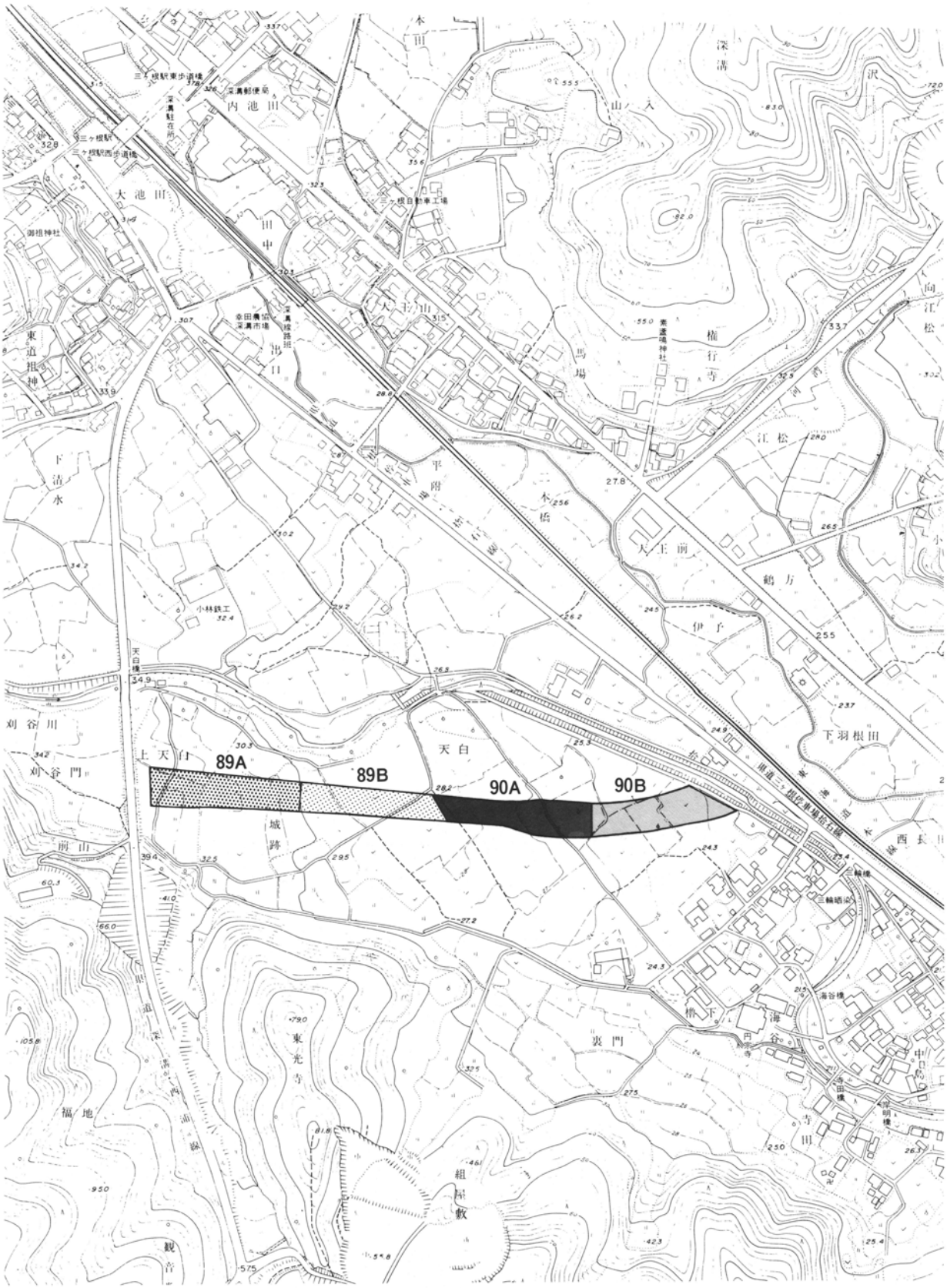
遺跡は洪積層からなる河岸段丘上にあり、ほぼ平坦な地形に立地する。周囲は圃場整備によって区画された水田などの耕作地である。このため調査を実施するにあたり、大きな障害はなく、調査は第１図のような日程で行った。

（酒井　俊彦）



幸田町教育委員会の調査範囲

第２図　調査区位置図(1)



第3図 調査区位置図(2)(1／5,000)

第３節　位置と環境

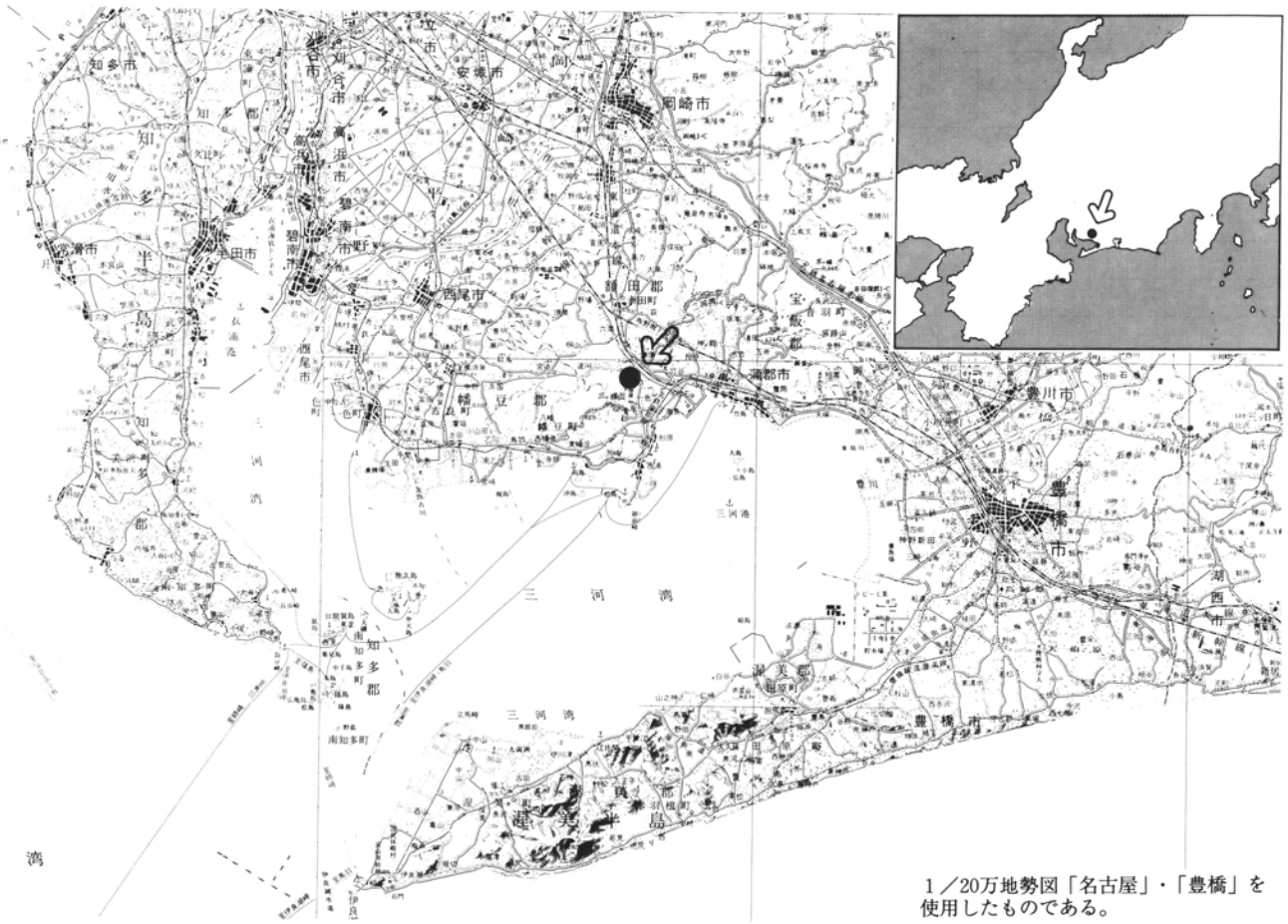
(1)　位置と地形

東光寺遺跡は、西三河南部の額田郡幸田町大字深溝上天白・天白・城跡にかけて所在する遺跡である。

幸田町は、西三河平野の南部に位置し、その周囲は、北が岡崎市、東は蒲郡市、南は幡豆郡幡豆町・吉良町、西は西尾市に接している。その地形を瞥見するならば、東～南～西の三方は美濃・三河高原の南端にあたる幡豆山地（頂部・三ヶ根山、標高 320ｍ）と、その東の遠峰山（標高 439ｍ）を頂部とする山地に囲まれており、その裾部にはいくつかの浅い開析谷が発達している。これらの山地は全面積の54％を占めており、松・杉・檜などの針葉樹が植えられているほか、日当たりのよい南斜面ではみかん栽培が盛んである。

東西の両山地の間は平地で、北部の岡崎市域から広がりを見せている氾濫平野（標高５～15ｍ）が、南方向へロート状に収束しながら蒲郡市へ続いている。現在の市街地や東海道本線・国道 248 号線などの交通路は、この平地に発達している。

平地と山地の間には洪積台地ないし扇状地が分布し、集落・水田・畑・ため池などに利用されている。



１／20万地勢図「名古屋」・「豊橋」を使用したものである。

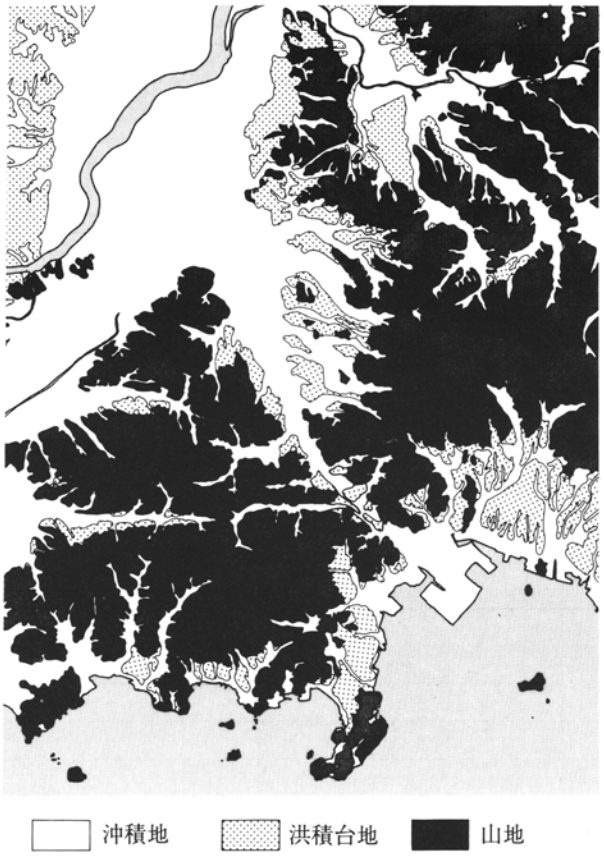
第４図　遺　跡　位　置　図

(2) 遺跡立地

東光寺遺跡は、幸田町南部を西から東に流れる二級河川拾石川右岸に位置している。拾石川は、幡豆郡大沢地区に源を発し、開析谷の谷底平野部を蛇行しながら東進し、幸田町逆川・一ノ瀬などの集落をぬって谷口の大字深溝に至る。川はここで右に大きくカーブを描き、その川幅を広げて南下し、蒲郡市拾石町で三河湾に注いでいる。

遺跡は、ちょうどこの拾石川が大きくカーブしたそのふところに抱かれる位置にあたる。新生代第四紀洪積世に形成された中位段丘上に立地し、周辺の畑には円礫層の一部が露出している所もある。

標高は24～32ｍを測り、西と南にある丘陵から緩やかな傾斜で、北～東の拾石川に下っている。



第５図 周 辺 地 質 図

(3) 歴史的環境

本遺跡を取り巻く歴史的な環境について言及してみよう。

縄文時代の遺跡として遺跡地図に明記されているものはないが、当時の遺物と考えられる石器（石棒、石鏃、石匙）は、これまでに幸田町北部地域の坂崎、久保田、大草などで若干発見されている。これらの地は、遠峰山西麓から伸びる台地上に立地し、その西側には当時大きな沼地であったと考えられる菱池が位置している。

弥生時代の遺物は、やはり菱池周辺から出土しており、当時大きな池となって満々と水を湛えていたであろう菱池の岸辺に、弥生人の生活の痕跡を伺うことが出来る。

引き続き古墳時代に至っても、この地を中心にした古代集落が想定されており、菱池沼の東部や西部の丘陵地には古墳群が形成されている。しかしそれ以南の地域においては、１～２基程度の古墳が散在的に分布し、幸田町北部や幡豆町のやや群集的な有様とその様相を異にしている。地形に制約された生産基盤の違いによるものか、集落内の身分的な構成要素の違いによるものか、にわかに断じがたい。『愛知県遺跡分布地図（Ⅱ）－知多・西三河－』によれば、大部分の古墳が古墳時代後期の横穴式石室墳であり、円墳である。

昭和61年３月に調査された日向山古墳は、本遺跡より東方１㎞の丘陵先端部に築造された円墳で、外護列石を伴い、竪穴系横口式石室を構築している。須恵器坏・馬具・鉄鏃・碧玉製管玉が出土し、６世紀前半に比定されている。初期横穴式石室の系譜を探る上で、坂崎にある青塚古墳（６世紀前半、前方後円墳、竪穴系横口式石室）や幡豆町の中ノ郷古墳（５世紀後半、墳形不明、竪穴系横口式石室）

と共に注目すべき古墳である。

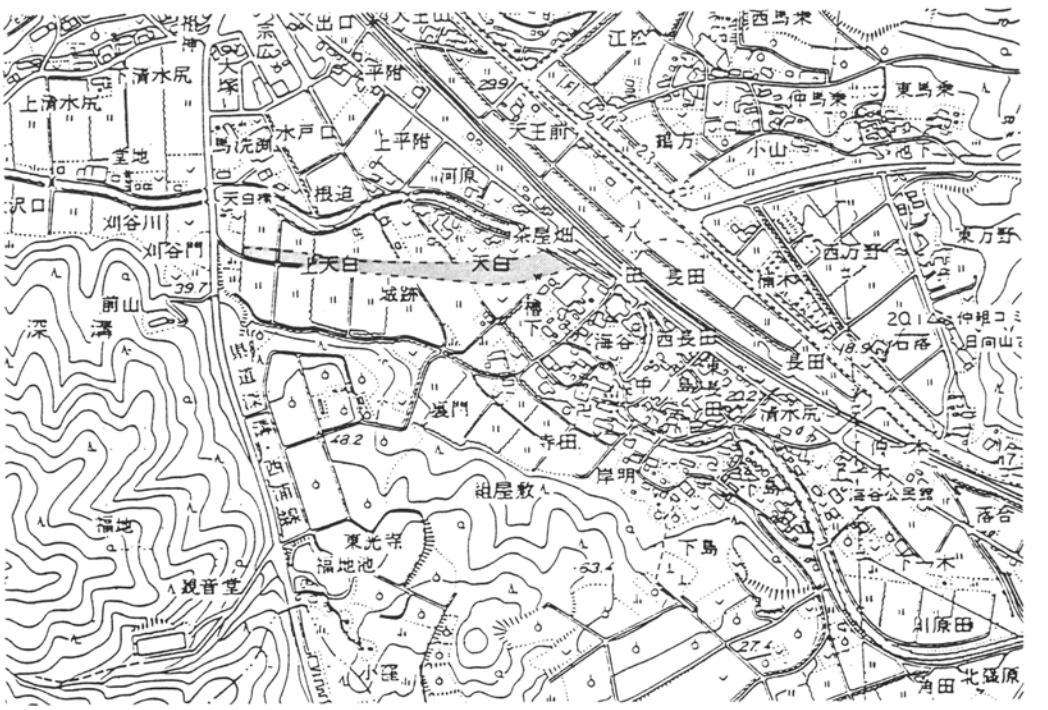
また、日向山古墳から谷を隔てた北の馬乗丘陵南端部には、7世紀初頭の築造と考えられている方墳の馬乗第2号墳がある。外護列石を伴い、横穴式石室内からは須恵器坏・平瓶・直刀・鉄鏃・銀環・金銅製空玉が出土している。本遺跡内にも2～3基の古墳が所在していたが、いずれも開墾のために消滅したという。

律令体制下におけるこの地の様子は不明であり、わずかに平安時代末期に至って須美が伊勢神宮外宮領になったこと（蘇美御厨・蘇美御園）、町北東部の坂崎において窯業が開始されたことが知れるのみである。窯業は鎌倉期に至って発展し、久保田・長嶺・大草などやはり北東部地域に広がりを見せている。

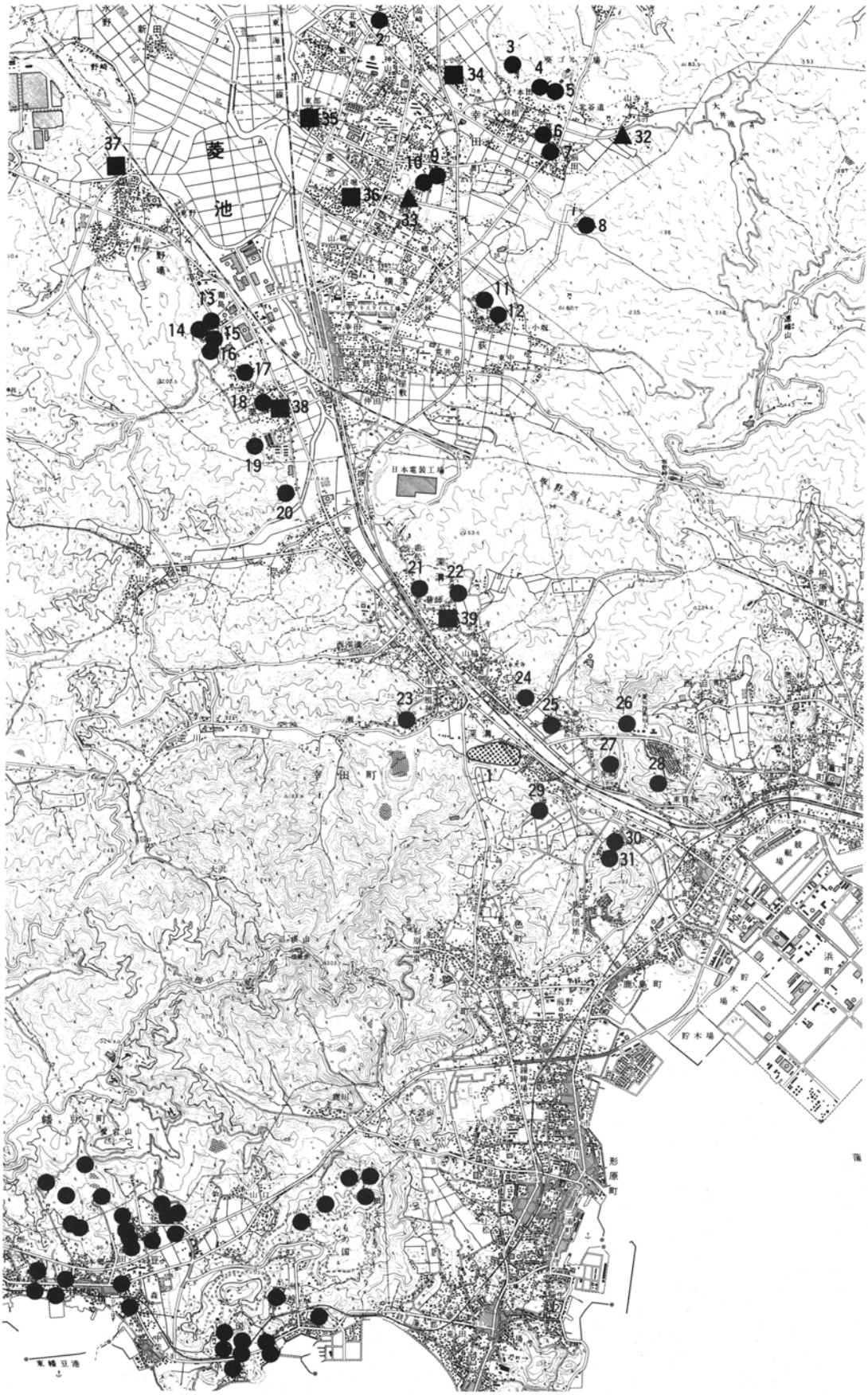
中世のこの地の歴史も断片的に知れるのみである。承久の乱直後に三河守護になった足利義氏は、額田・設楽二郡と吉良・碧海二荘の地頭職を与えられた。したがって、額田郡内に属する当地にも、足利被官の武士達が郷司職を分給され屋敷を構えたと考えられる。

室町期に至るとこの地は将軍家料所となり、寺社への寄進や奉公衆への分割宛行がなされたため、複雑な様相を呈した。観応元年に足利直義に呼応して一揆を組んだ十三氏二十一人の中には、大場姓の者も見られる。深溝城の大場氏であろう。このほか戦国期を通じて、岩堀（岩堀城）、大草・西郷（大草城）、高力（高力城）、夏目（野場城）、天野・平岩（坂崎城）など旧奉公衆・守護被官・在地小領主などの名が見え、16世紀に家康が出ると松平氏の家臣と化していった。深溝城には松平忠定が入り、深溝松平を称した。

東光寺遺跡内には、中世に城もしくは屋敷があったという伝承がある。いま遺跡周辺の小字名を見ると、城跡、櫓下、裏門、組屋敷、刈谷門など、城郭に関係した名称を確認することができる。しかし中・近世の史誌類にはこのことにかんする史料は見当たらない。　（大橋　正明）



第6図　東光寺遺跡周辺の小字名



1　東光寺遺跡
2　高崎古墳
3　月星古墳
4　北入り古墳
5　入坂古墳
6　大塚第2号墳
7　大塚第1号墳
8　具和名古墳
9　丸山古墳
10　松山古墳
11　宮下第1号墳
12　宮下第2号墳
13　釜石第1号墳
14　釜石第4号墳
15　釜石第3号墳
16　釜石第2号墳
17　山屋敷古墳
18　中屋敷古墳
19　大後古墳
20　元屋敷古墳
21　立石古墳
22　長満寺古墳
23　東稲葉古墳
24　天王山古墳
25　小山古墳
26　馬乗第2号墳
27　日向山古墳
28　見晴山古墳
29　組屋敷古墳
30　江丁古墳
31　黒田古墳
32　会下古窯
33　瓶割古窯
34　大草城
35　東部城
36　岩堀城
37　野場城
38　六栗城
39　深溝城

この図は、国土地理院発行1／25,000の地形図「幸田」「蒲郡」を使用したものである。

第7図　東光寺遺跡と周辺の遺跡（1／50,000）

第Ⅱ章　遺　　構

第１節　遺跡の立地・広がりと基本層序

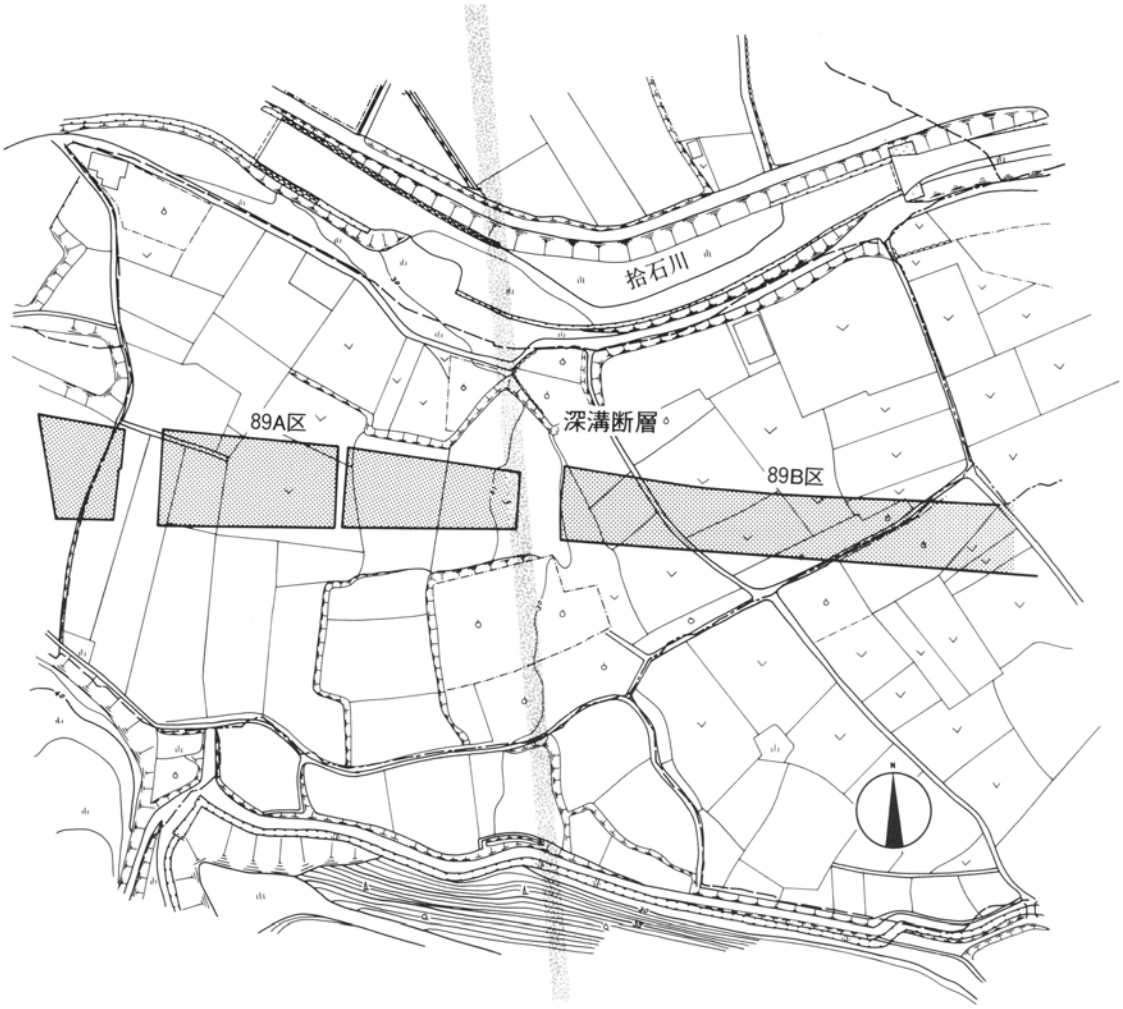
(1)　遺跡の立地・広がりと発掘調査区

本遺跡は洪積台地である河岸段丘の中位面に立地する。この河岸段丘は、三河高原の南端部に飛び地状に存在する三ヶ根山の山塊から東西方向に流れる拾石川の河谷の右岸に位置する。南側が三河湾に面している三ヶ根山の山塊は、北西方向から南東方向に走る峡谷によって三河高原から分断されている。東光寺遺跡は、拾石川が河谷から峡谷にむかって開く地点にある。三ヶ根山の河谷を東流してきた拾石川はこのあたりから、南東方向に流れを変えて約２㎞下り、三河湾に流れ込む（第７図）。

東光寺遺跡の位置する河岸段丘は、三ヶ根山の山麓に東西方向にのびた南側の東西方向の山裾と、蛇行しながらこれに並行する北側の拾石川で画される。段丘の西側は山塊の北への張り出しによって画される。東側は北西方向から南東方向に走る谷あいに面し、南東に方向を変え、さらに山塊に向かって南から南西方向に蛇行する拾石川によって画される。現地形において、段丘面と拾石川の河床との高低差は２～３ｍを測り、河岸は急傾斜となっている。段丘に面する西半の山塊の山腹はかなり急傾斜であるが、東半分では比較的緩傾斜である。段丘は河谷の上流へ若干続き、山塊と拾石川によって画された東西約 700 ｍ、南北約 300 ｍの細長いひとつの完結した区域をつくっている。

この段丘の西隅には県道深溝西浦線が南北に走っているが、これより東の地区は県道建設に伴って区画が整理された水田となっている。これにより現在は西から東に下る階段状の地形になっている。元の地形は、西の拾石川の上流から東の下流方向に向かって緩やかに下っていた。南の山塊の山裾部分から小河川が拾石川に並行して流れ、段丘の東端おいて拾石川が南に向きを変えた部分で合流する。この河川は現在整備され、狭い範囲を流れているが、元来は現状より広い範囲が小河谷となっていたらしく、その部分が段丘上において周囲より低い部分になっている。このため、段丘の南北方向は南の山塊の山裾部分が低く、段丘の中央に向かってわずかに高くなり、中央から西の拾石川に向かって緩やかに下がっている。等高線からも、段丘の中央が若干高くて、西から東に向かって下る緩やかな尾根状の地形が読みとれる（第３図）。

段丘は全体として平坦な地形となっているが、西端から約 250 ｍの地点、すなわち、1989年度の調査区を89A区と89B区に分割した境界に急角度をもつ崖状の段差がほぼ南北に走っている。この地点で東側の段丘面は、西側に対して 1.８ｍ～２ｍ下がる。この段差は、1945年に発生した三河地震の際に形成された断層によるものである。この断層は深溝断層と呼ばれるが、遺構のあり方からして断層による段差はそれ以前からあった可能性もある。標高は、断層の西側の面において、段丘の西端で約34ｍ、89A区の西端で約32ｍ、89A区の断層西側で31ｍ強である。東側の面においては、89B区の断層の東側で29ｍ強、90B区の段丘の東端で約24ｍである（第９図）。拾石川は、現状では整備されて



第8図　深溝断層と発掘調査区

いるために狭い範囲を流れ、河岸は段差となっている。しかし、元来は現在の流路を中心に幅広い河谷を形成していた。90B区において拾石川の右岸の河谷は現状の河岸より30～40m広がり、緩やかな傾斜となっている。調査の結果から、中世以前はより幅の広い自然な河谷であり、近世以後に現在のような河岸が形成されたことが判った。

(2)　基本層序

遺跡の立地する段丘中位面は、三河平野に広がる洪積台地の碧海層に相当し、洪積層からなる（第5図）。全調査区の中で、90B区の東半を除く大部分がこの層を基盤面とする。基盤層の上面は、最近の土地改良事業以前は人為的な改変がほとんどなく、89A区の自然河道、89A区と89B区の境界の断層、90A区の自然な落込みなどを除いてほぼ平坦な面をなす。現地表から基盤層までの深さは、拾石川の河谷に近い90B区の西半で 0.3 ～ 0.4m と最も浅く、最も深いのは90A区の東半で 1.6m である。調査区の大部分は、現地表から 0.6 ～ 1.1m で基盤面に達する。基盤層は、89A区東半から90A区西半と90B区東半では、細砂と少量の細礫を含むシルトを主体とする黄褐色あるいは褐色土である。基盤層は、調査区の中心では比較的均質であるが、部分的に砂分が主体となる。あるいは小礫か

ら中礫を多く含むなど調査区によって若干の変化がみられる。

現地表面は畑作の耕作土が大部分で、89A区などでは水田耕作土に覆われる。調査区の西半は、県道建設に先行する圃場整備事業の工事などによって若干の盛り土が行われている。現在の耕作土は、調査区の大部分で 0.2～0.4mの厚さである。90B区東半を除く河岸段丘面上では、基本的にその下面から基盤層面にシルトを主体とし粗細砂を含む褐色土が堆積する。この土層は、若干の差異から2層に分かれる。上層は、下層に比較して明るい色調で、砂分が多く、粘性も少なくややしまりがない。いっぽう下層は、下面に近いほど暗い色調であり、粘性がやや強くしまっている。調査区の大部分において、上層は 0.2～0.5m、下層は 0.2～0.4mの厚さである。上層は、耕作による撹乱などの現在の人為的活動によっては直接的な影響を受けていないが、植物の根が入るなど地表面からの影響を受けている。これに対して下層は、現在の地表面から影響を受けず、安定した層である。この褐色土は、89A区から89B区にかけては褐色から暗褐色であるが、90A区西半から中央部にかけては黒色化し、黒褐色から黒色を呈している。特に、90A区中央部ではいわゆる黒ボクに近いものである。90B区では、基盤層を覆う堆積土は薄くなる。これは、段丘末端に近いために堆積土が河谷に流出したためである。このために、地表面の人為的活動の影響が基盤層に近いところにまで及び、褐色土の層は薄く、褐色土の下層は存在しない。部分的には耕作土が直接基盤層に達している。

現耕作土下の褐色土は、縄文時代から中・近世までの遺物を含む層である。しかし、この層は一定の時代の遺物包含層とは特定できない。また、この層中において一定の時代の遺構面も検出できなかった。

以下、各調査区ごとに基本層序を概述する。

89A区（第9図A～D）

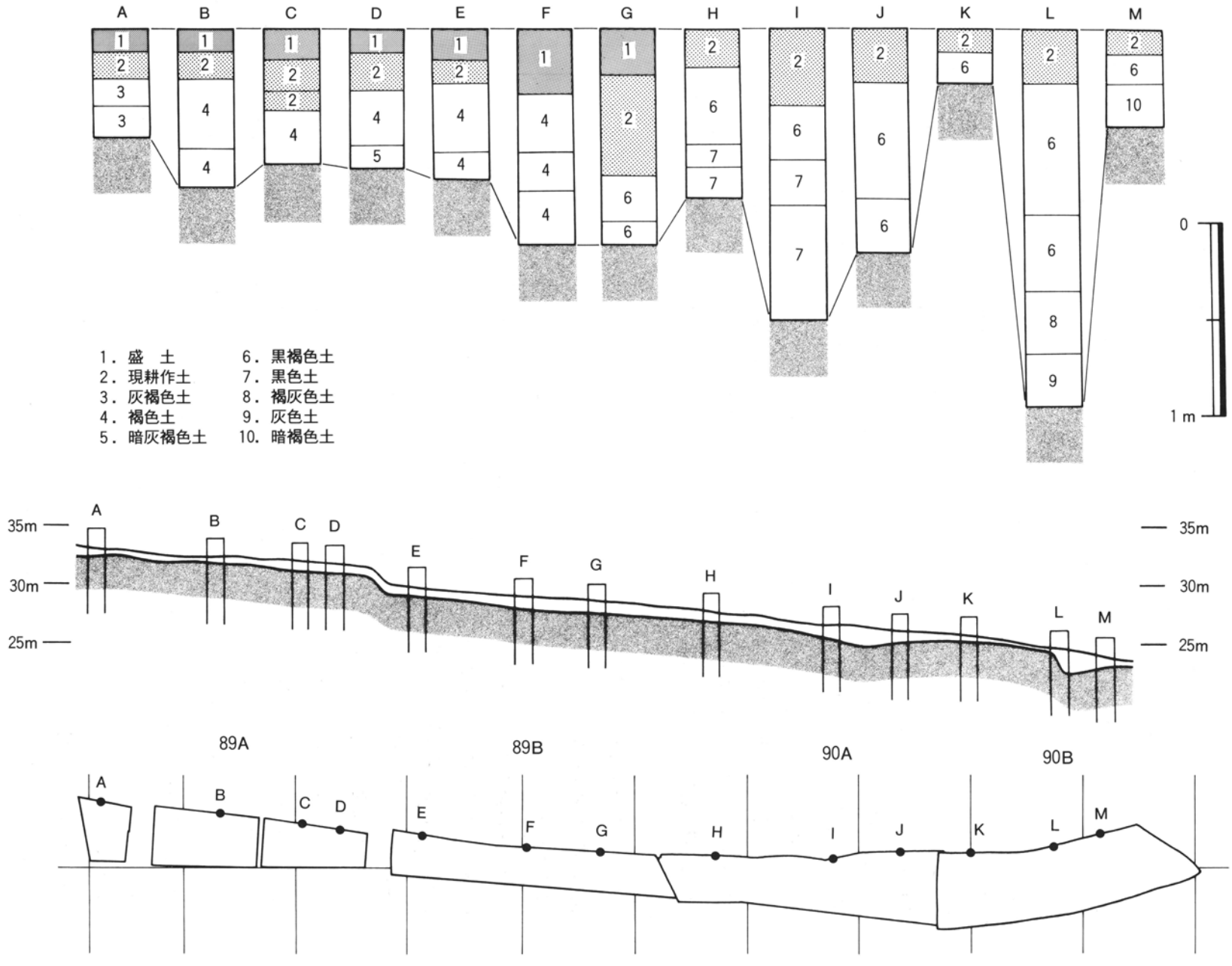
この調査区は調査地区の西端に位置し、他の調査区に対して深溝断層をはさんで一段高い平坦面上にある。現地表面から基盤面までの深さは概ね一定しているが、東部は、深溝断層の影響により不安定である。西部には、旧自然河道による影響が認められる。現地表面は 0.2mの最近の盛り土によって覆われている。基本的には、盛り土下に0.2～0.3mの畑作の耕作土があり、その下層に0.3～0.5mの褐色土をはさみ、現地表より 0.6～0.8mで基盤面に達する。

調査区の西部に、基盤面上に南西～南方向から北方向にぬける緩やかで浅い落込みが存在する（第10図）。埋土は、流水による粗細砂である。この落込みは山塊の谷の方向に一致し、谷川の旧河道と考えられる。これより西側には耕作土下の褐色土は存在せず、砂分の多い灰褐色土となる。この部分では、基盤層は中礫までを含む砂礫層である。また、時代は特定できないが、この部分の北隅に基盤層を約1m掘り下げて、水田が造成されている。基盤層は、中央部では黄褐色土であるが、東部では砂分を多く含む暗灰色土に変化し、基盤層直上に暗灰褐色土層が存在する。また、東半部では部分的に礫が多く含まれる。

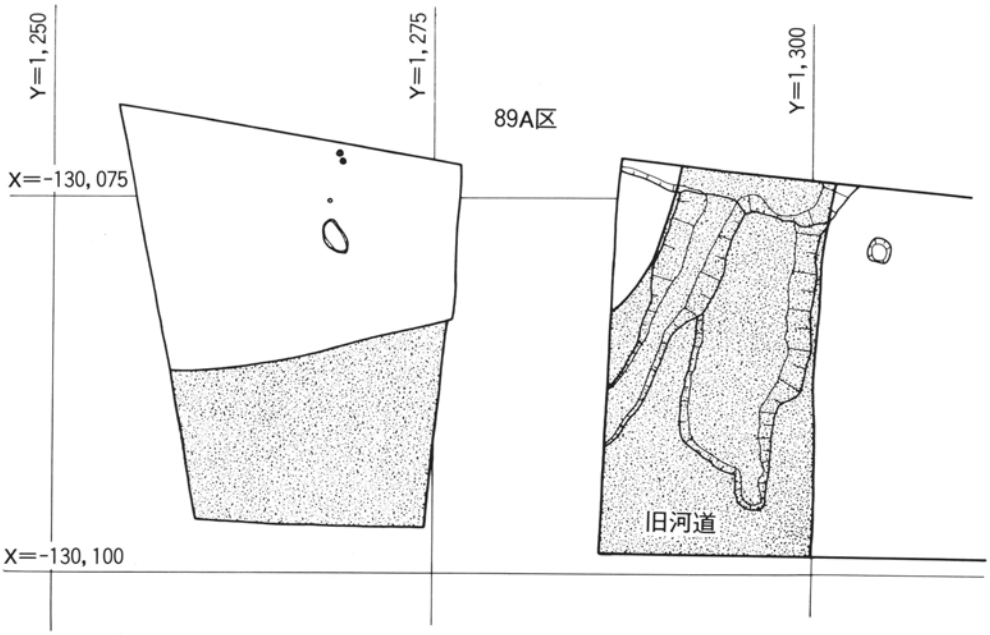
遺構検出は褐色土層中ではできず、すべて基盤面で行った。

89B区（第9図E～G）

深溝断層の東側に接し、段丘のほぼ中央に位置する。断層直下の西端の標高が約29m、約 100m離れた東端で標高約27mであり、西から東に向かってわずかに下る平坦な地形である。基盤面は大部分


A B C D E F G H I J K L M
1．盛　土
2．現耕作土
3．灰褐色土
4．褐色土
5．暗灰褐色土
6．黒褐色土
7．黒色土
8．褐灰色土
9．灰色土
10．暗褐色土
0
1 m
35m
30m
25m
89A
89B
90A
90B

第9図　基　本　層　序



第10図　89A区の旧河道

平坦であるが、西端において深溝断層に向かって緩やかに上がっている。現地表面から基盤面までの深さは、西端において基盤面が若干上がるだけ深くなり、 0.6 ～ 0.7ｍを測るが、その他に部分においては 1.0～ 1.2ｍで安定している。

旧地表面は、 0.2 ～ 0.3ｍの最近の盛り土によって覆われている。盛り土下には、基本的に畑作の耕作土が 0.2 ～ 0.3ｍ存在するが、中央部は最近の土地改変によって失われている。また、東半においては耕作土が比較的深い位置まで達し、現地表から最大 0.8ｍの深さまで耕作土が達している。耕作土下は基本的には褐色土層となり、西端では浅く、約 0.4ｍであるが、中央部以東では 0.6 ～ 0.8ｍと比較的厚く安定した層である。この層は、調査区東端ほど黒色化し、かつ粘土分が増えて粘性が強くなる。基盤面は、全体に平坦であるが、西端の南半分が南西方向に傾斜し、約 0.4ｍ落ち込む。この部分には、褐色土層下に暗灰色土が堆積する。基盤層は、シルトを主体とする粗細砂及び細礫を若干含む黄褐色土であり、中央部で砂分が強くなるが、全体的に安定した層である。

遺構検出はほとんど基盤面で行ったが、西端部分の南半では暗灰色土層上面で行い、奈良時代の住居跡（SB03）を検出している。

90A区（第９図Ｈ～Ｊ）

全調査区の中で段丘の東寄りに位置する部分である。89B区に連続する西端で標高約27ｍ、約 120ｍ離れた東端で標高約25ｍを測り、西から東に向かってわずかに下る地形である。基盤面は大部分平坦であるが、中央東寄りの部分で北半が北に向かって窪地状に 0.3～ 0.4ｍ緩やかに落ち込んでいる。現地表から基盤面までの深さは、 0.8 ～1.0ｍであるが、基盤面が緩やかに落ち込んでいる部分では 1.6ｍを測り、全調査区では最も深くなっている（第９図Ｉ）。

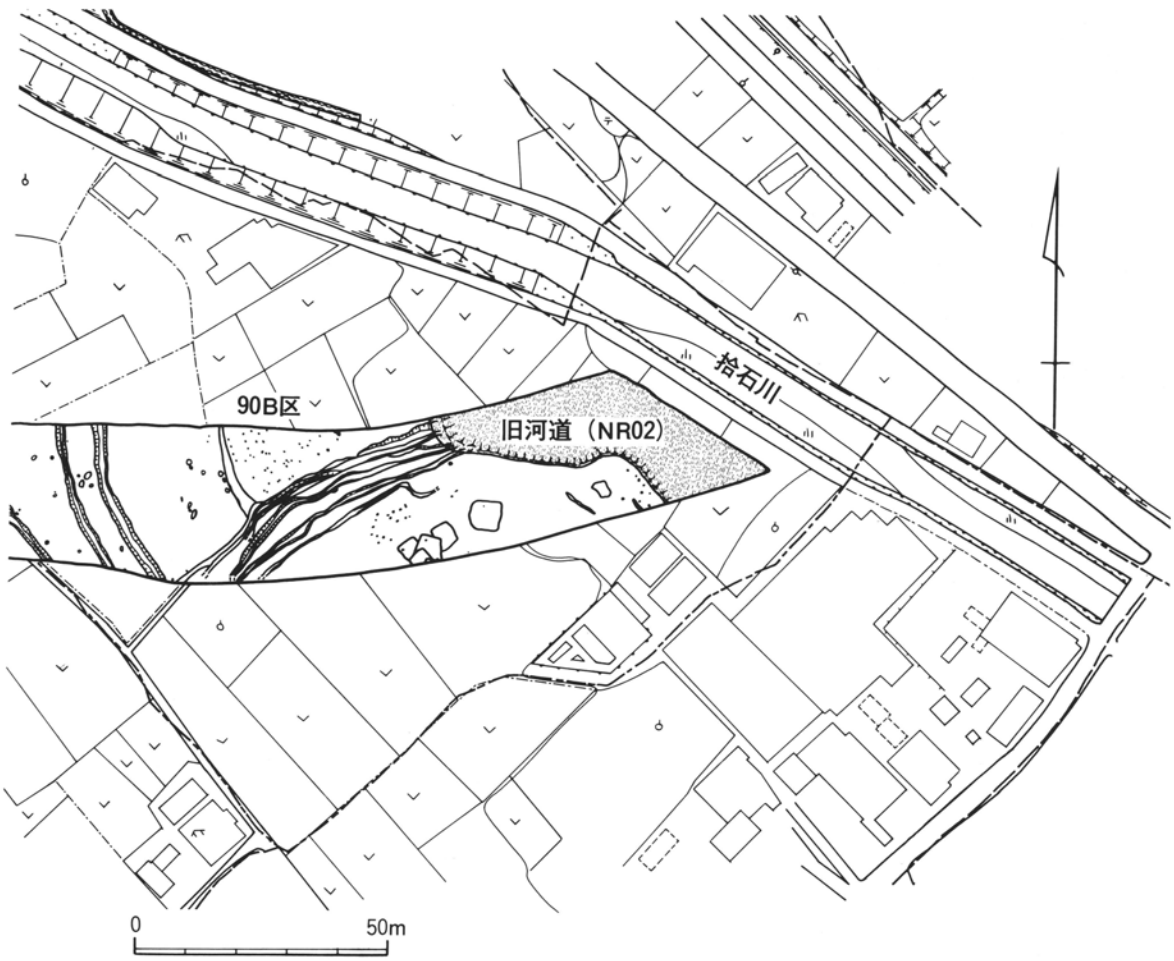
表土層では、厚さ 0.2 ～ 0.5ｍの畑地の耕作土である。耕作土下には、89A区と89B区の褐色土に相当する層が存在する。89B区の東半よりこの層は黒色化して、黒褐色から黒色を呈し、いわゆる黒

ボクとなる。この層は、褐色土に比較して粘土分を多く含み粘性が強い。東部を除いて 0.6 ～ 0.8m の厚さであるが、窪地状の部分では落ち込んだ深さだけ厚くなり、最大 1.2 m を測る。東部においては、この層の下半では、地表面からの人為的あるいは自然的な影響を受けない比較的しまった安定した黒色土に替わって、砂を主体としてシルトを含む褐色土となる。基盤層は、基本的にはシルトを主体とする暗褐色土であるが、東部では細砂を主体としてシルトを含むものに変化する。また、調査区中央部には部分的に小礫から中礫を含む部分がある。

遺構は、すべて基盤面で検出した。中央部北半において黒色土中に弥生土器の集中する部分が検出され、遺構の存在が予想されたが、確認できなかった。

90B区（第 9 図K～M）

調査地区の東端にあたる。段丘の東の端部から、拾石川の右岸の河谷に位置する。90A区に連続する西端で標高は約25 m、段丘の東端では標高約24.5 m である。段丘上はほぼ平坦な地形である。拾石川の河谷は川筋に沿っているが、河谷と段丘末端のなす線は蛇行しており、調査区北側に河谷（NR02）が大きく入りこんでいる（第11図）。拾石川の河谷は北側では段丘末端から急傾斜で一旦落込み、現河床に向かって高くなってから緩やかに下がる。南側では急傾斜で短く落ち込み、緩やか



第11図　90B区の旧河道

に下がる。調査区東端で標高は約23ｍである。

段丘上において基盤面にのる堆積土は90A区の境界付近より薄くなり、現地表から基盤面までは0.3～0.6ｍである。現表土は畑作の耕作土で、下層に黒褐色土があるが、段丘末端に近い部分では堆積土が薄く、直接耕作土が基盤面上にのる。河谷においては、北側の落込み部分では 0.4～0.6ｍの畑作耕作土下に、段丘上から流入してきた黒褐色土などが最大で 1.6ｍ堆積している。河床に近い部分は現在水田となっており、表土は水田耕作土及び床土であり、 0.4 ～0.6ｍで河谷面に達する。河谷面には砂から大礫までの河川堆積物が堆積し、段丘末端に近い部分では洪積層も認められる。部分では洪積層も認められる。

遺構検出は、段丘面上では基盤面で行った。河谷部分では遺構は検出されなかった。また、調査区西端において黒色土中から縄文土器が検出されたが、遺構は確認できなかった。　　（酒井俊彦）

(3) 遺構の時期区分

本遺跡で検出された遺構は、伴出遺物から大きく次の５時期に区分して捉えることができる。

Ⅰ期……縄文時代の遺構

Ⅱ期……弥生時代の遺構

Ⅲ期……古墳時代の遺構

Ⅳ期……奈良・平安時代の遺構

Ⅴ期……鎌倉時代の遺構

これらの遺構については、以下に各期毎に区分して説明するが、説明の対象に及ばなかったもの、あるいは伴出遺物がなく時期不明のものも含めて、巻末に遺構一覧表として掲載した。調査区全体を眺めてみると、Ⅰ期の遺構は調査区の西寄り部分、すなわち89A区に片寄っており、Ⅱ期の遺構は89B区以東に、またⅢ・Ⅳ期の遺構は散漫に、Ⅴ期の遺構は概ね全体に分布している傾向がみられる。ただし、この分布は必ずしも各時期毎における居住範囲を示しているものではなく、後述するように調査時における表土剝ぎの問題をも含んでいることをあらかじめ自己批判的に述べておかねばならない。

なお、本書で使用する遺構記号については、下記の通りである。

SB：竪穴住居　　SA：掘立柱建物　　SD：溝　　SZ：土器棺墓

SK：土坑　　NR：自然流路・窪地・旧河道　　SX：不明遺構　　（加藤安信）

第２節　Ⅰ期の遺構

Ⅰ期（縄文時代）の遺構については、主として縄文晩期の土器が多数出土したにもかかわらず、ほんの数例の遺構検出に留まった。これは、居住面が黒ボク土壌の中に営まれたために、調査技術の上でその発見が極めて困難であったことを主要因とする。しかし、表土剝ぎの掘削を下げすぎて一部の遺構を破壊した可能性も否めない。Ⅰ期の遺構と遺物は大きく２時期に大別される。すなわち、中期（Ⅰ－１期）と晩期（Ⅰ－２期）である。厳密には、Ⅰ－２期はさらに細分されようが、ここでは一括して取り扱った。

縄文土器を伴った明瞭な遺構としては、土器棺墓９基、帯状を呈する自然の窪地１条があるのみであり、他に多数の土坑が検出されている。これらの遺構のうち、Ⅰ－１期の土器１点が90B区、土器棺２点が90A区で発見された他は、すべて89A区から検出された。

(1) 窪　地

NR01

89A調査区の西寄りで、旧河道の上面から検出された。Ⅰ－２期に属す。北側をSX01、西側一部をⅢ期の溝SD01により切られており、また南端に土坑状の落ち込みがある。残存長17ｍ、最大上端幅7.4ｍを測る。深さは、40㎝程度と浅く、断面形は浅い皿状を呈している。したがって、調査時にはこの遺構を溝として扱ったが、自然に形成された窪地のような地形であったとみなしうる。埋土は、径10㎝程度の角礫や炭化物をわずかに含んだ暗褐色砂質シルトが主体で、最下位に粘性の強い灰色粘質土が堆積している。大量の縄文晩期の土器・石鏃・石斧・石棒・石錘・土偶など（１～503、510、511、515～521、523・524、526～547、549～576、578～587、589～593、596、598、601～605、607、614、616、618～623、625～627、630～632、635、638～642、645、648～650、653、656）が上位の１、２層から出土した。

(2) 土器棺墓

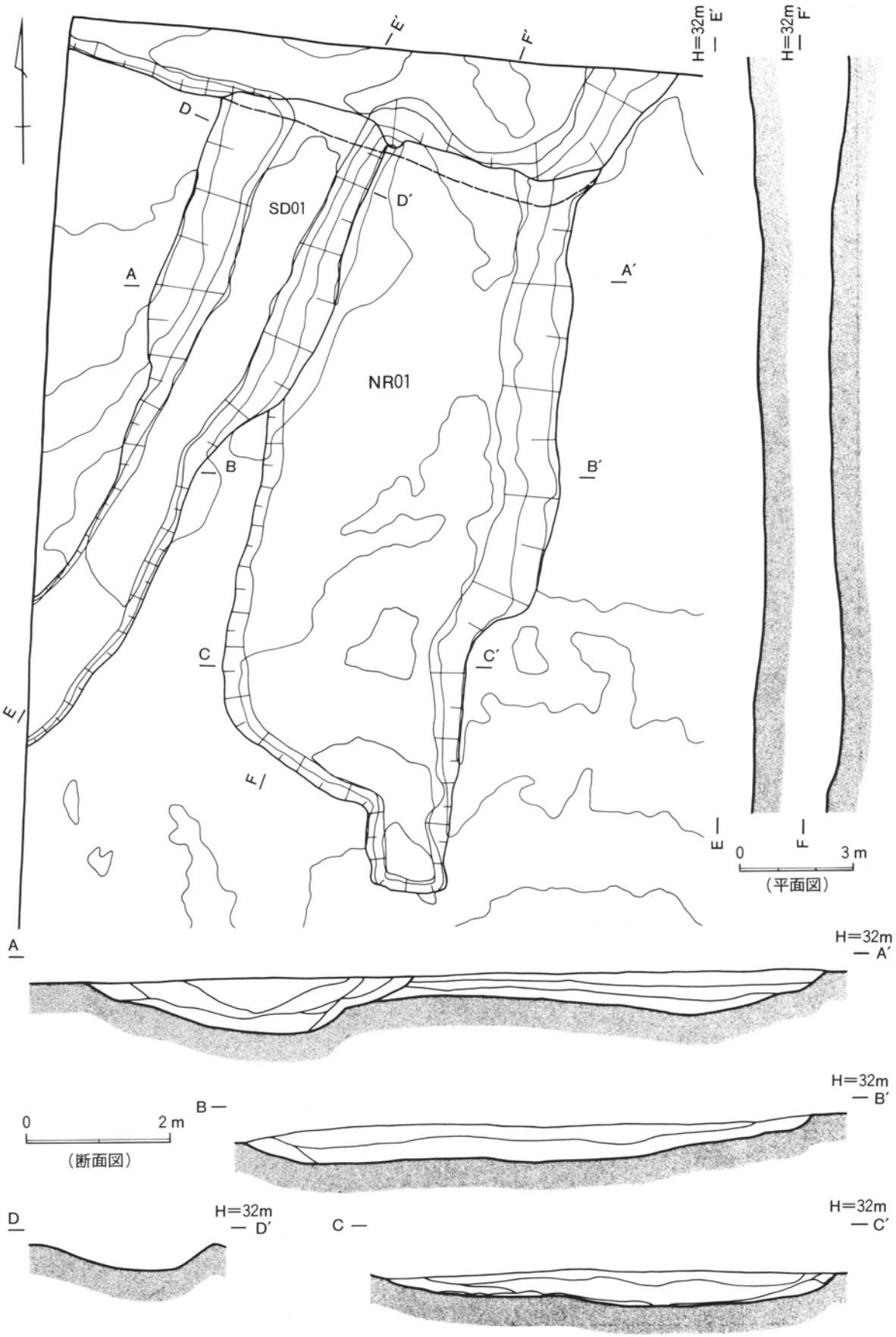
土器棺墓はいずれもⅠ－２期に属す。但し、これらはすべて縄文晩期末から弥生時代初頭に位置づけられるものであるため、一部には弥生時代前期に含めたほうがいいもの、すなわちⅡ期に含めて扱った方がよいものもある。

SZ06

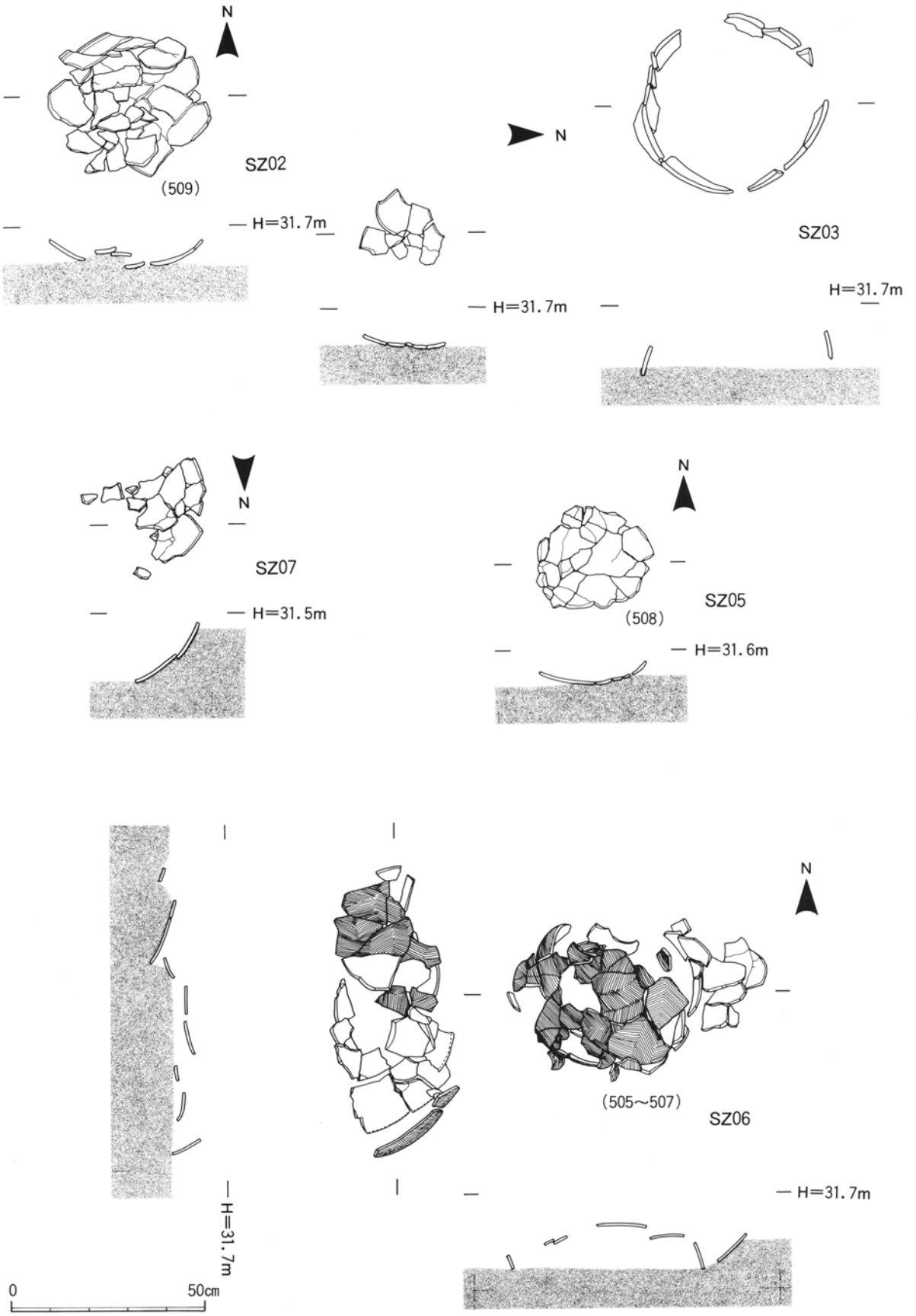
SZ03の南東約10ｍの地点で検出された。埋納土坑は、基盤面で長径 2.8ｍ、短径 2.3ｍを測り、不整円形を呈す。深さは30㎝程度。黒色土層中の掘形は不明である。埋土中から条痕調整の深鉢 505～507 が押しつぶされて出土したが、これらが組合せになるかどうかはわからなかった。

SZ02

SZ03の北約７ｍの地点の発掘調査区壁際から削痕調整の深鉢 509 が出土。基盤面での埋納土坑の検出長は70㎝で、形態は不明。深さは10㎝程度と浅い。 509の底部は欠損しており、上半部のみが出土した。



第12図　NR01平面図及び断面図



第13図　土器棺出土状態図

SZ03

基盤面で確認された長径 3.0 m、短径 1.7 mの大形長楕円形土坑の中に深鉢が据えられていた。下半部は耕作などによって欠失している。また、底部１点が80cmほど離れたところから出土したが、大きさからして前者とは別個体である。検出段階では、両者が組合せになるかどうかはわからなかった。土器棺埋納土坑の黒色土層中での掘形は不明で、基盤面における深さは40cm程度。

SZ05

SZ06の南西７ mの地点で検出された。埋納土坑は不整円形を呈し、基盤面で長径 3.5 m、短径2.5 m、深さ35cmを測る。黒色土層中の掘方は不明である。条痕調整の深鉢 508 は口縁部が欠失していたが、概ね全形は窺いうる。

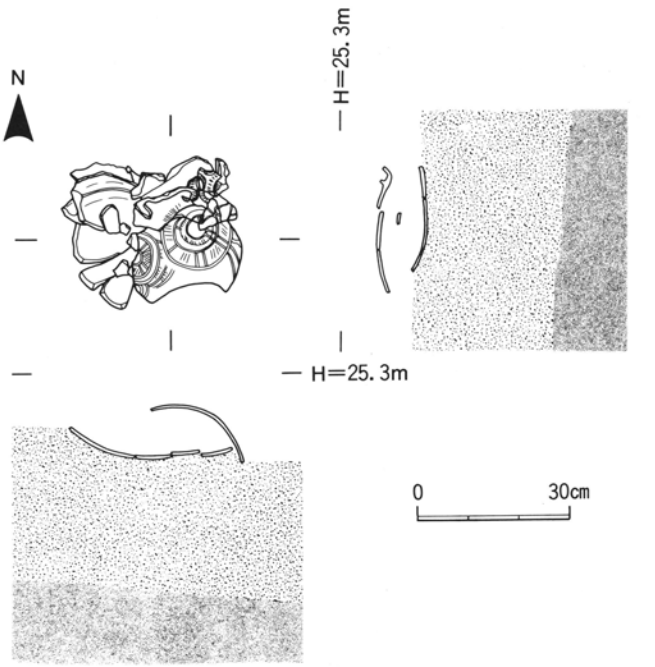
SZ07

SZ06の東14.5 mの地点で検出された。埋納土坑は不整円形を呈し、基盤面で長径 2.5 m、短径2.1 mを測る。深さは25cm程度。黒色土層中の掘形は不明である。土器棺は一部のみが残っており、そのほかは耕作などで欠失。

以上の他に、図示しなかったが、90A区からも土器棺２点が出土している。また、SZ04（504）、SK45からも土器棺と思われる土器片が少量出土していて、その可能性を示している。これらの土器棺と埋納土坑との関係をみてみると、いずれも土坑が大型であるという特徴をもっている。規模は基盤面での確認長であるから、上面における規模はさらに大きかったとみられる。

(3) その他の縄文時代遺構

90B区SA01の南側から、Ⅰ－１期の土器が１点のみ単独で出土した（第32図）。黒色土層中からの出土であり、掘形は確認されなかった。検出当時、周辺が竪穴住居のような様相を呈していたが、サブトレンチにより詳細に確認したところ、明瞭な遺構としては捉えられなかった。土器は、押しつぶされた状態で出土し、土器底面から基盤面まで20cmほどあった。この他、89A区SK254上位からもⅠ－１期の土器片が少量出土したが、黒色土層中からであり、土坑との関連については判然としない。



第14図　縄文中期土器出土状態図

第３節　Ⅱ期の遺構

Ⅱ期（弥生時代）の遺構は89A区以東に分布している。時期的にはさらに、長床式期（Ⅱ－１期）、寄道式期（Ⅱ－２期）に細別されるが、一部に欠山式期（Ⅱ－３期）の土器も出土している。確実にⅡ期に属する遺構としては、竪穴住居２棟、大形溝８条、土坑数基がある。このほかに、遺物を伴出しない土坑のうちにこの時期に含まれるものが多数あるとみられる。以下に、遺構の種別毎に区分して記述する。なお、土器による時期表示については、従来から三河地域で用いられている用語をそのまま使用した。

(1)　竪穴住居

SB05

90B区において検出されたⅡ－１期の竪穴住居である。約半分をⅣ期の竪穴住居SB07とSB06に切られている。隅丸方形を呈し、一辺の長さは4.1ｍを測る。基盤面での床面までの掘り込みは７㎝程度であるが、本来の掘形は把握できなかった。南北辺は、W－38°－Nを指す。柱穴とみられる円形のピットが１基あり、径50㎝、床面からの深さ７㎝を数える。住居内から長床式期の壺・甕・高杯（658～678）、角礫が出土した。その出土レベルは 24.45ｍ前後であり、床面から15㎝ほど上位の位置に当たる。床面の被熱は認められなかった。

SB04

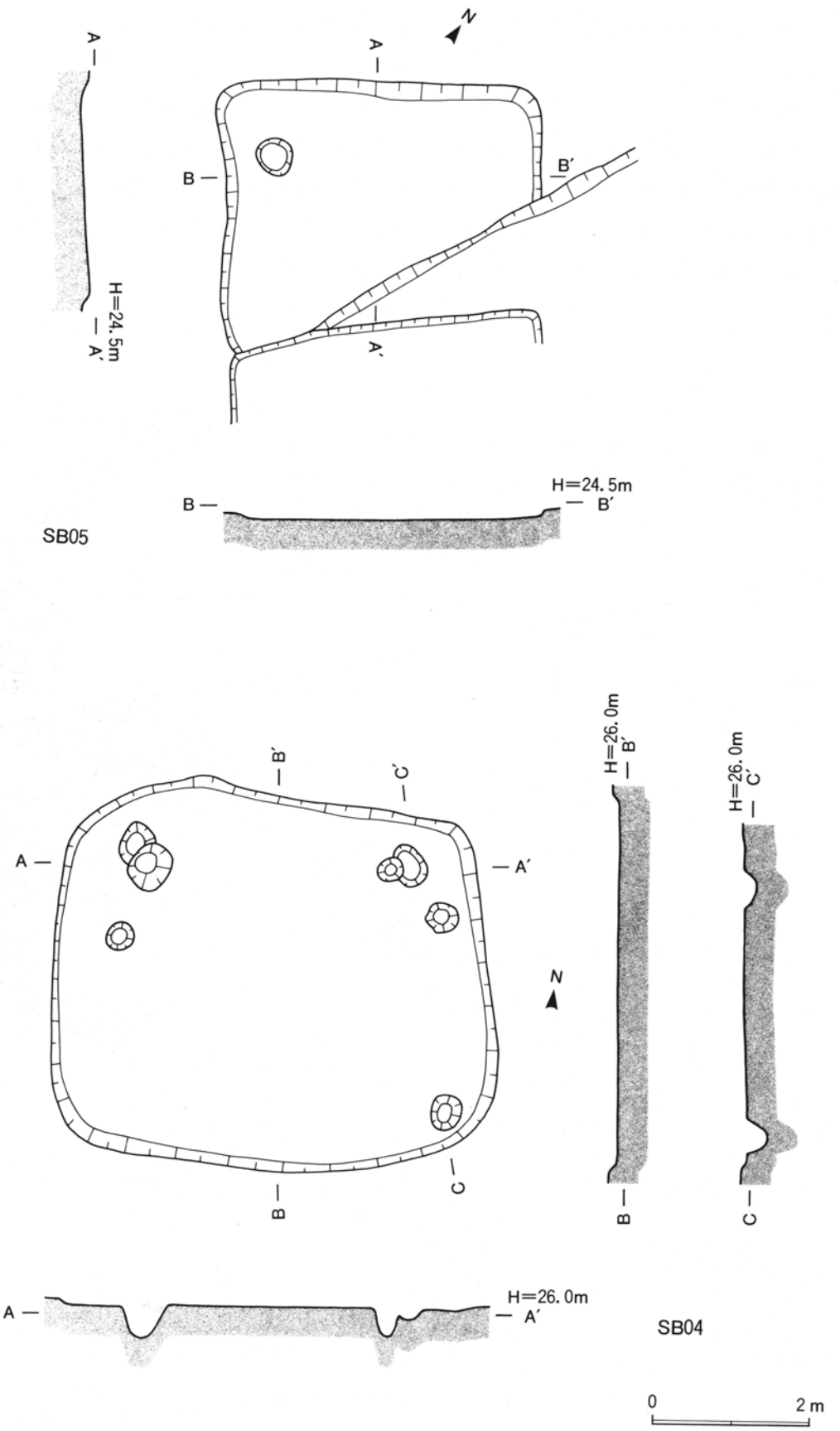
90A区において検出されたⅡ－２期の竪穴住居。単独で発見され、建て替えの痕跡は認められなかった。隅丸長方形を呈し、長辺は5.6ｍ、短辺は4.9ｍを測る。南北辺の方位は、W－６°－N を指す。検出面での掘り込みは、10㎝ほどであるが、本来の掘形は確認できなかった。床面の３ヶ所の隅に径25㎝～50㎝の円形のピットが７基掘られているが、この内の３基は確実に主柱穴と考えられる。深さは、15㎝～45㎝。図示しなかったが、住居に伴って、寄道式期の土器が少量出土している。

(2)　溝

89B区において４条、90A区において４条の大型溝が検出された。89B区では１条を除き３条が北東－南西方向をとり、90A区では３条が北西－南西方向をとっている。また、８条のうち６条が発掘調査区を縦断して南北方向で両調査区外へと続いている。これらの溝は、集落を囲郭する環濠であるとみられる。

SD02

検出長は22.5ｍで、北東－南西方向をとり、さらに調査区外へと続いている。やや弧状を呈し、２～５ｍ離れた東側に、SB03がほぼ並行して掘られている。検出面での上端幅は 2.0ｍ、断面Ｖ字形で、その深さは70～90㎝ほどである。溝は本来的には、基盤をなす黄褐色シルト層の直上にのる暗褐色シルト層上面から掘り込まれている。したがって、本来の深さは１ｍ前後と見積られる。溝内埋土は３層に区分され、下位２層には基盤の黄褐色土のブロックが多く含まれ、シルト土を主体とする最上層には炭粒が少量含まれている。寄道式期及び欠山式期に属する壺・高杯・鉢など（930～974）

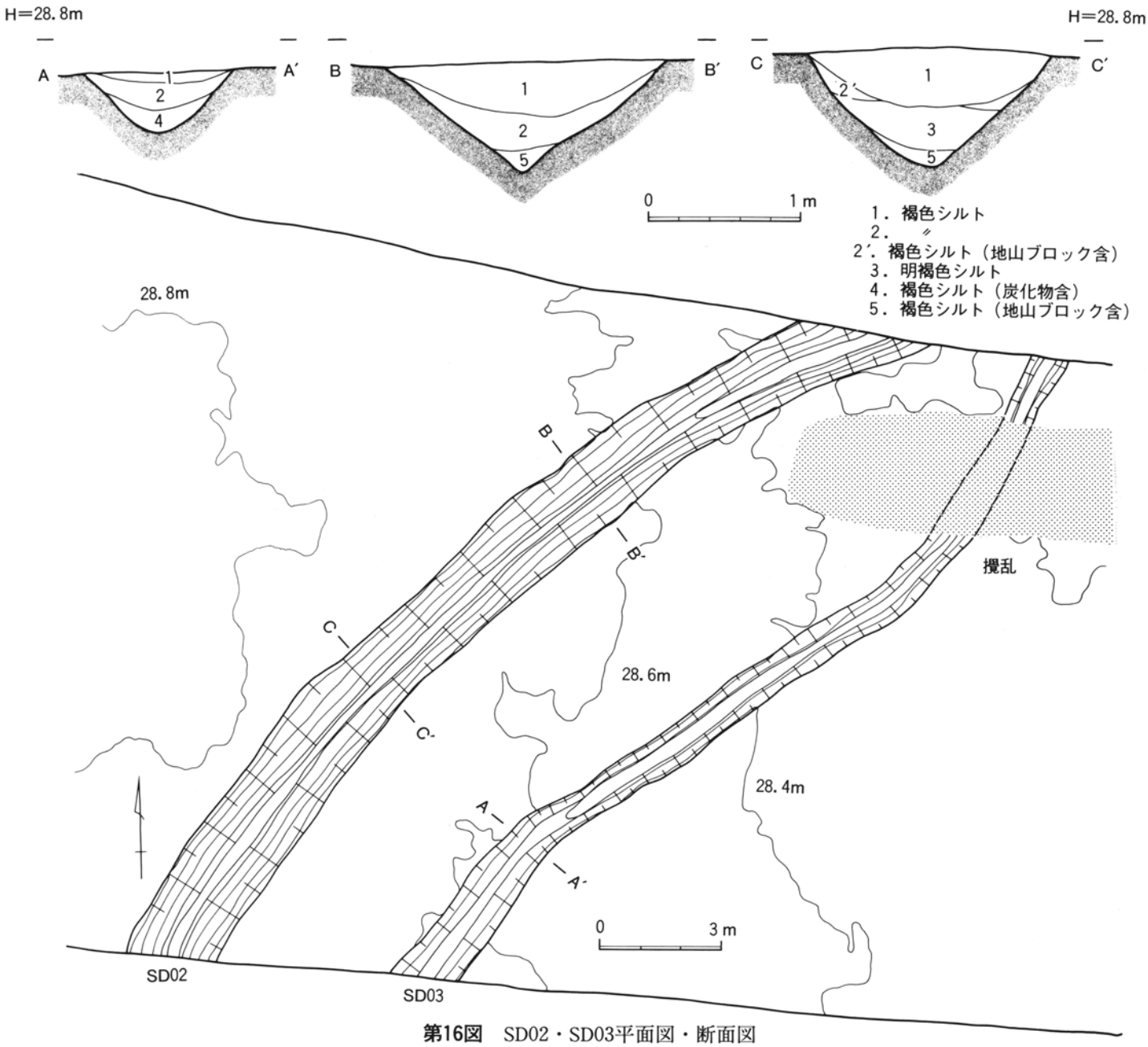


第15図　Ⅱ期の竪穴住居

が溝底から浮いた状態で出土した。Ⅱ－３期まで機能していたと考えられる。

SD03

SD02の東側で検出。やや蛇行しながら北東－南西方向をとり、調査区外へと続く。検出長は21.5ｍ。検出面での上端幅は1.0から1.4ｍで、その深さはおおよそ20～40㎝である。SD02同様、基盤直上の暗褐色シルト層上面から掘り込まれているので、本来の深さは60㎝前後と考えられる。埋土は基本的に３層からなり、いずれも褐色の砂質分の多いシルト層である。最下層から炭化物と少量の弥生土器が溝底から浮いた状態で発見された。Ⅱ－２期に属す。



第16図　SD02・SD03平面図・断面図

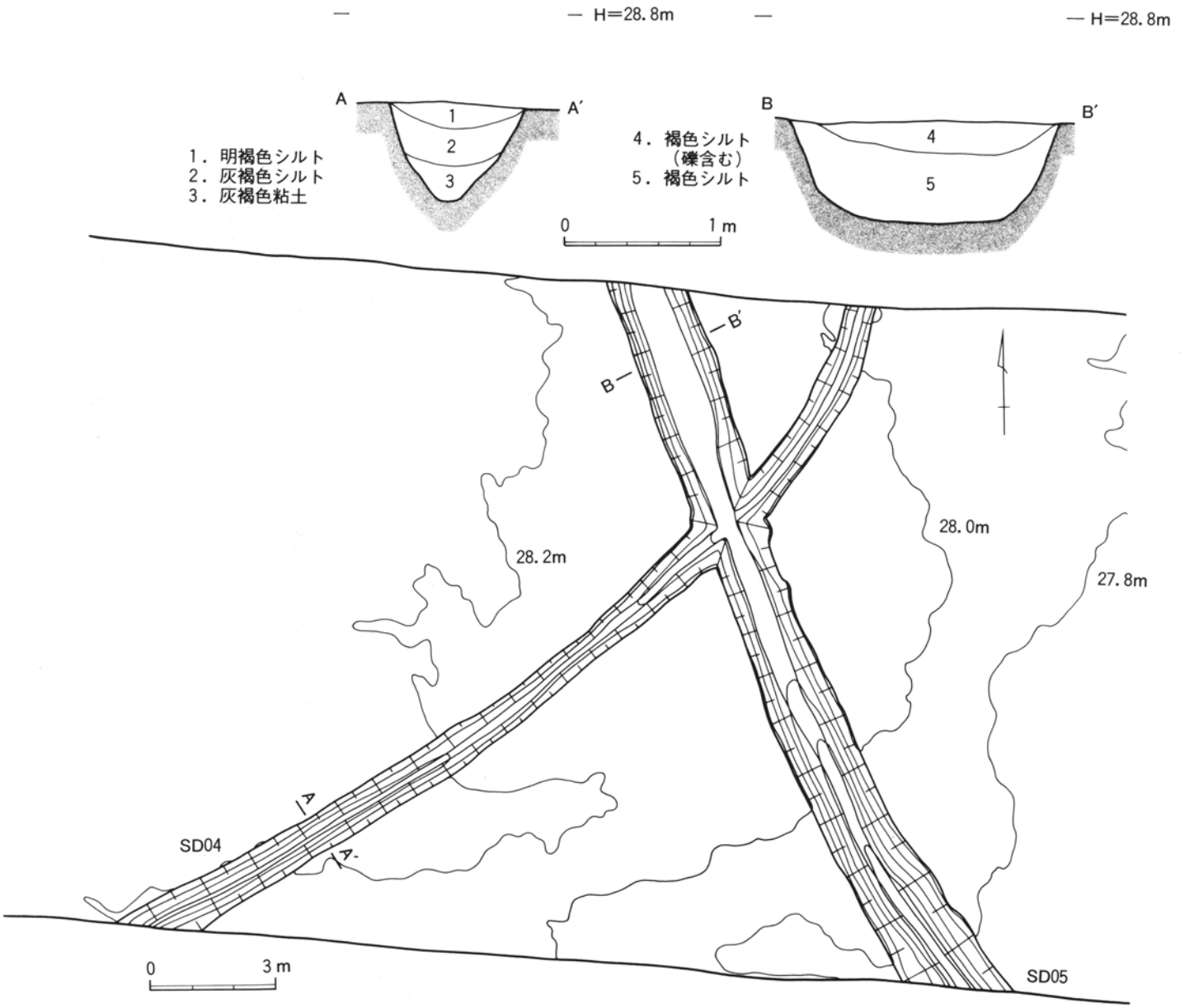
SD04

SD03の東側14ｍの地点で検出され、両者はほぼ並行して走る。両端とも調査区外へと続いている。検出長は約22ｍ、上端幅は 1.0 ｍ、深さは80㎝で、断面は鋭いＶ字形を呈す。基盤直上の暗褐色シルト層上面から掘り込まれており、同じⅡ期のSD04に切られている。溝内埋土は３層に区分され、最下層には水流があったようで、部分的に砂がラミナ状に混じっている。

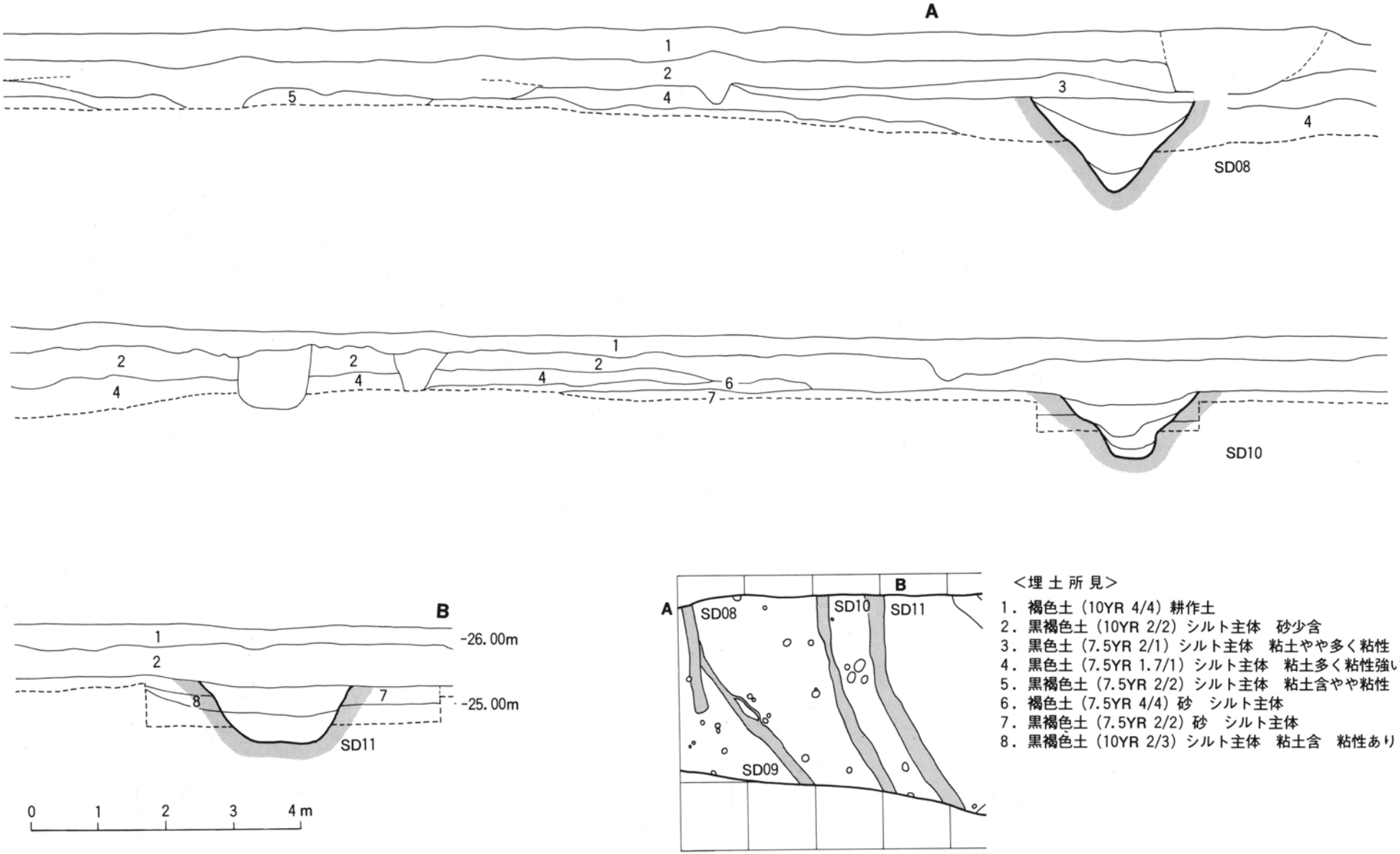
980 ～ 982が出土しており、Ⅱ－２期に属す。その規模及び方向からみて、SD03とSD04は同時に存在していたものとみられる。

SD05

SD04とクロスし、SD04を切って掘り込まれている。北西－南東方向をとり、両端共にさらに調査



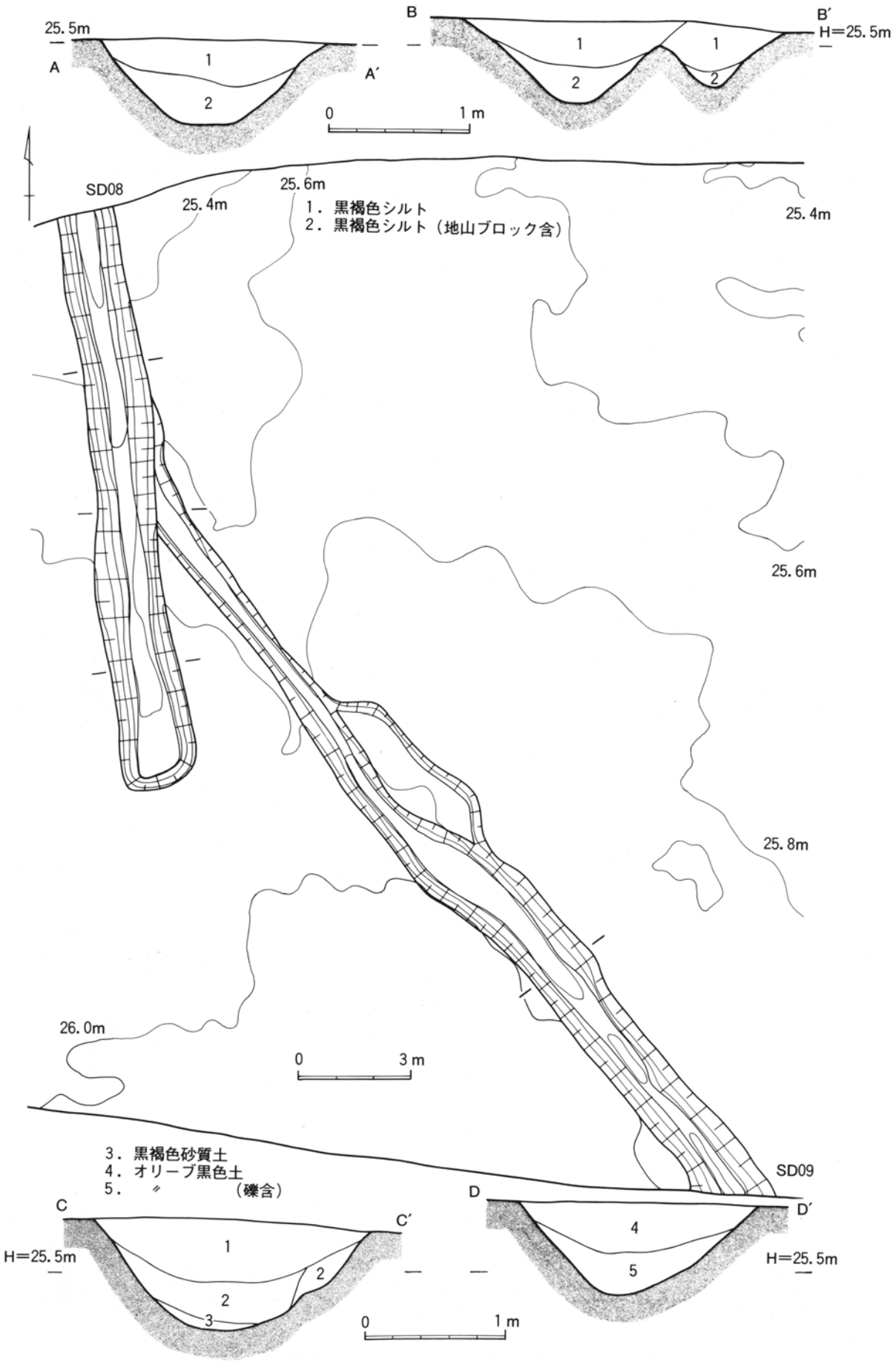
第17図　SD04・SD05平面図・断面図



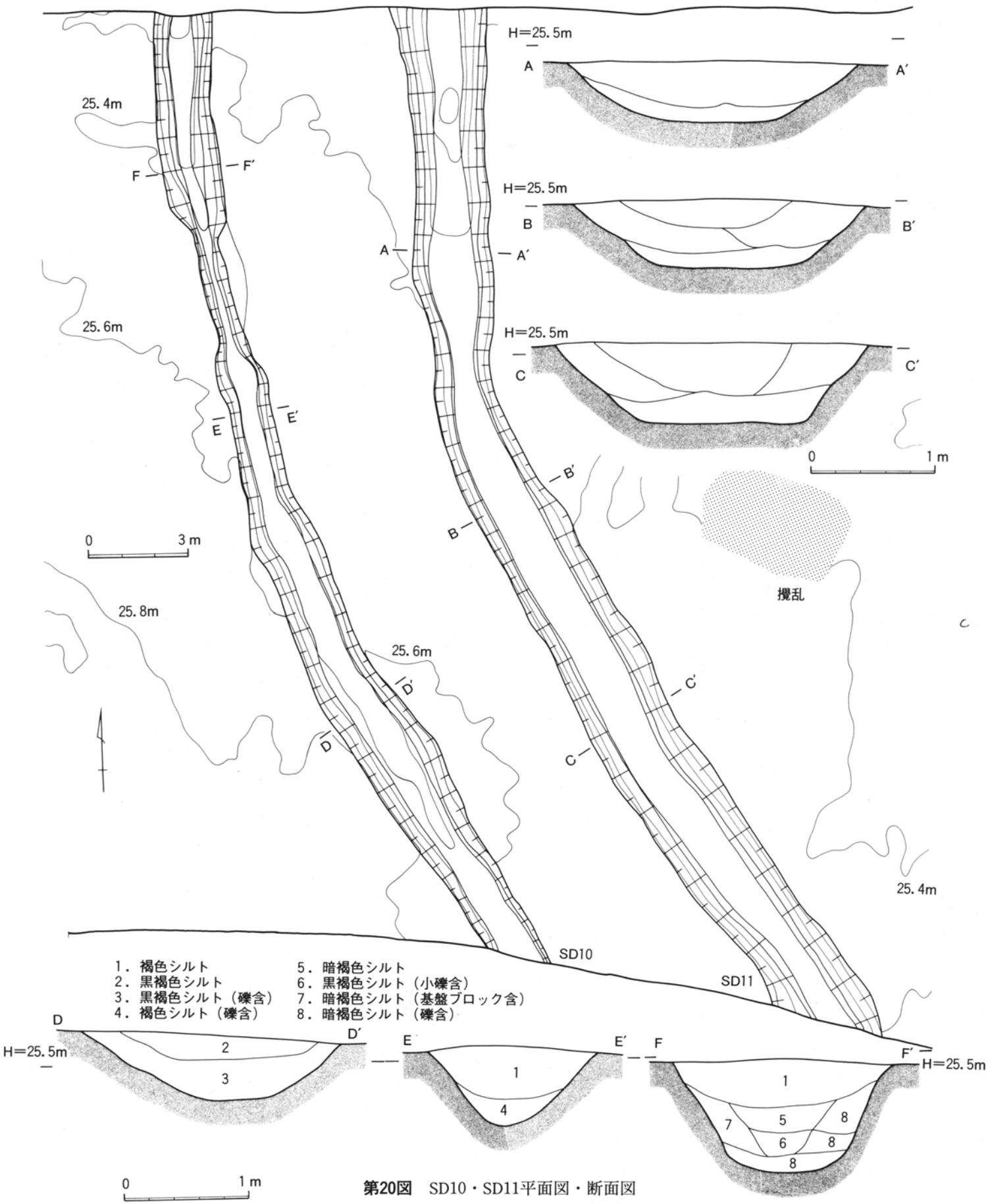
<埋土所見>

1．褐色土（10YR 4/4）耕作土
2．黒褐色土（10YR 2/2）シルト主体　砂少含
3．黒色土（7.5YR 2/1）シルト主体　粘土やや多く粘性
4．黒色土（7.5YR 1.7/1）シルト主体　粘土多く粘性強い
5．黒褐色土（7.5YR 2/2）シルト主体　粘土含やや粘性
6．褐色土（7.5YR 4/4）砂　シルト主体
7．黒褐色土（7.5YR 2/2）砂　シルト主体
8．黒褐色土（10YR 2/3）シルト主体　粘土含　粘性あり

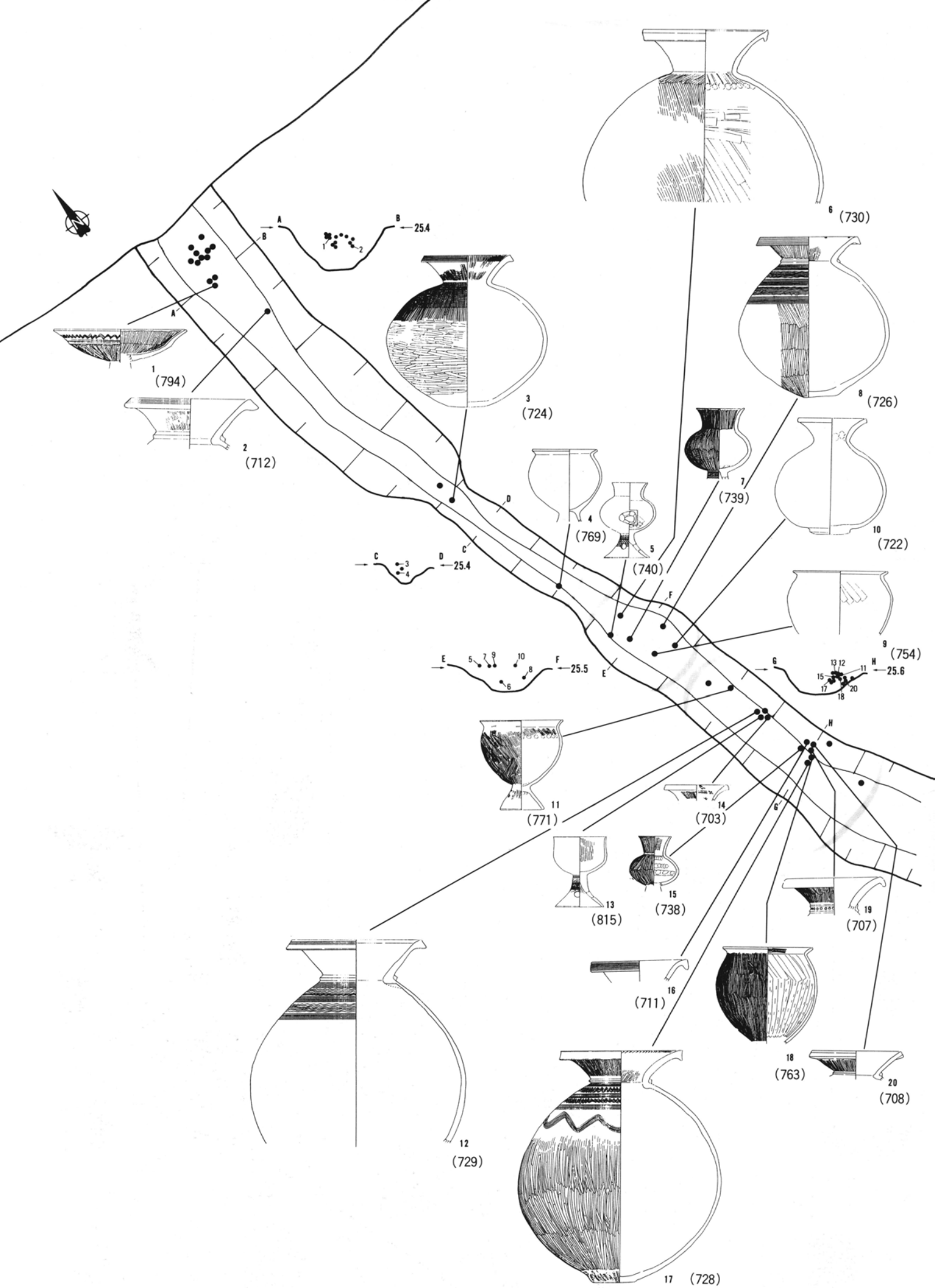
第18図　SD08～SD11付近の土層図



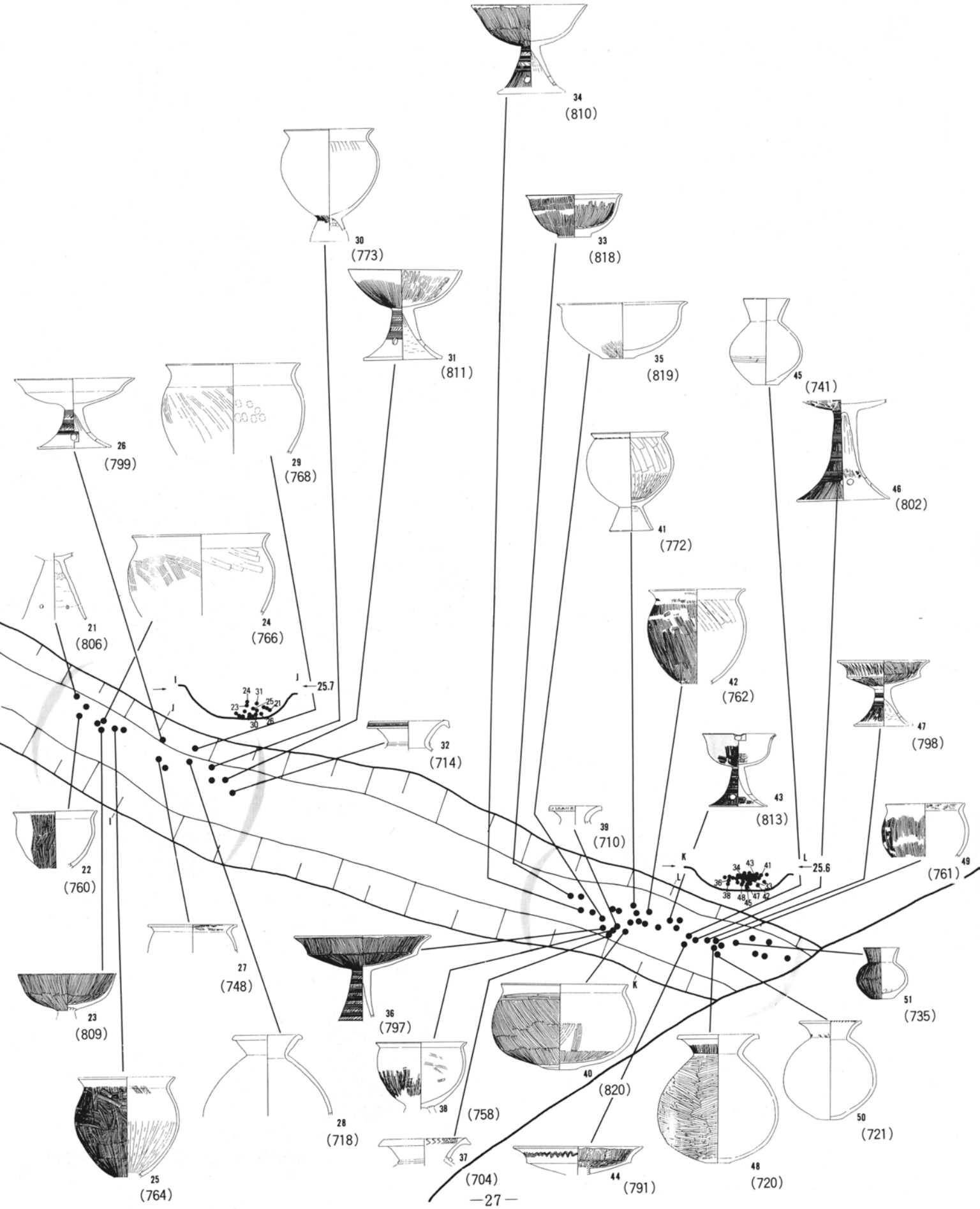
第19図　SD08・SD09平面図・断面図



第20図　SD10・SD11平面図・断面図



第21図　SD10　弥生土器出土状態図


34
(810)
30
(773)
33
(818)
31
(811)
35
(819)
45
(741)
26
(799)
29
(768)
46
(802)
41
(772)
21
(806)
24
(766)
42
(762)
47
(798)
32
(714)
43
(813)
39
(710)
22
(760)
49
(761)
27
(748)
36
(797)
51
(735)
23
(809)
40
(820)
38
(758)
28
(718)
50
(721)
25
(764)
37
(704)
44
(791)
48
(720)
25.7
25.6

区外へと続いている。検出長は約19m、上端幅は 1.4～2m、断面は北半においてU字形、南半においてV字形を呈し、その深さは60～120cmである。SD04と交差する部分の5mほどが深さ60cmと浅くなっており、当初陸橋があって後に掘り改められたのかも知れない。溝内埋土は2層に区分されるが、基本的に褐色シルト層で、上層には径20～30cm程度の礫が堆積していた。977～979 ・ 983～989が出土しており、時期はⅡ－2期。

SD08

90A区で検出された。遺跡の西半で検出されたSD05からは、約145mほど離れている。検出長は15.5mで、北側は調査区外へと続く。途中でSD09と一体化しているが、交差する部分の土層図から、SD09を切って掘られていることが分かる。方向はW－7°－N。 上端幅は 1.5～2.0m、断面は緩やかなV字形を呈し、深さは最も深い部分で 1.2mほどある。溝は黒色シルト層の中途から掘り込まれており、溝内埋土は3層に区分される。いずれも黒褐色のシルト層であるが、下位ほど黒色分が強くなる。大量の弥生土器（861～926）が、上位2層から出土した。時期はⅡ－2期。

この溝は、SD09との切り合い関係から判断すると、SD09を掘り改めて作られた可能性がある。

SD09

SD08のすぐ東で検出され、北側の7mほどは共有関係にある。SD09の方が古い。北西－南東方向をとり、両端共さらに調査区外へと続いている。検出長は、共有部分を除き24m、上端幅は不定で0.6～ 2.0m、深さは70cm程度。溝の断面はV字形。基盤直上の黒褐色シルト層上面から掘り込まれている。SD08と一体化する部分近くには、やや幅狭で高低差30cmほどのテラス状の段差が認められる。この部分は、当初陸橋であった可能性もある。溝内埋土はオリーブ黒褐色を呈したシルト。寄道式期の壺・甕・高杯など（823～860）が溝底から浮いた状態で出土しており、時期はⅡ－2期である。

SD10

SD09の東8～17mほど離れた地点で検出された。さらに5mほど離れた東側にはほぼ並行してSD11が走っている。北西－南東方向をとり、両端共に調査区外へと延びる。調査区内での検出長は約30m、上端幅は 0.7～2.0m、断面形は緩やかなU字形及びV字形で、深さは60～80cmを測る。SD09同様、基盤直上の黒褐色シルト層上面から掘り込まれている。

溝内埋土の断面からすると、この溝は明らかに掘り直されている。当面断面U字形で幅2mほどの溝が掘られ、それが一旦ある程度埋まってしまってから、改めて断面V字形で幅1m弱の溝が掘られたものと推測される。長さ3.5mの幅の狭い部分は本来陸橋であり、改作の段階で溝となった可能性がある。溝底から浮いた状態で寄道式期の壺・甕・高杯などが大量に出土した（702～822）。調査当時、この溝の掘り直しについての認識がなく、したがって出土遺物を新旧の溝に区分して取り上げることはしていない。Ⅱ－2期。

SD11

SD10と並行して、北西－南東方向に走る。調査区内での検出長は約33m、検出面での上端幅は1.6～2.6m、深さは70～100cmを測る。溝の断面形はU字形を呈し、SD09・SD10と同じように基盤直上の黒褐色シルト層上面から掘り込まれている。

溝内埋土の状況からすると、SD10同様にこの溝も掘り直しが行われている。掘り直しは、溝が8割ほど埋まった段階に行われており、新しい溝の断面は緩やかなV字形ないしU字形を呈していて、溝幅も1.2m前後と狭くなる。SD04と同時期に存在しており、長さ2mほどの幅が狭い部分は当初陸橋で、改作時に溝となった可能性がある。溝底から寄道式期の壺・高杯・甕など（679～701）が浮いた状態で出土した。Ⅱ－2期。

(3) 土　坑

SK558・560

2基の土坑の周囲から、Ⅱ－1期に属する細頸壺が1点出土している（第35図）。SK558は長径1.4m、短径0.7mを測る楕円形土坑。深さは56cm程度。SK560は長径2.15m、短径1.05mを測る長楕円形土坑で、深さは11cm程度。両者は1mほど離れており、長軸の方位は、2基共にN－28°－E。

第４節　Ⅲ期の遺構

確実にⅢ期（古墳時代）に比定される遺構としては、竪穴住居４棟があるに過ぎない。その分布は、90B区、すなわち調査区の東端で、自然河道NR02の周辺に限定されている。この他に、この期に属する土坑も多数あるとみられる。

SB07

Ⅱ期の竪穴住居SB05を切って作られ、南半はⅣ期の竪穴住居SB06とSB08により壊されている。平面形は長方形を呈すとみられ、東西辺は 4.5ｍ、南北辺は 5.0ｍ以上を測る。南側はやや開き気味。南北軸の方位は、Ｎ－ 12°－Ｅを指し、検出面での床面の深さは15㎝程度。柱穴とみられる径30㎝ほどのピットが２基認められる。竈、焼土の痕跡はない。土師器の高杯・壺（1023～1025）が出土している。６世紀前半代。また、本住居跡からは、SB06からの流れ込みとみられる土師器甕など（1044～1046）も出土している。

SB09

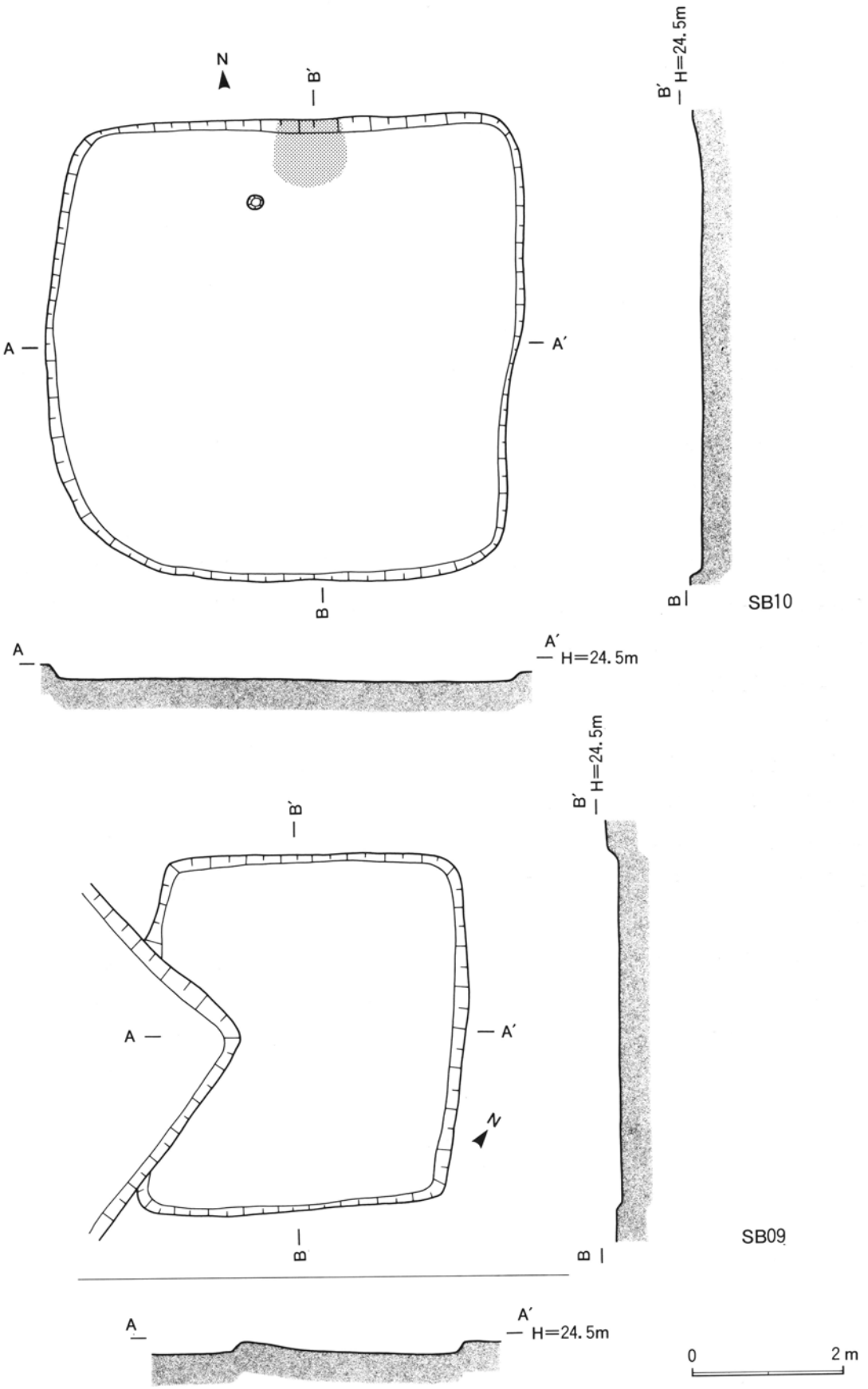
同時期のSB07に西辺を切られている。平面形は長方形を呈し、東西辺は 4.0ｍ、南北辺は 4.6ｍを測る。南北軸の方位は、Ｗ－ 33°－Ｎを指す。検出面での床面までの深さは、10㎝程度と浅い。柱穴、焼土、竈の痕跡は認められなかった。土師器の高杯、甕、土製紡錘車など（1026～1032）が出土している。６世紀前半代。

SB10

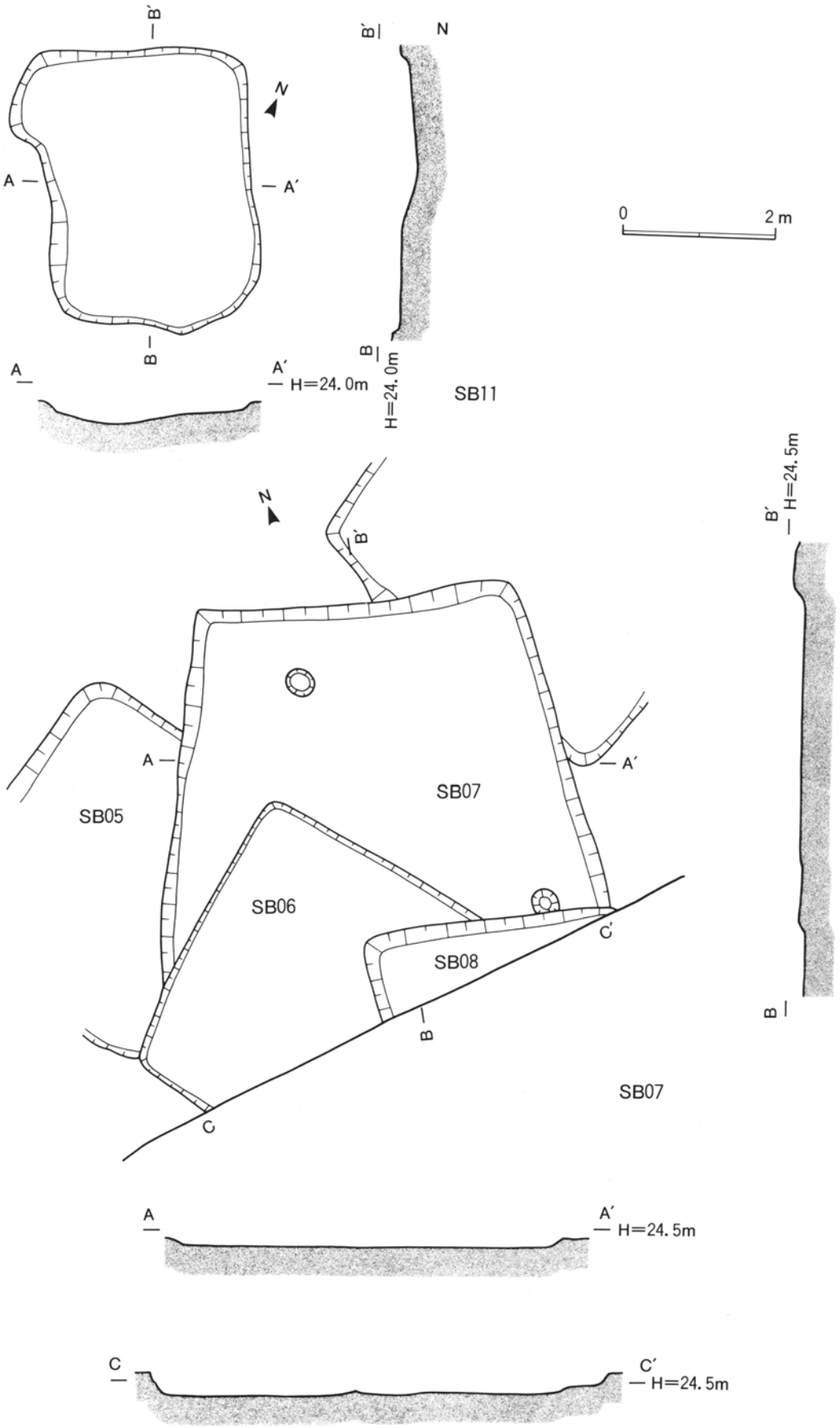
隅丸方形を呈し、東西辺 6.0ｍ、南北辺 5.7ｍを測る。南北軸の方位は、Ｎ－７°－Ｅ。 床面に被熱の痕跡が認められる。北辺の中央に 1.0× 0.9ｍの方形の焼土塊があり、竈であるとみられる。床面の掘り込みは15㎝程度であり、主柱穴の痕跡は認められなかった。須恵器の壺・高杯など（1020～1022）が出土している。６世紀前半代。

SB11

自然河道NR02に近い位置で検出された小型の竪穴住居とみられる遺構。不整形な隅丸長方形を呈し、東西辺2.5ｍ、南北辺3.6ｍを測る。検出面での床面までの深さは15㎝ほどで、南北軸はＷ－25°－Ｎを指す。柱穴、焼土、竈の痕跡は認められなかった。図示できる遺物は伴出していない。



第22図　Ⅲ期の竪穴住居(1)



第23図　Ⅲ期の竪穴住居(2)

第５節　Ⅳ期の遺構

Ⅳ期（奈良・平安時代）の遺構は、89A・B両区及び90B区で検出された。竪穴住居、土坑などがある。

SB01

89A区で検出された。平面形は方形で、東西辺 3.3ｍ、南北辺 3.6ｍを測る。北西隅に突出部がみられ、被熱の痕跡が認められる。竈かも知れない。南北軸の方位はＮ－ 4°－Ｅを指し、検出面での床面までの深さは20㎝程度と浅い。本来の掘形、深さ、柱穴、焼土の痕跡などは確認できなかった。伴出遺物はないが、Ⅳ期に属するものとみられる。

SB02

89A区においてSB01の南10ｍの地点で検出された小型竪穴住居。不整形な隅丸方形を呈し、東西辺は 3.7ｍ、南北辺は 4.0ｍと 3.6ｍを測る。検出面での床面までの深さは５㎝と浅い。南北軸の方位はＮ－ 7°－Ｅである。柱穴、竈、焼土の痕跡は認められなかった。伴出遺物はないが、Ⅳ期に属する竪穴住居とみられる。

SB03

89B区で検出された小型竪穴住居。南半は調査区外となっているが、平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形とみられる。南北軸の方位はＮ－ 13°－Ｅを指し、東西辺 2.5ｍ、南北辺 2.2ｍ以上を測る。検出面での床面までの深さは10㎝程度と浅い。北辺の中央に、径60㎝の半円形の突出部がみられ、竈とみられる。柱穴の痕跡は認められなかった。須恵器の杯、土師器甕が出土している。

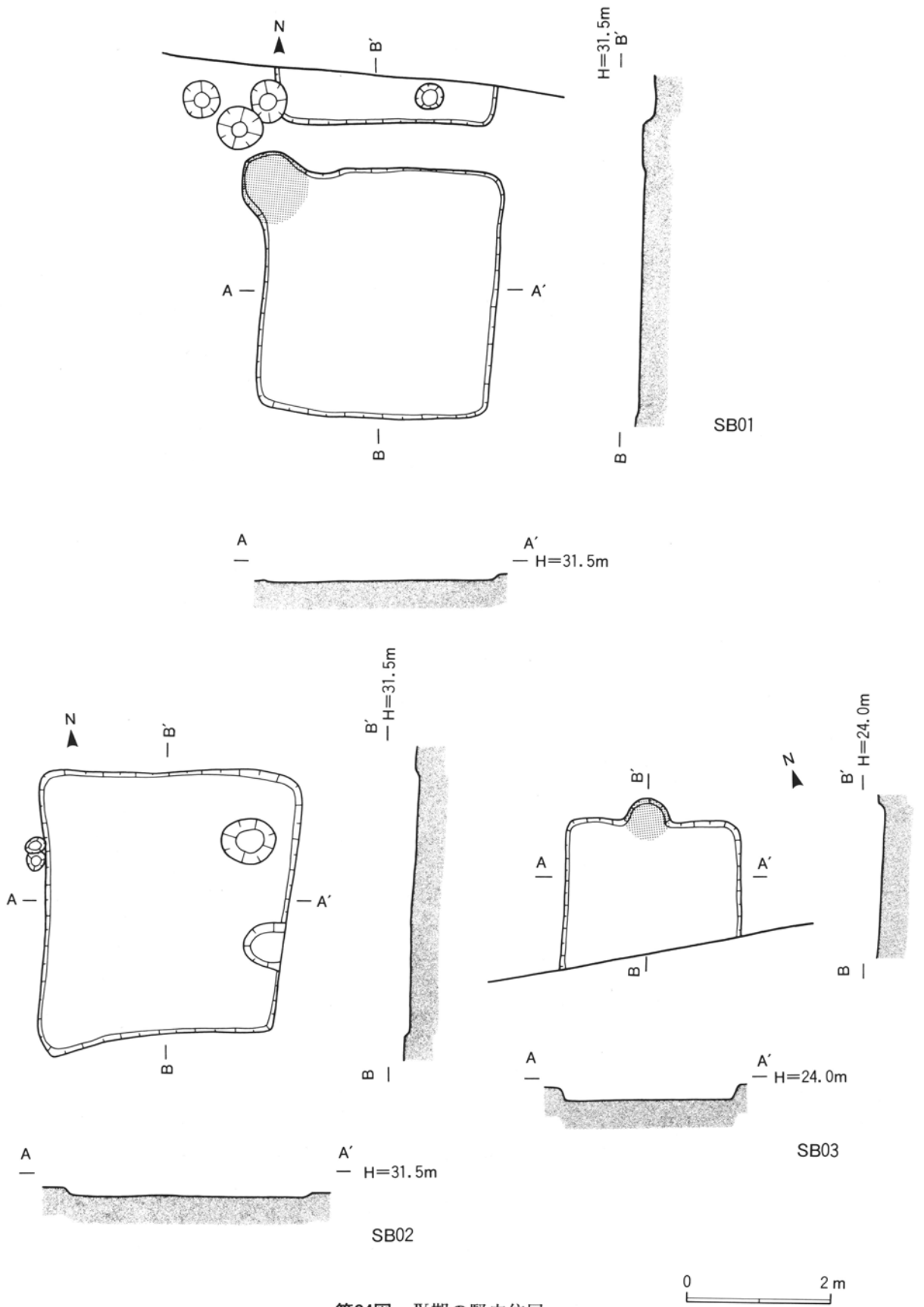
SB06

90B区で検出された。Ⅱ期の竪穴住居SB05とⅢ期の竪穴住居SB07を切っており、さらにSB04に切られ調査区外へと続いている。全形は不明であるが、方形または長方形とみられる。東西辺推定 4.0ｍ、南北辺推定 3.0ｍ以上を測り、検出面での床面までの深さは10㎝程度と浅い。南北軸の方位は、Ｗ－ 39°－Ｎを指す。内部に角礫が散乱していた。柱穴、竈、焼土の痕跡は認められなかった。灰釉陶器の椀、土師器甕など（1044～1046）が出土している。

SB08

90B区で検出され、大半は南側の調査区外へと続いている。平面形は方形または長方形を呈するとみられ、東西辺の検出長は 3.4ｍ、南北辺の検出長は 1.2ｍのみ、検出面での床面までの深さは10㎝程度であった。南北軸の方位はＮ－ 6°－Ｅである。伴出遺物はみられないが、Ⅳ期に属するものとみられる。

（加藤安信）



第24図　Ⅳ期の竪穴住居

第６節　Ⅴ期の遺構

(1)　遺構の概観

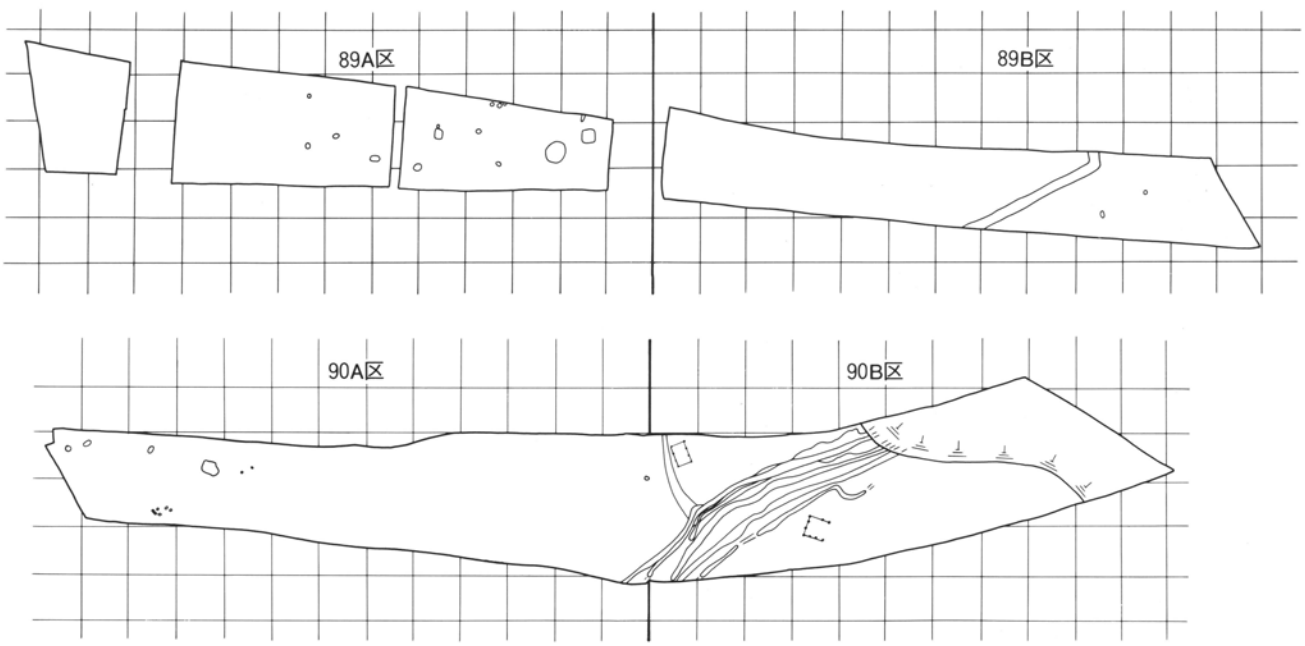
東光寺遺跡におけるⅤ期（中・近世）の遺構は、東西約 500 ｍの調査区内全体に展開するのではなく、第25図に示したように大きく３つの地域に分かれて分布している。

Ⅴ－１期（中世）に属する遺構としては、第一に89A区の東部に展開する土坑群があげられる。この調査区で検出された土坑 619 基のうち、 500 基以上がこの部分に集中している。遺物を伴い明確に時期を確定できる土坑のうち、当該期の土坑は 224 基を数える。その中には後述する竪穴住居、集石を伴う土坑、火葬施設（土坑墓）と思われる遺構が含まれている。この他に同時期の遺構として、89B区において溝が１条検出されている。この調査区と東隣の90A区においては、当該時期の遺構は非常に希薄であった。

これに対し90B区においては屋敷地を区画すると考えられる溝や掘立柱建物及びそれに付属するとおぼしき柵列を検出した。この調査区の東半部は谷地形となっており、１条を除き溝はこの谷地形へと流れ込む様に掘削されていた。

Ⅴ－２期（近世）の遺構としては、90B区で検出された石垣を伴う溝が１条ある。本来は溝の両肩に石垣が組まれていたと考えられるが、調査時には南肩の石垣は痕跡を残すのみであった。

以上の概観を踏まえた上で、次に特徴的遺構を個別に見ていくものとする。



第25図　Ⅴ期の遺構配置図　（１：1500）

(2) 掘立柱建物（SA）

先に述べたように、約600基の土坑が検出されており、それらのうちの多くが柱穴であると考えられるが、調査時点で明確に建物跡として確認しえたのは90B区における2棟のみであった。

SA01

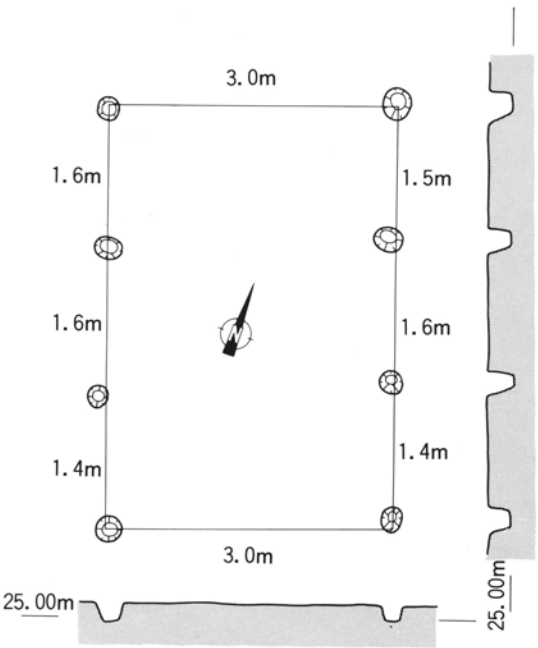
90B区の北西部でSD19に並行する状態で検出された、東西3間（4.5ｍ）、南北1間（3.0ｍ）の南北掘立柱建物。柱穴の掘形はほぼ円形で径25～40㎝、深さ14～26㎝を測る。検出時に柱痕は確認されなかった。棟の南北軸方向はN－19°－Wである。

実測可能な遺物は出土していないが、南東隅の柱穴から灰釉系陶器の椀の破片が出土している。

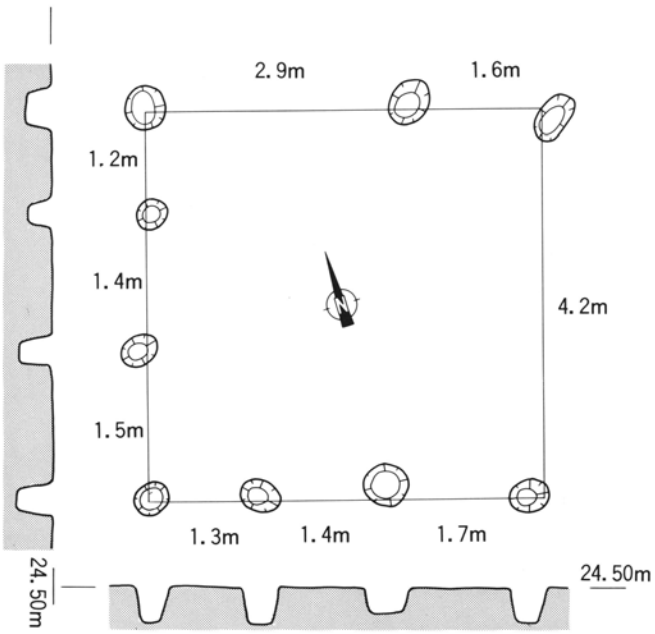
SA02

90B区の中央部で検出された東西3間（4.5ｍ）、南北3間（4.1ｍ）の南北掘立柱建物。柱穴の掘形はSA01の柱穴同様、ほぼ円形で径30～45㎝、深さ16～41㎝を測る。検出時に柱痕は確認されなかった。棟の南北軸方向はN－18.5°－Eである。

実測可能な遺物は出土していない。　（川井啓介）



第26図　SA01平面図・断面図　（1：80）



第27図　SA02平面図・断面図　（1：80）

(3) 溝（SD）

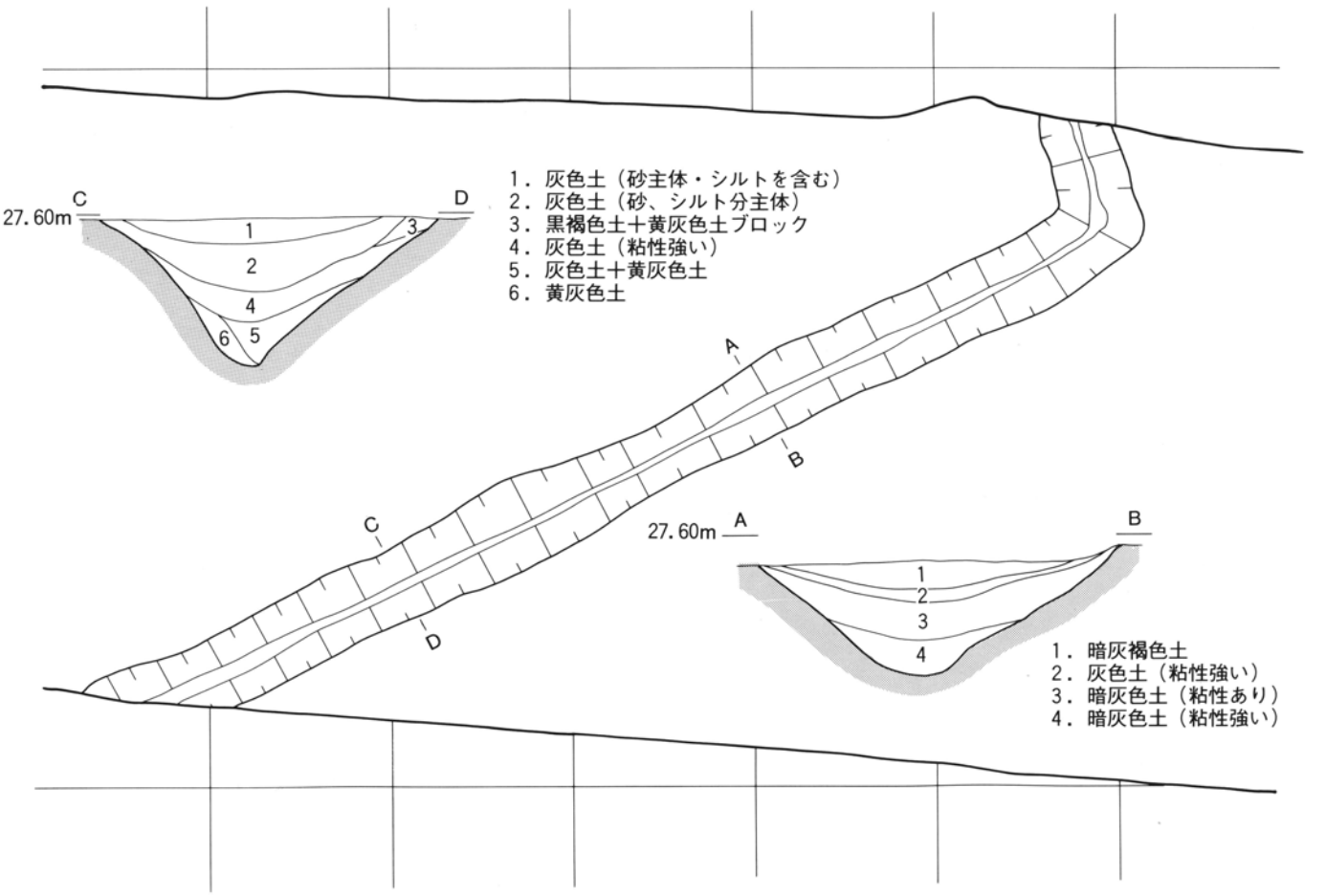
SD06

幅 1.7～ 2.4m、深さ0.71～0.84mを測る断面V字形の素掘りの溝である。調査区南端からN－62°－E の方向に直進し、調査区北端付近でN－17° －EへL字状に屈曲する。埋土は粘性の強い灰色土であり、この状況から判断して溝が機能していた時には滞水していた可能性が高い。溝底のレベル差は北端と南端で27cmを測り、水流は南から北へ向いていたと考えられる。

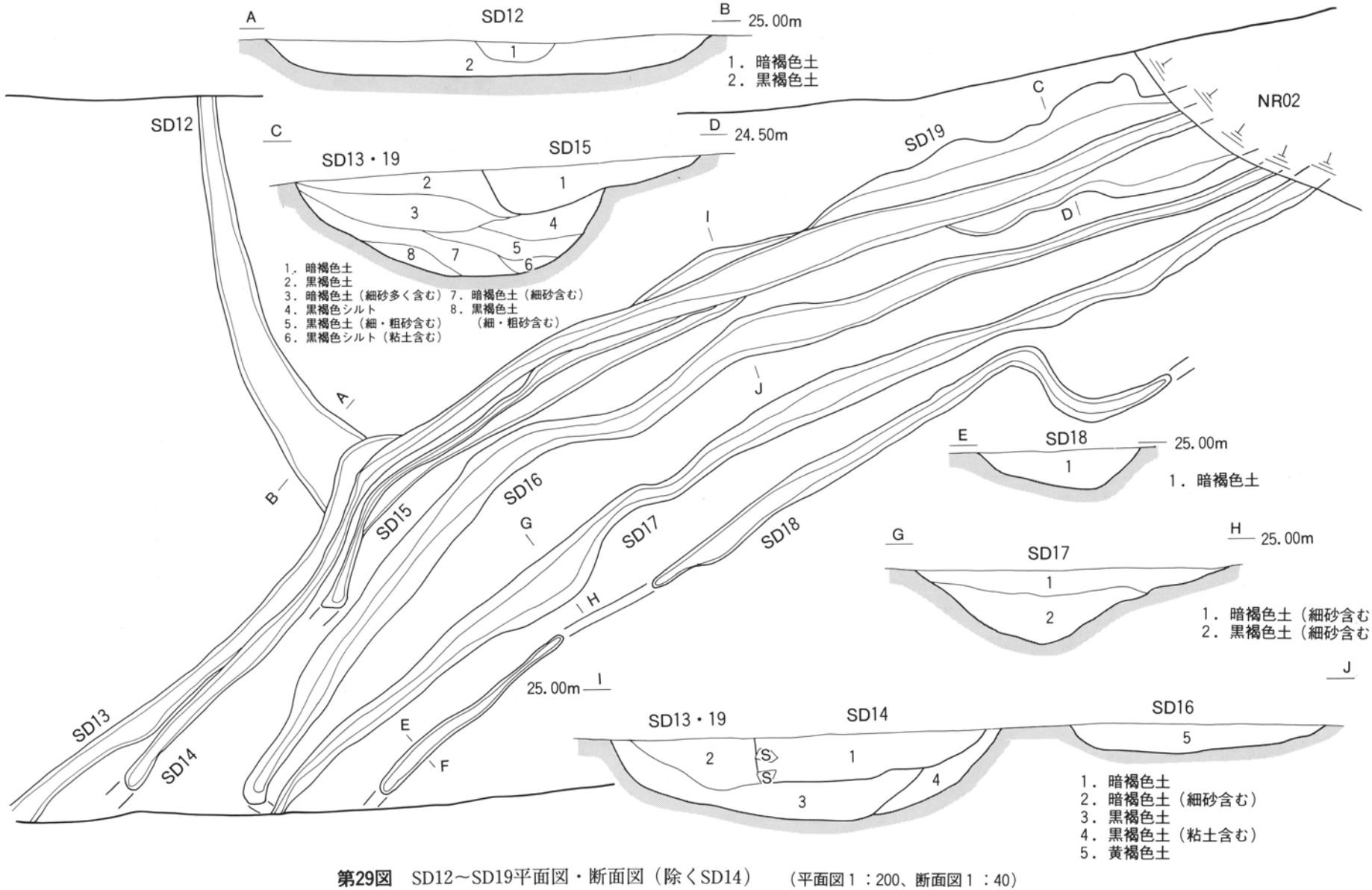
SD12～SD19（SD14を除く）

90B区で検出された東西方向（N－ 58°～ 62.5°－E）に並走する4条の溝は、いずれも素掘りで掘方がU字形に近い形状を呈し、埋土も黒褐色若しくは暗褐色土である。これらの溝は調査区東部の谷地形に注ぎ込んでいる。また、南北方向（N－ 21°－W）に伸びるSD18も掘形・埋土共に他の溝と同様の状況を示す。

これらの溝のうち、SD13、19とSD12はほぼ直交し、先に述べたSA01がこの溝に並行して構築されている。このことから、この2本の溝は屋敷の区画溝の可能性をもっている。東西方向の区画溝が調査区外にまで伸びていることについては判然としない。またこの溝と並行する3本の溝の性格については確定しにくい。



第28図 SD06平面図・断面図 （平面図1：200、断面図1：40）



第29図　SD12～SD19平面図・断面図（除くSD14）　（平面図1：200、断面図1：40）

SD14

中世の溝と同じ方向に作り直されている溝。幅 0.4～ 2.0 m、深さ0.16～0.44 mを測る。調査区の西から東の谷地形に注ぐように掘削されている。本来は掘形の両側に石垣が組まれていたと思われるが、調査時には北側に一部のみ残存していた。

(4) 土坑（SK）

先に述べたように、今回検出された土坑は約 600 基を数える。その大半が柱穴であると考えられるが、明確に柱痕が確認された土坑は多くない。また配列に規則性が認められない以上、その性格については不明であるとするべきかもしれない。

以下、その他の特徴的土坑について記述する。

SK189

ID19n・oグリッドで検出された。長径 510 ㎝、短径 450 ㎝、深さ 7 ㎝の平面円形の大型の土坑である。土坑内には人頭大程度の角礫が廃棄されていた。検出時は石組の井戸であると思われたが、掘り下げの結果、井戸ではないことが判明した。その性格は不明である。

SK347

ID18pグリッドで検出された。長径 310 ㎝、短径 290 ㎝、深さ25㎝の平面隅丸方形の大型土坑。89A区SK436に隣接する箇所で検出されているが、角礫は投棄されていない。性格は不明。

SK530

IF20j・iグリッドで検出された。長径 370 ㎝、短径 300 ㎝、深さ83㎝の平面円形の大型土坑である。遺構の埋積状況から判断して、土坑を掘削した土を南側の近接した場所に積み上げて置いたことが想像される。但しその性格は不明である。

実測可能な遺物は出土していないが、灰釉系陶器（椀）の破片が出土している点から、Ⅴ－１期に属すると考えられる。

SK70

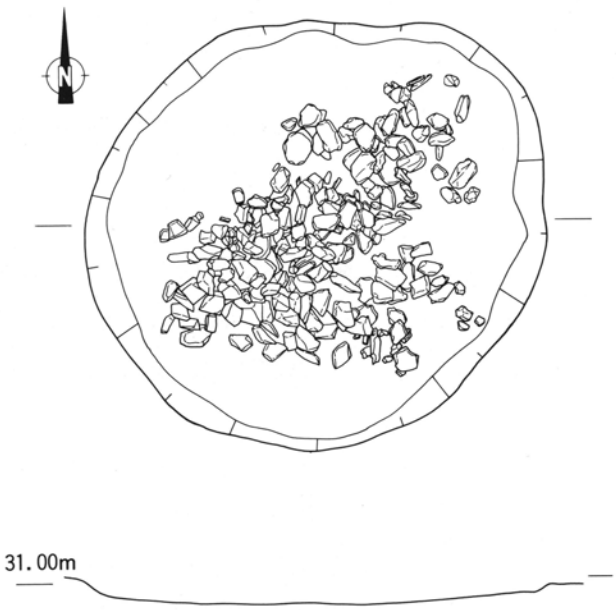
ID18iグリッドで検出された。長径 105 ㎝、短径55㎝、深さ 6 ㎝の平面楕円形の土坑。後世の耕作により上部が削平をうけており、完全な形で検出しえなかったが、土坑内に人骨が埋葬されており、土壙墓であると考えられる。

土師器皿が出土しているのみで、明確な時期比定は出来ないが、15世紀前半と考えられるSK69に切られており、この点からⅤ－１期に比定することができる。

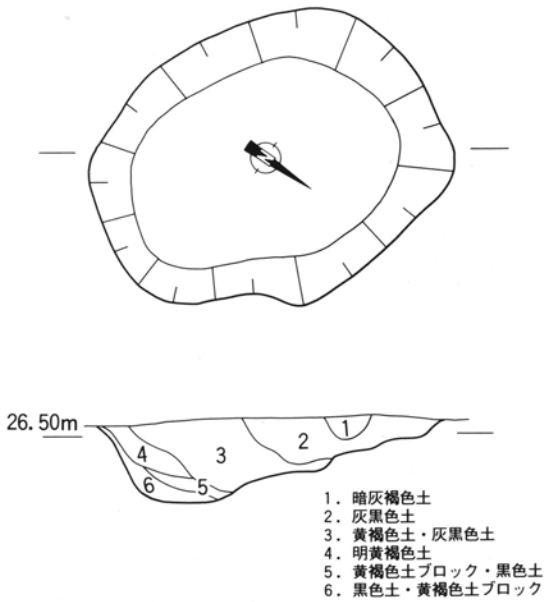
SX02

ID17pグリッドで検出された。長径 180 ㎝以上、短径50㎝、深さ10㎝の平面楕円形の土坑。埋土は褐色土であるが、下層には焼土塊、炭化物、骨片が多量に含まれており、火葬の為の施設であると考えられる。但し、土坑側面は直接に被熱されておらず、この事から考えれば火葬施設ではなく、火葬後の処理施設であると思われる。

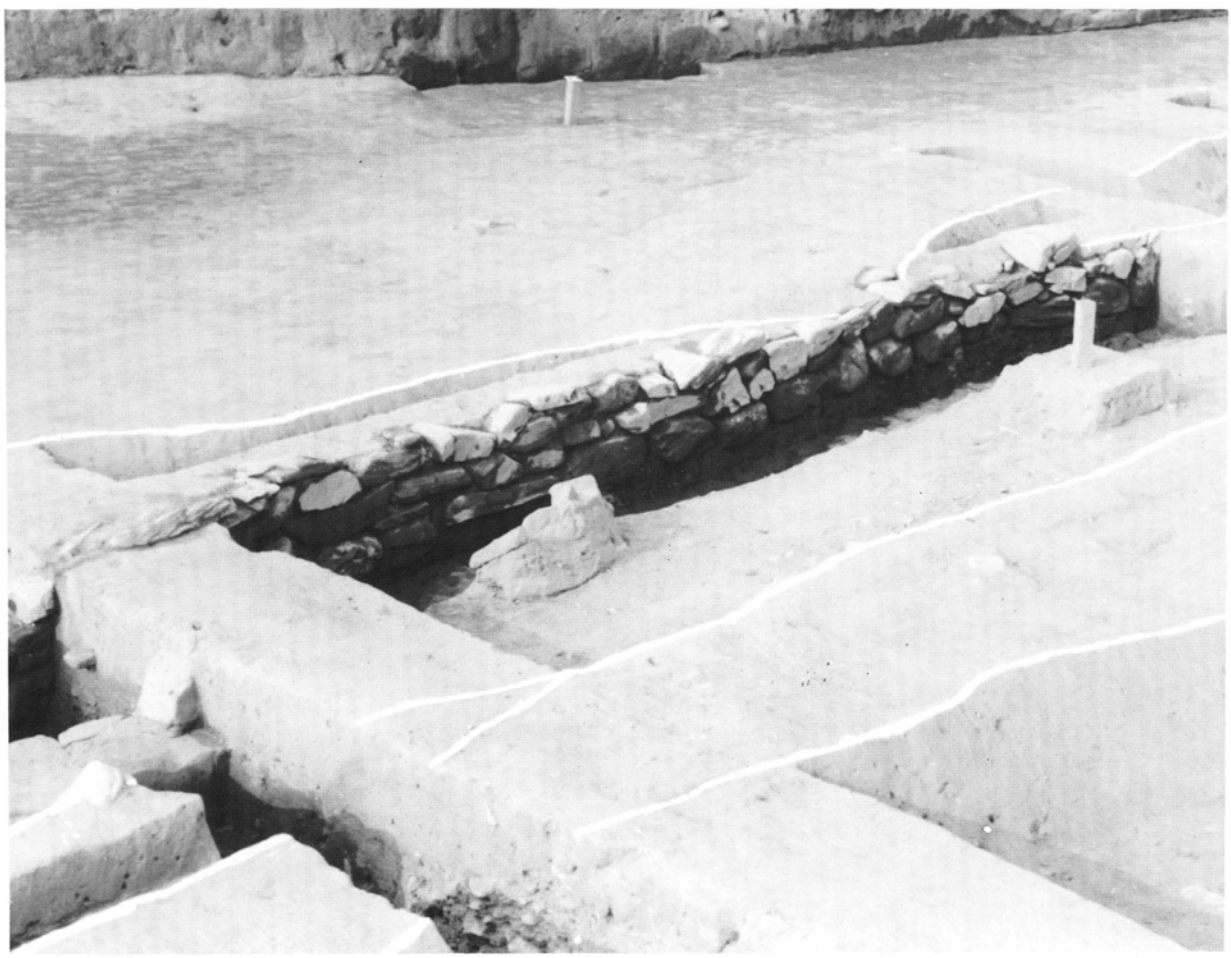
（川井啓介）



第30図　SK189平面図・断面図　（1：80）



第31図　SK530平面図・断面図　（1：80）



江戸時代の石組み（60B区）

第Ⅲ章　遺　　物

各時期の遺物について、遺構の時期区分に従って説明する。

第１節　Ⅰ期の遺物

(1)　縄文土器

縄文時代の遺物は、遺構以外では現在の表土及びその下層にある褐色土中などから出土しており、確認できる限りでは縄文時代前期から晩期にわたる。遺構外から出土したものは大部分小片で図示できるものは少ない。前期前葉の土器が89A区から極少量出土し、中期は若干多く89A区から90A区にかけて中・後葉の土器が検出されている。後期は89A区から89B区にかけて少量出土している。晩期については、遺構の集中する89A区西半及び89B区で検出されている。89B区については遺構は検出されなかったが、調査区の南西隅の基盤が落ち込んで堆積している暗灰色土中より後葉の土器が比較的多く出土した。また、Ⅱ期の遺構などから、堆積する過程で流れ込んだⅠ期の遺物が出土している。

遺構に伴うⅠ期の遺物は中期と晩期に限られる。以下、この２時期の遺物について時期ごとに説明する。

（Ａ）縄文時代中期（第32図）

90B区において基盤層直上の黒色土中より一個体分まとまって出土した。遺構は確認できなかったが、出土状況から遺構に伴うものと考えられる。

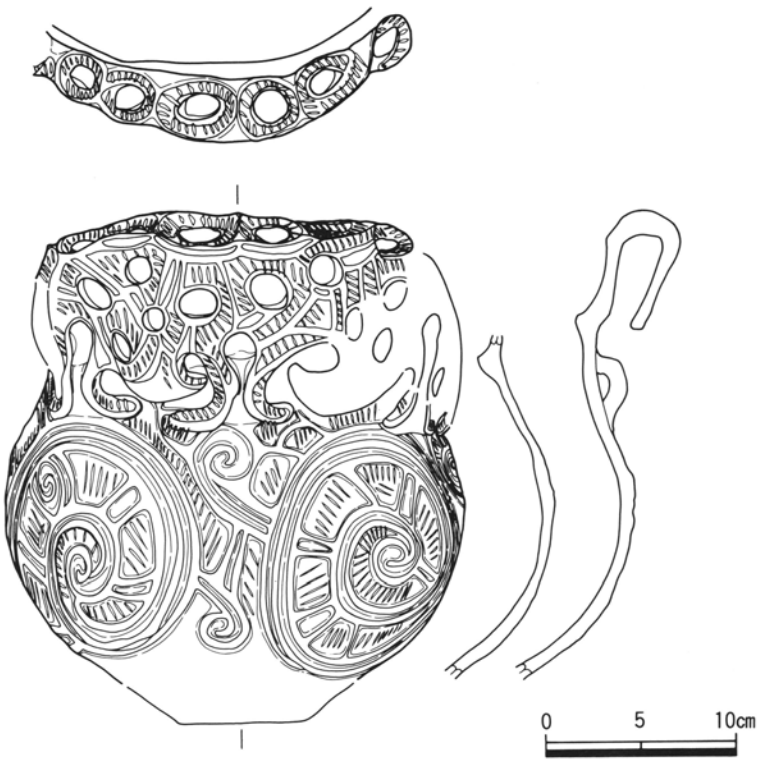
土器は、外面全体に文様を有する深鉢である。底部全体と口縁部の約６割を欠損している。口縁部の２か所に突起を有する。図の前面部分は突起の頂部にあたり、両側面は底部である。欠損しているため確定できないが、後面部分が前面とシンメトリーな同じ形態の頂部になるか、あるいは多少変形した形態の頂部になる。頸部は括れ、胴部は球形に近い形態となる。底部はおそらく単純な平底になるものと考えられる。

口縁部から頸部にわたって５個の「把手」が残存する。完形では12個の把手をもつとみられ、そのうち６個は若干大きく、頸部のやや下部にまで下がっている。他の６個は、この６個の把手よりやや上部にあり、間を埋める様に交互に存在する。把手の間はブリッジ状に連結され、このブリッジ部が口縁部から頸部の外面全体をおおっている。口縁部に接するブリッジ部は水平に近い縁帯部となって口縁をめぐり、円形の透かしが連続して付され、透かしをめぐって短い沈線と円形の隆帯による文様が施される。頸部をおおうブリッジ部は不規則な位置に円形の透かしが付され、透かし相互を連結するように細い隆帯が不規則に付される。この隆帯の間を区画として短沈線が連続して平行に付される。胴部には、胴部全体を覆うようにやや太い２～３条を一組とする隆帯による渦巻文が施される。渦の

隆帯の間に２条一組の隆帯による区画がなされ、短沈線が平行に連続する文様が施される。

内面は、頸部の上部に受け状の段部をもつ。全体に丁寧に撫でられている。

本資料は、三河地方の平野部には類例が少なく時期を直ちに確定することはできない。土器上半のブリッジ部は装飾的な把手が発達したもので、岐阜県炉畑遺跡に類例が認められる。胴部の文様は「唐草文」といわれる長野県南部を中心に広く分布する文様であり、器形などもこの地方に近縁のものである。これらの時期関係から、中期後葉の時期に属すると考えられる。



第32図　縄文時代中期土器（１/４）

（Ｂ）縄文時代晩期

89A区西半から中央部にかけて縄文時代晩期の遺構及び包含層が検出されている。主なものとして、自然河道と考えられる凹地状の自然地形（NR01）、土器棺墓と考えられる土坑が確認されている。以下、これらから出土した遺物について各遺構ごとに説明する。

NR01（図版10～39）

自然河道と考えられる基盤面の落ち込みの暗灰色から暗黒褐色の有機質を多く含む埋土中より縄文時代晩期の遺物が多量に出土した。大部分は土器であるが、これ以外に主なものでは土製品（土偶、石冠形土製品など）、石器（石鏃、石錐、石錘、石冠など）が出土している。出土土器は晩期全般にわたり、三河地域における数型式を含むものであるが一括して取り扱う。

土器は、その特徴から有文土器、無文土器、粗製土器に類別でき、各土器類ごとに説明する。また、主に無文土器・粗製土器の説明にあたり、煩雑さを避けるために器面調整について以下のように分類する。

a．ヘラ状の原体による削痕調整。

b．植物質の細い繊維を束ねたものを原体とし、器面を束の先端で擦る調整。調整痕は、aと類似するが、平行する細いすじが多くはいる。

c．植物の茎状のものを束ねて原体とし、器面を束の先端で擦る調整。植物の茎状のものは直径2～4㎜、bと近似することもある。

d．アナダラ属の二枚貝の貝殻を原体とし、貝殻の縁辺による条痕調整。

e．小型の巻貝を原体とし、貝殻の縁辺による条痕調整。

m1．ヘラ状の原体による磨痕調整。

m2．植物の棒状のものを束ねて原体として、この束の先端で擦ることによる磨痕調整。棒状のものは直径数㎜で先端が丸くなっており、弾力性のあるものである。

m3．植物の茎状のものを束ねて原体として、この束の先端で擦ることによる磨痕調整。植物の茎状のものは直径2～4㎜で、cの原体と近似している。

n．ナデ調整である。手あるいは皮革、布等で撫でるものである。

① 有文土器（図版10～14）

土器の外面に文様を有するものである。細片が多く、全体の器形を確認できるものは少数である。文様の特徴で類別する。

A類（図版10－1～13）

口縁部の肥厚した部分あるいは「く」の字形に内側に屈曲した部分に、細い竹管または竹管状の植物質のものを半截した原体（半截竹管状原体）あるいは細い棒状の原体などで文様を施すものである。

1～5・10は、半截竹管状原体で沈線による文様を施すものである。1・3・4・10は屈曲した口縁部、2・5は肥厚した口縁部である。1～3・5は横方向に相似的に相対する2条の連弧、4は上部が横方向の沈線と連弧を組み合わせた文様である。10は縄文を付し、3条の連弧あるいは長い波状文を施す。6～9は屈曲した口縁部に横沈線を付すものである。6・8・9は縄文、7は擬縄文を付す。11・12は口縁部に縄文、あるいは擬縄文のみをもつもので、11は縄文、12は擬縄文を付す。13は口唇に面をなすように肥厚して施文部をつくり、刺突文を中心に2条一組の横沈線を両横に付す文様を施すものである。

B類（図版10－14～28・31）

半截竹管状原体あるいは植物の茎状の原体によって口縁に平行に連続刺突文あるいは押引文を施すものである。口縁部は、19は肥厚し、28は口唇外端を押し下げて面をなす他は、口縁部に施文部を明確に作り出さない。

14～16・18～20・25～27・31は口縁に平行して連続刺突文を施す。25・26・31は1条、16・19・20は2条、14・15・18・27は3条が施される。19は波状口縁で、施文部を肥厚する。20は、口唇に面をなし、連続刺突が付される。25・26は口唇外端に斜めに狭い面をなし、1条の連続刺突文を施す。25は明確な平らな面をなすが、26はわずかに面をなすのみである。27は、わずかに内弯した口縁部に3条の連続刺突文が施される。31は、波状口縁で波状の頂点に押圧を有する。口縁に平行する1条の刺突文が施され、口唇に連続刺突が付される。

17・21・22～24・28は口縁に平行して連続押引文が施される。押引文には、一つの押し引きが長く断続的なものと押し引きが短く連続的なものの２種類がある。17・21・28は、長い断続的な押引文が２条（21・28）または３条（21）施される。28は、口唇外端を強く撫でて斜めの面をなし、施文している。22～24は、短い連続的な押引文を２条施すものである。24は、施文部が若干肥厚している。

なお30は、波状口縁の頂部で原体及び口縁部の形状はＢ類であるが、沈線が付される。また、29も波状口縁の頂部で、口縁部の形状はＢ類であるがヘラ状具による沈線文が施される。

Ｃ類（図版11－32～51）

口縁部に口縁に平行する沈線あるいは凹線を数条付す文様を施すものである。

32～34・36～38・40～42・45・46・48～51はヘラ状または棒状の原体によって口縁に平行する沈線文を施す。小片であるために沈線の条数は不明なものがあるが、１条（49）、２条あるいは２条以上（32～34・36・42・46）、３条あるいは３条以上（38・40・41・45・48・50・51）付される。46・49～51は、口縁部が、「く」の字状に内屈し、この部分に１条（49）、３条（50・51）の沈線文が施文されるものである。これは、Ａ類の一部の口縁と共通するものであるが、Ａ類と異なり縄文あるいは擬縄文が付されない。46は、内弯する口縁より下がった部分に施文される。

35・39・43・44・47は、凹線を２条以上（35・39・44）あるいは３条以上（43・47）付すものである。原体は、35・39・43・47は直径数㎜の棒状具である。43は、巻貝の腹縁の可能性がある。39は、口縁部が若干肥厚しているが、明確な施文部はない。

Ｄ類（図版11－52～56）

各種の沈線文が施されるものである。

52は縦方向と斜方向の沈線による文様である。小片であるために文様構成は不明である。53は、波状口縁で口縁部にヘラ状具による横方向の２条一組の沈線による文様が施される。54は、壺的な形態の土器の肩部である。肩部の上部に横方向の沈線が付され、その下部に曲線の沈線による沈線文が施されるが、全体の構成は不明である。55は、２基の小突起がある口縁部である。小突起から斜方向に２条一組の沈線が付され、口縁部の下部にも沈線が付される。56は、肩部が屈曲する浅鉢の口縁部である。口縁部に１条、肩部から胴部の上部にかけて４条の沈線が口縁に平行して付される。内外面は、丁寧なミガキが付され、暗灰色を呈する。

Ｅ類（図版11－58・59）

棒状の原体による文様を施すものである。

58・59はいずれも小片であるが、58は円形の文様の一部、59は波状文が施されている。

Ｆ類（図版11－57・60～62・64・65）

沈線と連続刺突を組み合わせた文様を施すものである。

60・61はヘラ状の原体による沈線間に連続刺突を付すものであるが、小片で文様構成全体は不明である。

57・62は、壺的な形状の土器の肩部に細い棒状具によって文様を施すものである。57は肩部に４条の平行沈線を巡らせ、２条と３条の間に連続刺突を付す。62は肩部に沈線と連続刺突を各２条交互に巡らせるのに加え、頸部に沈線と連続刺突を組み合わせた文様を施す。

64・65は、口縁直下に半截竹管状原体による2条の沈線を付し、その間に細い棒状具による連続刺突を付す。

G類（図版12－66～87）

沈線主体の文様あるいは沈線と連続刺突を組み合わせた文様に縄文を付すなどした東日本的な文様構成の精製土器を一括した。

66・67は口縁に平行する4・5条の沈線間の一部に連続刺突を付すものである。68は浅鉢で、口縁部に口縁に平行して5条の沈線を巡らし、口縁から2条と3条目の沈線間に短沈線の絡み合った文様、いわゆる羊歯状文に類似した文様を施す。口唇に2個一対の小突起を有する。69は浅鉢で、口縁に平行する3条の沈線のうち1条目と2条目の沈線の間に絡み合った沈線と連続刺突による文様が施される。胴部には、縄文が付される。

70～74は沈線による三叉文をもつものである。70は、器形は不明であるが3条の沈線下に三叉文の組みあった文様構成が認められる。71～74は、三叉文の一部である。71は、壺の胴部で沈線と縄文による文様をもち、三叉文が向かい合った構成が認められる。72～74は、いずれも小片で器形は不明である。72は、一対の三叉文が絡み合った部分である。73は、円形沈線を中心に両側に三叉文を配した文様構成の一部である。74も三叉文による文様構成の一部である。

75～83は沈線と縄文及び一部連続刺突の加わる文様構成をもつものである。75は、絡み合った2～3条の沈線の間に縄文が付される文様が施されている。77・78は、浅鉢の口縁に平行する沈線の下部に縄文が付される。79は、口縁部の下部に口縁に平行する2条の沈線とその間の連続刺突による文様を施し、口縁とこの文様とのあいだに縄文を付す。その他の部分は内外面ともに比較的丁寧にミガキが付されている。80は浅鉢で、口縁部と底部を欠損しているために不明な部分があるが、沈線と連続刺突と縄文による文様構成で口縁に平行する沈線間の連続刺突を中心とした部分に磨消縄文が付される。胴下半部はヘラ削りによる調整がなされ、内面にはミガキが付される。81は、口縁部が屈曲して外反する口縁の浅鉢である。屈曲部に1条、胴部上半に2条の口縁に平行する沈線が付され、口縁と屈曲部の沈線の間と胴部の2条の沈線の間に縄文を付す。82は浅鉢で、口縁に平行する3条の沈線間に連続刺突を付し、この部分以外には縄文を付す。83は、頸部が「く」の字形に開く浅鉢である。頸部に1条の隆帯が巡り、胴部中央に間隔をおいて2条の沈線が巡る。胴部上半の隆帯と上の沈線との間には沈線が「互」の字状に入り組んだいわゆる鍵の手文が施され、胴部の2条の沈線間には縄文が付される。76は、口縁部に縄文が付される浅鉢である。口唇は面をなし、小突起と沈線を組み合わせた文様がある。

84は、口縁部に縄文が付されるが、粗製的な深鉢で口唇に連続押圧が付される。

85～87は胴部破片で、結節縄文が付される。

H類（図版13－88～111）

主に沈線のみによって文様が構成される精製の浅鉢と壺である。沈線は彫り込みが比較的深く広い彫刻的なもので、面的な彫り込みと共に文様を構成する。

88～100・109は浅鉢である。88～96は口縁部の文様が口縁に平行する沈線のみによって構成される。88は、口縁部が短く内屈するものである。89は、口唇に2個一組の小突起を有し、内面の口縁直

下にも１条の沈線が巡る。93～95は単純な形態の浅鉢で、沈線のみによって文様が構成される。基本的に外面と内面に沈線が付される。外面の沈線は、２条（91）、３条（95）、４条（93）、５条あるいは５条以上（90・92・94）のものがある。内面の沈線は、１条（90）、２条（92・94・95）、３条（93）のものがある。96は、内面口縁部を肥厚させて沈線を付す。97・98・100 はこれらの単純な形態の浅鉢の胴部破片である。96は、口縁部が内屈する形態で、口縁直下に１条、肩部に２条の沈線を付し、頸部は彫刻的に幅広く彫り込まれている。内面にも口縁直下に１条の沈線を巡らす。99・101～106 はいわゆる浮線網状文を有するものである。 101 は、短く内屈する口縁に眼鏡状文が施される。口唇にも沈線が付される。 102 は、口縁が急角度に短く内屈し、口縁部から胴部上半に文様が施される。内面にも口縁直下に沈線が付される。 103 は、口縁が短くわずかに内屈する形態で、屈曲部以下の胴部上半に文様が施される。内面の口縁直下にも沈線が付される。 104～106 は、胴部破片である。 104 ・ 105 は、凸部の細い浮線網状文である。 106 は口縁部が内弯し、太い隆起した眼鏡状文を有する。 109 はいわゆる、粗大な工字文を有する浅鉢である。内弯する形態で、頸部から肩部にかけて彫刻的な手法によって文様を施す。

107 ・ 108 ・ 110 ～ 111は、小型の壺である。 107 ・ 108 ・ 111 は沈線のみによって文様が構成される。 107 は肩部に３条の沈線を有し、 108 は、肩部に１条、内面の口縁部に３条の沈線が付される。 111 は、口縁が短く外反する形態で、口縁直下に３条、肩部に４条の沈線を巡らす。 110 は、口縁部の下部に２条の沈線を巡らし、肩部から胴部上半に浮線網状文を施す。内面にも口縁直下に１条の沈線を巡らす。

Ｉ類（図版14－112～143）

口縁部にいわゆる凸帯を巡らせるものである。大部分が深鉢である。

112 ・ 113 は、小型の深鉢の口縁部である。いずれも段差によって肩部を作り出し、頸部に丁寧なナデを付す。口縁より離れた位置に断面台形の細い凸帯をもつ。 114 ・ 115 は、断面台形の凸帯を口縁より離れた位置に有するが、 112 などより太く、 114 は軽い連続押圧が付される。 115 は内面口縁直下に１条の沈線を有する。 116 ～ 118 ・ 120 ・ 121 は、押圧などが付されない低い凸帯のものである。 119 は、軽い押圧が付される低い凸帯のものである。 122 ～ 139 は、刻みあるいは押圧が付される凸帯を有するものである。 124 ～ 126 は比較的幅に対して高い凸帯のものである。 127～ 139 は、幅広の低い凸帯を有するものである。 128 ～ 130 ・ 133 ・ 135 ～ 139 は凸帯上にヘラ状の原体による刻みを付す。 125～127 は棒状の原体による押圧を付す。これらは肩部に段を有し、頸部を作り出す深鉢である。頸部にはナデによる調整が付されるが、 134 ・ 135は二枚貝を原体とする条痕調整が付され、凸帯には同じ原体による押圧が付される。 126 は浅鉢である。 134 ・ 139 は内面に１状の沈線を有する。

140 ～ 143 は粗い条痕が付される壺状の器形の土器である。太く高い凸帯に連続的に強い押圧が付される。

② 無文土器（図版15～25）

明確な文様を持たない粗製の単純な器形の深鉢以外の土器を一括する。器形としては、深鉢・壺・鉢・浅鉢・台付鉢がある。

a．深鉢（図版15～19）

A類（図版15・16－144～181）

肩部に段をもつものである。破片のみで、全形の分かるものはない。

144～152は、口縁部から頸部の部分で、肩部まであるものはないが、頸部の調整から、この類にいれる。口縁部は若干外反し、外面は最終的には調整nによって調整されるが、その前調整として、調整cあるいはdなどがなされていることがある。153～166は肩部である。頸部が肩部でわずかに内側に屈曲することによって稜線をもつ段が形成される。段より上には調整nがなされ、これより下の胴部には主に調整bが付される。口縁部まであるものがないため肩部の屈曲の角度に若干の種類があるが、類別できない。167～181は、頸部の調整が調整cあるいはdによってなされ、調整nがなされないか、あるいは軽くしかなされないために条痕が残るものである。167～178は口縁部で、肩部まであるものはない。頸部は、調整cでなされるものが大部分であり、調整dが付されるもの（171・175・177）は少ない。179～181は、調整cまたはdで頸部調整がなされ、この調整痕が残るものの肩部である。この調整痕が残らないものと同じく、胴部には調整bがなされる。

B類（図版16～18－182～205）

屈曲して口縁部が外反するものである。

182～187は、肩部がわずかに屈曲して口縁部が外反して大きく開くものである。口縁は平縁と波状のものがあり、共通して内面に口縁から若干下がった位置に口縁に平行する1条の沈線が付される。182は、肩部まである唯一のものである。外面は調整cまたはm3のあと丁寧な調整nが付される。口唇は面をなし、ヘラ状具による刻みがあるが撫で消される。183～187は口縁部で肩部がない。183・185は波状口縁、184・185・187は平縁である。183は、大きな山型の波状口縁で頂部に押圧が加えられ、内面の頂部の下に円形圧痕が付される。口唇には、沈線が付される。外面には調整m3のあとnが、内面には丁寧な調整nがなされる。184～187は、内外面共に丁寧な調整nがなされ、口唇は丁寧に撫でられて面をなしている。

188～199は、大きく屈曲して口縁部が開くものである。大部分は平縁である。188～190は、肩部に明瞭な屈曲線をつくらずに屈曲するもので、外面には最終的に丁寧な調整nが付される。191～199は、肩部に屈曲線をつくるもので、多くは口縁が直線的に開く。外面の調整は、最終的に丁寧な調整nが付されるものが多いが、192・194・195・196などは、調整m2・m3などが付される。194は、波状口縁で口唇にヘラ状具による刻みがなされる。口縁部内外面に調整m1が付される。195は、屈曲部に1条の沈線が付される。

200～204は、大きく屈曲する口唇が比較的短い小型のものである。口縁は、直線的に開くが、200・201・204はやや受口的な状態である。外面には、調整mあるいは丁寧な調整nが付される。205は、屈曲線をつくらず外反するもので、口唇が内側に短く屈曲して張り出す。外面には、丁寧な調整nが付される。

C類（図版18－200～219）

口縁部が明確に作り出され、胴部とははっきりと区別されるものである。

206～212・215・216は口縁が大きく屈曲して開くものである。内外面は、いずれも調整m1・

m 3がなされるものが多い。 206～208 は、口縁が外反する。 209・210 は、受口的な形態をなす。 211 ・212 は、直線的に開くものである。 213・214 は口縁があまり開かず、やや屈曲部が肥厚して内面に稜線をなすが、外面には稜線をつくらない。 217～219 は、小型で口縁部が鋭く短く開く。屈曲部は肥厚し、内面に稜線をなすが、外面に稜線をつくらない。

D類（図版19－220～230）

胴部が張り、口縁が内傾する壺的な形態のものである。

外面の調整は、比較的丁寧な調整nがなされるかあるいは調整m 2 ・m 3のあと若干の調整nがなされるものが多い。220 は、わずかに外傾する口縁部がつくりだされ、内面に稜線ができる。外面は調整m 3が丁寧に付される。 221～230 は、明確な口縁部を有しないが、 221・225 ・226 などは、口縁部的な部分がある。 225・229 は、外面に丁寧な調整m 2がなされる。 230 は、外面全体に斜方向の指圧痕列が残り、器壁に凹凸がある。縦方向の調整cののち調整nを付す。

b．壺（図版20－231～246）

壺的な形態のものである。少量であり、一括して取り扱う。

231～ 233 ・ 235 ・246 は、比較的薄い器壁で、外面調整m 1が付される。 246 は、ほぼ全体が分かるものである。球形の胴部で、広い水平の肩部をもち、外反する口縁を有する。底部は凹底である。外面全体に丁寧な調整m 1が付される。 239～ 241は小口径の薄い器壁のものである。 234・235 ～ 238 ・243 は、比較的器壁の厚い丁寧なつくりの口縁を有するものである。 244・245 は、短く「く」の字形に外屈する口縁のものである。 245 は4条の沈線と3条の連続刺突を胴部上半に交互に巡らす文様を施したものであり、有文土器に含めうるものとも考えられる。

c．鉢（図版21～23－247～287）

A類（図版21－247～258）

単純な器形で、調整などは粗製の単純な器形の深鉢と同様の製作方法のものである。

247～ 253 は比較的緩やかな角度で開くものである。底部はすべて欠損しているが、中心の小面積が平らな丸底に近いものである。外面の調整は、調整cののち調整nを付すかまたは調整nのみがなされる。外面に粘土の輪積痕を残すものもある。内面は、多くは丁寧な調整nがなされる。254～258 は、小形の粗製深鉢に近い形態のもので、小形で底部は平底である。外面の調整として、比較的丁寧な調整nがなされる。内面には、丁寧な調整nがなされる。 258 は、底面に木葉痕がある。

B類（図版22－259～267）

単純に開く比較的小形の器形のものである。器壁は平滑につくられており、器面調整も丁寧で粘土の輪積痕を残すことはない。

259～ 261 ・ 263～ 267 は、平縁のものである。 262 は、波状口縁である。 264 は、口唇に棒状具による連続刺突が付される。外面の調整は、 262・263 では調整m 3がなされ、それ以外は、調整cに加えて比較的丁寧な調整nがなされる。

C類（図版22－268～272）

比較的緩やかに開く大形のものである。

268～ 270 は波状口縁、 271・272 は、平縁のものである。外面は、調整cに比較的丁寧な調整n

がなされる。内面には丁寧な調整nが付され、平滑に調整されている。

D類（図版23－273～284）

緩やかに開く小形の皿型のものである。

275・278は波状口縁である。275は、6個の小突起をもち、底部は平底である。外面には、調整bに若干の調整nを付す。内面は、丁寧な調整nによって平滑にされる。273・274・276・277・279～284は、平縁である。器壁は薄く、外面は調整bあるいはcに調整nがなされ、内面は丁寧な調整nによって平滑にされている。

E類（図版23－285～287）

小形の椀状のものである。

外面には、比較的丁寧な調整nが付され、内面には丁寧な調整nがなされる。

d．浅鉢（図版24－288～304）

A類（図版24－288～293）

単純な鉢型の器形のものである。鉢B類と近似した器形であるが、丁寧な調整mによって器面が調整されている。

228は、内外面ともに調整m1が付される。口唇に間隔のあいた刺突がなされる。290は直線的に開く器形のもので、内外面の口縁部やや下部に1条の凸帯をもつ。289・291～293は、いずれも内外面に調整m3を付して丁寧な調整nを行い器面を平滑にしている。

B類（図版24－294・295）

緩やかに開く皿状のものである。

294は、外面に丁寧な調整m3、内面には調整m3に丁寧な調整nが付される。295は、波状口縁で内外面に調整m3が付される。

C類（図版24－296）

比較的緩やかに開く大形のものである。

296は、やや角張った波状口縁である。内外面ともに丁寧な調整m1が付される。

D類（図版24－297～304）

肩部が「く」の字状に内側に括れ、外反する口縁部をもつものである。

内外面とも調整m2と丁寧な調整nによって調整される。297・301・302は口縁部から肩部、298～300は頸部から肩部の部分である。298～300・302は、屈曲が強く、297・301は弱い。

304は、有文土器に含めるものであるが、形態から浅鉢D類に類別する。平行する2条の沈線とその間の連続刺突による文様を頸部上半と肩部に施す。内外面とも調整m1によって丁寧に調整される。底面は、わずかに凹底となる。

e．台付鉢（図版25－305～325）

A類（図版25－305～312・321～325）

器壁の厚い比較的大形のものである。

324・325は、全形の分かるものである。324は、単純な平縁の鉢部をもつもので、外面調整m3、内面調整n、脚部内面調整cに調整nが付される。325は、4か所の波頂部のある鉢部をもつもので、

324と同様の調整が付される。 305～312は、鉢部を欠損する脚部である。いずれも外面には丁寧な調整nが付され、内面には調整cに調整nが付される。 305・308などは、鉢部が比較的急角度に開く。

321～323は脚部のつけねに文様、あるいは凸帯を有するものである。 321は、沈線と連続刺突が付される。 322・323は、連続刺突が付される1条の凸帯を巡らす。

B類（図版25－313～315）

小形の低い脚部のものである。内外面ともに調整nが付される。

C類（図版25－316・317）

小形の脚部で、脚部の上部が若干長いものである。脚部の内外面には調整nが付される。

D類（図版25－318～320）

器壁が薄い丁寧なつくりの精製的なものである。内外面ともに丁寧な調整nが付される。

③　粗製土器

単純な器形の粗製深鉢で、装飾のない無飾土器と口唇に連続刺突の付されるなどの有飾土器がある。

a．無飾土器（図版26～32－326～382）

326～337は、内弯的な形態のものである。外面の調整は、調整nのみ（327・333など）、調整b（339・337など）、調整c（326・334など）及び調整bまたはcに調整nが付されるもの（330・331など）がある。328は外面にあまり調整が行われず、粘土の輪積痕が残る。内面の調整は、調整nのみあるいは調整cに調整nが付される。

338～362は、わずかに内弯して直線的に開くものである。外面の調整は、調整nのみ（347・355など）、調整b（342・348など）、調整c（338・343など）、調整bまたは調整cに調整nが付されるもの（340・343など）がある。

363～377は、直線的に口縁が開くものである。外面の調整は、調整nのみ（367など）、調整b（365など）、調整c（373など）、調整bまたは調整cに調整nが付されるもの（366など）がある。

378～382は、外反しながら直線的に開くものである。外面は、378・379には調整c、380には調整bに調整n、381には調整n、382には調整cに調整nが付される。

b．有飾土器（図版33～36－383～426）

383～391は、口唇に棒状具によって連続的に押圧を加えるものである。

392～398は、口唇に棒状具によって連続的に刺突を加えるものである。

399～407は、口唇にヘラ状具あるいは植物質の原体によって刻みを加えるものである。

408～411は、口唇に指によって連続的に押圧を加えるものである。

412～416は、口唇に沈線あるいは連続押引を付すものである。

417・418は、口縁直下に沈線を付すものである。

419・420は、口唇を強く撫でるもので、口唇に凹線状の押圧痕がある。

421～426は波状口縁のものである。 421～423は、山形の波状口縁である。 424～426は、緩やかな波状口縁である。

④　底部（図版37・39－427～502）

口縁部・胴部との対応で器形の分かる土器はほとんどないため、底部のみをその形態によって分類する。

A類（図版37－427～434）

平底で、外面が急角度から緩やかに弯曲しつつ底部から胴部下部に立ち上がるものである。大部分が粗製深鉢で、底部に近い部分は調整ｎのみの調整であるが、胴部下部は粗製深鉢と同様の調整である。

B類（図版37－435～440）

平底で、外面が緩やかに弯曲しつつ底部から緩やかな角度で大きく開く胴部下部に立ち上がるものである。大部分は粗製深鉢で、底部に近い部分は調整ｎ、胴部下部は粗製深鉢と同様の調整である。

C類（図版37－441～449）

平底で、外面が底部から垂直に近い角度で立上がり、やや強く弯曲しつつ底部から胴部下部につながるものである。大部分は粗製深鉢で、底部に近い部分は調整ｎ、胴部下部は粗製深鉢と同様の調整である。

D類（図版37－450～454）

平底で、外面が緩やかにわずかに弯曲しつつ底部から胴部下部に立ち上がるものである。大部分は粗製深鉢で、底部に近い部分は調整ｎ、胴部下部は粗製深鉢と同様の調整である。

E類（図版38－455～460）

平底で、底部から弯曲せずに直線的に胴部下部に立ち上がるものである。大部分は粗製深鉢で、底部に近い部分は調整ｎ、胴部下部は粗製深鉢と同様の調整である。

F類（図版38－461～466）

平底で、外面が急角度から緩やかに弯曲しつつ底部から胴部下部に立ち上がるものである。底面が比較的小さく、丁寧な調整ｎあるいは調整ｍ２などが付され、比較的精製の土器の底部である。

G類（図版38－467～470）

小形の平底のものである。外面は丁寧な調整ｎあるいは調整ｍ１などが付される精製土器である。

H類（図版38－471～473）

平底で、外面が緩やかに弯曲しつつ底部から緩やかな角度で大きく開く胴部下部に立ち上がるものである。丁寧な調整ｎあるいは調整ｍ３などが付され、比較的精製の土器の底部である。

I類（図版38－474～477）

小型の平底である。474・475は比較的緩やかに、476・477は急角度で直線的に弯曲せずに底部から立ち上がる。外面に丁寧な調整ｎあるは調整ｍが付される精製土器である。

J類（図版38－478～481）

小型の平底あるいは凹底である。底面端が張りだし、強く弯曲して胴部下部に立ち上がる。478・481はわずかに凹底になる。外面に丁寧な調整ｎなどが付され、比較的精製の土器である。

K類（図版38－482・483・486）

凹底のものである。外面が急角度から弯曲しつつ底部から胴部下部に立ち上がる。外面に丁寧な調

整ｎが付される比較的精製の土器である。

Ｌ類（図版38－484・485・487・488）

小型の凹底である。緩やかな角度で直線的に立ち上がる。外面調整ｍなどが付される精製土器である。

Ｍ類（図版38－489）

尖底に近い形態の凹底である。外面に調整ｍ１が付される精製土器である。

⑤　底面圧痕（図版39－490～503）

ａ．木葉痕（図版39－490～499）

底面にいわゆる木葉痕をもつものである。大部分は粗製深鉢であるが、 490など小型の比較的精製の土器にも認められる。

ｂ．編物痕（図版39－500～503）

繊維を編んだ編物の痕跡をもつものである。 502以外は不明瞭である。

SZ04（図版40－504）

口縁部が若干内弯する単純な形態の粗製深鉢である。外面には調整ｃが胴部中央から口縁にかけて横方向に、さらに胴部に下から上に縦方向に付される。内面には、丁寧な調整ｎが付される。

SZ06（図版40・41－505～507）

505は、口縁部を欠損する大型の壺形土器である。外面全体にヘラ状具による羽状文などが施される。内面には、ハケ状の原体による擦痕調整が付され、部分的に調整ｎが付される。

506は、口縁部が外反する形態の深鉢である。外面全体にヘラ状の原体による横方向から若干斜方向の条痕的な調整が付される。内面にはハケ状原体による擦痕調整が付され、全体に調整ｎが付される。

507は、口縁部が外反する形態の深鉢である。外面には、調整ｃと同様の原体による羽状文が施される。内面にはハケ状原体による擦痕調整が付され、全体に調整ｎが付される。口唇は押圧によって波状になる。

SZ05（図版41－508）

胴部上半が欠損しているが、深鉢と考えられる。外面に不規則な斜方向の調整ｅが付される。内面には、丁寧な調整ｎが付される。

SZ02（図版41－509）

肩部に段を有する深鉢である。外面は頸部に丁寧な調整ｎ、胴部に調整ｂを付す。内面には、調整ｎを付す。

（Ｃ）縄文土器小結

Ｉ期の遺物はほとんどがNR01より出土したもので、ここから検出された土器は晩期中葉の稲荷山式土器と呼ばれ土器群を主体としている。NR01より出土した土器を類別した土器類ごとに若干のまとめを行う。

①　有文土器

全体の土器量からすればごく少量である。自然河道の包含層という性格のためか晩期前葉から後葉

まで少量ずつ出土している。

A類　西三河地域の晩期初頭の寺津式及びこれに続く元刈谷式の主体となる土器群である。

B類　一部は元刈谷式であるが、大部分の単純な口縁のものは元刈谷式の系譜を引く「桜井式土器」である。桜井式については型式内容が明らかにはなっていないが、その中心となると考えられているものである。

C類　三河地域において、後期後葉から晩期前葉において有文土器の主体となる沈線文、凹線文を口縁部に有するものである。沈線文が大部分であり、凹線文的なものは少ない。

D類　これも沈線文を有するものであるが、詳細は不明である。

E類　三河地域において、後期後葉から晩期前葉の土器群に含まれる櫛描文である。検出されたのは図示したもののみである。

F類　57・62は稲荷山式土器に特徴的な文様と考えられる。 245・304 などに共通して用いられる。

G類　東日本的な土器である。比較的大形の破片が多く、稲荷山式土器の時期に属する可能性が大きい。66～69は、亀ケ岡式土器の文様系統である。68・69は羊歯状文的な文様である。70～74は、北陸地域に関連する文様構成と考えられる。77～83は、東海地方から中部高地に分布する文様構成の土器である。

H類　中部高地を中心に分布する晩期後葉の氷式の系統の土器である。三河地域では、晩期末の樫王式土器の時期に相当する。 109のみは時期がさかのぼる。

I類　凸帯を有する土器を一括したが、数時期にわたる。 112・113 は、三河地方においていわゆる凸帯文土器が発生する時期のもので、西之山式土器などと呼ばれる時期のものである。 114～ 139 は晩期後葉の時期に属する。 140・143 は、晩期末のいわゆる条痕文土器である。

②　無文土器

調整からすれば無文精製土器と「半精製土器」に一部粗製的な土器を含む。量的には全体の1割以下である。時期的な決め手はないが、大部分は稲荷山式土器を構成するものと考えられる。

a．深鉢　A類とした中で肩部のみで口縁部を欠損しているものの一部は、凸帯を有する可能性がある。稲荷山式の時期に現れる器形と考えられる。B類・C類としたものは、甕的な器形のものである。口縁部のみでも様々な形態があるが、全体の器形の判明するものがないために詳細は不明である。D類としたものは、器形的には壺に類似しているが、調整の面からすれば、大部分は粗製深鉢に近いものである。

b．壺　ごく少量である。 246 など精製土器が大部分である。器形としては壺であるが、調整からすると精製的ではなく、深鉢D類に近いものもある。

c．鉢　A類は粗製土器である。B類・C類は半精製的な調整である。D類は半精製的であるが、精製的な土器に近い。E類は、粗製的である。

d．浅鉢　鉢的な形態の精製土器である。D類以外は形態的には鉢と共通のもので、A類は鉢B類に、B類は鉢D類に、C類は鉢C類に対応する。D類は西日本的な浅鉢である。

e．台付鉢　稲荷山式土器を中心とした時期に特徴的な器形である。 324・325 は、鉢B類の形態の鉢部であるが、立上がりの角度から鉢部の形態が深鉢となると考えられるものも少なくない。

③　粗製土器

NR01からの出土量の９割以上を占める。口縁部がやや内弯する形態を基本とする単純な器形の深鉢であり、内弯が強い形態、直口あるいは外反する形態は少数である。口唇部を含め装飾的なものが全くないものを無飾土器、口唇部に刺突を付したり波状になっているものを有飾土器とした。後者は全体の３割程度である。器面調整については、ほとんど行われないために粘土の輪積痕が明瞭に認められるものから削痕調整、擦痕調整を行いさらに調整痕を撫で消すものなど個体によって調整の程度の差がある。形態によって時期を確定できないが、大部分は稲荷山式土器の時期に属するものと考えられる。　（酒井俊彦）

(2)　土製品

石冠状土製品（土冠）（図版42－510）

高さ8.5㎝を測る石冠を模したと思われる石冠状土製品（土冠）で、底をくぼませた半球状台部に斧状頭部がやや傾斜してつく。全体にナデによる調整が施されており、側面は平坦に仕上げられた面を有する。完形品である。NR01出土。

土偶（図版42－511～520、図版43－521～525）

出土した土偶はすべて破片で、総数は部位の不明なものを含め19点を数える。時期は伴出する土器からみて縄文時代晩期としてよい。また、半截竹管で描いた線刻を施したものは、施文具の特徴から考えて晩期前半に限定できよう。

511は頭部で、全体にナデによる調整を施したほぼ円形の顔面にＴ字形の粘土紐を張りつけて眉と鼻を形成している。目と鼻はヘラ状の施文具で表現されており、耳は同じ施文具で裏まで貫通させている。口は棒状の施文具で穴を開けて表現されている。首は顔の真下に付けられず後ろに付いていて、顔を突出させているか、あるいは顔を上に向けているか不明であるが、いずれにせよこの時期の土偶としては類例が乏しい。(注１) SD01の最下層から出土。

512～514は腕である。512は沈線をめぐらして、513は指の押圧でくぼみを作って手を表現している。512と513は断面円形であるのに対し、514は板状である。

515～520は脚である。515は焼成前に棒状具による穿孔が行われている。516は粘土を折り曲げて足を作り出している。517は断面方形を呈し、膝の屈曲する箇所に半截竹管で半円形の浅い線刻を描いている。518・519は下から力を加えて粘土をはみ出させて足を作り出している。520は中央が太くそのまま細く収束して、足の表現がない。

521は胸部で、粘土を張りつけて乳房を表現している。

522は腰部で、断面三角形の隆帯をめぐらして腰を強調している。また、腹部正面中央にも縦に低い隆帯を付けている。表面が摩滅しているため明確ではないが、ヘラあるいは半截竹管で、腹部と背中に浅い線刻が施されている。胴部には縦に棒状具による貫通孔があり性器を表現している。

523と524は同一個体であるが、部位は不明である。ただし、土偶でなく土器の脚台の可能性もある。NR01から出土。

525は頭部と脚部を欠損している板状土偶である。腰に手を当てているポーズを表現している。517

の土偶と同じく、半截竹管で表裏とも腕に浅い線刻を描いている。これは、手足を曲げたり伸ばしたりすることを表現していると考えられないこともない。乳房はまったく表現されていない。腰部は、522と同じように粘土の隆帯で腰を強調している。包含層中から出土。

図示しなかったが、部位不明の丹彩された土偶破片が1点出土している。

（注1）平井稲荷山遺跡に晩期中葉とされる一例がある。　小坂井町教育委員会『平井稲荷山』1992

(3) 石　器

石鏃（図版44－526～549・図版45－550～566）

破片も含めて51点の石鏃が出土している。伴出土器からすべて晩期の所産と考えてよいだろう。

形態の明らかな石鏃を次のように分類した。ただし、「平基無茎鏃」としたものの中に弱い抉りを有するものがあり、「凹基無茎鏃」とは明瞭に区別できない。また、側縁に段を有するもの（ⅠAb・ⅠBb・Ⅱ b）は「五角形鏃」と呼ばれ、晩期以降に特有の形態である。

- 無茎鏃
  - 基部が直線的なもの「平基無茎鏃」
    - 側縁が直線的なもの＜ⅠAa＞
    - 側縁に段を有するもの＜ⅠAb＞
  - 基部に抉りがあるもの「凹基無茎鏃」
    - 側縁が直線的なもの＜ⅠBa＞
    - 側縁に段を有するもの＜ⅠBb＞
    - 側縁がくぼんでいるもの＜ⅠBc＞
- 有茎鏃
  - 基部が突出するもの「凸基無茎鏃」
    - 側縁が直線的なもの＜Ⅱa＞
    - 側縁に段を有するもの＜Ⅱb＞
- 尖・円基鏃
  - 基部が尖るもの＜ⅢA＞
  - 基部が丸いもの＜ⅢB＞

＜ⅠAa＞	図版44－527・528・529・531・532・536・539・540
＜ⅠAb＞	図版44－526・530・533・534・535・537・538
＜ⅠBa＞	図版44－541・542・543・545・546・547　図版45－550・551・552
＜ⅠBb＞	図版44－544・548・549
＜ⅠBc＞	図版45－553・554
＜Ⅱ a＞	図版45－555・557・558・559・560・561
＜Ⅱ b＞	図版45－556
＜Ⅲ A＞	図版45－564・565
＜Ⅲ B＞	図版45－562・563・566

石錐（図版46－567～572）

出土した6点の石錐を形態分類すると、菱形のつまみ状の頭部に長い錐部が付属するもの（567～571）と剝片の端部を加工して錐部を作り出したもの（572）に大別できる。前者は錐部が短いもの（567・568・569・571）と長いもの（570）に分けられる。

石匙（図版46－573・574）

573は楕円形の薄い横型剝片の頭部につまみ状の小突起を両面から調整して作り出し、先端に片方からの細かな調整を施して刃部を作り出している。NR01下層出土。

574は不定形の剝片を使って大きめのつまみを両面からの調整によって作り出し、刃部は先端、側面ともに片面だけの調整によって作られている。特に側面の刃部には連続して規則正しい長めの調整剝離が行われている。NR01上層出土。

掻器・削器（図版46－575・576）

575は小型の円形掻器（ラウンド・スクレーパー）で、両面からの剝離で刃部を作り出している。上方の突起は錐として使用されたと思われる。

576は削器で、表面は大きく、裏面は短い剝離を行って直線的な刃部を作っている。NR01下層出土。

打製石斧（図版47－577～580）

打製石斧は破損品も含めわずか7点出土しているのみである。

577は両面からの剝離によって形を作っている。厚い身部をもち刃部も鈍い。

578・580は残欠である。

579は片面から剝離を行い形を作っている。

磨製石斧（図版47－581～584、図版48－585～593、図版49－594～601、図版50－602～608）

磨製石斧は全部で30個体出土した。

形態から次のように分類できる。

◇断面扁平で、短冊型の平面形を呈するもの
（図版47－581・582、図版48－588、図版49－594）

◇断面扁平で、平面形がバチ型を呈するもの（図版47－583、図版48－585・587）

◇断面形が円形で、棒状の平面形を呈し、先端部にのみ状の刃部をもつもの
（図版47－584、図版48－586）

◇断面形で楕円形ないし円形で、乳棒状の平面形を呈するもの
（図版48－589～593、図版49－595～601、図版50－602～608）

前3種は加工具、後の1種は伐採具の機能を推定できる。機能を確定するには使用痕などの分析が必要とされるが、今回は行わなかった。

581は川原石の自然面を一部に残し二次剝離によって短冊状に形を整え、刃部付近のみ研磨してある。

582も581と同じ形態を示すが、自然面は残していない。581と比較してやや小型である。細かな刃こぼれが刃部に認められる。

583はバチ型の平面形を呈し、全体に敲打した後研磨が行われ、特に刃部はていねいに研磨されて

いる。刃部には微細な刃こぼれが見られる。

584 は 2 つに折れたもので、刃部は包含層中から、基部はNR01埋土中から、それぞれ別の地点で出土した。中央部から刃部にかけて丁寧に研磨されており、残りの部分には敲打痕が残る。基部には装着のためについたと考えられる摩耗痕が見られる。

585 は基部のみであるため形状は不明であるが、バチ型の石斧と思われる。

586 は全体によく研磨されている。基部は破損して残っていない。

587 は刃部を破損している。

588 は扁平の断面をもち、身部までよく研磨されている。大きく刃こぼれしている。

589 ～ 591・593 はいずれも破損して刃部を欠き、基部だけ残存しているものである。断面形は楕円で、基部に近い身部は敲打痕をよく残している。

592 は刃部を破損した後、敲石に転用されたものである。また、基部に近い側縁部には、装着のためか執拗に敲打してくぼみを作っている。

594 は刃部のみ研磨している。扁平な断面を呈する。

595 ・ 597 ～ 599 は刃部のみの残欠品である。いずれも刃部付近はしっかりと研磨されているが、身部は敲打痕を残している。 597・599 には、刃部に使用時についたと思われる線条痕が認められる。

596 は刃部を欠損している。敲打痕がよく残っている。

600 ・ 604 はほかの石斧と異なり、正面と背面に敲打痕を残し側面をしっかり研磨している。

601 は大きく刃がつぶれている。後に基部を使って敲石に転用している。

602 は刃部・基部とも欠損している。身部に熱を受けた痕跡が認められる。

603 は刃部の大半と基部を欠損している。身部はていねいに研磨されている。

605 ・ 607 は刃部と基部を欠損している。 605 は身部に敲打痕が明瞭に残っている。

606 ・ 608 は縦に半分欠損している。 606 の基部は装着のためか敲打せず、粗割りしたままになっている。

凹石・敲石（図版51－609～613、図版52－616）

609 は凹石で、半割されているが楕円形の礫の表裏に数ヵ所ずつのくぼみを有する。先端部に剝離痕があるが、敲打された痕跡はない。

610 と 611 も凹石で、先端部に敲打痕が認められ、敲石としても使用された。

612 と 613・616はともに敲石である。 612 は卵形の円礫を使って、両端を敲打面としている。613 は扁平な礫を用い、敲打面は先端部だけでなく側面や正面の一部にまで及んでいる。磨石としての機能も想定される。 616は棒状の石の両端にわずかに敲打痕が認められる。

砥石（図版52－617～620）

617 は玉砥石が想定されるが、石材がやや軟質であるので疑問が残る。

618 と 619は板状の石を使用した砥石で、表面のみが使われ裏面は自然面のままである。 619 は、熱を受けたために細かい剝離痕が認められる。

620 は、板状の礫のコーナー寄りのところに径約 1 ㎝のくぼみがある。回転運動を受けた結果くぼんだものである。

浮子　（図版52－621）

621 は軽石を使った浮子で、中央やや上方に紐を巻きつける幅 2 ㎜の溝が巡っている。NR01下層から出土。

石錘　（図版53－622・623）

622 ・ 623 とも礫石錘で、 622 は断面円形、 623 はやや扁平な楕円形の両端を打ち欠いたものである。 622・623 ともNR01から出土。

石冠（図版54－637）

637 は石冠で、かつお節型の台部に斧状の頭部がつく形状を呈し、全体は敲打後研磨して成形されている。ただし、肩部は敲打痕を残し研磨されていない。また、台部の両先端は打撃を受け剝離痕が著しい。台部の底がややくぼんでいる点は、石冠の約束事を踏襲している。NR01から出土。

石棒・石剣・石刀（図版53－632～636・図版54－639～648・図版55－649～657・第33図 a ～ e ）

破片を含めて32点の石棒類が出土している。破断されてはいるが完全品の 2 点を除いて、ほとんどのものが破損品である。また、熱を受けているものが多いということも合わせ、石棒祭祀のあり方をうかがわせる。

632 ・ 634 ・ 636 は先端部に段を有する有頭の石棒である。 632 は頂部も含め丁寧に研磨されている。半面が被熱。 634 は大きく 4 つに破断されているが完形品である。石突部にも段を有する大型で両頭の石棒である。被熱。包含層中から出土。 636 も 2 つに破断されて出土した大型で両頭の石棒である。敲打後研磨を施し成形している。半面は著しく熱を受け赤化している。

635 ・ 641 ・ 645 ～ 648 ・ 649 ・ 654 ～ 657 は石棒の破損品である。 635 は大型の石棒であるが、被熱のために剝落が著しい。 645 は頭部であろう。石材がほかのものと異なることは注目される。647 ・ 648 も頭部であるが、胴部との境をややくぼませるのみで明瞭な区分を見せない。 647 は被655 ・ 656 は断面が扁平の石棒である。 657 は被熱。

633 ・ 639 は両側面に鈍い刃部を有する石剣である。 639は線刻を施し、柄（つか）を表現している。

642 ～ 644 ・ 649 ～ 653 は側面の一方に刃部を有する石刀である。 651 は他と比較して研磨が粗く刃部も鈍い。未製品であろう。 642 ・ 644 ・ 653 は被熱。

a ～ c は石棒の頭部で、 a は表採品であるが、平行に巡らせた線刻に三角刻みを施して、楕円の中に×印の線刻が見られる。被熱。 b は、扁平な断面形を呈す。熱を受けて表面の剝落が著しい。 c は、頂部が平らな面を有する。同じく被熱。

d は、石棒かあるいは石刀で、扁平な断面形を呈する。

e は、大型の石棒で、正円に近い断面を持ち、敲打の後研磨して成形している。頭部と基部共に欠損している。

不明石製品（図版52－614・615・624～631・図版54－638）

614 ・ 615 は平面三角形を呈し、 1 ヵ所ないし 2 ヵ所の頂点に両面から不整形の剝離を施した石器である。 614は一部分に敲打痕を残すも、全面を研磨して成形している。それに対して、 615 は滑らかな自然面を残す礫をそのまま利用している。

624 ～ 631 は透明感をもった白色円礫で、磨石として使用された痕跡もなく、用途不明な石製品？である。断面形で円に近いもの（ 625 ・ 628 ）もあるが、扁平なもの（ 626 ・ 629 ・ 630 ）もある。ただし、すべてほぼ同じ大きさである。

638 は板状の軟質の石材を使用し、上部に溝を 1 条巡らせている以外は加工痕はない。石偶と考えられなくもないが、確証はない。NR01出土。

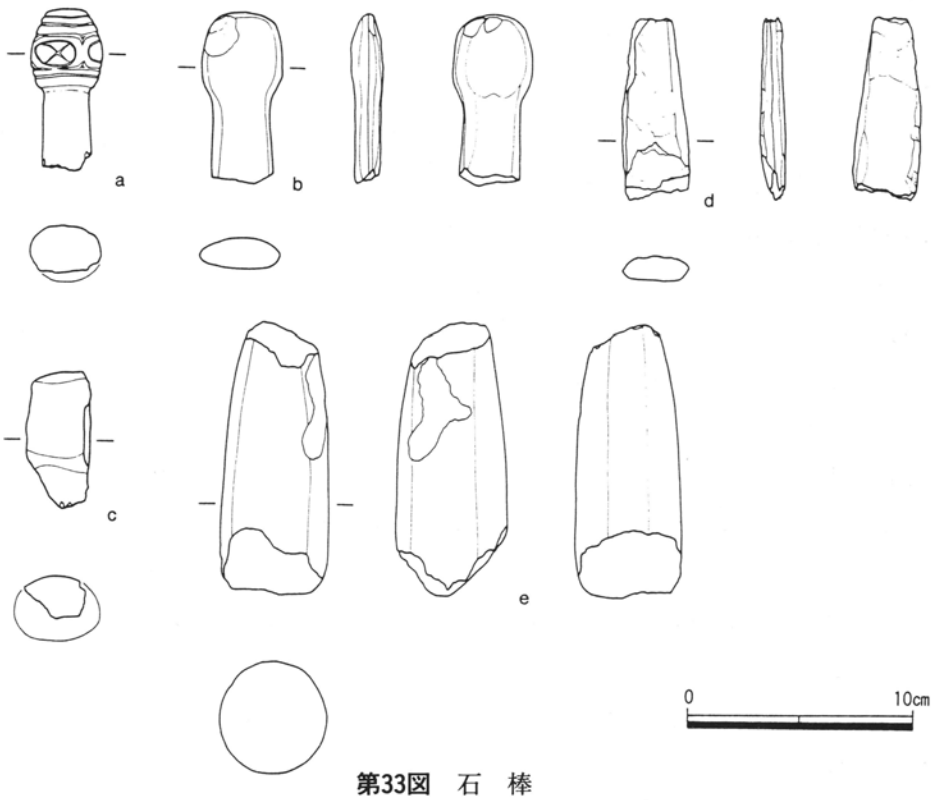
勾玉・臼玉・管玉 （第34図 f ～ h ）

f は碧玉製の勾玉で、紐通しの穴は一方から大きく穿孔した後で他方から小さく穿孔されている。SK16から出土。縄文晩期土器が伴出している。

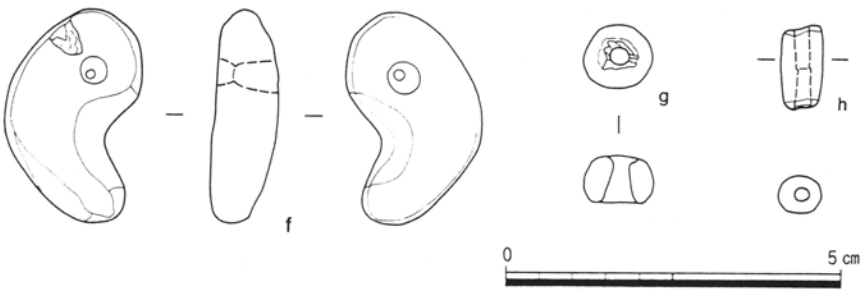
g も碧玉製の臼玉で、一方から穿孔している。中世の土坑SK70から出土。

h も碧玉製の管玉で、臼玉より緑が濃い。臼玉と同じSK70から出土。

（都築暢也）



第33図 石 棒



第34図 勾玉・臼玉・管玉

第２節　Ⅱ期の遺物

Ⅱ期の遺物については、胎土や埋蔵環境の影響もあって磨滅が著しく、調整が不明なものや、赤彩が剝落してしまっているものが多くみられる。そのため、赤彩については、確実に確認できるもののみ図版にスクリーントーンで図示し、可能性のあるものについては文中で触れるだけとした。

(1)　弥生時代中期

SB05

壺（図版56－658～660、図版57－674～678）

凹線紋系の広口壺（図版57－674）は、口縁部が強く外弯して端部で垂直に垂下する。口縁端部外面には、棒状の原体で４条の凹線が施され、上端にハケ原体よる刺突が１方向のみに施されている。また、同じ位置の口縁内面には、やや楕円形をなす円形紋が、これも１方向のみに施されている。細頸壺（図版56－658・659）も凹線紋系で、658は口縁部が袋状をなし体部がソロバン玉状になるもので、口縁部外面にヘラによる４条の沈線とクシによる刺突が巡る。659は口縁部のみで、外面にヨコナデによる凹線と荒いハケが施され、胎土も砂粒を多く含む。

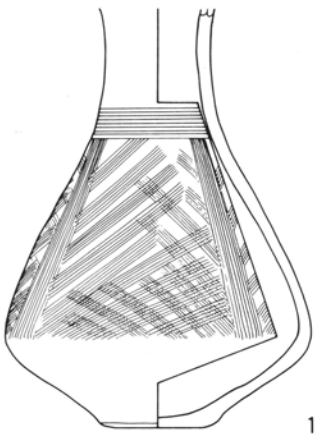
図版57－675～678は三河地方在来系のもので、肩と体部下半の張る器形と不揃いなハケによる調整、黒味がかる色調が特徴となる。676・677の体部下半のミガキは、原体の幅が広くナデ調整に近いものである。677の体部上半の縦位のハケは、３方向に施されている。

甕（図版57－661～669）

口縁部外面にヘラによる刺突が施されることや、体部外面のナデ調整、脚が柱状で高くやや内弯して開くなど在来系の甕の特徴を備えている。

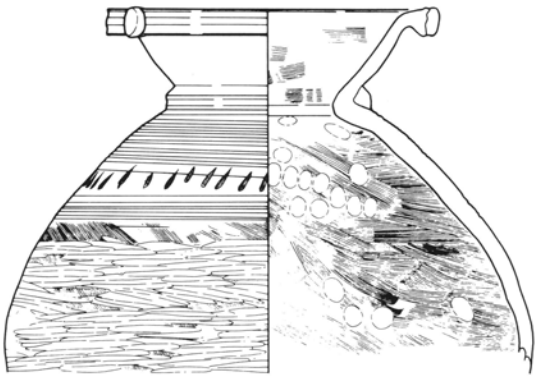
高杯（図版56－670～673）

椀状の杯部をもつもの（670・671）と鍔の付くもの（673）がある。



1

SK558・560



SK417

2

第35図　SK558・560、SK417出土弥生土器

SK558・560

第35図1は細頸壺で、体部下半に最大径がくる。施紋は細いクシ状のものを使い、体部と頸部の境に9条の横線と、それから垂下するように同じく9条の縦線が3方向につけられ、縦線の間には6条の交差する斜線が、右（右下→左上）→左（左下→右上）の順に施されている。形態や施紋からみて、おそらく遠江東部系であろう。

これらの遺物群は、弥生時代中期末の長床式に比定され、SK558・560出土の細頸壺も同時期の遠江東部の白岩式にあたるものであろう。

(2) 弥生時代後期

SD11

壺（図版58－683～688）

広口壺　口縁端部が単純に収束するものと、拡張されて面をもつものがある。

688は頸部が長細く、体部が横に広がるもので、体部最大径の高さが中位にありソロバン玉状を呈する。また、口縁部も八字状に外弯して延びており、前段階の特徴を備えている。

683は、粘土が付加されて口縁端部が垂下するように拡張されたものであるのに対し、684・685は強いヨコナデにより口縁端部が拡張されるもので、685は端面が凹面をなす。

686は体部最大径の高さが中位よりやや下にくるもので、体部上半には2帯の横線とその間に振幅の少ない不安定な波状紋が描かれ、さらに下位にイタ状原体の角による刺突がみられる。

短頸壺　687は、口縁部にヨコナデによる段がみられる。磨滅が著しく詳細は不明であるが、体部外面の調整はヘラミガキであろう。

甕（図版58－682）

ハ字状に開く口縁をもつ682は、磨滅が著しく調整は不明である。

高杯（図版58－689～701）

689の杯部は、口縁部が直線的に立ち上がって浅い皿状をなし、脚部が直線的にハ字状に開き、端部がわずかに外反するもので、古い様相を示している。杯部口縁外面にはヘラによる沈線が8条施され、杯部と脚部の接合には円盤充塡がなされている。透かし孔はみられない。脚部である690～697は大型で皿状の杯部が、698～701は小形で椀状の杯部がのるものであろう。また紋様からみると、横線を中心に構成されるものと、無紋でヘラミガキだけのもの（690・691・701）がある。690には、杯部と脚部の境に突帯状の段がみられる。

蓋（図版58－679～681）

681のつまみ部の口縁は、強いヨコナデにより肥厚され、段をなしている。680は内面にススの付着がみられた。

SD10

壺（図版59－702～744）

広口壺　口縁端部が単純に収束する単純口縁のものと、拡張されて面をもつものがある。また紋様からみると、体部が無紋のものと、横線と波状紋で構成された紋様帯が描かれるものとに分けること

ができ、単純口縁のものと無紋の体部、拡張された口縁と紋様帯をもつ体部が組み合う比率が高いことがわかる。

単純口縁をもつもののうち、図版59－716は直線的に逆ハ字状に延びる口縁端部内面の凹面となった部分に羽状のクシ刺突が施されている。また、図版60－721の口縁部端部内面にも、イタ状の原体の角で圧されたと思われる刺突がみられる。

口縁部が拡張されるもののうち、図版56－708は端部が斜め下方に垂下するのではなく、粘土が端部外面に薄く幅広く付加されている。また、図版59－717・718は粘土が付加されるというより、ヨコナデによって引き伸ばされた状態のもので、拡張部分は僅かである。特に718の場合は、口縁端部が面をなさずに丸くなっており、拡張して幅の広い端面を作るということを重要な要素とするならば、体部が無紋であるということもあり、単純口縁の類に入れるべきものかもしれない。

拡張された口縁部端面の多くは、下方が外側に延びてハ字状に内傾するものが多いが、それ以外に、図版61－728のように、外面が僅かに凹面をなして垂直に垂下するものや、図版62－730のように上下に拡張されるものがある（ただし、上に延びる部分はヨコナデによって引き伸ばされたものである）。また、図版59－709・712・714、図版61－728、図版62－729の口縁端部内面にみられる平坦面も、特徴としてあげられよう。この平坦面の位置としては、口縁部の延びに沿って斜めのものと、頂部にあり水平になるものとがある。

口縁端部外面の紋様は、横の平行線か無紋が多いが、クシによる刺突（図版56－716）や貝による刺突（図版59－715）もみられる。内面には、クシやイタ（ハケ）・貝（図版59－711）による羽状の刺突が多く、単方向の斜位のもの（図版59－713、図版60－724）もみられる。また、刺突紋様の下に扇形紋がなされるもの（図版59－707・709）もある。図版59－714には円錐形の浮紋が4つ4ヶ所に、図版61－726には円形の浮紋が残存部では7つ、均等に割り付けると12個付く。

頸部には1～2条の突帯が巡るものがあり、2条巡る図版59－707には、突帯の間に竹管による円形紋が施されている。

体部外面の紋様は、頸部と接する位置より横線→波状紋・刺突→横線の順で幾帯か水平に施紋されて、最下位には横線か刺突がくるのが通有であるが、図版61－728では最下位に先の不揃いなハケによる、波長の長い波形の一定しない波状紋がなされている。

図版60－723の体部上半には、横約12cm、縦約10cmを測る焼成後の穿孔がみられる。

図版60－724の体部上半部には明瞭にハケの痕跡がみとめられる。

図版61－726は、外面に赤彩の可能性がある。

図版61－727は体部の紋様帯の部分で、波状紋と横線（やや斜めになるため、直線紋でない可能性もあるが）の間に高さの高い円錐形の浮紋が付けられている。

細頸壺　口縁部の形態により、垂直に延びるもの（図版63－733・734）、逆八字状に外反（外弯）するもの（図版63－738～740）、ハ字状に直線的に延びるもの（図版63－735・741）がある。また、脚や紋様・赤彩の有無によっても2つに分類される。

図版63－731は、口縁部がわずかに外弯しながら内傾するもので、外面には水平の横線と斜位のクシによる刺突がみられる。

図版63－740は体部中位に、744は体部最上位に、焼成後の穿孔がみられる。

甕（図版64～66）

口縁部は屈曲が強くて短く、体部最大径が口縁部と同様で、体部外面の最終調整にナデが施されているもの（図版64－749・750・753・755）と、口縁部がゆるやかにく字状に屈曲し、体部最大径が口縁部径より大きくなり、体部外面の最終調整にハケが施されるもの（図版64－759、図版65－762～764）と、受口状口縁をもつもの（図版64－774）の3類が主要な分類となる。今回は、その他ものは幾分かの差異をもったヴァリエーションとして考えるが、今後さらに細分が可能となろう。

図版64－656はゆるやかに屈曲する口縁部をもつもので、体部外面に条痕状の粗いハケがなされている。

図版64－758、図版65－760・761は口縁部が短く逆ハ字状に開くもので、体部高が短く、やや小型のものとなろう。

図版65－766・768はゆるやかに屈曲する口縁部をもつ大型品で、768の体部外面は粗いハケで調整されている。

図版66－769～773は小型品の範疇に入るもので、通常の大きさのものと同様の形態をもつ。

受口状口縁をもつ774は、磨滅が著しく調整については不明である。

高杯（図版67～68－817）

平たい皿状の受部と外弯する口縁部をもつもの（図版67－789～799）と半円状の杯部をもつもの（図版68－809～811）、椀状の杯部をもち口縁部が外反するもの（図版68－812・813）、深い椀状の杯部をもつもの（図版68－814・815）がある。

脚は柱状の脚部と裾部が外反するものが主流であり、ハ字状に直線的に開く脚（図版67－805～808）もある。

図版67－798の口縁部外面にはヘラによる不定形な波状紋が描かれており、暗紋状になっている。

図版67－805・806には径の小さな透し孔が、5ヶ所開けられている。

図版68－813の杯部端の一部が、ユビによって外反され、片口状になっている。

図版67－797・807は外面に、図版68－809は内外面に赤彩の可能性がある。

鉢（図版68－818～822）

短い口縁部をもつ818～820と壺の体部下半を成形途中でそのまま鉢にした821、小型品の822がある。

蓋（図版63－745・746）

つまみ部の立ち上がりが短く小さいもの2点が出土している。

SD09

壺（図版69－823～832）

広口壺　口縁端部が拡張されるもののうち、823は端部下方に薄く幅広く付加されるもので、824はほぼ真下に垂下し、端部が外方向に屈曲する。825は口縁端部だけに注目すると単純に収束するものになるが、頸部がまっすぐ立ち上がることや、口縁部が直線的に外反して延びることなど差異も目だつ。口縁端部外面には斜位のヘラかイタによる刺突と、残存部では1ヶ所しか確認できないが、棒

状浮紋が付けられる。頸部には１条の突帯が巡り、斜位のヘラかイタによる刺突が施される。体部上半には幅の広い横線が２帯と、その間に波状紋が施されている。この波状紋帯の上部には細い竹管による円形紋が巡り、紋様の上に、残存部では３つ、復元すると４つの円形浮紋が付いている。また、下位の横線の直下には、他と同じ原体での縦位の刺突がみられる。さらに、体部中位には、焼成後に穿孔が加えられている。

短頸壺　826の体部最上位で頸部との境に近いあたりに、横に２つ並んだかたちで、２個の焼成前穿孔がみられる。

細頸壺　830は口縁部が直線的に立ち上がるもので、やや長く、わずかに外反する。また、外面全体にススの付着がみとめられた。

甕（図版70－844～856）

口縁部の屈曲が強くて短いもの（845～847）と、く字状にゆるやかに屈曲し長いもの（849～852）がある。また、後者の小型品である854もある。

鉢（図版70－857・858）

有段口縁をもつもの（857）と椀状をなすもの（858）があり、両者とも外面はヘラミガキ調整されている。

ミニアチュア（図版70－859・860）

甕のミニアチュアである859とコップ状をなす860がある。

SD08

壺（図版71）

広口壺　単純に収束する口縁部をもつ861は赤彩されている。口縁端部が拡張されている864は、直線的にハ字状に開き垂直に垂下するもので、上端部には平坦面をもつ。865は口縁部端面がわずかに上方にも拡張されているもので、外面には斜位の貝による刺突がみられる。また、866の外面には２条の平行した沈線とその間に２段の円形紋がなされている。868は体部中央に焼成後の穿孔が加えられている。

873は本来、単純口縁の類にはいるものであろうが、体部が縦に長く、最大径が中位よりやや下方にある特異な形態をしている。

862は、口縁部内面に赤彩の可能性がある。

細頸壺　外傾し直線的に延びる口縁部をもつ867・870がある。

短頸壺　872の口縁部は、内傾して稜をつくる。

甕（図版72・73）

図版73－885を除き、ほとんどが屈曲のゆるやかな口縁部をもつ。ただ、器壁が厚く短い口縁部をもつ図版72－874～876・881、図版73－887と、口縁部がよりゆるやかに弯曲する図版72－877・881・882、図版73－889、器壁が薄く長めの口縁部をもつ図版72－878・879・883、図版73－888に細分される。

大きさには、大型品と小型品の２種がある。

図版73－888の体部と脚部の境には粘土の盛り上がりでできた段がみられる。

高杯（図版74・図版75－894～923）

外弯する口縁部をもつもの（図版74－ 894 ～ 900・ 908 ）と深い椀状の口縁部をもつもの（図版75－ 919・920 ）、椀状の杯部に外反する口縁部をもつもの（図版75－ 921 ）、半円状の杯部をもつもの（図版75－ 922 ）がある。

図版74－ 911 は横線帯が無く、ヘラミガキのみがなされている。

図版75－ 917 は裾部が延び端部でやや跳ね上がるものであり、横線の間には不定の細い刺突がなされている。

図版74－ 900 は、外面に赤彩の可能性がある。

鉢（図版75－924）

有段口縁をもつもので、段部外面に 5 条のクシによる沈線が巡る。

器台（図版75－925）

受部と裾部が外弯し筒状の体部をなすもので、各々の部位に明瞭な境はなく、全体になだらかな弧状の形態を呈する。透し孔は縦に 3 個、 3 方向に開けられている。受部・裾部の端面はヨコナデによりわずかに凹面となっている。外面は赤彩されている可能性がある。

蓋（図版75－926・927）

つまみ部が小さい 926 と、大きい 927 がある。 927 は裾部端面がはっきりとした面をもち、内面にススが付着している。

ミニアチュア（図版75－928・929）

ユビ押圧のみでつくられる。壺の模倣か。

SD02

壺（図版76－931～934・936～941）

広口壺　　単純に収束する口縁のもののみである。

936 は、口縁端部が丸くなっていて、外・内面とも赤彩の可能性がある。 937 は直線的に延びる口縁部をもつもので、体部上端に紋様帯がある。 940 は体部上半に、 2 条 1 単位の原体（竹管か）による横位のＳ字紋が 4 単位連続したものである。この紋様は、左から右に、やや右上がりに斜めに描かれている。

細頸壺　　外弯して立ち上がる、 934がある。 933 も同様のものと考えられる。

短頸壺　　931 は、やや内弯して垂直に立ち上がる口縁部外面に、横線と刺突の紋様帯がある。932 は内弯して立ち上がり、わずかに段をもつ口縁部をもつ。外面は赤彩されている。

甕（図版77）

単純に収束する口縁をもつもの（ 944 ～ 953 ）と受口状口縁のもの（ 942 ・ 943 ）がある。

単純口縁のものには、屈曲の強いものはみられなくなり、く字状に屈曲するもののみとなる。

受口状口縁のもののうち、 942 は口縁部の屈曲がゆるやかで、端部は丸くなる。体部上半にはクシによる横線と刺突、口縁部外面にクシの刺突がなされ、底部は平底である。 943 は口縁部の屈曲が強く、端面は斜位の面をなす。口縁部外面にはハケ原体によるものと思われる刺突があり、底部には脚が付く。両者とも体部が細長く、最大径が上半にある。

高杯（図版78－959～971）

外弯する口縁部をもつもの（963・964）、内弯する口縁部をもつもの（966）、深い椀状の杯部をもつもの（959・971）に分類できる。これらの中では、新たに出現する内弯化傾向をなすもの（964～969）が注目される。

961は上下に透し孔があるが、下位のものが3ヶ所で、上位のものは1ヶ所のみである。

966と967は同一個体である可能性が高く、上下に3ヶ所ずつに透し孔がある。

965は残存部が少なく、透し孔の有無は不明である。

鉢（図版76－935、図版78－972～974）

やや偏平な体部と、逆ハ字状に直線的に開く口縁部をもち、脚がつく図版76－935、図版18－972、内弯しコップ状の形態をなす図版78－973、円形の体部と短い直線的な口縁部をもつ図版78－974がある。

蓋（図版76－930）

つまみ部が大きく深いものである。

ミニアチュア（図版78－975・976）

壺の模倣である975と、甕の模倣の976がある。

SD04・05（図版79）

980～982がSD04出土で、その他はSD05出土である。

977の蓋は内面にススが付着する。

983の口縁部外面に描かれた波状紋は、ヘラによるものである。

987の口縁部内面は、端部が強いヨコナデにより凹面となっている。

包含層出土（図版80・81）

図版80－992の細頸壺は、体部中央に焼成後の穿孔がみられる。また、底部には脚が付くものと思われるが、破面は平滑になっており、破損後も使用されていた可能性がある。

図版80－998の甕は、く字状に屈曲する口縁部の端面が明瞭な面をなし、ヘラかイタによる斜位の刺突が施されている。

図版80－1012の高杯の脚は、細長い柱状を呈し、横線の間にクシによる斜位と格子の刺突が交互に施されている。透し孔は図示した1孔のみである。

図版81－1016の脚は、横線の間に斜位の細い竹管の束による刺突がみられる。

これらの遺物群の中で、最も古く位置づけられるものがSD11で、皿状の杯部をもつ高杯や長細い頸部の広口壺など古い様相を示している。次にSD10・09・08のものは、ほぼ同時期と考えてよさそうである。ただSD10は、甕の中にナデ調整され、強く外反する短い口縁部をもつ古いタイプのものを含み、前段階の遺物の混入と考えることもできるが、中期末の要素がより多く、新しい段階まで遺存した一群であると評価すると、この3遺物群の中では一番古く位置づけられることとなる。最も新しくなるのがSD02で、内弯傾向のある高杯や台付鉢が出現している。それぞれに土器型式名を比定すると、SD11→SD10・09・08が寄道式、SD02が欠山式（古）になる。

第３節　Ⅲ期の遺物

SB10（図版82－1020～1022）

底部に不整方向のヘラケズリを施す細頸壺（1020）、白色を呈する胎土をもつ高杯の脚（1021）、平らな底部をもつ甕（1022）がある。

SB07（図版82－1023～1025）

直線的にハ字状に開く杯部をもち、屈曲部に垂下する突帯を付加する高杯（1023）と、椀状の杯部と外反する裾部をもつ高杯（1024）があり、1024の高杯は杯口縁端部がヨコナデにより内側にわずかに折れている。また、荒いハケで調整される甕（1025）もある。

SB09（図版82－1026～1033）

椀状の杯部をもつ高杯（1028～1031）のうち、1029～1031は、杯部の粘土接合痕が明瞭に看取され、段になっている。杯口縁端部は内弯する傾向をもち、特に1028・1030は屈曲が強い。

1034・1035は縦に長い体部をもつ甕で、1035の口縁端部内面はヨコナデにより、わずかに凹面をなす。1033は丸い体部をもつもので、低いハ字状に開く脚をもつ。

1027は口縁端部の処理など、高杯と類似する特徴をもつ椀で、全体に丁寧にナデられている。

1026は土製の紡錘車で、速い回転のナデにより調整されている。

Ⅳ期の住居跡に混入して出土したSB07の高杯（1023）がやや古い要素をもっているが、Ⅲ期の遺物はおおむね６世紀前葉から中葉にあたるものと考えられる。

第４節　Ⅳ期の遺物

SB06（図版83－1047～1060）

1047～1049は灰釉陶器で、1047は皿、1048・1049は椀になる。1047・1048はハケによる灰釉が施され、1049は全面に薄く灰釉がかかっている。

1050～1060は土師質の甕で、口縁部が短く強く屈曲し、器壁が厚いもの（1050～1056）と口縁部が外弯し端部が折り返され、器壁が薄いもの（1057～1060）の２種があり、前者が「清郷型甕」系、後者が「伊勢型鍋」系に相当するであろう。両方とも最終調整にはナデ調整がなされており、体部は縦長になるものと思われる。

SB07（図版83－1040～1043）

1040は灰釉陶器の皿である。外・内面とも自然釉がかかっている。

1041・1042の土師質の甕は、SB06と同様に２種のものが出土している。ただ、1041の口縁端部の折り返しは、SB06のものに比べてわずかである。

1043も土師質のもので、甑の把手となる。

SB06出土の灰釉陶器をみると、Ｋ－90号窯式期のものと考えられる。土師質土器の場合は、西三河地方での明確な編年が確立されておらず、それのみでは時期比定が難しいが、北村和宏「東三河に

おける８～15世紀代の土器　―煮沸具（甕・土鍋）の変遷」『森岡遺跡・淡洲神社北遺跡』1991を参照すると、岡崎市真宮遺跡Ｒ13住居跡出土のものと類似しており、Ｋ－90号窯式期に比定されている。この灰釉陶器と土師質甕の年代を総合すると、10世紀代、その中でも前半部分にあたると考えられる。また、伊勢型鍋につながるような「折り返し口縁」の存在も注目される。さらに、SB07も同時期のものであろう。

第５節　Ｖ期の遺物

今回の発掘調査で出土した当該期の遺物は、土器・陶器・磁器に分類される。このうち陶器については、「山茶椀」と通称される無釉陶器が大半を占め、いわゆる古瀬戸と称される施釉陶器が少量出土している。土器は、皿・鍋が中心となり、磁器は極少量ではあるが、中国産の青磁がみられる。先述の様にいずれも少量であるため、本報告書独自の器種分類は困難であり、以下の記述に際しては、研究史上通有の呼称を用いることとする。

SD06

この溝から出土している遺物（図版84－1094～1102）は、土師器皿、土師器の半球型鍋、同じく土師器「くの字」状口縁を有する鍋、土師器の羽釜、さらに施釉陶器として灰釉の施された縁釉皿、鉄釉の掛けられた擂鉢がある。これらの遺物から、この溝の時期はＶ－１期（15世紀後半）とすることができる。

SD13～SD19

これらの溝から、灰釉系陶器の椀・皿を中心として、土師器皿、土師器鍋、常滑窯産甕等が出土している。灰釉系陶器に拠れば、これらの溝群は12世紀後半から13世紀代にかけての時期であるといえる。これに対し、土師器鍋による時期については、１点（図版85－1120）出土している伊勢型鍋が灰釉系陶器のそれとほぼ一致するものの、それ以外はいずれも「くの字」状口縁（図版85－1109・1110・1121）であり、このタイプの鍋についてはその出現時期が14世紀後半代とされている。このことから、ここではSD14及びSD13を13世紀代、SD19、18、17を13世紀代に掘削され14世紀後半に埋没したと考えたい。

SD15

出土遺物は、瀬戸・美濃窯産の染付皿、灰釉小椀、灰釉こね鉢、鉄釉擂鉢がある。遺物の時期は19世紀前半に比定される（図版85－1132～1137）。

SK189

出土遺物は、中国龍泉窯産の青磁椀、古瀬戸の鉄釉天目茶碗、灰釉系陶器（椀・皿）、土師器皿・鍋等が出土している。これらの遺物の時期はＶ－１期（13世紀後半～14世紀初頭）に位置づけられる（図版84－1078～1090）。

SK347

灰釉系陶器の皿、土師器羽釜等が出土している。これらの遺物の時期はＶ－１期（13世紀後半～14世紀前半）に比定される（図版84－1091～1093）。　（川井啓介）

第Ⅳ章　自然科学的分析

第１節　縄文土器の胎土分析

(1)　分析の目的

これまで本センターでは縄文土器の胎土分析について、豊川市麻生田大橋遺跡や北設楽郡東栄町上の平遺跡、西尾市清水遺跡などの試料において進めてきた。これらのうち特に麻生田大橋遺跡と清水遺跡関連試料の分析結果を総合すると、三河湾を取り囲む地域で、土器胎土の共通性が推定される。東光寺遺跡は、額田郡幸田町深溝に位置し、岡崎平野と豊橋平野とのおよそ中間的な位置にある。このような地理的位置にある本遺跡の土器胎土を調べることは、上記の三河湾を囲む土器胎土の地域性を再検討する上で意義のある試料になると考えられる。

本分析では、清水遺跡の土器と同型式と考えられている長野県上伊那郡宮田村中越遺跡出土の土器と名古屋市瑞穂区大曲輪貝塚出土の土器、および類似する型式の豊橋市石塚貝塚出土の土器も併せて試料とした。これらの分析により、型式と胎土との関係を明らかにし、土器の移動あるいは型式のみの移動というような当時の物流あるいは人的交流を考える上での基礎的資料作成を試みるため、胎土と器種、部位、文様・調整との関係についても検討を加えた。なお、本分析は㈱パリノ・サーヴェイに委託し、その分析報告書をもとに筆者が一部改変したものである。

(2)　試　料

分析に用いた試料は、東光寺遺跡出土の縄文時代晩期の稲荷山式土器40点と長野県中越遺跡出土の縄文時代前期前葉の清水ノ上Ⅰ式併行期および同Ⅱ式併行期とされている土器10点、名古屋市大曲輪貝塚出土の清水ノ上Ⅱ式併行期の土器10点、さらに豊橋市石塚貝塚出土の清水ノ上Ⅰ・Ⅱ式併行期とされる石塚式土器５点の合計65点である。各試料の試料番号、出土遺跡名、器種、部位、時期、型式、文様・調整痕などを第一表に示す。

(3)　分析方法

本分析は以下のような処理方法で行った。

土器片約10～15ｇを鉄乳鉢を用いて粉砕する。水を加え超音波洗浄装置により分散、＃250の分析篩により水洗後、粒径1/16㎜以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた1/4㎜～1/8㎜の粒子をテトラブロモエタン（比重約2.96）により重液分離して、重鉱物および軽鉱物を偏光顕微鏡下にて同定した。同定の際、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものを不透明鉱物とし、それ以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とした。鉱物の同定粒数は250個を目標とし、その粒数％を算出し、グラフに示した。同定粒数が100個未満の試料については粒数

％を求めずに、主な産出鉱物を呈示するにとどめた。

(4) 分析結果

東光寺遺跡試料

鉱物の同定粒数が 100個に満たない試料が試料番号８、９、19、28、35の５点あった。これらは、いずれも黒雲母を含む。本遺跡試料全体の特徴としては、黒雲母の量比の多いことがあげられる。「その他」を除く鉱物組成で黒雲母が最も多い試料は、40点のうちの半数以上の24点であった。この中では、試料番号10～17の少量の褐色黒雲母とジルコンを含む一群が特に目を引く。また、試料番号20は、褐色の黒雲母の多いことが特徴である。これらの試料以外の黒雲母の多い試料には、ほぼ全点に少～微量のザクロ石が含まれる。また、角閃石と黒雲母の量比が同程度の試料が試料番号７、18、33の３点、角閃石の最も多い試料が試料番号２、３、６、26、29、31、36の７点あった。角閃石の多い試料のうち、少量のジルコンとザクロ石を伴う「角閃石型」の組成は、試料番号３と38の２点しか認められない。また、試料番号32のように斜方輝石と角閃石の多い特異な組成を示す試料も１点認められた。

中越遺跡試料

試料番号42と43は、角閃石と黒雲母をほぼ同量程度含み、少量のザクロ石を伴う。試料番号44と45は角閃石が非常に多く、少量の黒雲母とザクロ石を伴う。試料番号46は同定鉱物粒数が 100個に満たない。試料番号47は「その他」が非常に多く、カンラン石、斜方輝石、角閃石、黒雲母、ジルコン、ザクロ石、不透明鉱物を少量ずつ含むという特異な組成を示す。試料番号48は、角閃石とザクロ石を主体とし、少量の斜方輝石を伴う。試料番号49～51は、角閃石を主体とし、少量の両輝石を含むことを特徴とする。

大曲輪貝塚試料

試料番号52と57は、角閃石を主体とし、少量のジルコンとザクロ石を伴う「角閃石型」の組成を示す。試料番号56は、ジルコンとザクロ石が微量であるが、「角閃石型」にほぼ類する組成といえる。また、同定粒数が 100個に満たない試料番号53、55、60の３点も角閃石を含むことで「角閃石型」に類する可能性を持つ。試料番号54と59は「その他」が非常に多く少量のジルコンを含むという特徴を持つ。同定粒数が 100個に満たない試料番号58もジルコンが特徴的に認められることから、これら２試料に類する可能性がある。試料番号61は、「その他」の量比が多いが、それを除けば斜方輝石の多い「輝石型」の組成を示す。

石塚貝塚試料

５点の試料ともに角閃石を主体とし、少量のジルコンとザクロ石を伴う「角閃石型」の組成を示す。

(5) 考　察

胎土と土器の器種・部位・型式・文様等との関係について

本分析の東光寺遺跡の試料は全て稲荷山式に分類されるので、同一型式内における胎土においても

上記の分析結果に述べたような多様性の存在することがわかる。一方、中越遺跡では清水ノ上Ⅰ式併行と同Ⅱ式併行という形式分類と胎土との間に相関性は認められないが、東海系と在地系という地域分類と胎土との間には相関性が認められる。東海系とされた土器の胎土には、角閃石または黒雲母が多く、少量のザクロ石を伴う組成と試料番号47のような特異な組成が混在する。これに対し、伊那谷の在地系とされる土器の胎土は、共通して少量の両輝石と多量の角閃石を含むという特徴を示す。胎土の地域性については後述するが、このことは外見から判断された土器の地域性が、胎土からも推定されるということを示唆する。

大曲輪貝塚の試料は全て同一型式とされているが、少なくとも3種類の胎土が混在する。石塚貝塚の試料は全て石塚式に属し、胎土の組成も同様であるが、わずか5点という試料数からは、他の石塚式土器も全て同様の胎土であるとすることはできない。

土器の種類・文様・調整痕と胎土との間には明瞭な相関性があるとはいえないが、次のような傾向を読み取ることができる。東光寺遺跡の深鉢で無文のものには黒雲母の多い胎土と角閃石の多い胎土が混在するのに対し、外面条痕の土器は褐色の黒雲母とジルコンを含む胎土（試料番号10～17、20）が特徴的で、甕で無文のものは多量の黒雲母と少量のザクロ石を含む胎土（試料番号21～25、27）が主体をなすといえる。他の遺跡の試料については、特に胎土と器種・文様等との間に相関性は認められない。

胎土の地域性について

東光寺遺跡は、既述のとおり岡崎平野と豊橋平野の中間に位置する。清水遺跡の胎土分析結果から、「角閃石型」の胎土は岡崎平野を中心とする西南三河地域産の指標になる可能性が高いとし、三河湾を囲む知多半島、渥美半島、豊橋平野の各地から出土する「角閃石型」の胎土の土器は、西南三河地域から移動したものである可能性が指摘された。本分析においても豊橋平野にある石塚貝塚の試料全点が「角閃石型」を示し、これまでの分析例と同様な傾向を示している。ところが、同じ三河湾を囲む位置にある東光寺遺跡の土器は、「角閃石型」の胎土が非常に少なく、西南三河地域や東南三河地域には少ない「黒雲母型」の胎土が非常に多い傾向を示している。清水遺跡の試料との時代的な相違（清水遺跡の試料は縄文時代前期）という要因もあるが、この三河湾を囲む「角閃石型」と「黒雲母型」の出現傾向は、三河湾をとりまく各地域の交流状況を考える一つの手がかりとなる可能性をもっている。

ところで、これまでの縄文土器の分析例では、「黒雲母型」は北設楽郡豊根村や設楽町など東北三河地域に比較的多くみられる傾向があった。この地域は領家花こう岩帯および領家変成岩帯の分布地域であるが、東光寺遺跡のある深溝周辺も同様に両岩帯が分布する。したがって、「黒雲母型」が東北三河地域と深溝に多いということは、両地域の交流を示すというよりも、両地域とも地域内の土を使って作られた土器が多数を占めていることの現れであると考えられる。さらに、推論を重ねるならば、知多半島や渥美半島さらに豊橋平野に比べ、深溝周辺地域は岡崎平野地域と距離的に近いにもかかわらず、同地域との交流が地理的あるいは社会的な要因により比較的少なかったのではないだろうか。

愛知県西半部の尾張地域に位置する大曲輪貝塚の試料では、「角閃石型」がおよそ半数程度存在す

ることから、尾張地域と西南三河地域との交流が窺える。ただし、同時に尾張地域の指標とされる「輝石型」および地域性不明の胎土も存在することから、この遺跡における多様な土器の交流が推定される。

長野県中越遺跡の試料については、東海系と伊那谷在地系との間で比較的明瞭な胎土の違いを指摘することができた。それぞれの胎土の重鉱物組成については、次のような説明をすることができる。まず、在地系とされた試料の胎土のうち多量の角閃石は、遺跡の位置する宮田村周辺の山地に広く分布する領家花こう岩、少量の両輝石は諏訪湖周辺に分布する塩嶺層群の両輝石安山岩に由来する可能性がある。さらに、試料番号48に非常に多いザクロ石は、高遠付近の領家変成岩にその由来を考えることができる。つまり、在地系とされた土器の胎土の重鉱物組成は遺跡周辺の地質学的背景を反映していることを示唆する。一方、東海系とされた試料の胎土のうち、試料番号44と45のような組成は「角閃石型」と見ることができ、試料番号42と43もそれに類すると見れば、東海地域からの搬入品の可能性が窺える。試料番号47については、これまでに類似した組成がほとんど認められていないため、今後の検討を要する。

以上、本分析結果およびこれまでの分析結果から、考えられることを述べたが、現段階ではどれも裏付けの希薄な推論であることは否めない。今後も、継続した分析を実施し、推論をより確かなものにしたい。

（服部俊之）

＊ここでは、単に黒雲母の多い組成のものを指す。今後は、「角閃石型」におけるジルコンとザクロ石のように少量の随伴する鉱物をも考慮して「黒雲母型」を定義付けなくてはならないであろう。

謝　辞

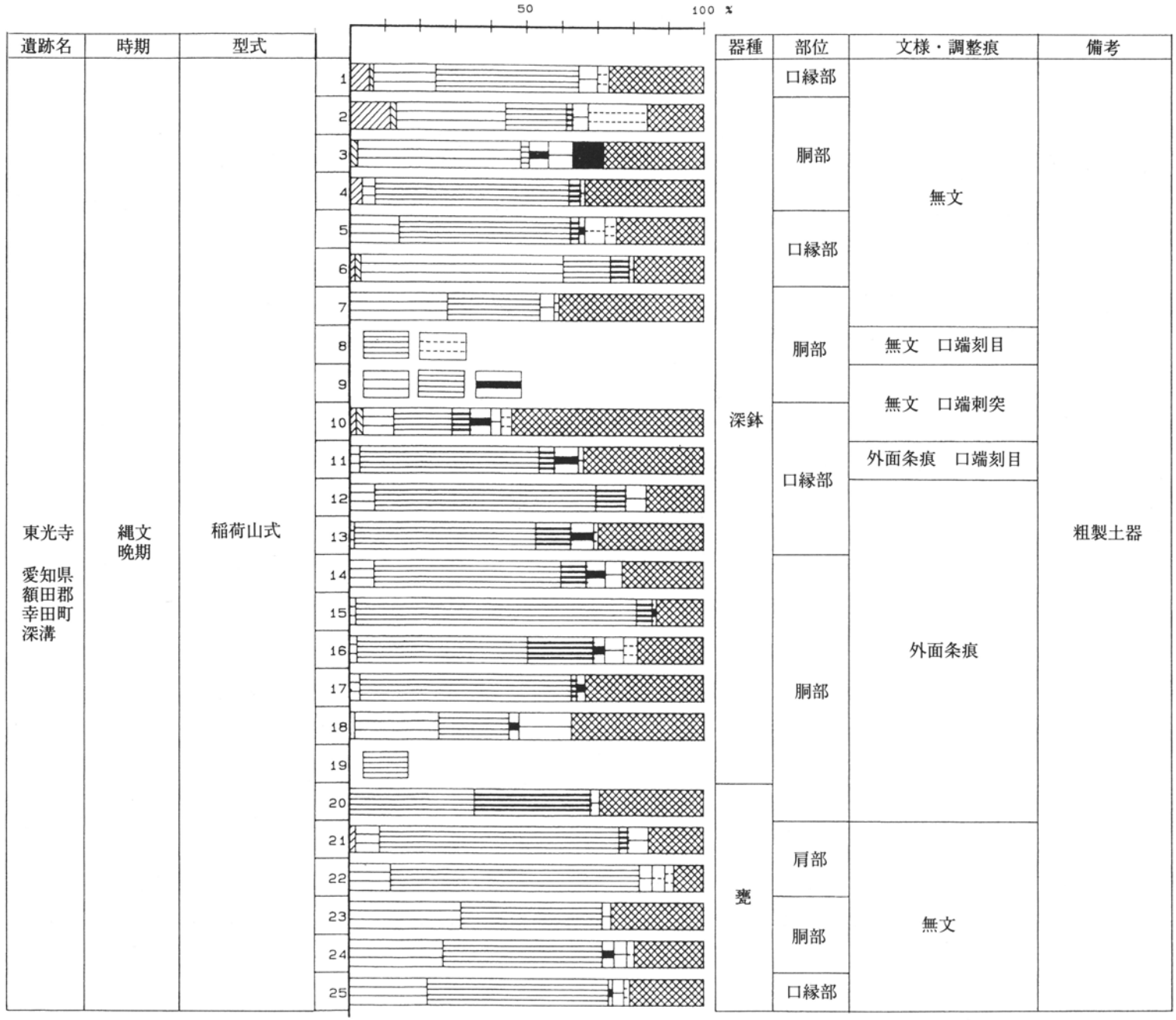
今回の分析にあたり、長野県上伊那郡宮田村教育委員会をはじめ、名古屋市見晴台考古資料館、豊橋市教育委員会などの各関係機関より試料の提供を受けた。文末ではあるが謝意を表したい。

第1表　東光寺遺跡関連胎土分析試料

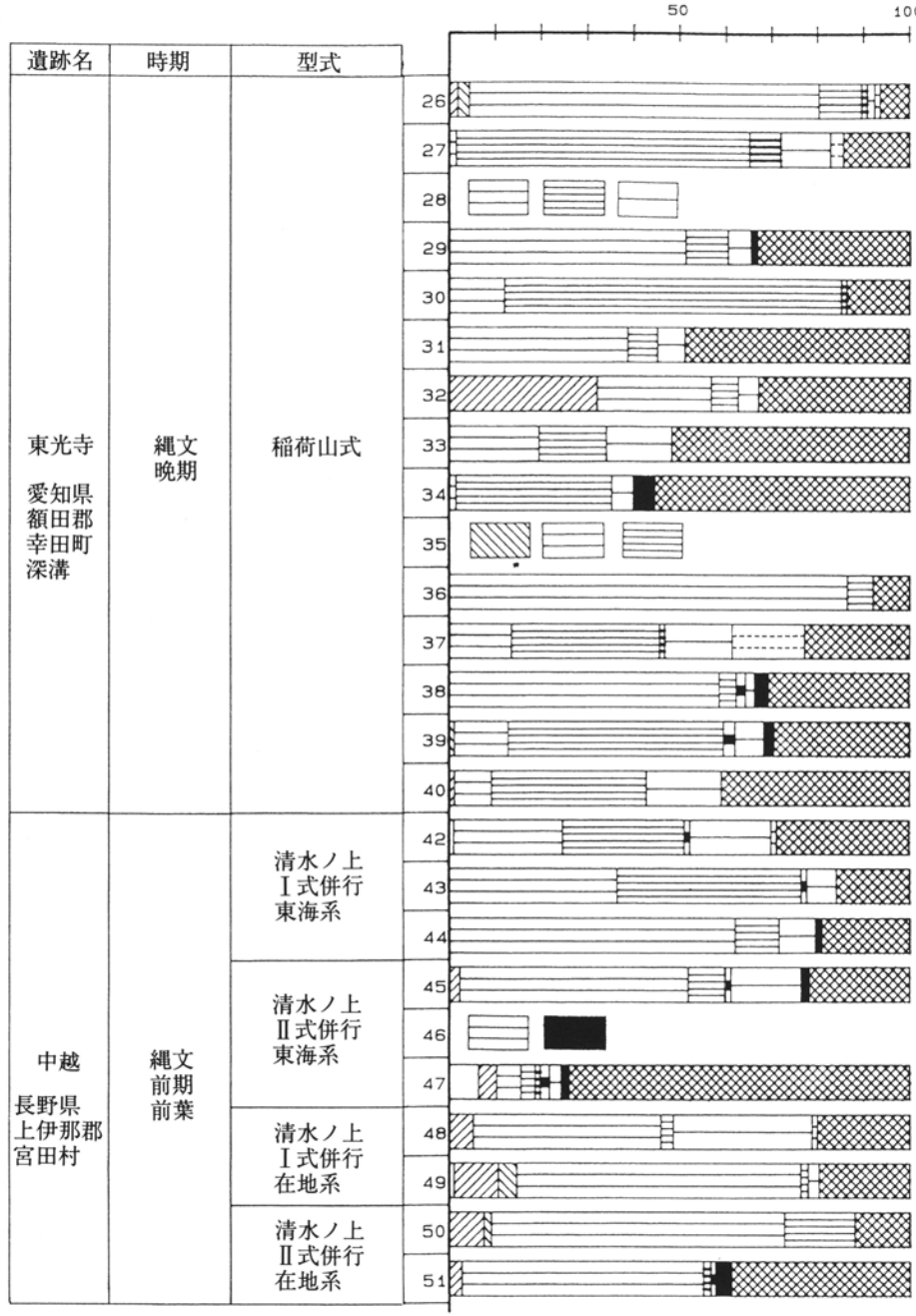
試料番号	遺跡名	所在地	器種	部位	時期	型式	文様・調整痕	備考
1	東光寺	愛知県額田郡幸田町深溝	深鉢	口縁部	縄文晩期	稲荷山式	無文	粗製土器
2				胴部				
3								
4								
5				口縁部				
6								
7				胴部				
8							無文　口端刻目	
9							無文　口端刺突	
10				口縁部				
11							外面条痕　口端刻目	
12							外面条痕	
13								
14				胴部				
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21			甕	肩部			無文	
22								
23				胴部				
24								
25				口縁部				
26								
27								
28							外面条痕	
29				肩部			肩部に段あり	
30				胴部			無文	
31				肩部			肩部に段あり	
32				胴部				
33				肩部				
34			台付鉢	脚部			無文	
35								
36								
37								
38								
39			浅鉢	胴部				
40			壺	口縁部				
42	中越	長野県上伊那郡宮田村	深鉢		縄文前期前葉	清水ノ上Ⅰ式併行東海系	口縁部斜位細線文 口縁部下端刺突文 口縁部下端刺突文	6号住居跡
43								
44							外面条痕調整 口縁部下端刺突文	37号住居跡
45				体部		清水ノ上Ⅱ式併行東海系	—	2号住居跡
46							—	
47							—	13号住居跡
48						清水ノ上Ⅰ式併行在地系	—	37号住居跡
49							—	
50						清水ノ上Ⅱ式併行在地系	—	2号住居跡
51							—	
52	大曲輪貝塚	愛知県名古屋市				清水ノ上Ⅱ式併行	—	6A区混土貝層
53							—	
54							—	
55							外面条痕	
56							—	
57								
58							内外条痕あり	
59								
60							—	
61								
62	石塚貝塚	愛知県豊橋市				石塚式（清水ノ上Ⅰ・Ⅱ式併行）		石塚貝塚上・下層含む
63								
64								
65								
66								

第2表　試料の重鉱物組成

試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	緑色黒雲母	褐色黒雲母	ジルコン	ザクロ石	緑レン石	電気石	不透明鉱物	その他	重鉱物 同定粒数
1	0	14	3	44	0	99	2	0	13	0	8	2	65	250
2	0	21	3	56	0	31	3	0	8	0	30	1	28	181
3	0	1	3	60	0	3	0	7	9	0	0	11	36	130
4	1	9	0	9	0	137	8	2	3	0	2	1	78	250
5	0	1	2	35	0	121	6	4	2	14	8	1	56	250
6	0	4	4	143	0	33	13	2	3	0	1	2	45	250
7	0	1	0	70	0	65	0	1	10	0	3	0	100	250
8	0	0	0	2	0	6	0	3	2	0	28	1	20	62
9	0	0	3	10	0	14	1	10	4	0	1	1	22	66
10	0	2	2	9	0	17	5	6	3	0	3	0	55	102
11	0	1	0	4	0	69	6	9	2	0	0	0	45	136
12	0	2	0	17	1	156	21	1	14	0	2	0	36	250
13	0	1	0	2	0	73	14	9	1	0	2	0	40	142
14	0	2	0	17	1	132	18	13	12	0	1	1	53	250
15	1	1	0	4	1	198	11	3	1	0	0	0	30	250
16	0	1	0	3	0	63	24	4	7	0	5	0	23	130
17	0	0	0	6	0	121	3	5	1	0	1	0	65	202
18	2	1	0	33	0	27	0	4	20	0	0	1	49	137
19	0	1	0	3	0	58	7	0	5	0	4	0	6	84
20	0	0	0	2	0	89	82	1	6	0	1	2	67	250
21	0	5	0	17	0	169	6	1	14	0	2	1	35	250
22	0	0	0	30	0	175	0	0	9	9	6	0	21	250
23	0	0	0	80	0	99	0	1	6	0	0	1	63	250
24	0	1	1	67	0	110	2	8	9	5	2	1	44	250
25	0	2	1	56	0	125	2	3	8	2	4	1	46	250
26	0	5	6	190	0	23	3	1	4	0	3	0	15	250
27	0	1	2	4	0	159	17	2	27	2	7	0	29	250
28	0	2	1	12	0	10	0	1	6	1	1	0	13	47
29	0	1	1	128	0	23	0	0	13	0	0	3	81	250
30	0	1	0	30	0	183	3	2	0	0	1	1	29	250
31	0	0	0	97	0	16	0	2	15	1	0	2	117	250
32	0	71	0	55	0	13	0	0	10	0	1	0	72	222
33	0	2	1	49	0	36	0	0	36	0	2	1	123	250
34	0	0	0	4	0	82	2	0	12	0	2	11	137	250
35	0	3	9	7	0	31	1	1	1	0	2	1	11	67
36	0	0	0	216	0	14	0	2	1	0	0	0	17	250
37	0	0	0	23	0	55	2	1	25	0	27	0	38	171
38	0	1	2	147	0	9	0	5	5	1	1	7	72	250
39	0	0	3	29	0	117	0	6	16	0	0	5	74	250
40	0	3	1	20	0	83	1	0	41	0	1	2	98	250
42	3	2	0	59	0	66	0	3	44	0	3	2	68	250
43	0	2	0	91	0	100	0	3	16	0	0	2	36	250
44	0	2	0	155	0	24	0	0	20	0	0	3	46	250
45	0	6	0	124	0	19	1	3	38	0	2	4	53	250
46	0	0	0	5	0	1	0	0	1	0	0	2	72	81
47	16	10	1	13	0	8	3	5	6	0	2	4	182	250
48	0	13	0	102	0	7	0	0	75	2	3	1	47	250
49	3	24	10	154	0	4	0	0	6	0	0	1	48	250
50	1	19	4	159	0	36	2	1	1	0	0	1	26	250
51	1	7	2	131	0	1	3	3	1	0	2	8	91	250
52	2	2	2	159	0	0	2	5	3	0	1	17	57	250
53	0	2	1	6	0	0	1	1	0	0	0	19	53	83
54	1	3	2	1	0	0	0	7	0	0	3	1	232	250
55	0	0	0	26	0	0	0	1	0	0	0	1	27	55
56	0	6	1	142	0	0	0	1	2	0	2	16	80	250
57	1	0	1	56	0	1	2	19	16	0	0	64	63	223
58	0	1	0	0	0	0	0	4	1	0	0	15	39	60
59	0	1	0	1	0	0	0	18	2	0	0	3	137	162
60	0	1	0	3	0	0	0	1	1	0	1	0	4	11
61	0	32	4	14	4	1	0	3	1	0	0	29	77	165
62	0	2	0	116	2	9	0	7	22	0	1	0	91	250
63	0	0	1	131	1	23	2	5	23	0	0	1	63	250
64	0	0	1	125	0	8	1	6	39	0	2	4	64	250
65	1	2	2	93	0	10	2	2	10	0	1	3	81	207
66	3	1	1	111	2	20	2	6	12	0	1	2	89	250

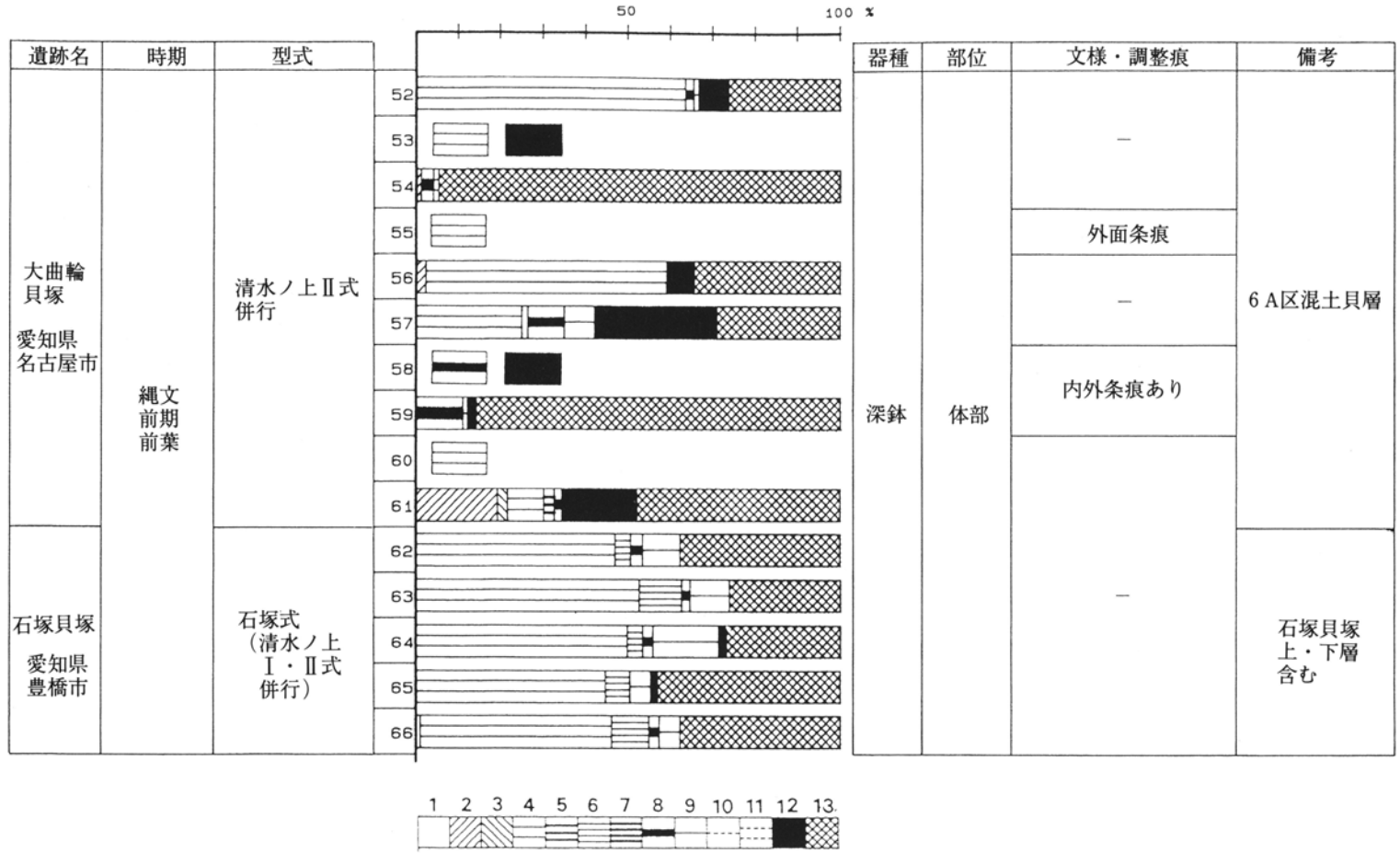


第36図　試料の重鉱物組成ダイアグラム　(1)



遺跡名	時期	型式		器種	部位	文様・調整痕	備考
東光寺 愛知県 額田郡 幸田町 深溝	縄文 晩期	稲荷山式	26	甕	口縁部	無文	粗製土器
			27				
			28			外面条痕	
			29		肩部	肩部に段あり	
			30		胴部	無文	
			31		肩部	肩部に段あり	
			32		胴部		
			33		肩部		
			34	台付鉢	脚部	無文	
			35				
			36				
			37				
			38				
			39	浅鉢	胴部		
			40	壺	口縁部		
中越 長野県 上伊那郡 宮田村	縄文 前期 前葉	清水ノ上 Ⅰ式併行 東海系	42	深鉢		口縁部斜位細線文 口縁部下端刻突文	6号住居跡
			43			口縁部下端刻突文	
			44			外面条痕調整 口縁部下端刻突文	37号住居跡
		清水ノ上 Ⅱ式併行 東海系	45		体部	―	2号住居跡
			46				
			47				13号住居跡
		清水ノ上 Ⅰ式併行 在地系	48				37号住居跡
			49				
		清水ノ上 Ⅱ式併行 在地系	50				2号住居跡
			51				

第37図　試料の重鉱物組成ダイアグラム　(2)



1 カンラン石　2 斜方輝石　3 単斜輝石
4 角閃石　5 酸化角閃石
6 黒雲母（緑色）　7 黒雲母（褐色）
8 ジルコン　9 ザクロ石　10 緑レン石
11 電気石　12 不透明鉱物　13 その他

第38図　試料の重鉱物組成ダイアグラム　(3)

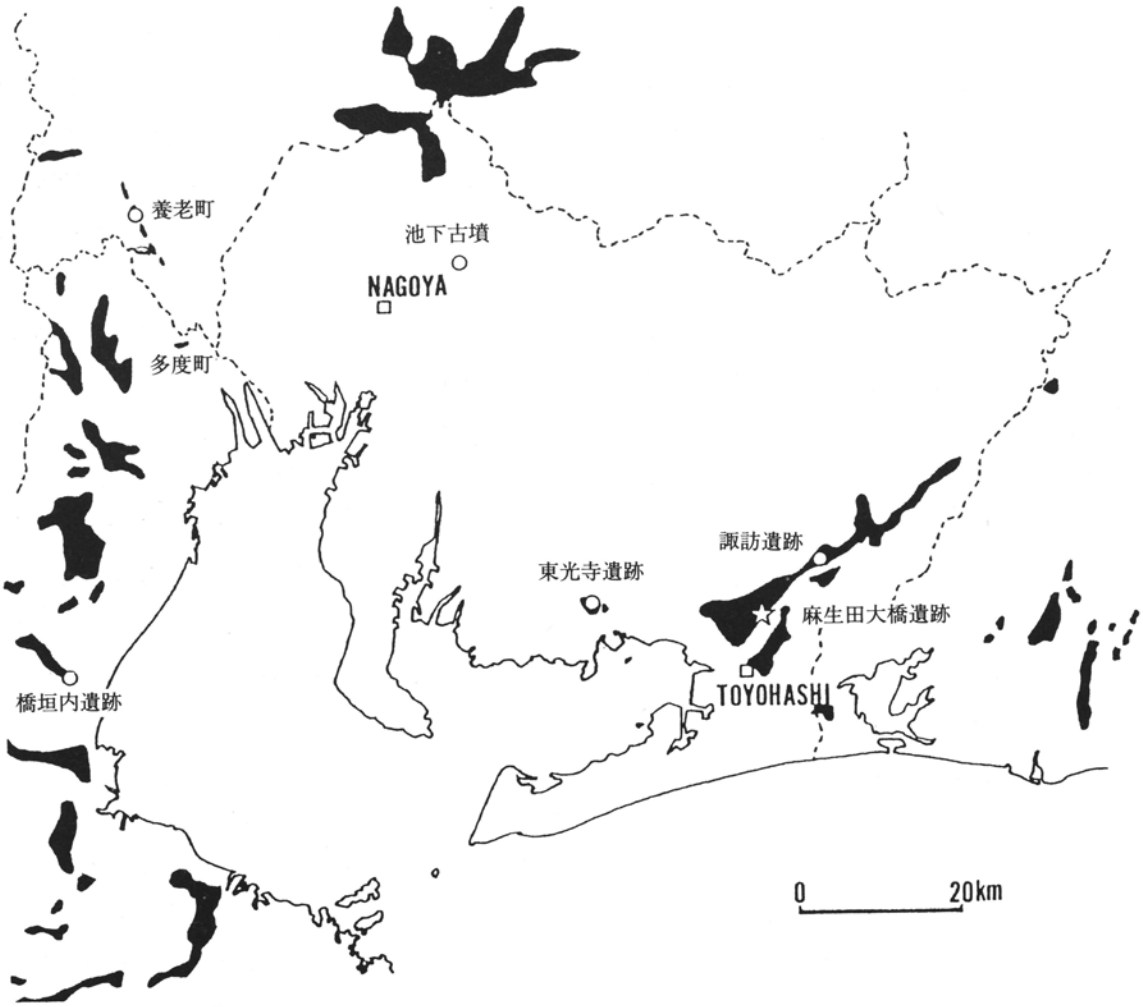
第２節　「黒ボク」土の分析

（東海地方に分布する黒ボク土についての一考察）

(1)　はじめに

東光寺遺跡は標高24～32ｍの拾石川の中位段丘上に位置し、縄文時代晩期の遺物包含層（同層には一部、弥生時代～中世の遺物を含む）として黒味の強い腐植質の黒色土が堆積している。

このような黒色土は一般に「黒ボク（土）」と呼ばれ、北海道から九州に至る日本全土に普遍的に分布し、分布面積は国土の約16％、現在わが国の耕地に占める黒ボク土の割合は普通畑で約56％、牧草地で約70％にも達するといわれる（渡邊、1993）。黒ボク土の分布が、北海道・九州・関東・東北地方など火山灰層の集積地域と重なることも多く、しかも火山灰に直接由来する鉱物粒が多数認められることから、その起源は火山灰の風化土壌であると考えられているが、第39図に示した東海地方（静岡県西部以西）の「黒ボク」土は火山灰起源の粒子に乏しく、これまで「非火山灰起源の黒ボク」と一括されて、その生成時期・起源等については謎とされてきた。



第39図　愛知県とその周辺の黒ボク土分布図　加藤（1970）原図に一部加筆

黒ボク土ないしはこれに相当する埋没腐植土は、遺跡調査の過程で東光寺遺跡のほか、諏訪遺跡（愛知県新城市）・池下古墳（名古屋市守山区）・麻生田大橋遺跡（愛知県豊川市）・名古屋城三の丸遺跡（名古屋市中区）・富士見町遺跡（名古屋市中区）・弥生町遺跡（名古屋市南区）・岩倉城遺跡（愛知県岩倉市）・水汲遺跡（愛知県藤岡町）・上の平遺跡（愛知県東栄町）・坂口遺跡（愛知県旭町）・橋垣内遺跡（三重県津市）・六大Ｂ遺跡（三重県津市）・戸峯遺跡（三重県明和町）・下沖遺跡（三重県嬉野町）・段遺跡（三重県員弁町）・出張遺跡（三重県大台町）・樋ノ谷遺跡（三重県大台町）など、東海地方の数多くの遺跡で見いだされ、遺物包含層の捉え方、遺構の検出や遺跡基盤層の認定、また黒ボク土の生成時期と考古遺物との関係、黒ボク土そのものの堆積メカニズムなどをめぐって、常に発掘調査担当者を悩ませてきた。

ここでは東光寺遺跡をはじめ、東海地方に広く分布する非火山灰起源の黒ボク土について明らかになった知見を整理して述べる。

(2) 黒ボク土の生成年代について

分布地形面

東海地方の黒ボク土は、そのほとんどが中位段丘（東光寺遺跡・諏訪遺跡・麻生田大橋遺跡・名古屋城三の丸遺跡・富士見町遺跡・段遺跡・出張遺跡・樋ノ谷遺跡・坂口遺跡ほか）ないしはそれに対比される地形面（橋垣内遺跡・六大Ｂ遺跡ほか）上に分布しているが、場所によっては低位段丘（下沖遺跡・諏訪遺跡・三重県安濃町ほか）上にも認められる。また、黒ボク土は扇状地（岩倉城遺跡・岐阜県養老町・三重県多度町ほか）上や丘陵平坦面（蒲郡市竹谷町ほか）にも局所的な分布がみられる。

岐阜県南西部から三重県北部に位置する養老山脈東縁には活断層（養老断層）の存在が知られていて、そのため谷の出口にあたる山脈の東麓には数多くの扇状地形が発達している。調査の結果、山脈北部の扇状地上には黒ボク土が分布するものの、同山脈南部の扇状地堆積物には黒ボク土はまったく認められない。この違いはおそらく扇状地の生成時期に関係があり、北部の扇状地群は中位段丘に対比され比較的古い時期に形成された扇状地であるのに対して、南部の扇状地は養老断層の最近の活動に伴って山塊が隆起し、山中から運び出された土砂によって作られたきわめて新しい崖錐性扇状地であることによるものと思われる。そして北部の扇状地面では、岐阜県南濃町庭田貝塚で代表される縄文時代前期～中期の遺跡が立地することがわかっているが、南部の扇状地面上には古墳時代を溯る遺跡の分布は知られていない。

加藤（1964）は、東海地方に分布する非火山灰起源の黒ボク土を調査・検討し、黒ボク土の分布する地形面が中位段丘群（名古屋市内では熱田面、関東の下末吉面あるいは武蔵野面にあたる）以下に限られ、静岡県三方原・同新所原地区などのように中・低位段丘群上にほとんど黒ボク土の分布しない地域でも、最低位段丘（沖積面よりの比高５～10ｍ）にだけは存在し、従ってその生成は中位段丘群形成後のある時期（立川ローム堆積期またはそれ以後）のものと考えられるが、同時期後引き続いて（あるいは間欠的に）か、または特定の時期にだけ生成されたのかは今のところはっきりしない、と述べている。

発掘調査による成果

東光寺・麻生田大橋両遺跡の発掘調査の結果、これらの黒ボク土は縄文時代晩期の遺構によって掘り込まれていることが明らかとなっており（酒井、1990；安井、1990）、その生成年代は少なくとも縄文時代晩期以前にさかのぼることは確実である。なお、東光寺遺跡では黒ボク土は厳密には２層存在し、砂粒をほとんど含まず漆黒色で手触りがボソボソし、湿るとやや粘性を帯びる「漆黒色黒ボク土」（写真１）と、砂粒を含み黒褐色で土壌断面に空隙が多い「黒褐色黒ボク土」がみられる。前者は層厚30～50㎝、地層断面の観察より黒褐色黒ボク土の下位にあたる。考古遺物はほとんど含有されない。後者は層厚20～60㎝、漆黒色黒ボク土の上位に堆積し、縄文時代晩期～弥生時代・中世などの遺物包含層を構成している。1990年度の発掘調査では、漆黒色黒ボク土中よりほぼ完器に近い縄文時代中期の深鉢（写真２）が出土し、他の考古遺物・遺構などは認められなかった（酒井、1991）。検出状態（割れているものの、完器に近くしかもほぼ直立した状態で出土している）、および周りの状況から考えてこの深鉢は埋設された可能性が高いものと考えられる。なお、深鉢の出土した漆黒色黒ボク土（深鉢と同層準）の放射性炭素年代は、6490±170y.B.P.（Gak-15439）であった。

橋垣内遺跡では弥生時代中・後期の遺構、および縄文時代晩期の凸帯紋系土器を含有する縄文時代晩期以降の旧河道が黒ボク土を掘り込んでおり、黒ボク土からは縄文時代早期の押型紋土器片が出土している（三重県埋蔵文化財センター、1991）ことから、黒ボク土が縄文時代早期以降に生成・堆積した可能性が高いことを示している。

その他の遺跡においても、弥生時代中・後期～古墳時代の遺構がこの黒ボク土を切り込んでいることが観察され（名古屋城三の丸遺跡・富士見町遺跡・上の平遺跡・六大Ｂ遺跡・下沖遺跡・戸峯遺跡）、そして黒ボク土が縄文時代後・晩期頃の遺物包含層（ときに縄文時代前期から中期の遺物を含む）を構成している（諏訪遺跡・岩倉城遺跡・水汲遺跡・上の平遺跡・坂口遺跡・下沖遺跡）ことが確認されている。

また、三重県中勢地方の北勢町・大安町・員弁町などでは、中位～低位段丘面上の黒ボク土（一部耕作等による撹乱を受けているものと思われる）中より縄文時代中期～晩期（一部、早期および前期

写真１． 東光寺遺跡90A区における黒ボク土の堆積状況

中央部の厚い土層が遺物をほとんど含有しない漆黒色黒ボク土。

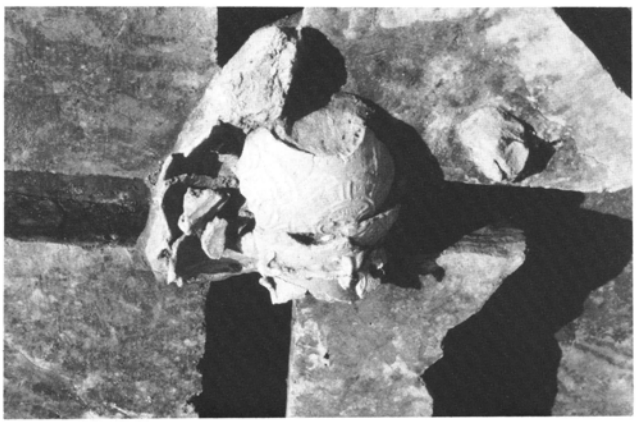


写真２． 縄文時代中期の土器出土状況

漆黒色黒ボク土（90B区）中よりほぼ完器に近い状況で出土した。

の遺物を含む）の土器片や石器等が多数見出されており（三重県教育委員会、1970）、三重県伊勢市周辺の宮川下流域の下久具万野・佐八藤浪・樋ノ谷遺跡などでは中位段丘上の黒ボク土（一部後世の撹乱を受けている）中より縄文時代早期～晩期にかけての多くの考古遺物の出土が報告されている（三重県教育委員会、1983；仲川ほか、1989）。黒ボク土生成の下限を示す資料としては、出張遺跡で黒ボク土直下より旧石器時代のナイフ形石器の出土が知られている（大台町出張遺跡調査会、1979）。

なお、六大Ｂ遺跡では、黒ボク土の下位30～60cmより広域テフラとして著名な姶良Tn火山灰層（約22,000年前；町田ほか、1976）がブロック状（層厚５～10cm）に堆積した状態で発見されている（未公開資料、三重県埋蔵文化財センターの好意による）。

放射性炭素年代

東海地方の黒ボク土ないしはそれと関連して測定された放射性炭素年代値のうち、最も古い年代値は、岐阜県養老町西小倉の扇状地上（第40図）の黒ボク土下位約 1.2mのオレンジ火山灰層直下の値で、8700±200y.B.P.であった（古川、1972）。この値は黒ボク土ののる扇状地の形成時期を知るうえで重要な年代といえる。扇状地上の値では、ほかに三重県多度町天王平の扇状地礫層上位（第41図）に堆積した黒ボク土の年代が得られており、その値は6650±150y.B.P.（Gak-10393）であった（木村ら、1984）。

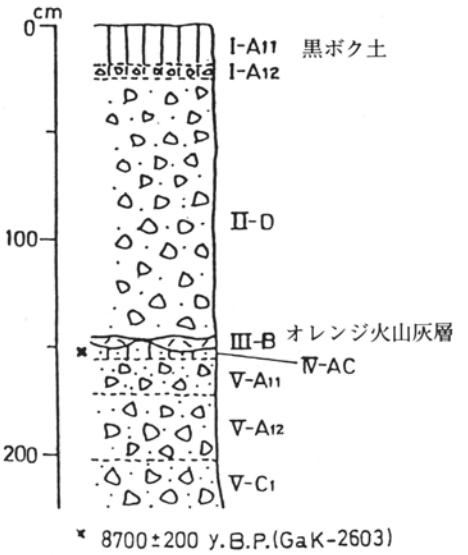
遺跡に関連した値として、橋垣内遺跡では縄文時代早期の遺物を包含する黒ボク土最下位の試料より7570±120y.B.P.（Gak-15443）（森、未公表）、同層中の試料より5110±90y.B.P.（Gak-14890）（三重県教育委員会、1991）という測定値が得られている。一方、東光寺遺跡では、前述のように縄文時代中期の深鉢を包含する漆黒色黒ボク土より6490±170y.B.P.（Gak-15439）という年代値が得られた。また、東光寺遺跡の東 1.5km地点の蒲郡市竹谷町に位置する丘陵平坦面上の黒ボク土（第42図）では、5600±120y.B.P.（Gak-15442）という測定結果が得られている（森、未公表）。

埋没腐植土に関連した試料では、三重県安濃町戸島の低位段丘面上の埋没腐植土の値が6730±110y.B.P.（Gak-2600）（古川、1972）、名古屋市弥生町遺跡の基盤層を構成する沖積層中の埋没腐植土では、6770±180y.B.P.（Gak-15440）という年代値が得られた（森、未公表）。

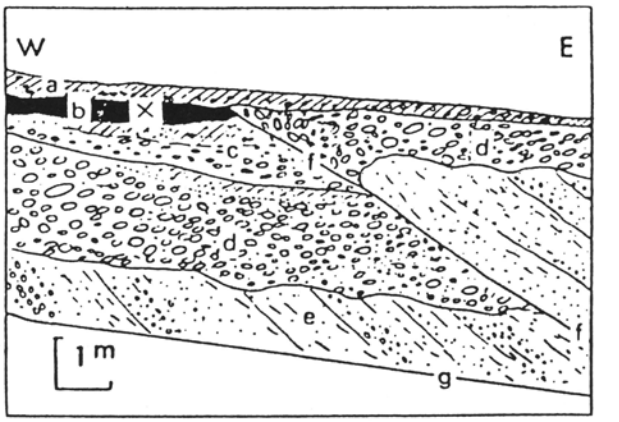
第３表． 東海地方の黒ボク土の放射性炭素年代値

＜遺跡等＞　（試料採取層準）	＜放射性炭素年代値＞
東光寺遺跡（縄文中期の遺物包含層）	6490±170y.B.P.（Gak-15439）
蒲郡市竹谷町（丘陵平坦面上の黒ボク土）	5600±120y.B.P.（Gak-15442）
三重県橋垣内遺跡（縄文早期の遺物包含層）	7570±120y.B.P.（Gak-15443）
三重県橋垣内遺跡（縄文早期の遺物包含層）	5110± 90y.B.P.（Gak-14890）
名古屋市弥生町遺跡（沖積層中の埋没腐植土）	6770±180y.B.P.（Gak-15440）
三重県安濃町（低位段丘面上の埋没腐植土）	6730±110y.B.P.（Gak-2600）
三重県多度町（扇状地礫層上位の黒ボク土）	6650±150y.B.P.（Gak-10393）
岐阜県養老町（旧期扇状地面，火山灰層直下）	8700±200y.B.P.（Gak-2603）

これらのデータは、東海地方の非火山灰起源の黒ボク土が縄文時代早期から中期の間、放射線炭素年代値で7570±120y.B.P.～5110±90y.B.P.にあたる時期に生成された可能性を示唆している。

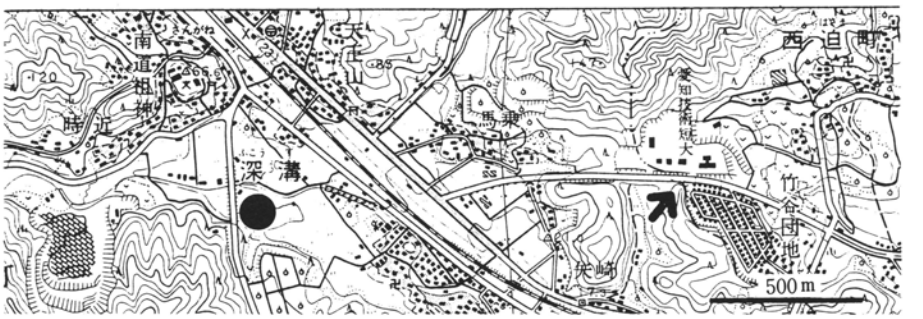


第40図　岐阜県養老町の扇状地上における露頭断面図（古川、1972）による

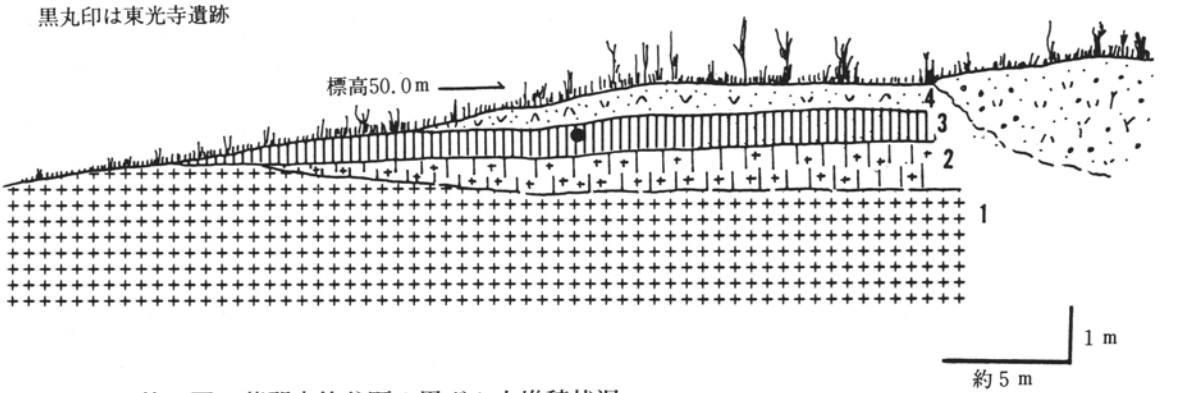


第41図　三重県多度町の扇状地堆積物の露頭スケッチ（木村ほか；1984）

a．礫混り褐色土壌，b．黒色腐植土――×印が試料採取位置，c．扇状地礫層Fa3B層上部，頂部が土壌化，d．扇状地礫層Fa3B層下部（礫の最大粒径は40cm），e．奄芸層群（多度層）の砂礫，砂・シルト互層，f．断層，g．道路面



分析試料採取地点（矢印）
黒丸印は東光寺遺跡



第42図　蒲郡市竹谷町の黒ボク土堆積状況

1．花こう岩　2．花こう岩の風化土壌（一部黒ボク土化している）
3．黒ボク土（黒丸印は分析試料採取地点）放射性炭素年代：5600±120y.B.P.
4．褐色表層土壌

(3) 黒ボク土の母材・生成環境・起源について

母　材

次に黒ボク土のもとになった母材を考えるために、麻生田大橋遺跡（3試料）・池下古墳（7試料）・諏訪遺跡（6試料）の3遺跡について、黒ボク土中の鉱物組成を調査した（森ほか、1989；森ほか、1991a；森ほか、1991b；第4表）。

その結果、麻生田大橋遺跡では、3試料とも半数近く（45％前後）を石英が占め、これにカリ長石・斜長石・黒雲母・角閃石・斜方輝石・その他の副成分鉱物が伴った（第4表）。石英が多いのは硬度が大きく、風化・摩滅に強いためと思われるが、長石類の中に花こう岩特有の組織を残すものがあることや、黒雲母・角閃石が見いだされたことにより、麻生田大橋遺跡の黒ボク土の母材については、遺跡の東を流れる豊川水系の花こう岩類に由来するものと推定された。また、黒ボク土の斜方輝石に火山ガラスが付着しているものが認められ、同時に数％（5％以下）の火山ガラス（褐色のガラスを含む）を含有することが確認された（森ほか、1991a）。

池下古墳では麻生田大橋遺跡同様、鉱物組成の半数（平均51.0％）が石英であり、ほかにカリ長石・斜長石・黒雲母・斜方輝石が含まれる。また堆積岩や火山岩などの岩片（平均15.1％）も比較的多く含まれ、本遺跡の黒ボク土の母材は庄内川水系の段丘堆積物に由来すると考えられる。火山灰等に伴われる高温型石英、および火山ガラス（偏平型ガラスに加え、褐色ガラスも含む）も少量（平均6.3％）まじえる（森ほか、1991b）。

諏訪遺跡では石英の含有率は平均28.1％と低率であり、ほかに斜長石・カリ長石・黒雲母・角閃石などが含まれる。2遺跡同様、少量（平均 2.3％）の火山ガラスを含み、火山ガラスでは多孔質型および中間型ガラスが偏平型ガラスより目だった。諏訪遺跡の黒ボク土の母材については、基盤の花こう岩類やその二次堆積物がもとになっていると報告されている（森ほか、1989）。

このように3遺跡の鉱物分析の結果、黒ボク土の母材には必ずしも同一性はなく、それぞれの地域の基盤岩（層）の岩片や鉱物組成に大きく影響されている。また、火山灰に由来する火山ガラス等を少量含むものの、少なくとも火山灰層そのものが直接黒ボク土化したとは考えられない。

東光寺遺跡から東へ約 1.5km離れた、幸田町と蒲郡市竹谷町の境界付近の丘陵上（第42図）には、表層土壌の下位に東光寺遺跡に見られるものと一連の黒ボク土が堆積しており、ここでは黒ボク土（層厚約70cm）と花こう岩の風化土壌（層厚 1.0～ 1.5m）、および新鮮な領家帯花こう岩が順次移行する様子が観察される。また黒ボク土の母材について、加藤（1960a、1960b）は静岡県西部から愛知県東部の黒ボク土中の砂粒分析結果から、その組成が河川性の堆積物や基盤の火山岩類を反映していると述べている。また、古川（1972）および津島高等学校地学部（1983）は、養老山脈東麓の扇状地上に、扇状地堆積物（砂岩・チャート礫）と漸移する黒ボク土が分布することを報告し、黒ボク土の母材が扇状地上にのる礫混じりの堆積物に由来することを示唆している。

これらの結果は、東海地方の非火山灰起源の黒ボク土の母材が、花こう岩類や火山岩の風化土壌・段丘堆積物・扇状地堆積物など多様であることを示しており、他地域のように火山灰土が黒ボク土化するといった母材の同一性は認められない。

第4表　黒ボク土試料の植物珪酸体・鉱物分析結果

	試料	植物珪酸体											鉱物・岩片類														
		大型珪酸体			小型珪酸体																						
	番号	ファン型	棒状型	ポイント型	ｳｼﾉｹｸﾞｻ型	タケⅠ型（ｻｻ亜型）	キビ型	タケⅡ型（ﾀｹ亜型）	ヒゲシバ型	導管起源型	その他	総計	石英	斜長石	正長石	黒雲母	白雲母	角閃石	斜方輝石	普通輝石	ｶﾝﾗﾝ石	ｻﾞｸﾛ石	ｼﾞﾙｺﾝ	岩片	火山ガラス	不透明鉱物	総計
水汲遺跡	1	2.0	40.5	1.0		7.0	39.5	10.0				100.0															
	2	2.5	59.0	0.5		5.5	28.5	4.0				100.0															
	3	8.9	7.7			24.4	10.3	48.7				100.0															
	4	2.0	23.5			31.5	6.5	36.5				100.0															
	5	2.5	8.5		0.5	50.5		38.0				100.0															
	6	1.0	9.5			40.5	1.5	47.5				100.0															
	7	9.1	28.6	1.3		37.7	2.5	20.7				100.0															
	8	2.9	22.8			46.5	6.9	20.9				100.0															
	9	9.1	24.2			28.8		37.9				100.0															
	10	39.2	25.5			21.6	1.9	11.8				100.0															
	11	5.9	12.5			34.1	7.9	39.6				100.0															
	12		26.1			17.4	21.7	34.8				100.0															
	13	8.0	12.0			24.0	4.0	52.0				100.0															
	14	21.4	14.3			14.3		50.0				100.0															
池下古墳	A-11											0.0	52.0	2.0	10.0	2.0		0.0	0.0					21.0	2.0	11.0	100.0
	A-10	17.5	11.0	0.5	2.5	34.1	2.0	31.4	0.5	0.0	0.5	100.0	47.0	6.0	11.0	0.0		1.0	0.0					21.0	7.0	7.0	100.0
	A-9	24.5	13.5	0.0	0.5	31.3	0.5	27.7	1.0	0.0	1.0	100.0	45.0	2.0	14.0	0.0		0.0	1.0					24.0	6.0	8.0	100.0
	A-8											0.0	44.0	3.0	11.0	1.0		0.0	0.0					26.0	2.0	18.0	100.0
	A-7	9.5	12.0	0.0	2.0	37.2	6.5	29.3	0.5	0.0	3.0	100.0	50.0	4.0	9.0	0.0		0.0	0.0					11.0	5.0	22.0	100.0
	A-6	15.5	10.0	0.5	1.0	36.0	3.5	29.5	1.5	0.0	2.5	100.0	47.0	5.0	13.0	0.0		1.0	0.0					12.0	10.0	24.0	100.0
	A-5	16.5	13.5	1.0	1.5	34.5	5.0	24.0	2.0	0.5	1.5	100.0	58.0	4.0	7.0	0.0		0.0	0.0					16.0	4.0	17.0	100.0
	A-4											0.0	59.0	5.0	10.0	0.0		0.0	0.0					19.0	3.0	4.0	100.0
	A-3	15.0	12.0	3.0	0.5	26.1	7.5	29.4	1.5	0.5	4.5	100.0	57.0	5.0	4.0	0.0		0.0	0.0					10.0	7.0	17.0	100.0
	A-2	19.5	8.5	0.0	0.0	35.3	5.5	26.7	3.0	0.5	1.0	100.0	53.0	5.0	11.0	0.0		0.0	0.0					12.0	5.0	19.0	100.0
	A-1											0.0	51.0	6.0	7.5	0.5		0.5	0.0					11.0	2.0	21.0	100.0
	CH	25.5	15.0	0.0	1.0	24.5	5.5	23.5	2.0	1.0	2.0	100.0	53.0	9.0	16.0	0.0		0.0	0.0					11.0	7.0	4.0	100.0
麻生田大橋遺跡	1	13.5	12.5	1.5		25.5	4.5	40.0	1.0		1.5	100.0	44.5	9.5	15.0	3.0		2.0	1.0					9.5	4.5	11.0	100.0
	2	13.5	16.0	0.5		30.7	3.0	33.3	0.5		2.5	100.0	45.5	8.5	16.5	5.0	1.5	2.0	1.0	0.5		1.0	0.5	5.5	1.0	12.0	100.0
	3	11.5	8.0	0.5		33.8	5.0	39.7	0.5		1.0	100.0	47.5	5.0	16.0	4.0	1.5	3.0	1.0	1.0				8.5	2.0	10.5	100.0
諏訪遺跡	10	9.0	51.0	1.0		13.0	5.0	21.0				100.0	33.7	19.7	15.8	6.3		15.3	2.3	2.7	0.5	0.0	0.0		1.4	2.3	100.0
	8	6.0	54.0	3.0	1.0	9.0	3.0	14.0				100.0	32.0	23.0	16.5	11.2		10.4	0.0	0.4	0.7	0.4	0.7		2.9	1.8	100.0
	5	14.0	57.0	2.0		13.0	3.0	11.0				100.0	27.7	26.5	18.4	4.9		12.7	0.4	3.3	0.0	0.8	0.4		2.9	2.0	100.0
	19	5.0	53.0	1.0		27.0	2.0	12.0				100.0	21.1	24.4	15.8	5.7		14.1	1.2	3.2	0.0	0.8	0.4		2.8	10.5	100.0
	17	3.3	47.3	1.3		29.0	2.0	17.3				100.0	22.8	23.9	20.8	4.2		8.3	3.1	2.4	0.0	1.4	1.0		2.4	9.7	100.0
	15	19.0	50.0	1.0	1.0	19.0	5.0	4.0				100.0	31.8	21.8	19.0	3.6		8.3	3.2	2.8	0.0	0.8	0.8		1.6	6.3	100.0

※水汲遺跡、池下古墳についてはアミかけ部が黒ボク土試料

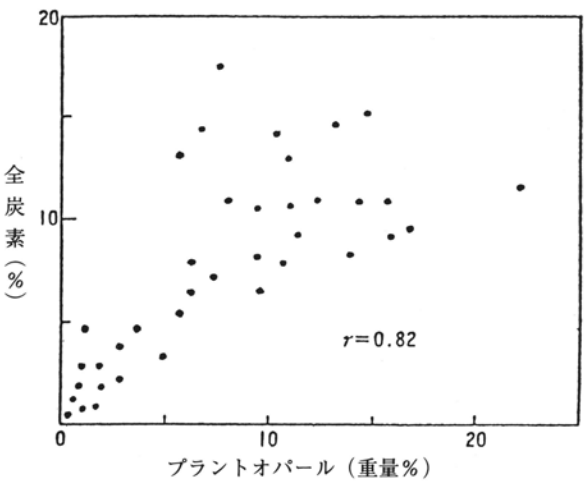
（森・永草、1991ほか）による

植物珪酸体および珪藻分析

麻生田大橋（３試料）・池下古墳（７試料）・諏訪（６試料）・水汲（２試料）の計４遺跡から採取した18試料について、黒ボク土中の植物珪酸体（プラントオパール）を分析した（第４表）。麻生田大橋遺跡では、全珪酸体のうち平均で68.0％がササ型珪酸体で占められ、ついでキビ型や他の珪酸体が低率で出現した。小型珪酸体ではササ型珪酸体が多く、これにキビ型珪酸体を伴うことから、佐瀬ほか（1987）による植物珪酸体組成と植物相および気候帯との関係から、この黒ボク土はササ属・メダケ属それにキビ亜科などの繁茂する草原植生（気候は冷温帯から暖温帯まで）のもとで生成されたものと推定される（森ほか、1991a）。池下古墳の６試料でもほぼ同様の分析結果が得られている（森ほか、1991b）。一方、諏訪遺跡では棒状型珪酸体が多く、次にササ型珪酸体・ファン型珪酸体が見いだされ、前述の２遺跡とはやや異なった植物珪酸体組成を示した。その結果、諏訪遺跡の黒ボク土は主にタケ亜科（ネザサ・ササ類）等の繁茂する草原的な環境（気候はやや冷涼？）下で生成された可能性を指摘した（森ほか、1989）。水汲遺跡では試料数が少ないものの、諏訪遺跡とよく似た傾向を示した（森、1990）。なお、黒ボク土中の植物珪酸体組成については、佐瀬ほか（1976a、1976b）・近藤ほか（1986）など多くの研究があり、腐植土層研究に関わったイネ科草本は各地によって異なっていることが示されている。

加藤（1970）は、東海地方の非火山灰起源の黒ボク土中の植物珪酸体の重量％と全炭素量を測定し、両者の間に高い相関関係があることを示した（第43図）。黒ボク土中の細砂鉱物組成（ 0.2～0.02㎜）に占める植物珪酸体の割合が15％以上に達するものがあり、このような試料ではきわめて黒味も強く、したがって腐植含有量も多い。今回の分析でも、植物珪酸体粒子がどの試料においても多量に含まれ（水汲遺跡のデータで7.2×10^5個／ｇ）、このことは東海地方以外の火山灰起源の黒ボク土とも共通している（山根ほか、1978；加藤、1960a；加藤、1964；加藤、1970；近藤ほか、1986；細野ほか、1986；松井、1889；佐瀬、1989）。

なお、麻生田大橋遺跡・池下古墳の黒ボク土について、富士平工業全農式簡易土壌腐植検定セットを用いて腐植含有量を測定した結果、すべての試料で腐植量５を越え分析可能範囲（腐植含有量10％以上）を大きく上回った。この分析では正確な腐植含有量は求めることはできなかったものの、東海地方の黒ボク土が日本各地に分布する黒ボク土同様、きわめて腐植に富んでいることは容易に推定できる。



第43図　腐植土層の全炭素とプラントオパールの関係（加藤，1970）

一方、黒ボク土生成時の水分条件を考えるために、麻生田大橋（３試料）・池下古墳（７試料）・諏訪（６試料）・水汲（２試料）の計４遺跡から採取した18試料について、珪藻分析を実施した。その結果、黒ボク土中にはいずれの試料においても珪藻殻をほとんど含まないことが判明した。まれにみられる珪藻

も*Hantzschia amphioxys. Pinnularia borearis, P. subcapitata*などのような「陸生珪藻」と呼ばれるものであり、これらは水分の乏しい水溜まりや湿潤地表面に適応して生活する好気性の種群である。このことより黒ボク土は水深のない（水につかったとしてもせいぜい年に１～２回滞水する程度）、しかし湿潤な条件のもとで、ススキやササ等の優占する草原的環境下で生成された地層であると考えられる。

広域テフラとの関係

黒ボク土の鉱物分析の結果、現在までに東光寺・麻生田・池下古墳・諏訪・名古屋城三の丸・富士見町・橋垣内の７遺跡のいずれの試料からも少量ながら火山ガラス片が発見された。扇状地および段丘・丘陵上の試料では岐阜県養老町（扇状地）・三重県大里睦合町（中位段丘）・蒲郡市竹谷町（丘陵平坦面）で採取した黒ボク土中にも火山ガラス片が含まれており、筆者が分析した黒ボク土中には例外なく火山ガラス片が含有されることから、黒ボク土生成期に火山灰層が関与したことも否定できない。

東海地方以外の黒ボク土では、給源火山の特定できる火山灰（黒姫山火山灰・十和田テフラ等）が直接母材となって腐植化が進行した例も多く知られており（河室ほか、1986；佐瀬、1989）、火山灰の降灰が黒ボク土の生成・累積に深く関わったことが指摘されている（山根ほか、1978）。このことは火山灰起源の粘土鉱物「アロフェン」の存在からも支持されている（山根ほか、1978；川口、1980；松井、1989）。

筆者らが分析した遺跡産の黒ボク土、および前述の愛知・岐阜・三重三県下の黒ボク土試料には、共通して偏平型ガラスに加えやや褐色を帯びる火山ガラス片が含まれており、これらは同一の広域テフラ（アカホヤ火山灰層（K-Ah）、一部さらに古い姶良Tn火山灰層（AT）を含む）に由来する可能性が高い*。偏平型火山ガラス片の屈折率（n）の測定結果は 1.499－ 1.503（麻生田大橋遺跡のデータ）を示し、この値は加藤（1960）の測定した静岡県磐田原ほかの非火山灰起源の黒ボク土の火山ガラスの屈折率（ 1.490－ 1.500）とも調和し、またアカホヤ火山灰層の火山ガラスの高屈折率 1.509－ 1.513（町田ほか、1978）とも符号する。このような事実は、東海地方の黒ボク土生成はアカホヤ火山灰層の降灰に起因する（町田ほか、1976；町田ほか、1978）という火山灰研究者の指摘があるものの、むしろこれらの黒ボク土が、アカホヤ火山灰層（K-Ah）降灰期にあたる約6300年前（縄文時代早期末）頃に生成されたことを示しているものと解される。

東海地方以外の火山灰起源の黒ボク土も、考古遺物との関係や放射性炭素年代値より6000～7000年前頃の縄文海進期を中心に生成されたものと考えられており（松井、1987・1989）、この結果とよく一致する。また熱田台地のへりにあたる名古屋市弥生町遺跡にみられる黒褐色の埋没腐植土は標高＋1.06ｍに位置し、草本植物に由来する多くの炭質物を含む。その放射性炭素年代は6770±180y.B.P.（Gak-15440）で、アカホヤ火山灰層降灰期と似かよった時期に堆積したものであることを示している。そして、この腐植土層中の珪藻化石の分析結果は海生ないし汽水生珪藻が優占し、腐植土層が縄文海進に伴う海水面上昇期に形成された海成堆積物であることを表している。

これらを総合すると、東海地方に分布する非火山灰起源の黒ボク土は世界的温暖期（ヒプシサーマ

＊場所によっては、松河戸火山灰（ＭＴ）と考えられる多孔質のガラス片も含有される。

ル）にあたる縄文時代早期～前期にかけて生成されたものと考えられる。

人為的影響

火山灰起源粒子の少なさに加え、母材に共通性が認められないことから、東海地方の黒ボク土は草原植生に由来する腐植の集積が土壌形成に最も大きな役割を演じたものと推定される。

１万年前の完新世に入って気候が急激に温暖化し、それに伴う植生変化が黒ボク土生成に大きく関与したことが考えられる。森林植生を極相とする日本の気候条件下で多量の腐植生産を可能にするためには、草原的環境の維持に人間活動が深く関わっているとみなさなければならない。このような観点から東海地方の非火山灰起源の黒ボク土はもとより、火山灰地帯の黒ボク土についても人為による長年の植生干渉の結果であるといわれる（加藤、1964・1970・1976；松井、1989；佐瀬、1989）。

佐瀬ほか（1988）は、南半球にあることを除けば緯度・気候植生条件ともに日本とよく似たニュージーランドにおける腐植の集積の開始時期が、約1000年前にはじまるマオリ人の大規模な移住と焼畑農耕に伴う森林破壊の開始時期とほぼ一致することを紹介し、黒色腐植土の形成が人為の影響のもとで維持される草原植生に由来すると述べている。また細野ほか（1992）は、青森県湯ノ台地区において黒ボク土層と示標テフラ層（十和田テフラ）が斜交することにより、火山灰層の堆積が腐植土生成の直接の原因でないことを明らかにし、人間の森林への干渉の始まりが黒ボク土生成の開始であるとした。また、河室ほか（1986）は黒姫山火山灰層という同一起源の火山灰が、森林地帯に落下したものは褐色森林土に、草原地帯に位置したものは黒ボク土化したと報告している。このことも黒ボク土の形成が人為であることの傍証になるように思われる。

この結果、草原植生の多くは人間による火入れ（野焼）や樹木の伐採といった営みを通じて、半自然植生として維持されてきたものと考える。阪口（1987）は、「旧石器時代を含め森林・草原混交地帯（黒ボク土地帯）で展開された野焼を生業の手段とする文化を『黒ボク土文化』と呼び、縄文文化は黒ボク土に根ざし旧石器時代からの焼狩の伝統を受け継いだ文化である」と述べている。そして、焼畑や焼狩の結果舞い上がった火山灰や植物珪酸体が風塵となって谷に落下し、段丘面上や丘陵平坦面に堆積・残留した。これが日本各地に認められる黒ボク土であるという。

東海地方の非火山灰性黒ボク土が風成の可能性が高いとの指摘は、加藤（1980・1985a・1985b）などの多くの研究がある。加藤（1985a・1985b）によれば、静岡県磐田原台地に分布する黒ボク土の産状が段丘の高低に関係なく出現すること、厚さが浅谷や凹地などで増し、また黒ボク土中に礫をほとんど含まないこと、含有される細砂中の石英粒の円磨度が下位の黄色土のそれより明らかに大きいことに加え、黒ボク土中に含有される火山灰起源の粒子（いずれも10％以内）が、埋没黒ボク土に対してほぼ一定の層位関係をもつことなどから、磐田原台地上の黒ボク土については累積性があり、風成細砂の飛来堆積によって形成された可能性が高いと述べている。

野焼は今も草木が枯れ、食糧資源の枯渇した春先に行われる。その頃日本の上空は北西の季節風が最も卓越する時期にあたっていて、とりわけ東海地方付近の日本列島が折れ曲がり最もくびれた狭隘部を吹き抜ける北西の風は、「伊吹おろし」と呼ばれ驚くべき強風を伴う。草原地帯を焼いた灰は東

海地方各地の平地や段丘・丘陵の別なく積もりまた拡散し、あるものは浸食されて失われ、あるいは移動・運搬を繰り返しながら現在まで残った。

段丘上や扇状地面など陸上に堆積した灰塵はその後、土壌生物や植物の根などの働きで分解され、細粒の粒子となり黒ボク土化したが、低地や水域に落下したものは分解を妨げられ、現在までその形を多くとどめている。主に縄文時代後期～晩期にかけての頃（松河戸火山灰層（森ほか、1990）降灰期前後；3120±120y.B.P.）の自然堆積層中より、松河戸遺跡（愛知県春日井市）・町田遺跡（愛知県春日井市）・朝日遺跡（愛知県清洲町ほか）・岩倉城遺跡（愛知県岩倉市）・岡島遺跡（愛知県西尾市）・室遺跡（愛知県西尾市）をはじめ、低地部の遺跡で数多く見いだされる真黒に炭化した（あるいは完全に焼けた）植物片（多くは草本植物に由来するもの）の存在は、縄文時代の野焼の跡を物語っているようにも思われる。

(4) おわりに

黒ボク土の生成と草原化のはじまりに、東海地方で約10㎝の層厚に達したアカホヤ火山灰層降灰というカタストロフィックな環境変化の果たした役割を無視することはできないとしても、層厚が２～３㎝にも満たなかった関東・東北地方においても、縄文時代早期から前期頃にかけてというほぼ同時期における黒ボク土化の進行は、明らかに人為の存在（環境に対する同様な働きかけをした行為＝文化の存在）を認めねばならぬ。

草原地帯の維持にあたっては、焼狩や野焼以外にも生活物資としてのススキやチガヤの採取（山根、1974・1976）、牧草地の確保・牧草の生産のための火入れ・伐採（渡邊、1993）なども考慮する必要があろう。

そして、黒ボク土の生成が人為による所産の可能性が高いということは、土性は異なるものの縄文時代後・晩期頃（朝日遺跡・土田遺跡（愛知県清洲町）・菩薩遺跡（同東海市）・松河戸遺跡・町田遺跡・田所遺跡（同一宮市）ほか）、および弥生時代の遺物包含層（朝日遺跡・大平遺跡（愛知県尾西市）・阿弥陀寺遺跡（愛知県甚目寺町）ほか）における明らかに人為と考えてよい黒泥土ないし黒色腐植土の存在とともに、自然界における腐植（炭素）の集積が人為によるものと考えて良い傍証であろう。

＜要　　約＞

(1) 東海地方の黒ボク土は、中位段丘およびそれに対比される地形面（埋没段丘を含む）、低位～最低位段丘、扇状地上・丘陵平坦面などに分布し、同層の分布地形面にはとくに共通性は認められない。

(2) 発掘調査による成果では、黒ボク土は旧石器時代以降、縄文時代晩期の間に堆積した地層であると考えられ、同層中には縄文時代前期～晩期の遺物（一部早期の遺物を含む）が含有される。

(3) 分析した黒ボク土の放射性炭素年代は、7570±120y.B.P.～5110±90y.B.P.の間を示し、同層が縄文時代早期から中期にかけての頃に堆積・生成された地層であることを示唆している。

(4) 黒ボク土を構成する母材には、花こう岩起源の風化物、およびチャートや砂岩を中心とした段丘

・扇状地堆積物など種々存在し、その母材にとくに共通性は認められない。

(5) 黒ボク土中には、ススキ・ササなどのイネ科植物起源の植物珪酸体が多量に含まれ、同層が草原植生下の腐植の集積によって形成されたものと考えられる。

(6) 黒ボク土中には、広域テフラ（アカホヤ火山灰層；約6300年前）起源の火山ガラス片が含有され、そのことは同層がアカホヤ火山灰降灰期付近の時代に生成されたことを示している。

(7) 細野ほか（1992）による黒ボク土層と示標テフラ層との斜交関係、河室ほか（1988）による同一火山灰層の分布面による相違（黒ボク土と褐色森林土）などの資料から、黒ボク土の生成には草原地帯への野焼・焼狩など、人為による働きかけが深く関わっているものと考えられる。

（森　勇一）

謝　辞

本センターの永草康次・楯真美子の両氏には鉱物および植物珪酸体分析にあたって種々協力いただいた。小文を草するにあたり以下の方々にお世話になった。記して感謝申し上げる。

服部信博（本センター）・酒井俊彦（同）・森川幸雄（三重県埋蔵文化財センター）・杉谷政樹（斎宮歴史博物館）・佐瀬　隆（岩手県埋蔵文化財センター）・加藤芳朗（静岡大学名誉教授）・新井房夫（群馬大学名誉教授）・水野裕之（名古屋市見晴台考古資料館）・服部哲也（同）・伊藤正人（同）・竹内宇哲（同）・尾野善裕（同）・三重県埋蔵文化財センター・名古屋市見晴台考古資料館・員弁町教育委員会・明和町教育委員会・嬉野町教育委員会・尾西市教育委員会

なお、本分析に用いた放射性炭素年代測定にあたっては、平成２年度文部省科学研究費奨励研究Ｂ（課題番号02916023；研究課題名、昆虫化石を利用した先史～歴史時代の古環境の復元）を使用したので報告する。

文　献

新井重光・渡辺　彰・高木賢二・筒井　潔・熊田恭一（1989）大野原湿原堆積物の土壌化学的解析—特に黒ボク土に関連した性質について．大野原湿原研究会報告集１，56-60.

細野　衛・佐瀬　隆（1986）黒土の成因をさぐる．自然を調べる地学シリーズ３，土と岩石，東海大学出版会，117-122.

細野　衛・佐瀬　隆・青木潔行（1992）示標テフラによる黒ボク土の生成開始時期の推定—十和田火山テフラ分台湯ノ台地区を例にして—．地球科学，**46**，121-132.

古川博恭（1972）濃尾平野の沖積層—濃尾平野の研究その１—．地質学論集，**7**，39-59.

加藤芳朗（1960a）「黒ボク」土壌中の植物起源粒子について（予報）．日本土壌肥料学雑誌，**30**，549-552.

加藤芳朗（1960b）東海地方東部の「黒ボク」土壌の細砂鉱物組成．日本土壌肥料学雑誌，**31**，25-28.

加藤芳朗（1964）腐植にとむ土壌（「黒ボク」土壌）の生成に関する問題点．第四紀研究，**3**，212-222.

加藤芳朗（1970）東海地方の「黒ボク土」土壌の分布・断面形態・母材についての考察．日本土壌肥料学雑誌，**41**，89-94.

加藤芳朗（1976）黒ボク土．特集「日本の土壌」，アーバンクボタ，No13，12-13.

加藤芳朗（1980）寺谷遺跡をめぐる地形・地質・測定年代．静岡県磐田市寺谷遺跡調査報告書，磐田市教育委員

会，341-349.
加藤芳朗（1985a）火山ガラスの検索．静岡県豊田町広野北遺跡発掘調査報告書，平安博物館，19-28.
加藤芳朗（1985b）磐田原・有度山麓段丘上の非火山性細粒堆積物．日本第四紀学会講演要旨集，**15**，118-119.
川口桂三郎（1980）日本の土壌．日本の自然（阪口　豊編），岩波書店，59-65.
河室公康・鳥居厚志（1986）長野県黒姫山に分布する火山灰由来の黒色土と褐色森林土の成因的特徴—とくに過去の植被の違いについて—．第四紀研究，**25**，81-98.
木村一朗・三澤寿美・竹内安江（1984）三重県多度町の段丘堆積層と腐植土の^{14}C年代—日本の第四紀層の^{14}C年代—（151）．地球科学，**38**，64-66.
近藤錬三・佐瀬　隆（1986）植物珪酸体，その特性と応用．第四紀研究，**25**，31-64.
町田　洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰—姶良Tn火山灰の発見とその意義—．科学，**46**，339-347.
町田　洋・新井房夫（1978）南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ—アカホヤ火山灰—．第四紀研究，**17**，143-163.
松井　健（1987）土壌．日本第四紀地図，日本第四紀学会編，東京大学出版会，51-56.
松井　健（1988）土壌地理学序説．築地書館，316p.
松井　健（1989）土壌地理学特論．築地書館，197p.
松田　訓（1993）坂口遺跡．愛知県埋蔵文化財センター年報（平成4年度），66-67.
三重県教育委員会（1970）三重用水農業水利事業地域遺跡地図—三滝川以北—．三重県埋蔵文化財調査報告2．
三重県教育委員会（1983）昭和57年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告．131-140.
三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター（1991）一般国道23号中勢道路・埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ．30-51.
三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター（1992）一般国道23号中勢道路・埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ．44p.
森　勇一・永草康次・楯真美子（1989）愛知県諏訪遺跡及びその周辺地域に発達する黒色土の起源について．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第7集）諏訪遺跡・杉山端城跡，58-63.
森　勇一（1990）水汲遺跡．愛知県西加茂郡藤岡町水汲遺跡調査報告書，藤岡町教育委員会，45-51.
森　勇一・伊藤隆彦・宮田英嗣（1990）愛知県町田・松河戸遺跡から発見された縄文時代後・晩期の境界付近に位置する火山灰層について．第四紀研究，**29**，17-23.
森　勇一・永草康次（1991a）麻生田大橋遺跡の黒色土について．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第21集）麻生田大橋遺跡，109-114.
森　勇一・永草康次（1991b）池下古墳墳丘中の黒色土について．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第24集）池下古墳，29-33.
森　勇一・永草康次（1991c）橋垣内遺跡における黒ボク土について．一般国道23号中勢道路・埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ．三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター，50-51.
仲川道興・服部信博（1989）宮川下流域の縄文遺跡．歩跡，**4**，1-15.
大台町出張遺跡調査会（1979）出張遺跡調査報告書．三重県大台町出張遺跡調査会，203p.
酒井俊彦（1990）東光寺遺跡．愛知県埋蔵文化財センター年報（平成元年度），52-57.
酒井俊彦（1991）東光寺遺跡．愛知県埋蔵文化財センター年報（平成2年度），52-57.
阪口　豊（1987）黒ボク土文化．科学，**57**-6，352-361.
佐瀬　隆・加藤芳朗（1976a）現世ならびに埋没火山灰土壌腐植層中の植物起源粒子—とくに植物珪酸体に関する研究（第Ⅰ報）—給源植物の推定に関する研究—．第四紀研究，**15**，21-34.
佐瀬　隆・加藤芳朗（1976b）現世ならびに埋没火山灰土壌腐植層中の植物起源粒子—とくに植物珪酸体に関する研究（第Ⅱ報）—火山灰土の腐植給源植物に関する問題と植物珪酸体を用いた古気候推定—．第四紀研究，**15**，66-74.
佐瀬　隆・細野　衛・宇津川徹・加藤定男・駒村正治（1987）武蔵野台地成増における関東ローム層の植物珪酸

体．第四紀研究，**26**，1-11.
佐瀬　隆・細野　衛・宇津川徹・青木潔行（1988）The Ngae Road Tephra Section（ニュージーランド）における火山灰土壌の植物珪酸体分析―過去２万年間の土壌と植生の関係―第四紀研究，**27**，153-174.
佐瀬　隆（1989）黒色腐植層（黒土層）の生成に関する覚書・紀要Ⅸ，㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター．49-66.
津島高等学校地学部（1983）養老山脈東斜面に発達する扇状地の地形的変化―濃尾平野周辺の活断層（その３）―．濃尾平野の総合的研究（第２集），86-94.
渡邊眞紀子（1993）史資料にもとづく黒ボク土の生成と植生改変の考察（要旨）．植生史研究，**1**，91-92.
山根一郎（1974）黒ボク土の生成におけるススキの意義．ペドロジスト，**17**，84-93.
山根一郎（1976）黒ボク土とススキ．草地生態，**14**，35-41.
山根一郎・松井　健ほか（1978）図説・日本の土壌．朝倉書店，190p.
安井俊則（1990）麻生田大橋遺跡・愛知県埋蔵文化財センター年報（平成元年度），62-67.

第Ⅴ章　ま　と　め

東光寺遺跡の調査結果に関する事実報告的記載については如上の通りであるが、最後に、その内容・価値・課題等について簡単に次のようにまとめておく。

(1) 遺跡規模・時期

今次調査の発掘調査区10,000㎡は、概ね遺跡の東西方向において横断的に設置されている。したがって、これによって、遺跡規模は東西でおよそ 280ｍの範囲に及ぶことが判明したといいうる。そして、立地地形からして北は拾石川までとみられるが、南限については不明のままである。

判明した遺構、遺物の時期は縄文時代前・中・後・晩期、弥生時代中・後期、古墳時代後期、奈良・平安時代、鎌倉時代まで断続的に続くが、このうち人々の居住が最もよく展開されたのは、縄文時代晩期、弥生時代後期、鎌倉時代の３時期であった。

(2) 縄文時代

晩期に土器棺墓による墓域が設定されていたことが明かとなったが（ 506 ・ 507 など一部は弥生時代に含まれる）、居住域については未検出のまま終わっている。土器棺墓は少なくとも５基、可能性のあるものを含めると９基は発見されており、そのほとんどが89A調査区の範囲内に限られている。その形態は、単棺ないしSZ06のような合わせ口棺とみられる。

縄文土器のうちで注目されるのは、NR01から出土した晩期の土器群である。初頭の寺津式から晩期末（弥生前期）の樫王式までを含み、中でも中段階の稲荷山式期のものが主体を占める。このため、従来からその内容構成の曖昧さが問題にされてきたいわゆる稲荷山式土器を比較的まとまった形で呈示することができたと考えるわけであるが、自然的な窪地状の地形からの混在的な出土であるため、層位学的な検証に欠けるものがあったことは否めない。粗製の無文深鉢を中心的な器種としてはいるが、文様と調整における特徴的要素の抽出に必ずしも成功したとはいいがたい結果である。したがって、今回は資料提示にのみにとどめたが、しかし、これらは主として三河地域の縄文時代から弥生時代社会への移行期を考える上で貴重な資料となるものであろう。

(3) 弥生時代

弥生時代後期には環濠集落が形成された。土器型式による時期は、畿内第Ⅴ様式期併行の寄道式期を主体としており、一部欠山式期にまで続く。環濠は同時に２条ないし３条巡っており、多重環濠集落の形態をとる。西と東の環濠に囲まれた範囲は 150ｍから 230ｍ。全貌は明かでないが、南北方向に長い不整形な平面形を呈するようである。溝幅は 1.5ｍ～ 2.0ｍ、深さは 0.6～ 1.2ｍ、断面形はＶ字およびＵ字形を示している。時期は、概ね寄道式期の１型式内に収まるものの、掘り直しを含めて若干の段階が認められる。すなわち、まずSD03、SD04とSD10、SD11が掘られ、次の段階にSD02、SD05とSD10、SD11が掘り直されたと考えられる。そして、この時点でSD09に付設されてい

た陸橋部は掘り込まれてしまったと推定されるのである。このような環濠集落の変遷については、第44図に概念図として示した。

環濠内の居住域の実態については、残念ながら解明されなかった。住居跡を初め、居住に関する遺構が全くといってよいほど検出されなかったからである。この問題については、おそらくは居住面が黒色土層の層位中に展開されていて、その検出が技術的にきわめて困難であり、しかも、調査において表土はぎを基盤直上まで一気に進めたことに起因するものであろう。

弥生後期の土器の大半は環濠内から出土した。典型的な廃棄状態を示している。SD08～SD11からは寄道式のみ、SD02からはこれら加えて欠山式の高杯・台付鉢が少量出土しており、これが弥生集落の下限となっている。

(4) 中世遺構

鎌倉時代以降に、拾石川右岸の川べりにムラが営まれていた痕跡が明かとなった。調査区東端から旧河道NR02が検出されたが、これは当時の拾石川につながっていたとみられ、中世以降のムラはこれに沿う形で築かれていたようである。建物遺構としては、掘立柱建物が2棟検出されたに過ぎないが、SD06にみられるように、典型的な方形区画の屋敷地も築かれている。

地形図によると、遺跡周辺には城跡、刈谷門、裏門、組屋敷など城館跡に関わる小字名が幾つか分布している。それらは、深溝松平氏の遺跡に関連するものと推察されるのであるが、今回の発掘調査においては該期の明瞭な遺構は全くといっていいほど発見されなかった。

(5) 課　題

このように、東光寺遺跡の調査は、解明すべき点の多い当地方の縄文時代晩期の土器編年や集落構成、弥生時代後期の環濠集落を考える上で良好な資料を提供することになったが、特に調査方法をめぐって反省しなければならないことがらが幾つかみられたので指摘しておく。まず第一に、今次調査に先立ち圃場整備事業にともなって国庫補助事業として実施された幸田町教育委員会の発掘調査の問題がある。第2図に示されてているように、この時の調査区は無原則に設定されていて、一部は今回の調査対象となった蒲郡碧南線建設地内にまで及んでいる。本来、圃場整備事業にともなう調査においては、削平される部分と道路用地、盛り土が厚くなる部分を対象とすればよいわけで、すでに県道用地として将来の調査計画が立てられていた部分にまで広げる必要はなかった。無原則な調査は、遺跡の全体像を理解する上で障害をもたらすものであり、現に、調査対象としなければならないのに未調査のまま終わった削平部分からは、工事中に相当量の弥生土器が出土している。

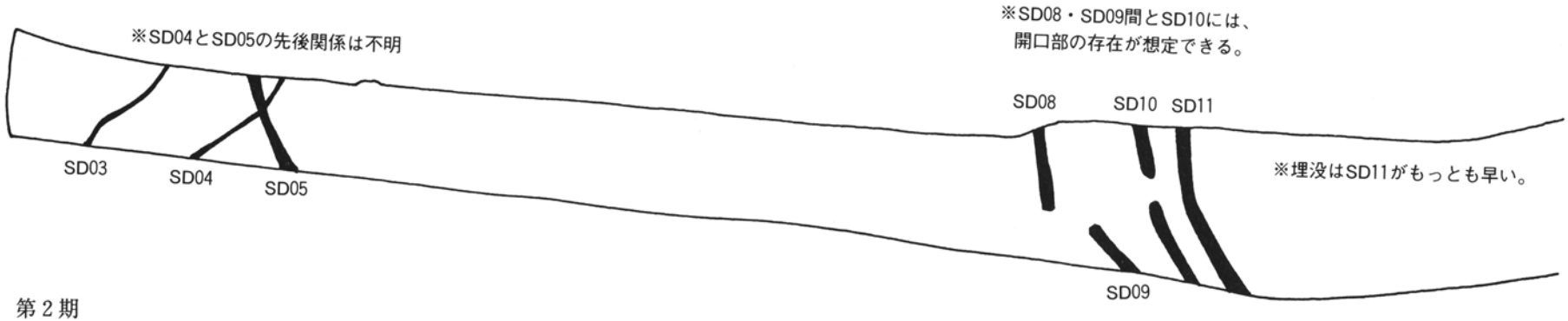
また、既述のように、今回の調査において遺物包含層の一部を飛ばして基盤面近くまで表土掘削を進めたことも批判的に捉えなければならない。確かに、捉えどころのない黒ボク土の中に遺構が掘り込まれていたとはいえ、環濠の掘形、建物遺構、中世の遺構などを摑み得なかったことはかかる理由に因るものであって、故無しとはしえない。

近い将来に、遺跡のほぼ中央を南北に縦断する安城蒲郡線建設にともなう調査が予定されている。これまでの失敗を省みて、より精緻な発掘調査が行われ、東光寺遺跡の解明が進められることを期待する。

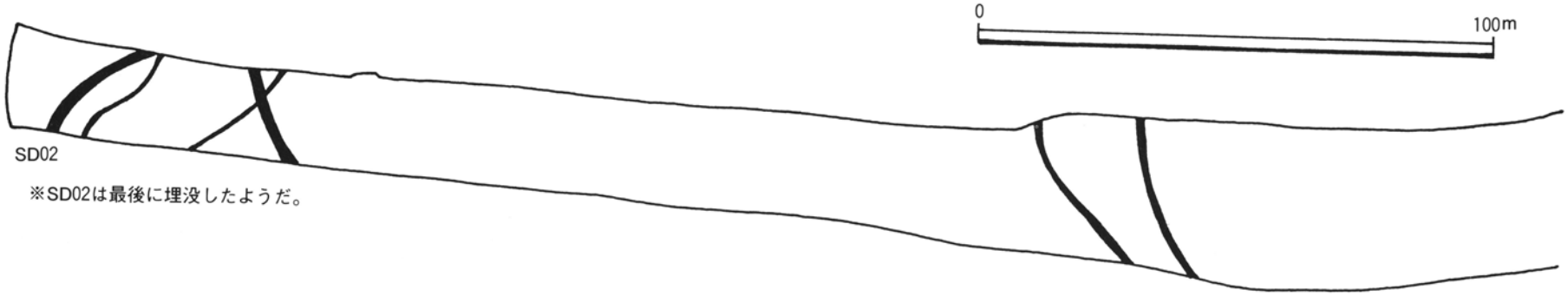
（加藤安信）

環濠の変遷

第１期



第２期



第44図　弥生時代（Ⅱ期）環濠集落変遷図

報　告　書　抄　録

フリガナ	トウコウジイセキ
書名	東光寺遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第42集
編著者名	酒井俊彦・大橋正明・都築暢也・宮腰健司・川井啓介・服部俊之・森　勇一・加藤安信
編集機関	財団法人愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498 愛知県海部郡弥富町大字前ケ須新田字野方 802－24
発行年	西暦　1993年3月30日

所収遺跡名（フリガナ）	所在地（フリガナ）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
東光寺遺跡（トウコウジ）	額田郡幸田町大字（ヌカタ コウタ） 深溝字上天白（フコウズ カミテンパク）、 天白城跡（テンパクシロアト）	23501	61088	34°49′37″	137°4′8″	19890401 19890930 19900401 19900930	5,000 5,000	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東光寺遺跡	集落跡	縄文	土器棺　9基	縄文中・後・晩期土器 石器、土偶	
		弥生	竪穴住居　2棟 溝　8条	弥生後期土器	環濠集落
		古墳	竪穴住居　4棟	6C代須恵器・土師器	
		奈良・平安	竪穴住居　5棟	須恵器・土師器	
		中世	掘立柱建物　2棟 溝　9条	山茶椀・土師器	

付　　表

1．遺構一覧表　98～ 105ページ
2．遺物一覧表　106～ 123ページ

1．遺構一覧表

建　物

遺構番号	旧遺構番号	グリッド	時期	南北軸	南北辺 (m)	東西辺 (m)	深さ (m)
SB01	89A SB01	ⅠD17j	Ⅳ	N−4°−E	3.6	3.3	0.2
SB02	89A SB02	ⅠD20k	Ⅳ	N−7°−E	4,3.6	3.7	0.1
SB03	89B SB01	ⅡD1s,t	Ⅳ	N−13°−E	(2.2)	2.5	0.1
SB04	90A SB01	ⅠF20n,o ⅡF1,o	Ⅱ−2	W−6°−N	4.9	5.6	0.1
SB05	90B SB06	ⅡG4p,q	Ⅱ−1	W−38°−N	4.1		0.1
SB06	90B SB07	ⅡG4,5q	Ⅳ	W−39°−N	(3.0)	(4.0)	0.1
SB07	90B SB05	ⅡG4q,r	Ⅲ	W−12°−E	5.0	4.5	0.1
SB08	90B SB04	ⅡG4q,r	Ⅳ	N−6°−E	(1.2)	(3.4)	0.1
SB09	90B SB08	ⅡG3,4r	Ⅲ	W−33°−N	4.6	4.0	0.1
SB10	90B SB03	ⅡG2s,t	Ⅲ	N−7°−E	5.7	6.0	0.1
SB11	90B SB01	ⅡH1,2d	Ⅲ	W−25°−N	3.6	2.5	0.1
SB12	89A SB03	ⅠD16j		N−4°−E	(0.7)	3.0	0.1
SA01	90B SK06 SK07 SK08 SK10 SK11 SK13 SK14 SK16	ⅠG20i,j, ⅡG1j	Ⅴ−1	N−19°−W	3.0	4.5	
SA02	90B SK47 SK51 SK53 SK54 SK55 SK56 SK57 SK58 SK59	ⅡG3o,p,4o,p	Ⅴ−1	N−18−E	4.1	4.5	

土器棺墓

遺構番号	旧遺構番号	グリッド	時期	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
SZ02	89A SK73	ⅠD16c	Ⅰ−2			12
SZ03	89A SZ01	ⅠD17c,d	Ⅰ−2	320	170	22
SZ04	89A SK11	ⅠD20c	Ⅰ−2	65	65	14
SZ05	89A SK29（年報SZ04）	ⅠD20d	Ⅰ−2	360	260	38
SZ06	89A SZ02	ⅠD18,19e	Ⅰ−2	280	230	30
SZ07	89A SK91（年報SZ05）	ⅠD19h	Ⅰ−2	235	220	23

溝・窪地 旧河道

遺構番号	旧遺構番号	グリッド	時期	長さ (m)	最大幅 (m)	深さ (m)
NR01	89A SD02	ⅠC16s,t 17s,t 18s,t 19s,t	Ⅰ−2	(17.0)	7.4	0.4
NR02		ⅠH19c他	−	−	−	−
SD01	89A SD01	ⅠC16s,t 17r,s 18,19r	Ⅲ	(16.3)	4.4	0.7
SD02	89B SD01	ⅠE18c,d 19b 20a ⅡE1a	Ⅱ	(22.8)	2.1	0.8

遺構番号	旧遺構番号	グリッド	時期	長さ (m)	最大幅 (m)	深さ (m)
SD03	89B SD02	ⅠE18e 19d 20c ⅡE1b	Ⅱ−2	(21.5)	1.4	0.4
SD04	89B SD03	ⅠE19i 20g ⅡE1f, g	Ⅱ−2	(22.0)	1.0	0.8
SD05	89B SD04	ⅠE19h, i 20i ⅡE1i 2i, j	Ⅱ−2	(19.0)	2.0	1.2
SD06	89B SD05	ⅠE19, 20q ⅡE1o, p 21, m 2n	Ⅴ−1	(31.5)	2.4	0.8
SD07	89B SD06	ⅡF1c 2b, c	−	(9.0)	0.6	0.1
SD08	90A SD06	ⅠF20s ⅡF1, 2	Ⅱ−2	(15.5)	2.0	1.2
SD09	90A SD05	ⅡF1s, 2t ⅡG3a, 4b	Ⅱ−2	(24.0)	2.0	0.7
SD10	90A SD04	ⅠG19, 20c ⅡG1, 2, 3c ⅡG4d	Ⅱ−2	(30.0)	2.0	0.8
SD11	90A SD03	ⅠG19d, e 20d, e ⅡG1, 2d, e 3e 4, 5f	Ⅱ−2	(33.0)	2.6	1.0
SD12	90B SD09 90B SD08	ⅠG19, 20i ⅡG1i, j 2, 3j	Ⅴ−1	(17.0)	3.3	0.3
SD13	90A SD02 90B SD06	ⅡG1m, n 21, m 3j, k 4i, j 5h	Ⅴ−1	(43.0)	2.5	0.2
SD14	90B SD07	ⅠG20o, p, q ⅡG1m, n 2k, l 3, 4j 5i	Ⅴ−1	(55.0)	2.0	0.4
SD15	90B SD05	ⅡGIm, n 2k, l 3J, K	Ⅴ−1	(22.0)	1.0	0.2
SD16	90B SD04	ⅠG20q, r ⅡG1n, o, p 2l, m 3k 4, 5j	Ⅴ−1	50.5	1.9	0.3
SD17	90B SD03	ⅡG1p, q 2n, o ⅡG 4k, l ⅡG ⅡG 41, 5k	Ⅴ−1	(46.8)	2.2	0.3
SD19	90B SD11	ⅠG19r, s 20o, p, q	Ⅴ−1	(24.4)	5.3	0.8

土　坑

遺構番号	旧遺構番号	グリッド	時期	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
SK 01	89A SK 07	ⅠC16n	(Ⅰ−2)	235	135	20
SK 02	89A SK 08	ⅠD16a	Ⅰ−2	155	150	47
SK 03	89A SK 69	ⅠD16c	Ⅰ−2	160	85	57
SK 04	89A SK 68	ⅠD16c, d	Ⅰ−2	80	55	22
SK 05	89A SK 65	ⅠD16c	Ⅰ−2	70	50	42
SK 06	89A SK 64	ⅠD16d	Ⅰ	70	60	49
SK 07	89A SK 61	ⅠD16, 17c, d	Ⅰ−2	70	60	37
SK 08	89A SK 62	ⅠD16, 17d	Ⅴ−1	85	75	39
SK 09	89A SK 75	ⅠD16d	Ⅰ−2	100	75	56
SK 10	89A SK 74	ⅠD16d	Ⅰ−2	125	120	57
SK 11	89A SK 63	ⅠD16, 17d	Ⅰ−2	85	85	45
SK 12	89A SK 26	ⅠD17c	Ⅰ−2	95	75	28
SK 13	89A SK 50	ⅠD17d	Ⅰ−2	125	90	42
SK 14	89A SK 51	ⅠD17d	Ⅰ−2	130	100	36
SK 15	89A SK 52	ⅠD17d	Ⅰ−2	80	70	26
SK 16	89A SK 25	ⅠD18c	Ⅰ−2	75	75	51
SK 17	89A SK 38	ⅠD18d	−	135	75	52
SK 18	89A SK 40	ⅠD18d	Ⅰ−2	80	55	43
SK 19	89A SK 41	ⅠD18d	−	55	55	26
SK 20	89A SK 49	ⅠD18d	Ⅰ−2	75	50	52
SK 21	89A SK 42	ⅠD18d	Ⅰ−2	40	40	22
SK 22	89A SK 39	ⅠD18d	Ⅰ−2	60	45	46
SK 23	89A SK 37	ⅠD18d	Ⅰ−2	75	45	45
SK 24	89A SK 36	ⅠD18d	−	145	105	58
SK 25	89A SK 43	ⅠD18d	−	70	60	62
SK 26	89A SK 57	ⅠD18e	−	75	70	−
SK 27	89A SK 56	ⅠD18e	−	65	60	31
SK 28	89A SK 55	ⅠD18e	Ⅴ−1	145	110	51
SK 29	89A SK 45	ⅠD19c		−	70	29
SK 30	89A SK 20	ⅠD19c	Ⅰ−2	125	90	52
SK 31	89A SK 19	ⅠD19c	Ⅰ−2	95	65	46
SK 32	89A SK 18	ⅠD19, 20c	Ⅰ−2	145	90	52
SK 33	89A SK 10	ⅠD20c	Ⅰ−2	70	50	35
SK 34	89A SK 09	ⅠD20c	Ⅰ−2	120	100	20
SK 35	89A SK 12	ⅠD20c	Ⅰ−2	70	50	30
SK 36	89A SK 13	ⅠD20c	Ⅰ−2	85	75	46
SK 37	89A SK 14	ⅠD20c	Ⅰ−2	70	65	39
SK 38	89A SK 17	ⅠD19, 20c	Ⅰ−2	90	75	37
SK 39	89A SK 16	ⅠD19c	Ⅴ−1	60	60	42
SK 40	89A SK 27	ⅠD19d	Ⅰ−2	90	75	69
SK 41	89A SK 35	ⅠD18, 19d	Ⅴ−1	120	115	44
SK 42	89A SK 34	ⅠD19d		−	75	30
SK 43	89A SK 33	ⅠD19d	Ⅰ−2	150	75	46
SK 44	89A SK 31	ⅠD19d	Ⅰ−2	45	40	39
SK 45	89A SK 30	ⅠD20d	Ⅰ−2	185	130	33
SK 46	89A SK 77	ⅠD16e	−	120	35	11
SK 47	89A SK 78	ⅠD16e	−	155	35	23
SK 48	89A SK 60	ⅠD18f	−	95	80	28
SK 49	89A SK 58	ⅠD19f, g	Ⅴ−1	200	155	14
SK 50	89A SK 53	ⅠD20f	−	140	130	43
SK 51	89A SK 54	ⅠD20f	−	80	65	21
SK 52	89A SK 70	ⅠD16c	Ⅰ−2	60	55	51
SK 53	89A SK 80	ⅠD16g	Ⅰ−2	105	80	33
SK 54	89A SK 89	ⅠD19, 20i	−	105	55	22
SK 55	89A SK 83	ⅠD20h	−	50	50	27
SK 56	89A SK 87	ⅠD20h, i	Ⅴ−1	180	160	22
SK 57	89A SK 86	ⅠD20h, i	Ⅴ−2	270	160	27
SK 58	89A SK 117	ⅠD19i	−	50	45	29
SK 59	89A SK 88	ⅠD20i	−	60	50	18
SK 60	89A SK 102	ⅠD20i	Ⅰ−2	65	60	53

遺構番号	旧遺構番号	グリッド	時期	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
SK 61	89A SK109	ⅠD17h	−	70	60	29
SK 62	89A SK111	ⅠD16i	Ⅴ	45	40	34
SK 63	89A SK115	ⅠD16i	−	50	50	47
SK 64	89A SK101	ⅠD18h	−	135	120	13
SK 65	89A SK95	ⅠD18i	−	65	55	33
SK 66	89A SK96	ⅠD18i	−	65	50	53
SK 67	89A SK98	ⅠD18i	−	50	45	46
SK 68	89A SK99	ⅠD18i	Ⅴ−1	40	40	42
SK 69	89A SK100	ⅠD18i	Ⅴ−2	215	155	28
SK 70	89A SK103	ⅠD18i	Ⅴ−1	105	55	6
SK 71	89A SK104	ⅠD18i	Ⅴ−1	50	40	44
SK 72	89A SK105	ⅠD18i	Ⅴ	80	60	46
SK 73	89A SK107	ⅠD18i, j	−	60	50	46
SK 74	89A SK119	ⅠD17, 18j	Ⅴ−1	105	95	38
SK 75	89A SK121	ⅠD17j	Ⅴ−1	70	50	30
SK 76	89A SK122	ⅠD17j	Ⅴ−1	35	35	9
SK 77	89A SK123	ⅠD17j	−	60	50	35
SK 78	89A SK272	ⅠD16, 17k	Ⅴ−1	−	30	25
SK 79	89A SK150	ⅠD17j	Ⅴ−1	55	45	39
SK 80	89A SK160	ⅠD17k	Ⅴ−1	130	60	46
SK 81	89A SK151	ⅠD17k	−	50	45	38
SK 82	89A SK149	ⅠD17j, k	−	130	120	14
SK 83	89A SK161	ⅠD17k	Ⅴ−1	55	50	35
SK 84	89A SK152	ⅠD17k	−	75	65	35
SK 85	89A SK162	ⅠD17k	Ⅴ−1	40	40	27
SK 86	89A SK155	ⅠD17k	−	50	40	20
SK 87	89A SK156	ⅠD17k	Ⅴ−1	55	45	16
SK 88	89A SK158	ⅠD17k	Ⅴ−1	70	70	25
SK 89	89A SK157	ⅠD17k	−	55	45	35
SK 90	89A SK164	ⅠD17k	−	35	35	25
SK 91	89A SK200	ⅠD17l	−	50	50	34
SK 92	89A SK192	ⅠD17l	Ⅴ−1	105	65	37
SK 93	89A SK159	ⅠD17k	−	100	95	39
SK 94	89A SK193	ⅠD17l	Ⅴ−1	125	115	27
SK 95	89A SK610	ⅠD17l	Ⅴ−1	105	−	10
SK 96	89A SK194	ⅠD17l	Ⅴ−1	50	45	26
SK 97	89A SK611	ⅠD17l	Ⅴ−1	−	−	30
SK 98	89A SK198	ⅠD17l	−	−	30	35
SK 99	89A SK197	ⅠD17l	Ⅴ−1	60	−	41
SK100	89A SK196	ⅠD17l	−	130	125	26
SK101	89A SK199	ⅠD17l	Ⅴ−1	55	50	26
SK102	89A SK203	ⅠD17l	Ⅴ−1	50	40	37
SK103	89A SK204	ⅠD17l	−	40	35	28
SK104	89A SK205	ⅠD17l, m	Ⅰ−2	50	50	29
SK105	89A SK207	ⅠD17m	Ⅴ−1	70	60	31
SK106	89A SK208	ⅠD17m	Ⅴ−1	105	50	30
SK107	89A SK125	ⅠD17j	Ⅴ−2	95	70	40
SK108	89A SK132	ⅠD18j	−	60	60	34
SK109	89A SK130	ⅠD18j	Ⅴ−1	65	60	26
SK110	89A SK131	ⅠD18j	Ⅴ−1	85	65	53
SK111	89A SK128	ⅠD18j	−	35	30	32
SK112	89A SK127	ⅠD18j	Ⅴ−1	55	50	46
SK113	89A SK126	ⅠD18j	Ⅴ−1	70	40	41
SK114	89A SK129	ⅠD18j	Ⅴ−1	60	60	21
SK115	89A SK172	ⅠD18k	−	115	100	36
SK116	89A SK171	ⅠD18k	Ⅴ−1	110	100	47
SK117	89A SK147	ⅠD20j	−	35	30	21
SK118	89A SK146	ⅠD20j	−	105	70	39
SK119	89A SK145	ⅠD20j	−	30	30	30
SK120	89A SK144	ⅠD20j	−	65	45	19

遺構番号	旧遺構番号	グリッド	時期	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
SK121	89A SK142	ⅠD19j	−	80	55	22
SK122	89A SK141	ⅠD19j	−	235	220	30
SK123	89A SK139	ⅠD19j	−	40	35	7
SK124	89A SK137	ⅠD19j	V−1	35	35	38
SK125	89A SK138	ⅠD19j	−	30	30	29
SK126	89A SK180	ⅠD19k	−	80	65	28
SK127	89A SK184	ⅠD19k	V−1	80	75	39
SK128	89A SK168	ⅠD18k	V−1	45	45	58
SK129	89A SK167	ⅠD18k	V−1	45	35	29
SK130	89A SK169	ⅠD18k	V−1	20	20	29
SK131	89A SK170	ⅠD18k	−	65	55	28
SK132	89A SK174	ⅠD18k	V−1	85	−	51
SK133	89A SK175	ⅠD18k	V−1	55	45	46
SK134	89A SK179	ⅠD18k	−	50	50	40
SK135	89A SK181	ⅠD19k	−	75	65	32
SK136	89A SK189	ⅠD19k	−	50	35	44
SK137	89A SK188	ⅠD19k, l	−	90	85	23
SK138	89A SK225	ⅠD19l	−	40	35	35
SK139	89A SK226	ⅠD19l	V−1	120	100	39
SK140	89A SK230	ⅠD20l	V−1	70	50	24
SK141	89A SK191	ⅠD20j	V−1	30	25	19
SK142	89A SK580	ⅠD20k	V−1	75	60	43
SK143	89A SK213	ⅠD18l	V−1	40	35	33
SK144	89A SK219	ⅠD18l	−	55	50	18
SK145	89A SK220	ⅠD18l	V−1	60	55	32
SK146	89A SK222	ⅠD18l	V−1	55	45	33
SK147	89A SK221	ⅠD18l	V−1	45	35	35
SK148	89A SK235	ⅠD18m	−	70	65	31
SK149	89A SK236	ⅠD18m	−	75	55	45
SK150	89A SK245	ⅠD18m	Ⅱ	75	65	32
SK151	89A SK283	ⅠD18m	V−1	135	75	48
SK152	89A SK284	ⅠD18m	−	25	25	13
SK153	89A SK285	ⅠD18m	V−1	35	25	16
SK154	89A SK371	ⅠD18o	V−1	−	30	17
SK155	89A SK288	ⅠD18n	V−1	75	65	49
SK156	89A SK237	ⅠD18m	−	45	−	30
SK157	89A SK239	ⅠD18m	V−1	60	45	31
SK158	89A SK241	ⅠD18m	−	35	−	10
SK159	89A SK243	ⅠD18m	V−1	35	35	37
SK160	89A SK242	ⅠD18m	−	70	55	32
SK161	89A SK244	ⅠD18m	−	65	50	43
SK162	89A SK588	ⅠD18, 19m	−	60	60	43
SK163	89A SK247	ⅠD19m	−	30	25	28
SK164	89A SK249	ⅠD19m	V−1	50	45	16
SK165	89A SK251	ⅠD19m	−	25	20	20
SK166	89A SK252	ⅠD19m	−	30	30	31
SK167	89A SK253	ⅠD19m	−	45	35	21
SK168	89A SK254	ⅠD19m	Ⅰ−1	45	25	21
SK169	89A SK255	ⅠD19m	−	40	35	49
SK170	89A SK256	ⅠD19m	V−1	30	25	23
SK171	89A SK257	ⅠD20m	V−1	55	50	37
SK172	89A SK258	ⅠD20m	−	35	35	18
SK173	89A SK259	ⅠD20m	−	35	30	12
SK174	89A SK260	ⅠD20m	−	50	35	11
SK175	89A SK262	ⅠD20m	V−1	45	45	28
SK176	89A SK264	ⅠD20n	−	45	40	23
SK177	89A SK265	ⅠD20n	V−1	30	30	22
SK178	89A SK266	ⅠD20n	V−1	50	35	24
SK179	89A SK267	ⅠD20n	−	25	20	4
SK180	89A SK268	ⅠD20n	−	30	25	4

遺構番号	旧遺構番号	グリッド	時期	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
SK181	89A SK263	ⅠD20n	Ⅴ−1	50	35	34
SK182	89A SK273	ⅠD20o	Ⅴ−1	30	25	19
SK183	89A SK274	ⅠD20o	−	60	50	38
SK184	89A SK275	ⅠD20o	−	40	35	37
SK185	89A SK435	ⅠD20o	Ⅴ−1	30	20	23
SK186	89A SK271	ⅠD20n	Ⅴ−1	45	40	23
SK187	89A SK362	ⅠD19n	Ⅴ−1	40	35	24
SK188	89A SK363	ⅠD19n	Ⅳ・Ⅴ	70	40	25
SK189	89A SK436	ⅠD18, 19, 20n, o	Ⅴ−1	510	450	7
SK190	89A SK554	ⅠD19n	−	−	25	12
SK191	89A SK555	ⅠD19n	−	40	30	33
SK192	89A SK553	ⅠD19n	Ⅴ−1	25	20	12
SK193	89A SK550	ⅠD18n	Ⅴ−1	25	25	24
SK194	89A SK573	ⅠD18o	Ⅴ−1	45	35	31
SK195	89A SK559	ⅠD19o	Ⅴ−1	35	30	15
SK196	89A SK560	ⅠD19o	Ⅴ−1	20	15	16
SK197	89A SK558	ⅠD19o	Ⅴ−1	−	60	34
SK198	89A SK557	ⅠD19o	−	45	45	22
SK199	89A SK602	ⅠD19o	Ⅴ−1	−	−	28
SK200	89A SK577	ⅠD19n	Ⅴ−1	40	30	31
SK201	89A SK576	ⅠD19n	Ⅴ−1	40	−	35
SK202	89A SK316	ⅠD18n	−	30	30	8
SK203	89A SK315	ⅠD18n	Ⅴ−1	30	25	22
SK204	89A SK311	ⅠD18n	Ⅴ−1	55	30	40
SK205	89A SK312	ⅠD18n	−	65	45	35
SK206	89A SK314	ⅠD18n	Ⅴ−1	65	60	36
SK207	89A SK590	ⅠD18n	Ⅰ−2	50	45	46
SK208	89A SK607	ⅠD18n	−	40	−	5
SK209	89A SK606	ⅠD18n	−	35	−	8
SK210	89A SK340	ⅠD18n	Ⅴ−1	30	30	10
SK211	89A SK341	ⅠD18n	Ⅴ−1	55	50	30
SK212	89A SK318	ⅠD18n	Ⅴ−1	60	50	24
SK213	89A SK339	ⅠD18n, o	Ⅴ−1	55	40	32
SK214	89A SK309	ⅠD18n	Ⅴ−1	50	35	34
SK215	89A SK310	ⅠD18n	Ⅴ−1	40	35	51
SK216	89A SK306	ⅠD18n	Ⅴ−1	−	40	23
SK217	89A SK307	ⅠD18n	−	40	35	35
SK218	89A SK308	ⅠD18n	Ⅴ−1	−	30	11
SK219	89A SK304	ⅠD18n	Ⅴ−1	45	40	24
SK220	89A SK305	ⅠD18n	Ⅴ−1	55	55	24
SK221	89A SK319	ⅠD18n	Ⅴ−1	35	30	30
SK222	89A SK320	ⅠD18n	−	55	45	27
SK223	89A SK321	ⅠD18n	Ⅴ−1	35	30	22
SK224	89A SK295	ⅠD18n	−	25	20	60
SK225	89A SK296	ⅠD18n	Ⅴ−1	35	30	60
SK226	89A SK301	ⅠD18n	Ⅴ−1	−	40	8
SK227	89A SK302	ⅠD18n	Ⅳ	55	45	13
SK228	89A SK303	ⅠD18n	Ⅴ−1	45	40	27
SK229	89A SK292	ⅠD17n	Ⅴ−1	50	−	34
SK230	89A SK293	ⅠD17n	Ⅴ−1	55	50	63
SK231	89A SK290	ⅠD17n	Ⅴ−1	45	40	31
SK232	89A SK291	ⅠD17n	Ⅴ−1	35	35	21
SK233	89A SK297	ⅠD17n	Ⅴ−1	35	30	21
SK234	89A SK298	ⅠD17n	Ⅴ−1	45	45	26
SK235	89A SK299	ⅠD17n	Ⅴ−1	35	30	32
SK236	89A SK300	ⅠD17n	Ⅴ−1	55	50	45
SK237	89A SK327	ⅠD17o	−	40	35	27
SK238	89A SK325	ⅠD17o	−	40	40	25
SK239	89A SK326	ⅠD17o	Ⅴ−1	35	−	28

遺構番号	旧遺構番号	グリッド	時期	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
SK240	89A SK323	ⅠD17, 18o	Ⅴ−1	40	35	31
SK241	89A SK328	ⅠD17o	Ⅴ−1	85	70	42
SK242	89A SK599	ⅠD17o	Ⅴ−1	45	40	24
SK243	89A SK600	ⅠD17o	Ⅴ−1	65	45	15
SK244	89A SK391	ⅠD17o, p	−	45		30
SK245	89A SK329	ⅠD18o	−	30	30	33
SK246	89A SK330	ⅠD18o	Ⅴ−1	55	50	35
SK247	89A SK331	ⅠD18o	Ⅴ−1	55	45	37
SK248	89A SK333	ⅠD18o	Ⅴ−1	25	25	26
SK249	89A SK591	ⅠD18o	−	35	25	29
SK250	89A SK336	ⅠD18o	Ⅴ−1	45	45	26
SK251	89A SK337	ⅠD18o	Ⅴ−1	45	40	51
SK252	89A SK342	ⅠD18n	Ⅴ−1	35	35	45
SK253	89A SK343	ⅠD18n	−	40	35	36
SK254	89A SK345	ⅠD18o	Ⅴ−1	45	40	23
SK255	89A SK344	ⅠD18o	−	40	20	21
SK256	89A SK346	ⅠD18o	Ⅴ−1	60	55	48
SK257	89A SK347	ⅠD18o	Ⅴ−1	−	35	20
SK258	89A SK348	ⅠD18o	−	45	35	20
SK259	89A SK352	ⅠD18o	−	35	35	18
SK260	89A SK353	ⅠD18o	−	30	25	16
SK261	89A SK356	ⅠD18o	Ⅴ−1	40	35	26
SK262	89A SK355	ⅠD18o	Ⅴ−1	45	−	18
SK263	89A SK354	ⅠD18o	Ⅴ−1	40	30	34
SK264	89A SK358	ⅠD18, 19o	Ⅳ・Ⅴ	45	35	43
SK265	89A SK359	ⅠD19o	Ⅴ−1	45	40	29
SK266	89A SK594	ⅠD19o	Ⅴ−1	65	50	34
SK267	89A SK357	ⅠD18, 19o	−	50	40	28
SK268	89A SK368	ⅠD18o	Ⅴ−1	25	20	17
SK269	89A SK367	ⅠD19o	Ⅴ−1	30	20	21
SK270	89A SK366	ⅠD19o	Ⅴ−1	40	35	27
SK271	89A SK277	ⅠD20o	−	30	25	25
SK272	89A SK423	ⅠD20o	Ⅴ−1	30	30	18
SK273	89A SK424	ⅠD20o	Ⅴ−1	40	40	24
SK274	89A SK538	ⅠD20p	Ⅴ−1	35	30	31
SK275	89A SK427	ⅠD20o	Ⅴ−1	55	45	20
SK276	89A SK429	ⅠD20o	Ⅴ−1	65	60	43
SK277	89A SK507	ⅠD20o	Ⅴ−1	40	35	37
SK278	89A SK506	ⅠD20p	Ⅴ−1	35	30	30
SK279	89A SK510	ⅠD20p	Ⅴ−1	40	35	32
SK280	89A SK504	ⅠD20p	Ⅴ−1	40	35	22
SK281	89A SK514	ⅠD20p	Ⅴ−1	55	45	40
SK282	89A SK520	ⅠD20p	Ⅴ−1	50	45	16
SK283	89A SK528	ⅠD20p	−	45	30	25
SK284	89A SK529	ⅠD20p	Ⅴ−1	50	40	41
SK285	89A SK525	ⅠD20p	Ⅴ−1	55	45	27
SK286	89A SK523	ⅠD20p	−	65	55	19
SK287	89A SK524	ⅠD20p	Ⅴ−1	−	60	40
SK288	89A SK499	ⅠD20p	Ⅴ−1	70	65	39
SK289	89A SK501	ⅠD19, 20p	Ⅴ−1	70	55	41
SK290	89A SK500	ⅠD19, 20p	Ⅴ−1	50	40	39
SK291	89A SK496	ⅠD19, 20p	Ⅴ−1	70	−	46
SK292	89A SK495	ⅠD19p	Ⅴ−1	65	60	39
SK293	89A SK534	ⅠD20p	−	35	30	22
SK294	89A SK535	ⅠD20p	−	45	35	26
SK295	89A SK536	ⅠD20p	Ⅴ−1	25	20	29
SK296	89A SK533	ⅠD20p	Ⅴ−1	50	30	34
SK297	89A SK532	ⅠD20p	Ⅴ−1	30	25	16
SK298	89A SK531	ⅠD20p	Ⅴ−1	45	40	43
SK299	89A SK537	ⅠD20p	Ⅴ−1	50	40	29

遺構番号	旧遺構番号	グリッド	時期	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
SK300	89A SK479	ⅠD19o	Ⅴ−1	35	30	23
SK301	89A SK480	ⅠD19p	Ⅴ−1	40	35	27
SK302	89A SK481	ⅠD19p	−	40	30	29
SK303	89A SK546	ⅠD19p	Ⅴ−2	50	50	34
SK304	89A SK483	ⅠD19p	Ⅴ−1	45	35	27
SK305	89A SK484	ⅠD19p	Ⅴ−1	40	30	32
SK306	89A SK488	ⅠD19p	Ⅴ−1	110	80	26
SK307	89A SK491	ⅠD19p	Ⅴ−1	40	30	34
SK308	89A SK470	ⅠD19o	Ⅴ−1	45	40	−
SK309	89A SK463	ⅠD19p	Ⅴ−1	35	35	30
SK310	89A SK459	ⅠD19p	Ⅴ−1	−	40	26
SK311	89A SK461	ⅠD19p	Ⅴ−1	35	35	24
SK312	89A SK462	ⅠD19p	Ⅴ−1	30	25	20
SK313	89A SK456	ⅠD19p	Ⅴ−1	20	20	30
SK314	89A SK416	ⅠD19p	−	35	30	38
SK315	89A SK458	ⅠD19p	Ⅴ−1	50	45	29
SK316	89A SK455	ⅠD19p	Ⅴ−1	30	30	24
SK317	89A SK450	ⅠD19p	Ⅴ−1	25	20	21
SK318	89A SK453	ⅠD19p	−	35	35	11
SK319	89A SK452	ⅠD19p	−	40	40	17
SK320	89A SK451	ⅠD19p	Ⅴ−1	35	35	19
SK321	89A SK447	ⅠD19p	Ⅴ−1	30	30	16
SK322	89A SK440	ⅠD18p	Ⅴ−1	50	45	38
SK323	89A SK446	ⅠD18, 19p	−	30	30	24
SK324	89A SK448	ⅠD19p	Ⅴ−1	75	60	36
SK325	89A SK442	ⅠD18p	Ⅴ−1	−	25	28
SK326	89A SK413	ⅠD18p	Ⅴ−1	40	30	28
SK327	89A SK443	ⅠD19p	Ⅴ−1	30	30	23
SK328	89A SK444	ⅠD19p	−	−	20	22
SK329	89A SK414	ⅠD18p	Ⅴ−1	45	40	32
SK330	89A SK415	ⅠD19p	Ⅴ−1	50	40	34
SK331	89A SK418	ⅠD19p	Ⅳ・Ⅴ	−	−	−
SK332	89A SK422	ⅠD19o	Ⅴ−1	50	40	38
SK333	89A SK417	ⅠD18p	−	25	25	24
SK334	89A SK419	ⅠD18o	Ⅴ−1	50	40	38
SK335	89A SK420	ⅠD18o	Ⅴ−1	25	25	26
SK336	89A SK421	ⅠD18o	Ⅴ−1	30	20	24
SK337	89A SK370	ⅠD18o	Ⅴ−1	25	25	36
SK338	89A SK373	ⅠD18o	Ⅴ−1	−	25	28
SK339	89A SK374	ⅠD18o	Ⅴ−1	30	30	22
SK340	89A SK375	ⅠD18o	Ⅴ−1	55	−	35
SK341	89A SK376	ⅠD18o	Ⅴ−1	40	30	26
SK342	89A SK378	ⅠD18o	Ⅳ	50	45	26
SK343	89A SK377	ⅠD18o	Ⅴ−1	50	45	34
SK344	89A SK379	ⅠD18o	Ⅴ−1	35	35	28
SK345	89A SK380	ⅠD18o	Ⅴ−1	50	45	37
SK346	89A SK381	ⅠD18o	Ⅴ−1	60	35	34
SK347	89A SK437	ⅠD18p	−	310	290	25
SK348	89A SK595	ⅠD18p	Ⅴ−1	40	35	12

その他

遺構番号	旧遺構番号	グリッド	時期	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
SX 01	89A ST 01	ⅠC15r, 16s, 15t, 16t, ⅠD16a	−	−	−	−

2．遺物一覧表

単位：cm

縄文土器

図版番号	調査区	登録番号	遺構	グリッド	層位	器形	部位	器高	口径	胴径	底径
10－1	89A	E－1	NRO1	ⅠC16t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
2	89A	E－2	NRO1	ⅠC16t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
3	89A	E－3	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
4	89A	E－4	NRO1	ⅠC16s	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
5	89A	E－5	NRO1	ⅠC16t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
6	89A	E－6	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
7	89A	E－7	NRO1	ⅠC19t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
8	89A	E－8	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
9	89A	E－9	NRO1	ⅠC18s・t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
10	89A	E－10	NRO1	ⅠC19t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
11	89A	E－11	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
12	89A	E－12	NRO1	ⅠC19t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
13	89A	E－13	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
14	89A	E－14	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
15	89A	E－15	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
16	89A	E－16	NRO1	ⅠC19t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
17	89A	E－17	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
18	89A	E－18	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
19	89A	E－19	NRO1	ⅠC18s・t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
20	89A	E－20	NRO1	ⅠC19t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
21	89A	E－21	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
22	89A	E－22	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
23	89A	E－23	NRO1	ⅠC19t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
24	89A	E－24	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
25	89A	E－25	NRO1	ⅠC19t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
26	89A	E－26	NRO1	ⅠC19t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
27	89A	E－27	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
28	89A	E－28	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
29	89A	E－29	NRO1	ⅠC19s・t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
30	89A	E－30	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
31	89A	E－31	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
11－32	89A	E－32	NRO1	ⅠC16・17t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
33	89A	E－33	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
34	89A	E－34	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
35	89A	E－35	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
36	89A	E－36	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
37	89A	E－37	NRO1	ⅠC19t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
38	89A	E－38	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
39	89A	E－39	NRO1	ⅠC16t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
40	89A	E－40	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
41	89A	E－41	NRO1	ⅠC17s	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
42	89A	E－42	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
43	89A	E－43	NRO1	ⅠC16・17t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
44	89A	E－44	NRO1	ⅠC18s・t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
45	89A	E－45	NRO1	ⅠC16s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
46	89A	E－46	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
47	89A	E－47	NRO1	ⅠC16s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
48	89A	E－48	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
49	89A	E－49	NRO1	ⅠC16s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
50	89A	E－50	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
51	89A	E－51	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
52	89A	E－52	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
53	89A	E－53	NRO1	ⅠC19s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
54	89A	E－54	NRO1	ⅠC18t	上層	壺	肩部	－	－	－	－
55	89A	E－55	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
56	89A	E－56	NRO1	ⅠC16t	－	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
57	89A	E－57	NRO1	ⅠC16t	下層	壺	口縁部	－	11.7	－	－
58	89A	E－58	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	胴部	－	－	－	－
59	89A	E－59	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	胴部	－	－	－	－

図版番号	調査区	登録番号	遺構	グリッド	層位	器形	部位	器高	口径	胴径	底径
60	89A	E－60	NRO1	ⅠC17t	下層	－	胴部	－	－	－	－
61	89A	E－61	NRO1	ⅠC19s	下層	－	胴部	－	－	－	－
62	89A	E－62	NRO1	ⅠC17t	下層	壺？	肩部	－	－	－	
63	89A	E－63	NRO1	ⅠC18s・t	下層	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
64	89A	E－64	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
65	89A	E－65	NRO1	ⅠC19t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
12－66	89A	E－66	NRO1	ⅠC17t	－	－	胴部	－	－	－	－
67	89A	E－67	NRO1	ⅠC16・17t	下層	－	胴部	－	－	－	－
68	89A	E－68	NRO1	ⅠC18t	上層	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
69	89A	E－69	NRO1	ⅠC18t	下層	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
70	89A	E－70	NRO1	ⅠC18s	下層	－	－	－	－	－	－
71	89A	E－71	NRO1	ⅠC17t	上層	壺	胴部	－	－	－	－
72	89A	E－72	NRO1	ⅠC16t	下層	－	胴部	－	－	－	－
73	89A	E－73	NRO1	ⅠC17s	－	－	胴部	－	－	－	－
74	89A	E－74	NRO1	ⅠC18t	下層	－	胴部	－	－	－	－
75	89A	E－75	NRO1	ⅠC19t	－	浅鉢	胴部	－	－	－	－
76	89A	E－76	NRO1	ⅠC18t	－	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
77	89A	E－77	NRO1	ⅠC16t	下層	浅鉢	胴部	－	－	－	－
78	89A	E－78	NRO1	ⅠC16t	－	浅鉢	胴部	－	－	－	－
79	89A	E－79	NRO1	ⅠC18t	下層	浅鉢	口縁部	－	－	18.3	－
80	89A	E－80	NRO1	ⅠC18t	上層	浅鉢	胴部	－	－	－	－
81	89A	E－81	NRO1	ⅠC17t	－	浅鉢	口縁部	－	－	29.2	－
82	89A	E－82	NRO1	ⅠC18t	下層	浅鉢	胴部	－	－	－	－
83	89A	E－83	NRO1	ⅠC17t	上層	浅鉢	胴部	－	－	－	－
84	89A	E－84	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
85	89A	E－85	NRO1	ⅠC16t	下層	深鉢	胴部	－	－	－	－
86	89A	E－86	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	胴部	－	－	－	－
87	89A	E－87	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	胴部	－	－	－	－
13－88	89A	E－88	NRO1	ⅠC17s	－	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
89	89A	E－89	NRO1	ⅠC18s	下層	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
90	89A	E－90	NRO1	ⅠC17s	－	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
91	89A	E－91	NRO1	ⅠC16s	下層	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
92	89A	E－92	NRO1	ⅠC18s	下層	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
93	89A	E－93	NRO1	ⅠC16s	下層	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
94	89A	E－94	NRO1	ⅠC16s	上層	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
95	89A	E－95	NRO1	ⅠC16s	下層	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
96	89A	E－96	NRO1	ⅠC16s	下層	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
97	89A	E－97	NRO1	ⅠC18t	－	浅鉢	胴部	－	－	－	－
98	89A	E－98	NRO1	ⅠC17s	－	浅鉢	胴部	－	－	－	－
99	89A	E－99	NRO1	ⅠC16s	下層	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
100	89A	E－100	NRO1	ⅠC17s	－	浅鉢	胴部	－	－	－	－
101	89A	E－101	NRO1	ⅠC18s・t	下層	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
102	89A	E－102	NRO1	ⅠC16s	下層	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
103	89A	E－103	NRO1	ⅠC16s	－	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
104	89A	E－104	NRO1	ⅠC17s	下層	浅鉢	胴部	－	－	－	－
105	89A	E－105	NRO1	ⅠC17s	－	浅鉢	胴部	－	－	－	－
106	89A	E－106	NRO1	ⅠC18s	上層	浅鉢	胴部	－	－	－	－
107	89A	E－107	NRO1	ⅠC16t	－	壺	肩部	－	－	－	－
108	89A	E－108	NRO1	ⅠC16t	上層	壺	肩部	－	－	－	－
109	89A	E－109	NRO1	ⅠC18s	－	浅鉢	口縁部	－	10.1	12.5	－
110	89A	E－110	NRO1	ⅠC17s	－	壺	全形	13.4	7.1	13.4	5.3
111	89A	E－111	NRO1	ⅠC17s	－	壺	全形	－	9.4	13.6	－
14－112	89A	E－112	NRO1	ⅠC17s	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
113	89A	E－113	NRO1	ⅠC19s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
114	89A	E－114	NRO1	ⅠC16t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
115	89A	E－115	NRO1	ⅠC19t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
116	89A	E－116	NRO1	ⅠC16s	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
117	89A	E－117	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
118	89A	E－118	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
119	89A	E－119	NRO1	ⅠC16s	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
120	89A	E－120	NRO1	ⅠC16s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－

図版番号	調査区	登録番号	遺構	グリッド	層位	器形	部位	器高	口径	胴径	底径
121	89A	E－121	NRO1	ⅠC16t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
122	89A	E－122	NRO1	ⅠC16t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
123	89A	E－123	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
124	89A	E－124	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
125	89A	E－125	NRO1	ⅠC16s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
126	89A	E－126	NRO1	ⅠC16s	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
127	89A	E－127	NRO1	ⅠC16s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
128	89A	E－128	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
129	89A	E－129	NRO1	ⅠC18s・t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
130	89A	E－130	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
131	89A	E－131	NRO1	ⅠC19t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
132	89A	E－132	NRO1	ⅠC16s	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
133	89A	E－133	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
134	89A	E－134	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
135	89A	E－135	NRO1	ⅠC18s・t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
136	89A	E－136	NRO1	ⅠC19s・t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
137	89A	E－137	NRO1	ⅠC18s	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
138	89A	E－138	NRO1	ⅠC16t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
139	89A	E－139	NRO1	ⅠC18s・t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
140	89A	E－140	NRO1	ⅠC16s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
141	89A	E－141	NRO1	ⅠC17s	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
142	89A	E－142	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
143	89A	E－143	NRO1	ⅠC16s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
15－144	89A	E－144	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	口縁部	－	17.5	－	－
145	89A	E－145	NRO1	ⅠC16t	－	深鉢	口縁部	－	18.3	－	－
146	89A	E－146	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	21.6	－	－
147	89A	E－147	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
148	89A	E－148	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
149	89A	E－149	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
150	89A	E－150	NRO1	ⅠC19s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
151	89A	E－151	NRO1	ⅠC19s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
152	89A	E－152	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
153	89A	E－153	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	肩部	－	－	－	－
154	89A	E－154	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	肩部	－	－	－	－
155	89A	E－155	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	肩部	－	－	－	－
156	89A	E－156	NRO1	ⅠC18s・t	下層	深鉢	肩部	－	－	－	－
157	89A	E－157	NRO1	ⅠC19s・t	上層	深鉢	肩部	－	－	－	－
158	89A	E－158	NRO1	ⅠC19s・t	上層	深鉢	肩部	－	－	－	－
159	89A	E－159	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	肩部	－	－	－	－
160	89A	E－160	NRO1	ⅠC19s・t	上層	深鉢	肩部	－	－	－	－
161	89A	E－161	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	肩部	－	－	－	－
162	89A	E－162	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	肩部	－	－	－	－
163	89A	E－163	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	肩部	－	－	－	－
164	89A	E－164	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	肩部	－	－	－	－
165	89A	E－165	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	肩部	－	－	－	－
166	89A	E－166	NRO1	ⅠC18s・t	下層	深鉢	肩部	－	－	－	－
16－167	89A	E－167	NRO1	ⅠC16t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
168	89A	E－168	NRO1	ⅠC19s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
169	89A	E－169	NRO1	ⅠC19s・t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
170	89A	E－170	NRO1	ⅠC16s	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
171	89A	E－171	NRO1	ⅠC16s	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
172	89A	E－172	NRO1	ⅠC18s	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
173	89A	E－173	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
174	89A	E－174	NRO1	ⅠC19s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
175	89A	E－175	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
176	89A	E－176	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
177	89A	E－177	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
178	89A	E－178	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
179	89A	E－179	NRO1	ⅠC19s・t	上層	深鉢	肩部	－	－	－	－
180	89A	E－180	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	肩部	－	－	－	－
181	89A	E－181	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	肩部	－	－	－	－

図版番号	調査区	登録番号	遺　構	グリッド	層位	器　形	部　位	器　高	口　径	胴　径	底　径
182	89A	E－182	NRO1	ⅠC19s	－	深鉢	口縁部	－	44.6	－	－
183	89A	E－183	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	40.3	－	－
184	89A	E－184	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	口縁部	－	37.0	－	－
17－185	89A	E－185	NRO1	ⅠC16t	－	深鉢	口縁部	－	38.1	－	－
186	89A	E－186	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
187	89A	E－187	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
188	89A	E－188	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	25.2	－	－
189	89A	E－189	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
190	89A	E－190	NRO1	ⅠC19s	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
191	89A	E－191	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	30.8	－	－
192	89A	E－192	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	37.7	－	－
193	89A	E－193	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	39.8	－	－
194	89A	E－194	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	38.1	－	－
195	89A	E－195	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	44.0	－	－
196	89A	E－196	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
197	89A	E－197	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
198	89A	E－198	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
199	89A	E－199	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
18－200	89A	E－200	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	20.1	－	－
201	89A	E－201	NRO1	ⅠC16・17t	下層	深鉢	口縁部	－	19.7	－	－
202	89A	E－202	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	29.2	－	－
203	89A	E－203	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	口縁部	－	17.4	－	－
204	89A	E－204	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	19.6	－	－
205	89A	E－205	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	21.9	－	－
206	89A	E－206	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	25.8	－	－
207	89A	E－207	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	口縁部	－	32.3	－	－
208	89A	E－208	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	35.8	－	－
209	89A	E－209	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	23.5	－	－
210	89A	E－210	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	21.8	－	－
211	89A	E－211	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	19.0	－	－
212	89A	E－212	NRO1	ⅠC16s	－	深鉢	口縁部	－	22.0	－	－
213	89A	E－213	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	口縁部	－	29.1	－	－
214	89A	E－214	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	29.4	－	－
215	89A	E－215	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
216	89A	E－216	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
217	89A	E－217	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	口縁部	－	13.3	－	－
218	89A	E－218	NRO1	ⅠC19t	－	深鉢	口縁部	－	13.2	－	－
219	89A	E－219	NRO1	ⅠC19s・t	上層	深鉢	口縁部	－	18.3	－	－
19－220	89A	E－220	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	16.8	－	－
221	89A	E－221	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	15.2	－	－
222	89A	E－222	NRO1	ⅠC18s・t	下層	深鉢	口縁部	－	13.0	－	－
223	89A	E－223	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	15.9	－	－
224	89A	E－224	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	14.6	－	－
225	89A	E－225	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	19.3	－	－
226	89A	E－226	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	20.8	－	－
227	89A	E－227	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	21.3	－	－
228	89A	E－228	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	18.2	－	－
229	89A	E－229	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	18.6	－	－
230	89A	E－230	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	19.8	30.4	－
20－231	89A	E－231	NRO1	ⅠC16t	－	壺	口縁部	－	9.5	－	－
232	89A	E－232	NRO1	ⅠC19s・t	上層	壺	口縁部	－	16.0	－	－
233	89A	E－233	NRO1	ⅠC18t	下層	壺	口縁部	－	14.9	－	－
234	89A	E－234	NRO1	ⅠC18s・t	下層	壺	口縁部	－	14.1	－	－
235	89A	E－235	NRO1	ⅠC18t	下層	壺	口縁部	－	14.4	－	－
236	89A	E－236	NRO1	ⅠC19t	下層	壺	口縁部	－	19.1	－	－
237	89A	E－237	NRO1	ⅠC17t	－	壺	口縁部	－	19.2	－	－
238	89A	E－238	NRO1	ⅠC16t	上層	壺	口縁部	－	17.8	－	－
239	89A	E－239	NRO1	ⅠC18t	下層	壺	口縁部	－	9.7	－	－
240	89A	E－240	NRO1	ⅠC17t	下層	壺	口縁部	－	9.0	－	－
241	89A	E－241	NRO1	ⅠC19s	上層	壺	口縁部	－	11.8	－	－
242	89A	E－242	NRO1	ⅠC18t	－	壺	口縁部	－	17.6	－	－

図版番号	調査区	登録番号	遺構	グリッド	層位	器形	部位	器高	口径	胴径	底径
243	89A	E－243	NRO1	ⅠC17t	上層	壺	口縁部	－	27.6	－	－
244	89A	E－244	NRO1	ⅠC18t	上層	壺	口縁部	－	19.9	－	－
245	89A	E－245	NRO1	ⅠC18t	上層	壺	口縁部	－	19.7	－	－
246	89A	E－246	NRO1	ⅠC19s・t	下層	壺	全形	21.5	14.1	23.7	3.9
21－247	89A	E－247	NRO1	ⅠC18s	上層	鉢	口縁部	－	19.4	－	－
248	89A	E－248	NRO1	ⅠC18s	上層	鉢	口縁部	－	24.7	－	－
249	89A	E－249	NRO1	ⅠC17t	下層	鉢	口縁部	－	26.8	－	－
250	89A	E－250	NRO1	ⅠC17t	下層	鉢	口縁部	－	31.7	－	－
251	89A	E－251	NRO1	ⅠC16t	上層	鉢	口縁部	－	36.0	－	－
252	89A	E－252	NRO1	ⅠC18t	下層	鉢	口縁部	－	37.9	－	－
253	89A	E－253	NRO1	ⅠC17t	下層	鉢	口縁部	－	39.8	－	－
254	89A	E－254	NRO1	ⅠC18t	上層	鉢	口縁部	－	20.5	－	－
255	89A	E－255	NRO1	ⅠC18s	上層	鉢	口縁部	－	16.3	－	－
256	89A	E－256	NRO1	ⅠC18t	下層	鉢	全形	－	14.2	－	4.8
257	89A	E－257	NRO1	ⅠC17s	－	鉢	全形	－	13.9	－	4.6
258	89A	E－258	NRO1	ⅠC18s	－	鉢	全形	－	14.3	－	5.2
22－259	89A	E－259	NRO1	ⅠC18t	上層	鉢	口縁部	－	13.3	－	－
260	89A	E－260	NRO1	ⅠC18s	上層	鉢	口縁部	－	16.0	－	－
261	89A	E－261	NRO1	ⅠC17t	下層	鉢	口縁部	－	19.3	－	－
262	89A	E－262	NRO1	ⅠC18s・t	下層	鉢	口縁部	－	19.6	－	－
263	89A	E－263	NRO1	ⅠC19t	上層	鉢	口縁部	－	21.0	－	－
264	89A	E－264	NRO1	ⅠC17t	－	鉢	口縁部	－	25.2	－	－
265	89A	E－265	NRO1	ⅠC18t	下層	鉢	口縁部	－	25.0	－	－
266	89A	E－266	NRO1	ⅠC16s	－	鉢	口縁部	－	24.5	－	－
267	89A	E－267	NRO1	ⅠC18t	－	鉢	口縁部	－	29.4	－	－
268	89A	E－268	NRO1	ⅠC18t	－	鉢	口縁部	－	－	－	－
269	89A	E－269	NRO1	ⅠC18t	下層	鉢	口縁部	－	－	－	－
270	89A	E－270	NRO1	ⅠC17t	下層	鉢	口縁部	－	36.1	－	－
271	89A	E－271	NRO1	ⅠC16t	上層	鉢	口縁部	－	40.6	－	－
272	89A	E－272	NRO1	ⅠC17t	下層	鉢	口縁部	－	54.3	－	－
273	89A	E－273	NRO1	ⅠC17t	下層	鉢	口縁部	－	－	－	－
23－274	89A	E－274	NRO1	ⅠC18t	下層	鉢	口縁部	－	－	－	－
275	89A	E－275	NRO1	ⅠC19s・t	下層	鉢	口縁部	－	17.1	－	－
276	89A	E－276	NRO1	ⅠC19s	下層	鉢	口縁部	－	16.4	－	－
277	89A	E－277	NRO1	ⅠC19s・t	下層	鉢	口縁部	－	17.0	－	－
278	89A	E－278	NRO1	ⅠC18t	－	鉢	口縁部	－	20.1	－	－
279	89A	E－279	NRO1	ⅠC16t	下層	鉢	口縁部	－	21.0	－	－
280	89A	E－280	NRO1	ⅠC16t	下層	鉢	口縁部	－	22.8	－	－
281	89A	E－281	NRO1	ⅠC16t	下層	鉢	口縁部	－	22.1	－	－
282	89A	E－282	NRO1	ⅠC16t	下層	鉢	口縁部	－	22.0	－	－
283	89A	E－283	NRO1	ⅠC16t	上層	鉢	口縁部	－	24.9	－	－
284	89A	E－284	NRO1	ⅠC16t	上層	鉢	口縁部	－	27.1	－	－
285	89A	E－285	NRO1	ⅠC18s	下層	鉢	口縁部	－	－	－	－
286	89A	E－286	NRO1	ⅠC18t	下層	鉢	口縁部	－	16.1	－	－
287	89A	E－287	NRO1	ⅠC18t	－	鉢	口縁部	－	13.2	－	－
24－288	89A	E－288	NRO1	ⅠC18t	下層	浅鉢	口縁部	－	27.6	－	－
289	89A	E－289	NRO1	ⅠC16・17t	下層	浅鉢	口縁部	－	27.2	－	－
290	89A	E－290	NRO1	ⅠC18s	上層	浅鉢	口縁部	－	20.7	－	－
291	89A	E－291	NRO1	ⅠC16s	－	浅鉢	口縁部	－	24.8	－	－
292	89A	E－292	NRO1	ⅠC18s	下層	浅鉢	口縁部	－	27.3	－	－
293	89A	E－293	NRO1	ⅠC17t	下層	浅鉢	口縁部	－	22.8	－	－
294	89A	E－294	NRO1	ⅠC17t	下層	浅鉢	口縁部	－	19.7	－	－
295	89A	E－295	NRO1	ⅠC17s	－	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
296	89A	E－296	NRO1	ⅠC17t	上層	浅鉢	口縁部	－	42.3	－	－
297	89A	E－297	NRO1	ⅠC17s	－	浅鉢	口縁部	－	－	－	－
298	89A	E－298	NRO1	ⅠC17s	－	浅鉢	胴部	－	－	－	－
299	89A	E－299	NRO1	ⅠC18t	上層	浅鉢	胴部	－	－	－	－
300	89A	E－300	NRO1	ⅠC19s	下層	浅鉢	胴部	－	－	－	－
301	89A	E－301	NRO1	ⅠC17t	－	浅鉢	口縁部	－	19.8	－	－
302	89A	E－302	NRO1	ⅠC17s	－	浅鉢	口縁部	－	20.7	－	－
303	89A	E－303	NRO1	ⅠC19s	上層	浅鉢	口縁部	－	23.7	－	－

図版番号	調査区	登録番号	遺構	グリッド	層位	器形	部位	器高	口径	胴径	底径
304	89A	E－304	NRO1	ⅠC18t	－	浅鉢	全形	11.4	21.8	20.5	4.1
25－305	89A	E－305	NRO1	ⅠC18t	上層	台付鉢	脚部	－	－	－	7.6
306	89A	E－306	NRO1	ⅠC17t	－	台付鉢	脚部	－	－	－	9.4
307	89A	E－307	NRO1	ⅠC16t	上層	台付鉢	脚部	－	－	－	7.6
308	89A	E－308	NRO1	ⅠC17t	下層	台付鉢	脚部	－	－	－	9.1
309	89A	E－309	NRO1	ⅠC16t	－	台付鉢	脚部	－	－	－	8.3
310	89A	E－310	NRO1	ⅠC17t	下層	台付鉢	脚部	－	－	－	10.5
311	89A	E－311	NRO1	ⅠC16t	下層	台付鉢	脚部	－	－	－	10.7
312	89A	E－312	NRO1	ⅠC17t	下層	台付鉢	脚部	－	－	－	10.8
313	89A	E－313	NRO1	ⅠC18s	下層	台付鉢	脚部	－	－	－	5.9
314	89A	E－314	NRO1	ⅠC16s	－	台付鉢	脚部	－	－	－	8.5
315	89A	E－315	NRO1	ⅠC18t	－	台付鉢	脚部	－	－	－	9.0
316	89A	E－316	NRO1	ⅠC18t	－	台付鉢	脚部	－	－	－	8.6
317	89A	E－317	NRO1	ⅠC17t	上層	台付鉢	脚部	－	－	－	7.8
318	89A	E－318	NRO1	ⅠC16t	下層	台付鉢	脚部	－	－	－	7.9
319	89A	E－319	NRO1	ⅠC17t	上層	台付鉢	脚部	－	－	－	9.7
320	89A	E－320	NRO1	ⅠC17t	上層	台付鉢	脚部	－	－	－	10.8
321	89A	E－321	NRO1	ⅠC17t	上層	台付鉢	鉢底部	－	－	－	－
322	89A	E－322	NRO1	ⅠC19t	－	台付鉢	鉢底部	－	－	－	－
323	89A	E－323	NRO1	ⅠC17t	上層	台付鉢	鉢底部	－	－	－	－
324	89A	E－324	NRO1	ⅠC17t	下層	台付鉢	全形	16.0	23.3	－	12.2
325	89A	E－325	NRO1	ⅠC18t	－	台付鉢	全形	16.4	24.7	－	13.9
26－326	89A	E－326	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	29.0	－	－
327	89A	E－327	NRO1	ⅠC19s・t	下層	深鉢	口縁部	－	31.1	－	－
328	89A	E－328	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	33.7	－	－
329	89A	E－329	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	29.3	－	－
330	89A	E－330	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	28.4	－	－
331	89A	E－331	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	26.3	－	－
332	89A	E－332	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	29.4	－	－
333	89A	E－333	NRO1	ⅠC16s・t	－	深鉢	口縁部	－	26.8	－	－
27－334	89A	E－334	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	41.5	－	－
335	89A	E－335	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	46.3	－	－
336	89A	E－336	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	49.2	－	－
337	89A	E－337	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	47.1	－	－
28－338	89A	E－338	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	36.0	－	－
339	89A	E－339	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	38.1	－	－
340	89A	E－340	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	32.4	－	－
341	89A	E－341	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	30.9	－	－
342	89A	E－342	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	30.5	－	－
343	89A	E－343	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	19.6	－	－
344	89A	E－344	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	23.1	－	－
345	89A	E－345	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	26.6	－	－
346	89A	E－346	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	26.8	－	－
347	89A	E－347	NRO1	ⅠC16・17t	下層	深鉢	口縁部	－	27.4	－	－
348	89A	E－348	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	28.8	－	－
29－349	89A	E－349	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	36.9	－	－
350	89A	E－350	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	36.0	－	－
351	89A	E－351	NRO1	ⅠC19s	上層	深鉢	口縁部	－	38.2	－	－
352	89A	E－352	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	37.9	－	－
353	89A	E－353	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	40.0	－	－
354	89A	E－354	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	38.1	－	－
355	89A	E－355	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	41.1	－	－
30－356	89A	E－356	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	39.5	－	－
357	89A	E－357	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	39.9	－	－
358	89A	E－358	NRO1	ⅠC18s・t	下層	深鉢	口縁部	－	39.4	－	－
359	89A	E－359	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	42.3	－	－
360	89A	E－360	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	44.7	－	－
361	89A	E－361	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	44.8	－	－
362	89A	E－362	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	口縁部	－	46.9	－	－
31－363	89A	E－363	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	36.6	－	－
364	89A	E－364	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	36.4	－	－

図版番号	調査区	登録番号	遺構	グリッド	層位	器形	部位	器高	口径	胴径	底径
365	89A	E－365	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	34.1	－	－
366	89A	E－366	NRO1	ⅠC19s・t	下層	深鉢	口縁部	－	34.3	－	－
367	89A	E－367	NRO1	ⅠC18s・t	下層	深鉢	口縁部	－	33.4	－	－
368	89A	E－368	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	32.8	－	－
369	89A	E－369	NRO1	ⅠC19t	下層	深鉢	口縁部	－	24.2	－	－
370	89A	E－370	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	29.9	－	－
371	89A	E－371	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	口縁部	－	30.8	－	－
372	89A	E－372	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	30.5	－	－
373	89A	E－373	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	31.8	－	－
374	89A	E－374	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	32.0	－	－
32－375	89A	E－375	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	38.9	－	－
376	89A	E－376	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	40.3	－	－
377	89A	E－377	NRO1	ⅠC18s・t	下層	深鉢	口縁部	－	43.3	－	－
378	89A	E－378	NRO1	ⅠC18s・t	下層	深鉢	口縁部	－	27.6	－	－
379	89A	E－379	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	27.9	－	－
380	89A	E－380	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	26.7	－	－
381	89A	E－381	NRO1	ⅠC16t	－	深鉢	口縁部	－	34.6	－	－
382	89A	E－382	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	36.6	－	－
33－383	89A	E－383	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	39.4	－	－
384	89A	E－384	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	23.0	－	－
385	89A	E－385	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	口縁部	－	27.4	－	－
386	89A	E－386	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	35.9	－	－
387	89A	E－387	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	37.8	－	－
388	89A	E－388	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	37.7	－	－
389	89A	E－389	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	41.3	－	－
34－390	89A	E－390	NRO1	ⅠC19t	上層	深鉢	口縁部	－	36.8	－	－
391	89A	E－391	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	30.7	－	－
392	89A	E－392	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	33.4	－	－
393	89A	E－393	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	16.4	－	－
394	89A	E－394	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	口縁部	－	21.7	－	－
395	89A	E－395	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	31.3	－	－
396	89A	E－396	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	23.7	－	－
397	89A	E－397	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	36.6	－	－
398	89A	E－398	NRO1	ⅠC19t	上層	深鉢	口縁部	－	36.5	－	－
35－399	89A	E－399	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
400	89A	E－400	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
401	89A	E－401	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
402	89A	E－402	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
403	89A	E－403	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
404	89A	E－404	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
405	89A	E－405	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	21.4	－	－
406	89A	E－406	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	32.7	－	－
407	89A	E－407	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	29.9	－	－
408	89A	E－408	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
409	89A	E－409	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
410	89A	E－410	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
411	89A	E－411	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	30.8	－	－
36－412	89A	E－412	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
413	89A	E－413	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
414	89A	E－414	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
415	89A	E－415	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
416	89A	E－416	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
417	89A	E－417	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
418	89A	E－418	NRO1	ⅠC18s・t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
419	89A	E－419	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
420	89A	E－420	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
421	89A	E－421	NRO1	ⅠC16t	下層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
422	89A	E－422	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	口縁部	－	－	－	－
423	89A	E－423	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	口縁部	－	－	－	－
424	89A	E－424	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	口縁部	－	45.8	－	－
425	89A	E－425	NRO1	ⅠC16s・t	－	深鉢	口縁部	－	31.4	－	－

図版番号	調査区	登録番号	遺構	グリッド	層位	器形	部位	器高	口径	胴径	底径
426	89A	E－426	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	口縁部	－	30.5	－	－
37－427	89A	E－427	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	底部	－	－	－	8.2
428	89A	E－428	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	底部	－	－	－	7.2
429	89A	E－429	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	底部	－	－	－	8.7
430	89A	E－430	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	底部	－	－	－	7.2
431	89A	E－431	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	底部	－	－	－	8.8
432	89A	E－432	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	底部	－	－	－	6.3
433	89A	E－433	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	底部	－	－	－	8.5
434	89A	E－434	NRO1	ⅠC18s・t	下層	深鉢	底部	－	－	－	5.5
435	89A	E－435	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	底部	－	－	－	7.2
436	89A	E－436	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	底部	－	－	－	6.2
437	89A	E－437	NRO1	ⅠC19s	下層	深鉢	底部	－	－	－	6.2
438	89A	E－438	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	底部	－	－	－	6.4
439	89A	E－439	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	底部	－	－	－	6.6
440	89A	E－440	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	底部	－	－	－	7.5
441	89A	E－441	NRO1	ⅠC16s・t	－	深鉢	底部	－	－	－	7.3
442	89A	E－442	NRO1	ⅠC16t	上層	深鉢	底部	－	－	－	8.7
443	89A	E－443	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	底部	－	－	－	8.5
444	89A	E－444	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	底部	－	－	－	4.9
445	89A	E－445	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	底部	－	－	－	6.3
446	89A	E－446	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	底部	－	－	－	7.5
447	89A	E－447	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	底部	－	－	－	7.4
448	89A	E－448	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	底部	－	－	－	6.6
449	89A	E－449	NRO1	ⅠC19s	下層	深鉢	底部	－	－	－	7.1
450	89A	E－450	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	底部	－	－	－	4.4
451	89A	E－451	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	底部	－	－	－	5.5
452	89A	E－452	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	底部	－	－	－	4.4
453	89A	E－453	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	底部	－	－	－	7.2
454	89A	E－454	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	底部	－	－	－	4.4
38－455	89A	E－455	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	底部	－	－	－	6.0
456	89A	E－456	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	底部	－	－	－	5.9
457	89A	E－457	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	底部	－	－	－	7.2
458	89A	E－458	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	底部	－	－	－	5.4
459	89A	E－459	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	底部	－	－	－	7.8
460	89A	E－460	NRO1	ⅠC18t	－	深鉢	底部	－	－	－	6.0
461	89A	E－461	NRO1	ⅠC19t	下層	深鉢	底部	－	－	－	5.3
462	89A	E－462	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	底部	－	－	－	4.8
463	89A	E－463	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	底部	－	－	－	6.4
464	89A	E－464	NRO1	ⅠC18s	上層	深鉢	底部	－	－	－	6.7
465	89A	E－465	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	底部	－	－	－	5.6
466	89A	E－466	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	底部	－	－	－	5.9
467	89A	E－467	NRO1	ⅠC18t	上層	－	底部	－	－	－	3.8
468	89A	E－468	NRO1	ⅠC17t	－	－	底部	－	－	－	3.3
469	89A	E－469	NRO1	ⅠC17t	上層	－	底部	－	－	－	4.0
470	89A	E－470	NRO1	ⅠC18t	上層	－	底部	－	－	－	4.0
471	89A	E－471	NRO1	ⅠC17t	下層	－	底部	－	－	－	5.5
472	89A	E－472	NRO1	ⅠC18t	上層	－	底部	－	－	－	7.4
473	89A	E－473	NRO1	ⅠC17s	－	－	底部	－	－	－	8.8
474	89A	E－474	NRO1	ⅠC17t	上層	－	底部	－	－	－	4.1
475	89A	E－475	NRO1	ⅠC17s	－	－	底部	－	－	－	5.6
476	89A	E－476	NRO1	ⅠC17s	－	－	底部	－	－	－	5.9
477	89A	E－477	NRO1	ⅠC19s	下層	－	底部	－	－	－	5.6
478	89A	E－478	NRO1	ⅠC17s	－	－	底部	－	－	－	5.1
479	89A	E－479	NRO1	ⅠC18t	下層	－	底部	－	－	－	5.4
480	89A	E－480	NRO1	ⅠC18t	下層	－	底部	－	－	－	4.6
481	89A	E－481	NRO1	ⅠC18t	上層	－	底部	－	－	－	5.7
482	89A	E－482	NRO1	ⅠC17t	上層	－	底部	－	－	－	4.6
483	89A	E－483	NRO1	ⅠC18s	－	－	底部	－	－	－	4.5
484	89A	E－484	NRO1	ⅠC17t	上層	－	底部	－	－	－	3.3
485	89A	E－485	NRO1	ⅠC18t	上層	－	底部	－	－	－	2.9
486	89A	E－486	NRO1	ⅠC17t	下層	－	底部	－	－	－	5.8

図版番号	調査区	登録番号	遺　構	グリッド	層位	器　形	部　位	器　高	口　径	胴　径	底　径
487	89A	E－487	NRO1	ⅠC18s・t	下層	－	底部	－	－	－	4.1
488	89A	E－488	NRO1	ⅠC19s	下層	－	底部	－	－	－	4.9
489	89A	E－489	NRO1	ⅠC16s・t	－	－	底部	－	－	－	1.6
39－490	89A	E－490	NRO1	ⅠC18t	－	－	底部	－	－	－	3.8
491	89A	E－491	NRO1	ⅠC19s	下層	深鉢	底部	－	－	－	5.4
492	89A	E－492	NRO1	ⅠC16s	－	深鉢	底部	－	－	－	6.6
493	89A	E－493	NRO1	ⅠC17t	－	深鉢	底部	－	－	－	7.9
494	89A	E－494	NRO1	ⅠC18t	下層	深鉢	底部	－	－	－	7.7
495	89A	E－495	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	底部	－	－	－	6.8
496	89A	E－496	NRO1	ⅠC17s	－	深鉢	底部	－	－	－	7.4
497	89A	E－497	NRO1	ⅠC19t	－	深鉢	底部	－	－	－	9.0
498	89A	E－498	NRO1	ⅠC18t	上層	深鉢	底部	－	－	－	7.9
499	89A	E－499	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	底部	－	－	－	3.7
500	89A	E－500	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	底部	－	－	－	6.3
501	89A	E－501	NRO1	ⅠC17t	下層	深鉢	底部	－	－	－	6.3
502	89A	E－502	NRO1	ⅠC18s	下層	深鉢	底部	－	－	－	7.1
503	89A	E－503	NRO1	ⅠC17t	上層	深鉢	底部	－	－	－	8.1
40－504	89A	E－504	SZO4	ⅠD20c	－	深鉢	口縁部	－	34.1	－	－
505	89A	E－505	SZO6	ⅠD18・19e	－	深鉢	底部	－	－	42.7	7.5
41－506	89A	E－506	SZO6	ⅠD18・19e	－	深鉢	口縁部	－	37.4	－	－
507	89A	E－507	SZO6	ⅠD18・19e	－	深鉢	全形	33.2	31.1	－	7.6
508	89A	E－508	SZO5	ⅠD20d	－	深鉢	底部	－	－	－	6.6
509	89A	E－509	SZO2	ⅠD16c	－	深鉢	口縁部	－	30.1	32.6	－

土製品

図版番号	登録番号	種　類	調査区	遺構(層位)	グリッド	色　調	胎　土	焼　成
42－510	E－510	石冠形土製品	89A	NR01		黒色、明灰黄色	細砂多含	良
511	511	土偶－頭部	89A	SD01(最下層)	IC16s	明黄灰色	細粒砂多含	やや不良
512	512	土偶－腕	89A	NR01(上層)	IC17t	淡茶褐色	細粒砂含	良好
513	513	土偶－腕	89A	検出Ⅰ	ID19c	淡橙色	細粒砂含	良好
514	514	土偶－肩～腕	89A	検出Ⅰ	ID18m	淡茶褐色	やや粗粒砂含	良好
515	515	土偶－足	89A	NR01(下層)	IC17t	淡橙色	細粒砂少量含	良好
516	516	土偶－足	89A	NR01(上層)	IC17t	淡橙色	細粒砂含	良好
517	517	土偶－足	89A	NR01(上層)	IC17t	淡橙色	やや粗粒砂含	良好
518	518	土偶－足	89A	NR01(下層)	IC18s	淡橙色	細粒砂少量含	良好
519	519	土偶－足	89A	NR01(下層)	IC17t	淡茶褐色～淡橙色	やや粗粒砂含	良好
520	520	土偶－足	89A	NR01	IC17s	淡橙色	細粒砂含	良好
43－521	521	土偶－胸部	89A	NR01(上層)	IC19s	淡橙色	細粒砂少量含	良好
522	522	土偶－胴部	89A	検出Ⅰ	ID19f	淡茶褐色	細粒砂含	良好
523	523	土偶(台付甕？)	89A	NR01	IC19t	明茶褐色，一部赤褐色	細粒砂含	やや軟
524	524	土偶(台付甕？)	89A	NR01(下層)	IC18t	明茶褐色	細粒砂含	やや軟
525	525	土偶	89A	検出Ⅰ	ID16d	明黄赤色	砂粒，小礫(1～2mm)含	良好

石　器

図版番号	登録番号	種　類	調査区	遺構(層位)	グリッド	石　材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備　考
44－526	S－1	石鏃	89A	NR01	IC16s	安山岩	1.4	1.3	0.3	0.5	
527	2	石鏃	89A	NR01(下層)	IC16,17t	下呂石	1.5	1.4	0.4	0.6	
528	3	石鏃	89A	NR01	IC18t	安山岩	1.6	1.5	0.4	0.7	
529	4	石鏃	89A	NR01	IC18t	安山岩	1.6	1.7	0.4	0.6	
530	5	石鏃	89A	NR01	IC19t	下呂石	1.7	1.2	0.3	0.5	
531	6	石鏃	89A	NR01	IC18t	下呂石	1.7	1.6	0.3	0.8	
532	7	石鏃	89A	NR01	IC16s	安山岩	1.7	1.7	0.4	0.8	
533	8	石鏃	89A	NR01	IC19t	安山岩	(1.6)	1.6	0.3	0.3	
534	9	石鏃	89A	NR01(下層)	IC18s	チャート	2.0	1.4	0.4	0.8	
535	10	石鏃	89A	NR01	IC19t	安山岩	1.95	1.5	0.3	0.6	
536	11	石鏃	89A	NR01	IC19t	下呂石	2.0	1.7	0.5	1.3	
537	12	石鏃	89A	NR01	IC19t	安山岩	2.2	2.0	0.4	1.3	
538	13	石鏃	89A	NR01	IC19t	下呂石	2.4	1.4	0.4	1.0	
539	14	石鏃	89A	NR01	IC17t	下呂石	2.55	1.9	0.5	1.5	
540	15	石鏃	89A	NR01(下層)	IC18s	チャート	2.4	1.6	0.8	2.0	
541	16	石鏃	89A	NR01	IC19t	安山岩	2.2	1.3	0.3	0.5	
542	17	石鏃	89A	NR01	IC18t	安山岩	1.8	1.8	0.5	0.9	
543	18	石鏃	89A	NR01		下呂石	(1.9)	(1.25)	0.4	0.5	
544	19	石鏃	89A	NR01(最下層)	IC17t	チャート？	2.2	(1.7)	0.3	0.9	

図版番号	登録番号	種　類	調査区	遺構(層位)	グリッド	石　材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備　考
545	S－20	石鏃	89A	NR01(上層)	IC18t	下呂石	2.4	1.9	0.5	1.5	
546	21	石鏃	89A	NR01(最下層)	IC17t	下呂石	(1.8)	(1.6)	0.4	1.1	
547	22	石鏃	89A	NR01	IC19t	安山岩	2.4	1.5	0.3	0.7	
548	23	石鏃	89A	掘り下げ	IC18s	安山岩	(2.4)	(1.5)	0.3	1.0	
549	24	石鏃	89A	NR01	IC18s.t	チャート	2.7	1.4	0.5	1.6	
45－550	25	石鏃	89A	NR01(上層)	IC19s	チャート	(2.6)	1.4	0.5	1.5	
551	26	石鏃	89A	NR01(下層)	IC18s	下呂石	(2.3)	1.8	0.5	1.3	
552	27	石鏃	89A	NR01(上層)	IC18t	下呂石	2.8	2.0	0.4	1.5	
553	28	石鏃	89A	NR01(上層)	IC19s	安山岩	2.6	1.9	0.5	1.3	
554	29	石鏃	89A	NR01	IC18s.t	安山岩	(2.3)	1.9	0.5	1.0	錐か？
555	30	石鏃	89A	NR01(下層)	IC19s.t	安山岩	1.8	1.5	0.4	0.9	
556	31	石鏃	89A	NR01(上層)	IC19s	安山岩	2.0	1.2	0.4	0.8	
557	32	石鏃	89A	NR01(下層)	IC16・17t	安山岩	(1.8)	1.3	0.4	0.7	
558	33	石鏃	89A	NR01(上層)	IC19s	チャート	2.25	1.3	0.5	1.0	
559	34	石鏃	89A	NR01(下層)	IC19s	下呂石	2.4	1.6	0.5	1.0	
560	35	石鏃	89A	NR01	IC19t	溶結凝灰岩	(2.7)	1.7	0.4	1.7	
561	36	石鏃	89A	NR01	IC18t	安山岩	3.1	2.1	0.7	2.8	
562	37	石鏃	89A	NR01(下層)	IC18s	安山岩	2.7	1.3	0.7	2.4	
563	38	石鏃	89A	NR01	IC18t	下呂石	3.0	2.2	0.7	3.0	
564	39	石鏃	89A	NR01	IC18t	安山岩	2.1	1.1	0.6	1.2	
565	40	石鏃	89A	NR01	IC18t	安山岩	3.35	1.0	0.6	1.7	
566	41	石鏃	89A	NR01	IC16s	チャート	3.35	2.3	0.9	6.6	
46－567	42	石錐	89A	NR01	IC17t	安山岩	2.55	1.5	0.6	1.4	
568	43	石錐	89A	NR01(上層)	IC19s	安山岩	3.1	1.3	0.7	2.0	
569	44	石錐	89A	NR01(上層)	IC18s・t	安山岩	(2.4)	1.1	0.7	2.7	
570	45	石錐	89A	NR01(上層)	IC18t	安山岩	(6.1)	1.6	0.7	3.7	
571	46	石錐	89A	NR01(上層)	IC19s	下呂石	3.3	1.9	1.0	4.0	
572	47	石錐	89A	NR01	IC19t	安山岩	2.6	2.0	0.6	2.7	
573	48	石匙	89A	NR01(下層)	IC18s	安山岩	4.65	(5.6)	0.5	9.2	
574	49	石匙	89A	NR01(下層)	IC16・17t	溶結凝灰岩 (流紋岩質)	4.6	3.5	0.7	8.1	
575	50	掻器	89A	NR01	IC18t	チャート	2.45	2.0	0.7	2.9	
576	51	削器	89A	NR01	IC19t	安山岩	2.0	3.8	0.5	4.4	
47－577	52	打製石斧	89A	SD01(下層)	IC16s	結晶片岩	10.1	4.9	2.1	147.6	
578	53	打製石斧	89A	NR01	IC16s	結晶片岩	8.2	3.3	1.3	32.2	
579	54	打製石斧	89A	NR01(下層)	IC19s	塩基性凝灰岩	10.6	4.7	1.5	88.3	
580	55	打製石斧	89A	NR01	IC19t	緑色岩	7.0	4.0	1.2	27.5	
581	56	磨製石斧	89A	NR01(上層)	IC18s	ホルンフェルス	9.6	4.2	1.2	75.4	
582	57	磨製石斧	89A	NR01	IC19t	結晶片岩	7.1	3.4	1.6	50.0	
583	58	磨製石斧	89A	NR01(上層)	IC19t	塩基性凝灰岩	10.0	(3.5)	1.8	93.4	
584	59	磨製石斧	89A	掘り下げ NR01(上層)	IC18t IC18t	塩基性凝灰岩	12.7	2.4	2.1	97.3	
48－585	60	磨製石斧	89A	NR01(下層)	IC18s	塩基性凝灰岩	(5.3)	(5.4)	(2.1)	51.3	
586	61	磨製石斧	89A	NR01(上層)	IC18s	塩基性凝灰岩	5.4	5.4	3.0	123.1	
587	62	磨製石斧	89A	NR01(下層)	IC18s	ハイアロクラスタイト	(9.3)	4.1	1.3	80.0	
588	63	磨製石斧	89A	トレンチ03	IC18t	塩基性凝灰岩	8.2	5.1	3.6	82.1	
589	64	磨製石斧	89A	NR01(下層)	IC17t	塩基性凝灰岩	(12.2)	4.3	3.7	249.8	
590	65	磨製石斧	89A	NR01(上層)	IC16.17t	ハイアロクラスタイト	(9.2)	4.4	2.6	161.3	
591	66	磨製石斧	89A	NR01(下層)	IC17t	塩基性凝灰岩	t9.8.	3.9	2.3	149.5	
592	67	磨製石斧	89A	NR01(下層)	IC17t	ハイアロクラスタイト	(7.85)	4.8	4.1	206.3	敲石に転用
593	68	磨製石斧	89A	NR01(下層)	IC17t	塩基性凝灰岩	(11.2)	4.8	3.9	320.2	
49－594	69	磨製石斧	89A	掘り下げⅡ	IC17t	塩基性凝灰岩	(5.2)	4.4	1.3	48.5	
595	70	磨製石斧	89A	NR01(下層)	IC17t	安山岩	(5.4)	5.4	3.0	98.3	
596	71	磨製石斧	89A	NR01(上層)	IC19t	塩基性凝灰岩	(7.4)	3.9	2.6	154.7	
597	72	磨製石斧	89A	トレンチ03	IC18t	ハイアロクラスタイト	(8.2)	5.1	3.6	223.3	
598	73	磨製石斧	89A	NR01(下層)	IC17t	ハイアロクラスタイト	(11.8)	5.4	2.3	198.8	
599	74	磨製石斧	89A	掘り下げⅡ	IC17t	塩基性凝灰岩	(10.4)	4.8	3.1	234.9	
600	75	磨製石斧	89A	SD01(最下層)	IC16s	ハイアロクラスタイト	(12.1)	4.7	3.2	305.4	
601	76	磨製石斧	89A	NR01(下層)	C17t	塩基性凝灰岩	(9.0)	4.5	3.9	260.4	敲石に転用
50－602	77	磨製石斧	89A	NR01(上層)	IC18s	ハイアロクラスタイト	(6.2)	4.5	3.3	151.4	
603	78	磨製石斧	89A	NR01(上層)	IC18s	ハイアロクラスタイト	(8.4)	(4.0)	(2.5)	81.0	
604	79	磨製石斧	89A	NR01(下層)	IC17t	ハイアロクラスタイト	(6.9)	4.6	4.0	198.8	

図版番号	登録番号	種　類	調査区	遺構(層位)	グリッド	石　材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備　考
605	S－80	磨製石斧	89A	NR01(下層)	IC19s	玄武岩	(8.8)	3.8	2.4	134.6	
606	81	磨製石斧	89A	トレンチ02	IC17t	ハイアロクラスタイト	12.0	5.2	1.4	131.3	
607	82	磨製石斧	89A	NR01(下層)	IC17t	はんれい岩	(10.65)	5.1	4.2	405.1	
608	83	磨製石斧	89A	掘り下げ	IC16t	塩基性凝灰岩	(13.6)	5.2	3.0	317.7	
51－609	84	凹石	89A	NR01(上層)	IC18t	砂質凝灰岩	(10.8)	6.9	5.1	408.2	
610	85	凹石	89A	NR01(上層)	IC18s	凝灰岩	10.6	7.0	(4.3)	374.4	
611	86	凹石	89A	NR01(下層)	IC18s	凝灰岩	(7.8)	6.0	4.0	184.4	
612	87	敲石	89A	NR01	(No.27)	チャート	7.95	4.6	3.4	174.5	
613	88	敲石	89A	NR01	IC16t	コーツァイト	7.8	6.3	3.75	252.5	
52－614	89	不明石製品	89A	NR01	IC17t	凝灰質泥岩	12.6	6.2	2.7	214.5	
615	90	不明石製品	89A	SD01	IC17s	凝灰質泥岩	8.2	5.5	1.4	72.1	
616	91	敲石	89A	NR01(下層)	IC19t	結晶片岩	13.3	3.1	1.8	101.6	
617	92	玉砥石	89A	掘り下げ	IC18t	結晶片岩	(4.3)	(5.5)	1.0	17.7	
618	93	砥石	89A	NR01(上層)	IC18s	細粒砂岩	13.0	6.1	1.3	110.8	
619	94	砥石	89A	NR01(上層)	IC19t	細粒砂岩	10.3	5.2	1.0	77.9	
620	95	砥石	89A	NR01(下層)	IC17t	細粒砂岩	10.1	9.3	1.6	233.8	
621	96	浮子	89A	NR01(下層)	IC18s	軽石	6.5	4.7	3.4	23.7	
622	97	石錘	89A	NR01(上層)	IC18s	コーツァイト	6.4	4.4	3.4	149.3	
623	98	石錘	89A	NR01	IC18s	コーツァイト	7.2	4.5	3.0	137.8	
624	99	不明石製品	89A	包含層掘り下げ	IC16s	コーツァイト	6.9	4.9	2.7	108.9	
625	100	不明石製品	89A	NR01(下層)	IC19s	コーツァイト	4.7	3.5	2.7	66.0	
626	101	不明石製品	89A	NR01		コーツァイト	5.2	3.9	2.1	54.4	
627	102	不明石製品	89A	NR01(下層)	IC17t	コーツァイト	4.8	3.1	1.9	43.2	
628	103	不明石製品	89A	掘り下げ	IC17s	コーツァイト	4.4	3.2	2.3	42.8	
629	104	不明石製品	89A	トレンチ01	IC16s	コーツァイト	4.5	3.9	1.7	41.5	
630	105	不明石製品	89A	NR01		コーツァイト	4.0	3.1	1.7	29.8	
631	106	不明石製品	89A	NR01	IC19s・t	コーツァイト	3.6	2.7	2.0	25.4	
53－632	107	石棒	89A	NR01(上層)	IC18s	結晶片岩	(10.1)	3.7	3.6	222.2	
633	108	石棒(石剣)	89A	SX01	IC16t	玄武岩	(11.0)	4.7	2.5	212.2	
634	109	石棒	89A	掘り下げⅡ	IC17t	結晶片岩	(33.85)	4.6	4.5	948.4	
635	110	石棒	89A	NR01	IC17s	結晶片岩	(24.1)	6.4	4.0	902.4	
636	111	石棒	89A		(No. 20,No. 21)	結晶片岩	29.2	5.8	4.5	1156.4	
54－637	112	石冠	89A	SK01	IC19t	玄武岩	14.4	6.5	3.9	417.4	
638	113	不明石製品	89A	NR01(下層)	IC18s・t	結晶片岩	13.7	4.6	1.0	99.3	
639	114	石棒(石剣)	89A	NR01	(No.8)	安山岩	(10.5)	2.9	(1.4)	58.3	
640	115	石棒	89A	NR01(上層)	IC19s	結晶片岩	(6.7)	2.6	1.6	37.4	
641	116	石棒	89A	NR01(上層)	IC19s	結晶片岩	(6.7)	2.1	1.4	18.9	
642	117	石棒(石刀)	89A	NR01(下層)	IC19s	結晶片岩	(5.0)	2.6	1.7	33.3	
643	118	石棒(石刀)	89A	包含層掘り下げ	IC16s	結晶片岩	(5.9)	2.4	1.7	29.5	
644	119	石棒(石刀)	89A	掘り下げⅡ	IC16s	結晶片岩	(5.45)	3.0	1.9	46.5	
645	120	石棒	89A	NR01(上層)	IC17t	結晶片岩	(5.5)	3.1	2.6	54.9	
646	121	石棒	89A	トレンチ02	IC17s	ハイアロクラスタイト	(6.8)	2.5	2.0	54.7	
647	122	石棒	89A	掘り下げⅡ	IC17t	結晶片岩	(9.3)	2.6	1.8	48.0	
648	123	石棒	89A	NR01(下層)	IC18s	結晶片岩	(7.1)	2.9	1.3	48.4	
55－649	124	石棒(石刀)	89A	NR01(上層)	IC17t	ホルンフェルス	(7.7)	2.6	2.1	68.5	
650	125	石棒(石刀)	89A	NR01	IC16s	結晶片岩	(10.5)	2.8	2.3	106.1	
651	126	石棒(石刀)	89A		(No.22)	結晶片岩	(16.7)	2.8	1.7	146.0	
652	127	石棒(石刀)	89A	掘り下げⅡ	IC17t	塩基性凝灰岩	(11.8)	3.4	2.1	138.3	
653	128	石棒(石刀)	89A	NR01	IC17s	結晶片岩	(5.6)	3.1	2.5	72.0	
654	129	石棒									
655	130	石棒	89A	SD01	IC18r	塩基性凝灰岩	(6.3)	3.9	1.4	56.1	
656	131	石棒	89A	NR01(下層)	IC17t	ハイアロクラスタイト	(6.1)	4.3	2.3	77.7	
657	132	石棒	89A	SX01	IC16t	結晶片岩	(7.45)	4.6	3.4	93.1	
第33図－a	133	石棒	89A	表採	－	結晶片岩	(7.15)	3.15	(2.1)	65.4	
b	134	石棒	89A	上面清掃	－	結晶片岩	(7.6)	3.55	1.48	49.7	
c	135	石棒	89A	NR01(下層)	IC17t	塩基性凝灰岩	(8.1)	3.0	1.2	40.4	
d	136	石棒	89A	SD01(下層)	IC17s	結晶片岩	(6.0)	(2.8)	(1.9)	41.1	
e	137	石棒	89A	掘り下げⅡ	IC16s	塩基性凝灰岩	(11.9)	4.8	4.8	468.2	
第33図－f	138	勺玉	89A	SK18c	ID18c	ヒスイ	3.15	2.05	1.0	9.9	
g	139	臼玉	89A	SK70	ID18i	緑色凝灰岩	1.0		0.7	1.0	
h	140	管玉	89A	SK70	ID18i	緑色凝灰岩	1.25	0.6	0.5	0.8	

弥生土器

図版番号	調査区	登録番号	遺構	グリッド	器高	口径	体径	底径
第35図－1	90A	E－378	SK558・560	ⅡG4a	22.7	7.6	18	8.3
第35図－2	89B	130	SK417	ⅡE2l	－	16.8	－	－
56－658	90B	26	SB05	ⅡG4p・4q	22.9	7.6	19.5	5.4
659	90B	39	SB05	ⅡG4q	－	－	－	－
660	90B	32	SB05	ⅡG4q	－	－	－	4.8
661	90B	38	SB05	ⅡG4q	－	14.6	－	－
662	90B	29	SB05	ⅡG4p・4q	－	18.3	－	－
663	90B	15	SB05	ⅡG4p・4q	－	－	－	－
664	90B	35	SB05	ⅡG4q	－	27.4	－	－
665	90B	21	SB05	ⅡG4p・4q	－	14.0	17.6	－
666	90B	20	SB05	ⅡG4p・4q	－	－	－	－
667	90B	40	SB05	ⅡG4q	－	－	－	9.0
668	90B	41	SB05	ⅡG4q	5.8	－	－	－
669	90B	31	SB05	ⅡG4p	－	－	－	－
670	90B	30	SB05	ⅡG4q	－	19.3	－	－
671	90B	33	SB05	ⅡG4q	－	25.0	－	－
672	90B	17	SB05	ⅡG4p・4q	－	－	－	11.9
673	90B	22	SB05	ⅡG4p・4q	20.7	29.7	－	10.1
57－674	90B	24	SB05	ⅡG4p・4q	－	25.2	－	－
675	90B	16	SB05	ⅡG4p・4q	－	－	29.2	－
676	90B	19	SB05	ⅡG4p・4q	－	－	24.1	5.5
677	90B	18	SB05	ⅡG4p・4q	－	16.2	41.4	－
678	90B	25	SB05	ⅡG4p・4q	－	－	42.4	7.0
58－679	90A	18	SD11	ⅡG4e	－	3.8	－	－
680	90A	14	SD11	ⅡG3e	－	4.2	－	－
681	90A	5	SD11	ⅡG1d	－	5.6	－	－
682	90A	12	SD11	ⅡG4e	－	17.4	－	－
683	90A	23	SD11	ⅡG4f	－	31.4	－	－
684	90A	6	SD11	ⅡG1d・1e	－	17.2	－	－
685	90A	21	SD11	ⅡG4f	－	15.0	－	－
686	90A	4	SD11	ⅡG4f	－	－	24.4	7.3
687	90A	3	SD11	ⅡG3e	13.5	10.5	15.3	5.0
688	90A	1	SD11	ⅡG1d	16.1	9.4	13.9	4.6
689	90A	2	SD11	ⅡG2d	17.7	23.2	－	11.5
690	90A	8	SD11	ⅡG2d・2e	－	－	－	－
691	90A	10	SD11	ⅡG2e	－	－	－	－
692	90A	7	SD11	ⅡG2d	－	－	－	－
693	90A	17	SD11	ⅡG3f・3g・4f・4g	－	－	－	－
694	90A	13	SD11	ⅡG3e	－	－	－	－
695	90A	25	SD11	ⅡG5f	－	－	－	－
696	90A	9	SD11	ⅡG2e	－	－	－	－
697	90A	16	SD11	ⅡG3p・3g・4f・4g	－	－	－	－
698	90A	19	SD11	ⅡG4e・4f	－	－	－	－
699	90A	20	SD11	ⅡG4f	－	－	－	－
700	90A	11	SD11	ⅡG2e	－	－	－	－
701	90A	15	SD11	ⅡG3f・3g・4f・4g	－	－	－	10.0
59－702	90A	73	SD10	ⅡG4d	－	15.6	－	－
703	90A	39	SD10	ⅡG2c	－	13.1	－	－
704	90A	85	SD10	ⅡG4e	－	17.2	－	－
705	90A	140	SD10	ⅠG20c	－	18.2	－	－
706	90A	192	SD10	ⅡG4d	－	13.8	－	－
707	90A	43	SD10	ⅡG2c	－	16.8	－	－
708	90A	44	SD10	ⅡG2c	－	19.3	－	－
709	90A	124	SD10	ⅡG19c	－	30.6	－	－
710	90A	77	SD10	ⅡG4d	－	10.6	－	－
711	90A	42	SD10	ⅡG2c	－	20.4	－	－
712	90A	109	SD10	ⅠG20c	－	25.6	－	－
713	90A	172	SD10	ⅡG3d	－	34.4	－	－
714	90A	59	SD10	ⅡG3d	－	16.2	－	－
715	90A	166	SD10	ⅡG2c	－	22.8	－	－
716	90A	154	SD10	ⅡG2c	－	24.6	－	－

図版番号	調査区	登録番号	遺構	グリッド	器高	口径	体径	底径
717	90A	E－96	SD10	ⅡG4d	－	15.6	28.2	－
718	90A	64	SD10	ⅡG3d	－	13.4	－	－
60－719	90A	26	SD10	ⅡG1c	－	－	24.6	6.3
720	90A	106	SD10	ⅡG5e	27.1	16.4	25.0	5.0
721	90A	97	SD10	ⅡG5e	21.0	12.4	19.1	5.5
722	90A	34	SD10	ⅡG1c	25.7	14.5	24.0	8.5
723	90A	120	SD10	ⅡG2c	－	－	29.0	4.4
724	90A	27	SD10	ⅡG1c	35.1	18.5	34.7	2.2
725	90A	79	SD10	ⅡG4d	－	－	16.5	5.2
61－726	90A	33	SD10	ⅡG1c	35.6	21.0	32.6	7.3
727	90A	131	SD10	ⅠG19c	－	－	－	－
728	90A	47	SD10	ⅡG2c	51.0	25.0	44.0	10.0
62－729	90A	37	SD10	ⅡG2c	－	28.0	－	－
730	90A	30	SD10	ⅡG1c	－	26.9	51.9	－
63－731	90A	198	SD10	ⅡG4e	－	－	－	－
732	90A	92	SD10	ⅡG5e	－	－	－	－
733	90A	108	SD10	ⅡG2c	13.3	9.0	14.7	－
734	90A	199	SD10	ⅡG4e	－	7.9	15.6	－
735	90A	94	SD10	ⅡG5e	11.0	7.6	10.7	5.2
736	90A	104	SD10	ⅡG5e	－	－	16.6	4.9
737	90A	183	SD10	ⅡG3d・4d	－	－	28.5	4.5
738	90A	41	SD10	ⅡG2c	－	6.8	10.7	－
739	90A	29	SD10	ⅡG2c	－	9.6	14.5	－
740	90A	32	SD10	ⅡG1c	16.5	7.4	－	9.7
741	90A	102	SD10	ⅡG5e	18.3	9.2	15.0	5.6
742	90A	60	SD10	ⅡG3d	－	－	－	－
743	90A	174	SD10	ⅡG3d	－	－	－	4.6
744	90A	70	SD10	ⅡG4d	－	－	11.3	5
745	90A	144	SD10	ⅡG1c	－	4.3	－	－
746	90A	156	SD10	ⅡG2c	－	2.6	－	－
64－747	90A	146	SD10	ⅡG1c	－	17.6	15.7	－
748	90A	61	SD10	ⅡG3d	－	18.3	－	－
749	90A	200	SD10	ⅡG5e	19.4	－	－	－
750	90A	138	SD10	ⅠG20c	－	22.5	21.6	－
751	90A	164	SD10	ⅡG2c	－	14.8	－	－
752	90A	107	SD10	ⅡG2c	－	17.6	19.3	－
753	90A	197	SD10	ⅡG4d	－	18.6	－	－
754	90A	36	SD10	ⅡG1c	－	20.2	22.8	－
755	90A	139	SD10	ⅠG20c	－	22.4	22.9	－
756	90A	95	SD10	ⅡG4d	－	19.8	－	－
757	90A	133	SD10	ⅠG19c	－	18.0	－	－
758	90A	84	SD10	ⅡG4d	－	18.7	18.1	－
759	90A	202	SD10	ⅡG5e	－	18.2	21.6	－
65－760	90A	50	SD10	ⅡG3d	－	17	16.2	－
761	90A	101	SD10	ⅡG5e	－	16.1	18.0	－
762	90A	88	SD10	ⅡG4e	－	19.4	20.4	－
763	90A	48	SD10	ⅡG2c	－	19.4	22.0	－
764	90A	51	SD10	ⅡG3d	－	19.6	－	－
765	90A	83	SD10	ⅡG4e	－	－	19.9	－
766	90A	53	SD10	ⅡG2c	－	28.2	－	－
767	90A	82	SD10	ⅡG4d	－	－	19.1	－
768	90A	63	SD10	ⅡG3d	－	27.0	－	－
66－769	90A	28	SD10	ⅡG1c	－	13.9	15.9	－
770	90A	121	SD10	ⅡG3d	16.4	15.2	－	8.8
771	90A	35	SD10	ⅡG2c	19.5	17.6	－	9.5
772	90A	81	SD10	ⅡG4e	20.9	15.4	17.8	9.0
773	90A	65	SD10	ⅡG3d	－	18.0	20.8	－
774	90A	180	SD10	ⅡG3d	－	14.8	－	－
775	90A	105	SD10	ⅡG5e	－	－	－	7.6
776	90A	46	SD10	ⅡG2c	－	－	－	8.6
777	90A	190	SD10	ⅡG4d	－	－	－	7.0

図版番号	調査区	登録番号	遺構	グリッド	器高	口径	体径	底径
778	90A	E－163	SD10	ⅡG2c	－	－	－	7.8
779	90A	151	SD10	ⅡG2c	－	－	－	5.3
780	90A	189	SD10	ⅡG4d	－	－	－	7.3
781	90A	40	SD10	ⅡG2c	－	－	－	10.0
782	90A	170	SD10	ⅡG3d	－	－	－	6.6
783	90A	66	SD10	ⅡG3d	－	－	－	6.8
784	90A	119	SD10	ⅡG2c	－	－	－	9.8
785	90A	171	SD10	ⅡG3d	－	－	－	9
786	90A	136	SD10	ⅠG20c	－	－	－	－
787	90A	145	SD10	ⅡG1c	－	－	－	10.4
788	90A	67	SD10	ⅡG3d	－	－	－	8.0
67－789	90A	193	SD10	ⅡG4d	－	16.4	－	－
790	90A	185	SD10	ⅡG4d	－	28.2	－	－
791	90A	98	SD10	ⅡG5e	－	26.3	－	－
792	90A	89	SD10	ⅡG4e	－	27.2	－	－
793	90A	205	SD10	ⅡG5e	－	28.4	－	－
794	90A	110	SD10	ⅠG19c	－	28.5	－	－
795	90A	137	SD10	ⅠG20c	－	31.6	－	－
796	90A	201	SD10	ⅡG5e	－	22.6	－	－
797	90A	76	SD10	ⅡG4d	－	28.0	－	－
798	90A	99	SD10	ⅡG5e	14.0	18.8	－	12.2
799	90A	56	SD10	ⅡG3d	14.7	25.4	－	15.3
800	90A	86	SD10	ⅡG4e	－	－	－	16.6
801	90A	87	SD10	ⅡG4e	－	－	－	－
802	90A	93	SD10	ⅡG5e	－	－	－	－
803	90A	80	SD10	ⅡG4d・4e	－	－	－	－
804	90A	186	SD10	ⅡG4d	－	－	－	－
805	90A	179	SD10	ⅡG3d	－	－	－	－
806	90A	49	SD10	ⅡG3d	－	－	－	－
807	90A	178	SD10	ⅡG3d	－	－	－	8.6
808	90A	57	SD10	ⅡG3d	－	－	－	10.8
68－809	90A	52	SD10	ⅡG2c(3d)	－	22.0	－	－
810	90A	71	SD10	ⅡG4d	－	23.7	－	－
811	90A	58	SD10	ⅡG3d	19.7	24.0	－	16.2
812	90A	84	SD10	ⅡG4d	－	18.7	－	－
813	90A	90	SD10	ⅡG1c	15.2	14.8	－	12.0
814	90A	177	SD10	ⅡG3d	－	13	－	－
815	90A	38	SD10	ⅡG2c	15.4	11.4	11.7	10.4
816	90A	54	SD10	ⅡG3d(2c)	－	－	－	9.1
817	90A	187	SD10	ⅡG4d	－	－	－	10.6
818	90A	35	SD10	ⅡG2c	19.5	17.6	－	9.5
819	90A	75	SD10	ⅡG4d	11.7	26.2	－	6.4
820	90A	68	SD10	ⅡG4d	18.0	25.9	－	3.0
821	90A	74	SD10	ⅡG4d	9.65	25.2	－	6.7
822	90A	132	SD10	ⅠG19c	－	－	－	－
69－823	90A	211	SD09	ⅡG3a	－	18.4	－	－
824	90A	212	SD09	ⅡG3a	－	22.3	－	－
825	90A	215	SD09	ⅡG3a	13.9	15.9	19.3	4.5
826	90A	222	SD09	ⅡF1s	－	12.6	－	－
827	90A	292	SD09	ⅡF2s	－	－	－	3.2
828	90A	226	SD09	ⅡF1s	－	－	－	3.6
829	90A	220	SD09	ⅡG4b	－	－	14.1	5.3
830	90A	225	SD09	ⅡF1s	－	8.2	11.6	－
831	90A	245	SD09	ⅡG3a	－	－	－	11.1
832	90A	248	SD09	ⅡG4a・4b	－	－	－	9.2
833	90A	240	SD09	ⅡG3a	－	20.1	－	－
834	90A	234	SD09	ⅡF2t	－	24.0	－	－
835	90A	241	SD09	ⅡG3a	－	24.5	－	－
836	90A	214	SD09	ⅡG3a	22.0	23.2	－	15.6
837	90A	229	SD09	ⅡF2t	－	－	－	15.4
838	90A	236	SD09	ⅡF2t	－	－	－	17.7

図版番号	調査区	登録番号	遺構	グリッド	器高	口径	体径	底径
839	90A	E－239	SD09	ⅡG3a	－	10.7	－	－
840	90A	235	SD09	ⅡF2t	－	－	－	12.1
841	90A	227	SD09	ⅡF1s	－	－	－	10.0
842	90A	247	SD09	ⅡG4a・4b	－	－	－	9.6
843	90A	224	SD09	ⅡF1s	－	－	－	10.8
70－844	90A	242	SD09	ⅡG3a	－	13.6	－	－
845	90A	237	SD09	ⅡF3t	－	16.0	－	－
846	90A	216	SD09	ⅡG4a	－	19.8	－	－
847	90A	250	SD09	ⅡG5b	－	26.8	－	－
848	90A	210	SD09	ⅡF1s	－	16.4	－	－
849	90A	217	SD09	ⅡG4a	－	20.0	11.6	－
850	90A	219	SD09	ⅡG4a	－	18.9	－	－
851	90A	209	SD09	ⅡF1s	－	20.6	24.0	－
852	90A	221	SD09	ⅡG4b	26.6	19.6	22.6	10.4
853	90A	228	SD09	ⅡF2t	－	－	－	7.0
854	90A	223	SD09	ⅡF2t	－	14.4	15.6	－
855	90A	244	SD09	ⅡG3a	－	－	－	9.6
856	90A	238	SD09	ⅡF3t	－	－	－	10.6
857	90A	208	SD09	ⅡF1s	11.5	15.8	－	5.8
858	90A	213	SD09	ⅡG3a	11.1	13.5	16.3	6.0
859	90A	246	SD09	ⅡG3a	－	－	－	3.4
860	90A	232	SD09	ⅡF2t	2.5	3.0	－	1.7
71－861	90A	306	SD08	ⅡF1s	－	17.0	－	－
862	90A	302	SD08	ⅠF20s	－	14.4	－	－
863	90A	278	SD08	ⅡF2s	－	35.6	－	－
864	90A	275	SD08	ⅡF2s	－	－	－	－
865	90A	291	SD08	ⅡF2s	－	22.9	－	－
866	90A	312	SD08	ⅡF2s	－	27.0	－	－
867	90A	330	SD08	ⅡF2s	－	－	－	7.4
868	90A	277	SD08	ⅡF2s	－	－	18.7	4.7
869	90A	326	SD08	ⅡF2s	－	－	－	6.7
871	90A	287	SD08	ⅡF2s	11.8	7.5	11.6	3.9
871	90A	288	SD08	ⅡF2s	－	－	15.0	3.4
872	90A	279	SD08	ⅡF2s	17.0	13.4	18.9	7.2
873	90A	274	SD08	ⅡF2s	23.2	12.0	20.5	7.4
72－874	90A	282	SD08	ⅡF2s	－	11.8	－	－
875	90A	325	SD08	ⅡF2s	－	15.6	－	－
876	90A	337	SD08	ⅡF2s	－	17.1	－	－
877	90A	257	SD08	ⅠF20s	－	22.2	－	－
878	90A	270	SD08	ⅡF2s	－	27.6	－	－
879	90A	314	SD08	ⅡF2s	－	21.0	－	－
880	90A	309	SD08	ⅡF1s	－	18.8	19.4	－
881	90A	332	SD08	ⅡF2s	－	20.6	26.0	－
882	90A	328	SD08	ⅡF2s	－	19.7	－	－
883	90A	262	SD08	ⅡF1s	－	－	－	－
73－884	90A	281	SD08	ⅡF2s	18.3	14.0	14.5	8.1
885	90A	293	SD08	ⅡF2s	－	14.9	15.3	－
886	90A	285	SD08	ⅡF2s	－	20.3	－	9.1
887	90A	266	SD08	ⅡF1s	－	22.3	－	－
888	90A	276	SD08	ⅡF2s	27.5	18.2	22.0	9.4
889	90A	256	SD08	ⅠF20s	30.7	19.6	23.8	11.4
890	90A	290	SD08	ⅡF2s	－	－	－	6.8
891	90A	280	SD08	ⅡF2s	－	－	－	7.8
892	90A	254	SD08	ⅠF19s	－	－	－	6.6
893	90A	311	SD08	ⅡF1s	－	－	－	7.2
74－894	90A	303	SD08	ⅡF1s	－	20.0	－	－
895	90A	321	SD08	ⅡF2s	－	23.4	－	－
896	90A	320	SD08	ⅡF2s	－	21.1	－	－
897	90A	335	SD08	ⅡF2s	－	19.2	－	－
898	90A	322	SD08	ⅡF2s	－	29.0	－	－
899	90A	307	SD08	ⅡF1s	－	21.8	－	－

図版番号	調査区	登録番号	遺構	グリッド	器高	口径	体径	底径
900	90A	E－313	SD08	Ⅱ F2s	－	24.5	－	－
901	90A	258	SD08	Ⅰ F20s	－	－	－	11.8
902	90A	267	SD08	Ⅱ F1s	－	－	－	13.8
903	90A	271	SD08	Ⅱ F2s	－	－	－	－
904	90A	284	SD08	Ⅱ F2s	－	－	－	14.0
905	90A	264	SD08	Ⅱ F1s	－	－	－	15.6
906	90A	329	SD08	Ⅱ F2s	－	－	－	15.6
907	90A	327	SD08	Ⅱ F2s	－	－	－	17.8
908	90A	272	SD08	Ⅱ F2s	－	－	23.0	11.2
909	90A	294	SD08	Ⅱ F2s	－	－	－	15.9
910	90A	253	SD08	Ⅰ F19s	－	－	－	19.2
911	90A	295	SD08	Ⅱ F2s	－	－	－	11.8
75－912	90A	252	SD08	Ⅰ F19s	－	－	－	8.6
913	90A	324	SD08	Ⅱ F2s	－	－	－	9.7
914	90A	336	SD08	Ⅱ F2s	－	－	－	9.2
915	90A	323	SD08	Ⅱ F2s	－	－	－	－
916	90A	289	SD08	Ⅱ F2s	－	－	－	11.0
917	90A	255	SD08	Ⅰ F20s	－	－	－	10.6
918	90A	331	SD08	Ⅱ F2s	－	－	－	－
919	90A	269	SD08	Ⅱ F1s	－	11.6	－	－
920	90A	261	SD08	Ⅱ F1s	－	12.6	16.0	－
921	90A	259	SD08	Ⅱ F1s	14.0	13.8	－	10.8
922	90A	283	SD08	Ⅱ F2s	－	16.2	－	－
923	90A	297	SD08	Ⅱ F20s	－	－	－	7.2
924	90A	333	SD08	Ⅱ F2s	－	14	－	－
925	90A	268	SD08	Ⅱ F1s	19.1	18.4	－	20.1
926	90A	251	SD08	Ⅰ F19s	3.4	8.7	－	－
927	90A	263	SD08	Ⅱ F1s	6.4	16.3	－	－
928	90A	317	SD08	Ⅱ F2s	－	－	－	3.0
929	90A	301	SD08	Ⅱ F20s	－	－	5.3	2.0
76－930	89B	30	SD02	Ⅰ E19b	－	7.0	－	－
931	89B	42	SD02	Ⅰ E20a	－	5.4	－	－
932	89B	19	SD02	Ⅰ E19b	－	7.1	11.9	4.0
933	89B	44	SD02	Ⅰ E20a	－	－	12.2	4.6
934	89B	16	SD02	Ⅰ E19b	－	10.8	16.8	－
935	89B	50	SD02	Ⅱ E1t	－	13.2	－	－
936	89B	43	SD02	Ⅰ E20a	－	14.3	－	－
937	89B	5	SD02	Ⅰ E19b	－	14.2	26.1	
938	89B	2	SD02	Ⅰ E18c	－	－	23.0	5.0
939	89B	7	SD02	Ⅰ E19b	－	－	25.2	7.0
940	89B	22	SD02	Ⅰ E20a	－	16.0	－	6.0
941	89B	24	SD02	Ⅰ E20a	－	－	－	4.2
77－942	89B	20	SD02	Ⅰ E19b	12.6	11.2	12.1	2.3
943	89B	11	SD02	Ⅰ E19b	－	14.3	－	－
944	89B	31	SD02	Ⅰ E19b	－	29.0	－	－
945	89B	39	SD02	Ⅰ E19b	－	12.2	－	－
946	89B	47	SD02	Ⅰ E20a	－	18.2	－	－
947	89B	28	SD02	Ⅰ E18c	－	20.6	－	－
948	89B	1	SD02	Ⅰ E18d	－	16.8	19.8	－
949	89B	4	SD02	Ⅰ E19b	－	16.4	18.6	－
950	89B	25＋48	SD02	Ⅰ E20a	－	－	－	－
951	89B	33	SD02	Ⅰ E19b	－	19.8	21.2	－
952	89B	34	SD02	Ⅰ E19b	23.4	9.4	10.2	9.6
953	89B	41	SD02	Ⅰ E19c	31.5	23.5	25.2	10.3
954	89B	55	SD02	Ⅱ E1a	－	－	－	－
955	89B	40	SD02	Ⅰ E19b	－	－	－	8.2
956	89B	10	SD02	Ⅰ E19b	－	－	－	9.4
957	89B	53	SD02	Ⅱ E1a	－	－	－	8.2
958	89B	26	SD02	Ⅰ E18c	－	－	－	8.8
78－959	89B	14	SD02	Ⅰ E19b	－	18.2	－	－
960	89B	49	SD02	Ⅰ E20b	－	－	－	17.0

図版番号	調査区	登録番号	遺構	グリッド	器高	口径	体径	底径
961	89B	E－57	SD02	－	－	－	－	－
962	89B	15	SD02	ⅠE19b	－	－	－	－
963	89B	17	SD02	ⅠE19b	23.3	25.5	－	14.8
964	89B	13	SD02	ⅠE19b	16.3	18.4	－	11.0
965	89B	46	SD02	ⅠE20a	－	－	－	10.6
966	89B	12	SD02	ⅠE19b	－	－	－	－
967	89B	12	SD02	ⅠE19b	－	－	－	16.9
968	89B	8	SD02	ⅠE19b	－	－	－	15.8
969	89B	18	SD02	ⅠE19b	－	－	－	15.6
970	89B	38	SD02	ⅠE19b	－	－	－	12.0
971	89B	36	SD02	ⅠE19b	－	10.8	10.4	－
972	89B	32	SD02	ⅠE19b	27.9	19.8	－	16.6
973	89B	51	SD02	ⅡE1a	6.1	12.6	－	3.8
974	89B	23	SD02	ⅠE20a	－	23.4	－	－
975	89B	35	SD02	ⅠE19b	－	－	7.0	2.4
976	89B	56	SD02	－	6.1	5.4	－	3.2
79－977	89B	94	SD04	ⅠE19h	3.9	12.0	－	－
978	89B	85	SD04	ⅠE19h	－	－	－	－
979	89B	84	SD04	ⅠE19h	－	20.0	－	－
980	89B	71	SD04	ⅡE1g	－	25.1	－	－
981	89B	73	SD04	ⅡE1g	－	－	－	－
982	89B	75	SD04	ⅡE1q	－	－	－	－
983	89B	91	SD05	ⅠE19h	－	26.8	－	－
984	89B	92	SD05	ⅠE19h	－	30.9	－	－
985	89B	80	SD05	ⅠE19h	－	8.8	－	－
986	89B	79	SD05	ⅠE19h	－	17.8	－	－
987	89B	77	SD05	ⅠE19h	－	23.8	－	－
988	89B	78	SD05	ⅠE19h	37.9	30.1	30.2	16.8
989	89B	76	SD05	ⅠE19h	－	－	－	15.0
80－990	90A	342	包含層	ⅠF20q	－	9.4	10.4	－
991	90A	358	包含層	ⅠF20q	－	7.4	－	－
992	90A	356	包含層	ⅠF20q	14.9	8.5	16.3	4.6
993	90A	348	包含層	－	－	－	－	－
994	90A	353	包含層	ⅠF20q	－	10.4	14.3	－
995	90A	355	包含層	ⅠF20q	－	－	25.0	2.6
996	90A	351	包含層	ⅠF20q	－	23.9	－	－
997	90A	354	包含層	ⅠF20q	－	－	27.4	7.8
998	90A	365	包含層	ⅠF20q	－	19.6	－	－
999	90A	344	包含層	－	－	－	－	－
1000	90A	366	包含層	ⅠF20q	－	13.2	－	－
1001	90A	338	包含層	ⅠF20p	－	20.0	19.5	－
1002	90A	367	包含層	ⅠF20q	－	－	－	10.6
1003	90A	341	包含層	ⅠF20p	－	22.8	23.0	－
81－1004	90A	360	包含層	ⅠF20q	－	25.0	－	－
1005	90A	352	包含層	ⅠF20q	－	22.1	－	－
1006	90A	368	包含層	ⅠF20s	－	16.8	－	－
1007	90A	359	包含層	ⅠF20q	－	24.8	－	－
1008	90A	361	包含層	ⅠF20q	－	26.5	－	－
1009	90A	339	包含層	ⅠF20p	－	－	－	－
1010	90A	350	包含層	ⅠF20q	－	－	－	－
1011	90A	349	包含層	ⅠF20q	－	－	－	－
1012	90A	363	包含層	ⅠF20q	－	－	－	－
1013	90A	362	包含層	ⅠF20q	－	12.5	－	－
1014	90A	345	包含層	ⅠF20q	－	12.5	－	－
1015	90A	347	包含層	ⅠF20q	12.5	11.6	－	10.0
1016	90A	343	包含層	ⅠF20q	－	－	－	8.1
1017	90A	364	包含層	ⅠF20q	－	－	－	7.8
1018	90A	340	包含層	ⅠF20p	－	－	－	－
1019	90A	346	包含層	ⅠF20g	8.4	15.7	14.7	5.9

古墳時代須恵器・土師器

図版番号	調査区	登録番号	遺構	グリッド	器高	口径	体径	底径
82−1020	90B	E−1	SB10	−	−	−	−	
1021	90B	2	SB10	ⅡG2t	−	−	−	10.6
1022	90B	3	SB10	−	−	14.6	−	6.0
1023	90B	7	SB07	ⅡG4g・4h	−	20.2	−	−
1024	90B	8	SB07	ⅡG4g・4h	−	14.2	−	−
1025	90B	9	SB07	ⅡG4g	−	15.2	−	−
1026	90B	65	SB09	ⅡG3r	2.0	2.8	−	3.9
1027	90B	63	SB09	ⅡG3r	4.9	12.0	−	3.5
1028	90B	67	SB09	ⅡG4r	−	12.4	−	−
1029	90B	66	SB09	ⅡG4r	−	14.7	−	−
1030	90B	59	SB09	ⅡG3r・4r	10.2	14.2	15.0	10.0
1031	90B	61	SB09	ⅡG3r・4r	10.8	14.6	−	10.0
1032	90B	64	SB09	ⅡG3r	−	12.3	−	−
1033	90B	58	SB09	ⅡG3r・4r	30.8	19.0	26.3	10.5
1034	90B	60	SB09	ⅡG3r・4r	−	14.1	−	−
1035	90B	62	SB09	ⅡG3r	−	19.0	24.2	−

奈良・平安時代陶器・土師器

図版番号	調査区	登録番号	遺構	グリッド	器高	口径	体径	底径
83−1036	89B	E−124	掘り下げⅠ	ⅢD1t	−	−	−	−
1037	89B	123	検出Ⅰ	ⅠE20t	3.2	12.4	−	6.0
1038	89B	121	SB03	ⅡD1t	4,0	13.7	−	7.2
1039	89B	122	SB03	ⅡD1t	−	29.0	−	−
1040	90B	14	SB07	ⅡG4g	−	14.3	−	−
1041	90B	12	SB07	ⅡG4g	−	15.2	−	−
1042	90B	10	SB07	ⅡG4g	−	26.4	−	−
1043	90B	13	SB07	ⅡG4g	−	−	−	−
1044	90B	34	SB05	ⅡG4q	−	20.4	−	−
1045	90B	37	SB05	ⅡG4q	−	12.2	−	−
1046	90B	27	SB05	ⅡG4p・4q	3.9	12.8	−	6.0
1047	90B	43	SB06	ⅡG4g・5q	3.0	14.4	−	6.4
1048	90B	47	SB06	ⅡG4g・5q	4.8	10.8	−	6.9
1049	90B	44	SB06	ⅡG4g・5q	5.7	16.6	−	7.5
1050	90B	50	SB06	ⅡG4g・5q	−	20.2	−	−
1051	90B	46	SB06	ⅡG4g・5q	−	11.9	−	−
1052	90B	55	SB06	ⅡG4g・5q	−	20.4	−	−
1053	90B	49	SB06	ⅡG4g・5q	−	27.4	−	−
1054	90B	48	SB06	ⅡG4g・5q	−	20.2	−	−
1055	90B	45	SB06	ⅡG4g・5q	−	11.0	−	−
1056	90B	52	SB06	ⅡG4g・5q	−	29.2	−	−
1057	90B	51	SB06	ⅡG4g・5q	−	28.3	−	−
1058	90B	53	SB06	ⅡG4g・5q	−	21.3	−	−
1059	90B	54	SB06	ⅡG4g・5a	−	22.3	−	−
1060	90B	56	SB06	ⅡG5q	−	22.2	−	−

※遺物一覧表の遺構番号は新遺構番号である。

図　　版

凡　　例

1．遺構記号

SA：掘立柱建物　SB：竪穴住居

SD：溝　SK：土坑　SZ：土器棺墓

NR：旧河道・窪地　SX：その他

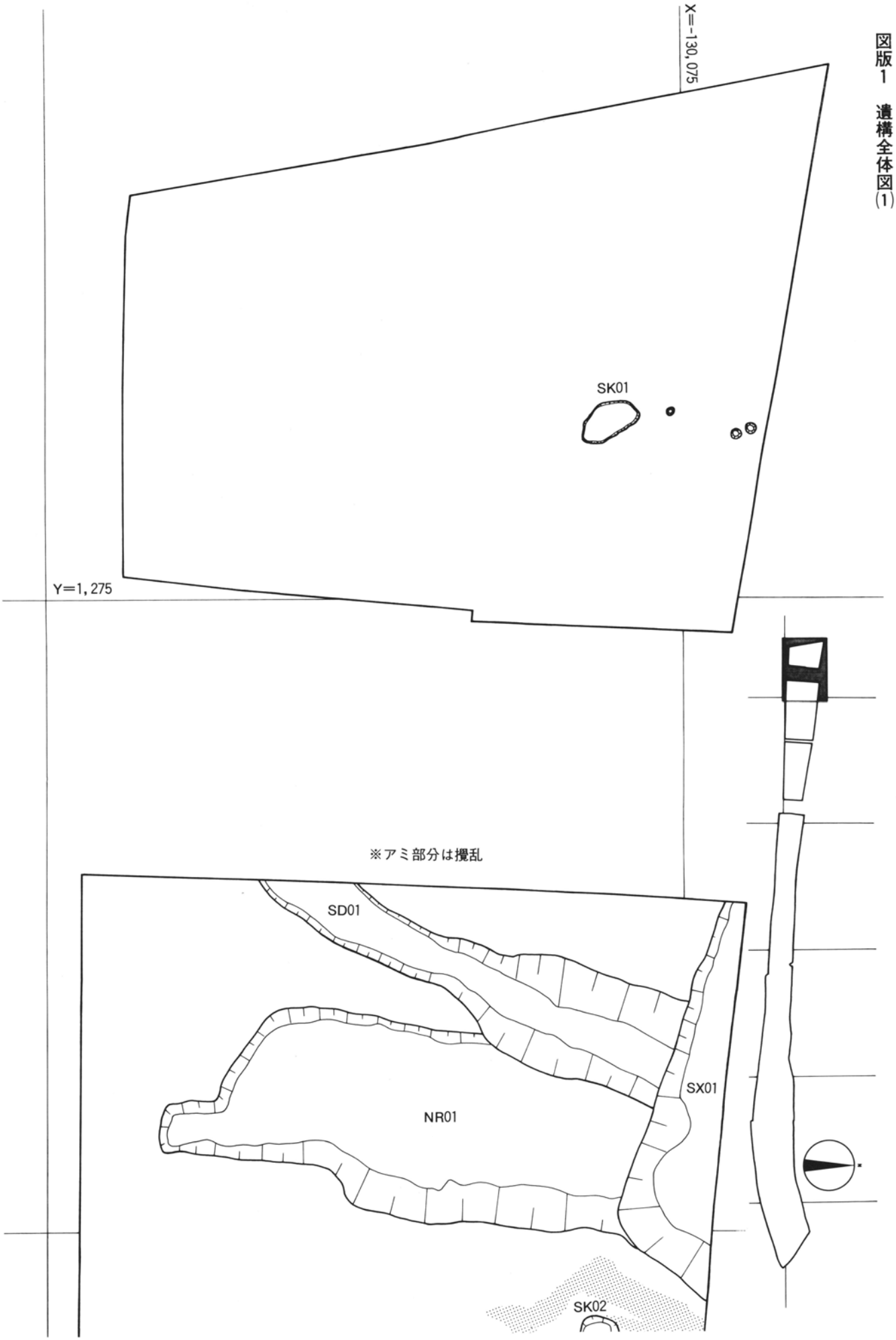
2．縮　率

遺構全体図	1：200
土器実測図	1：4
土器拓影図	1：3，1：4
土製品・石器実測図	1：2，1：3

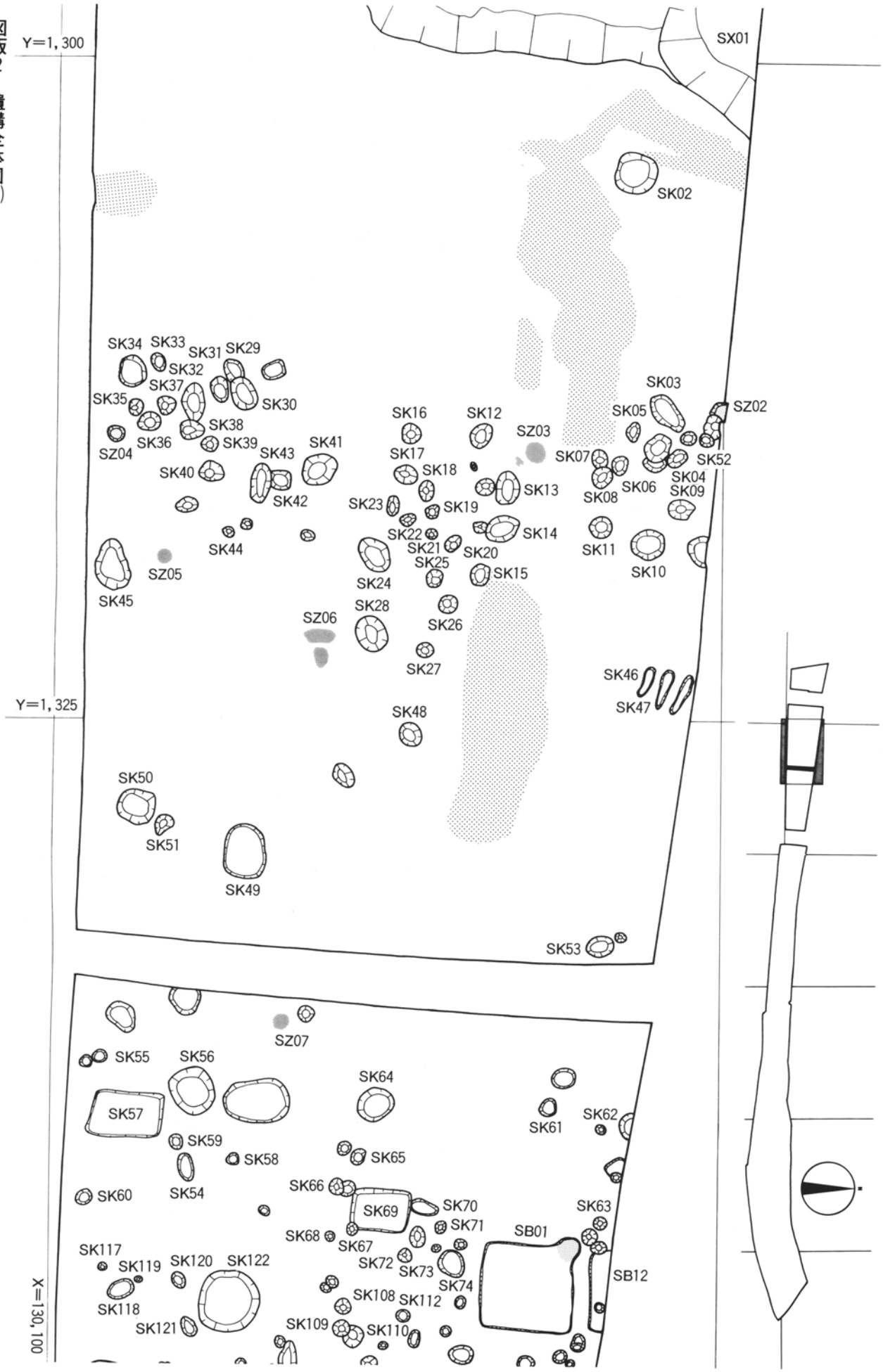
3．遺構基準線表示

平面直角座標第Ⅶ系による。

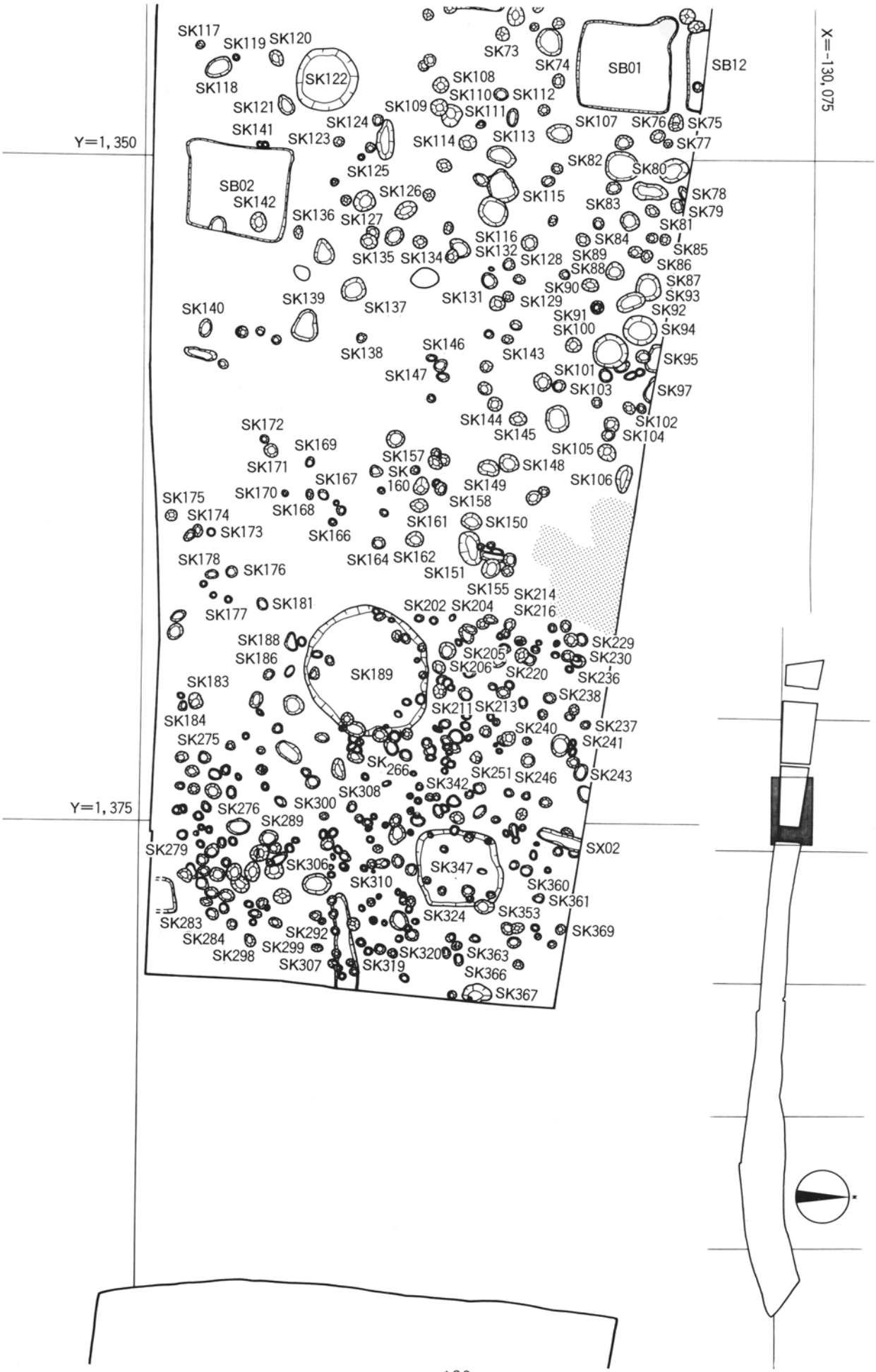
図版1　遺構全体図(1)



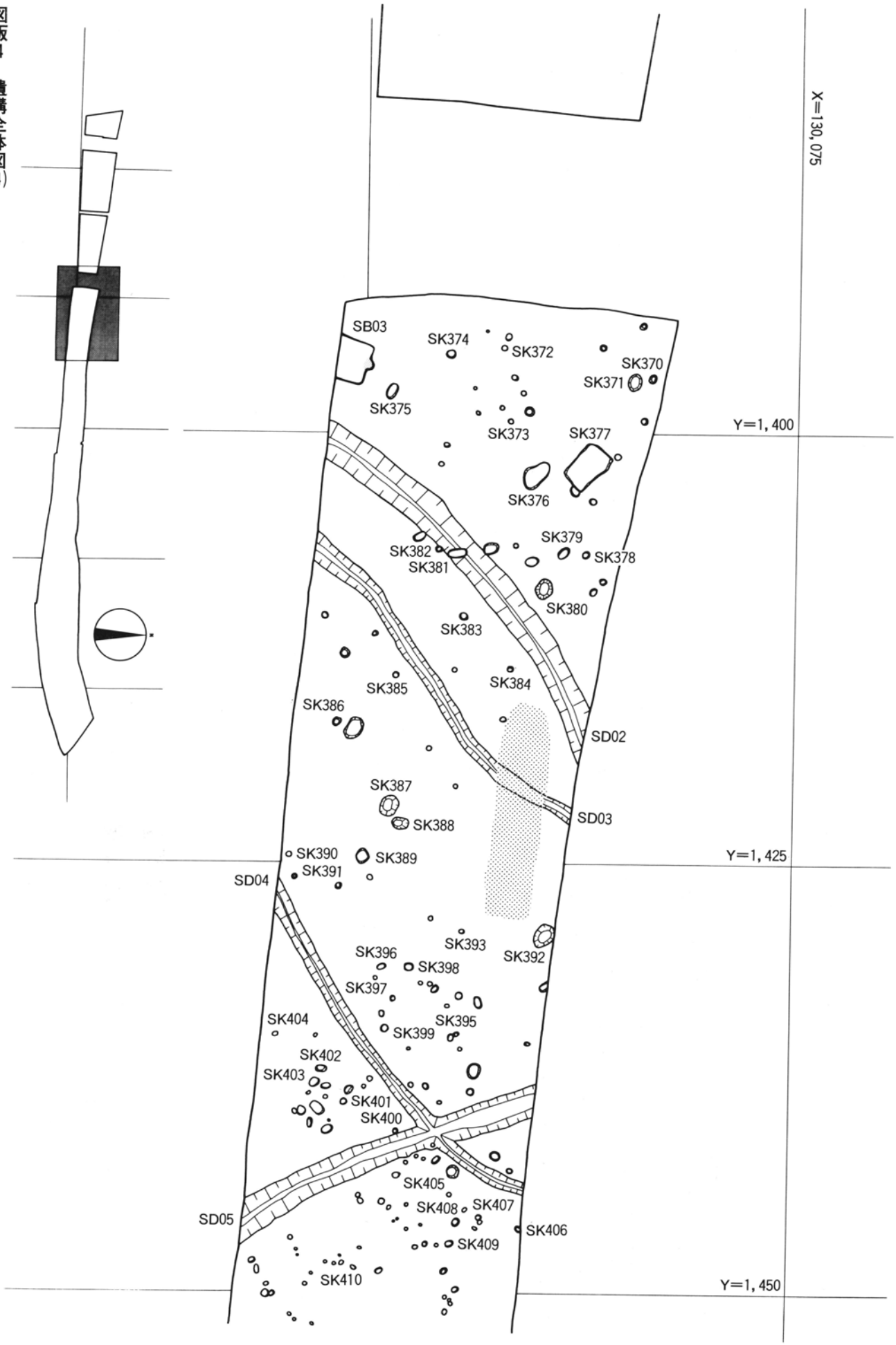
図版2　遺構全体図(2)


Y=1,300
Y=1,325
X=130,100
SX01
SK02
SK03
SZ02
SK05
SK52
SK04
SK09
SK06
SK08
SK07
SZ03
SK12
SK13
SK14
SK11
SK10
SK16
SK17
SK18
SK19
SK20
SK21
SK22
SK23
SK24
SK25
SK15
SK26
SK27
SK28
SZ06
SK48
SK46
SK47
SK53
SK34
SK33
SK31
SK29
SK32
SK37
SK35
SK30
SK38
SK36
SK39
SZ04
SK43
SK41
SK40
SK42
SK44
SZ05
SK45
SK50
SK51
SK49
SZ07
SK55
SK56
SK57
SK64
SK61
SK62
SK59
SK58
SK65
SK60
SK54
SK66
SK69
SK70
SK71
SK63
SK68
SK67
SB01
SK72
SK73
SK74
SB12
SK117
SK119
SK120
SK122
SK118
SK121
SK108
SK112
SK109
SK110

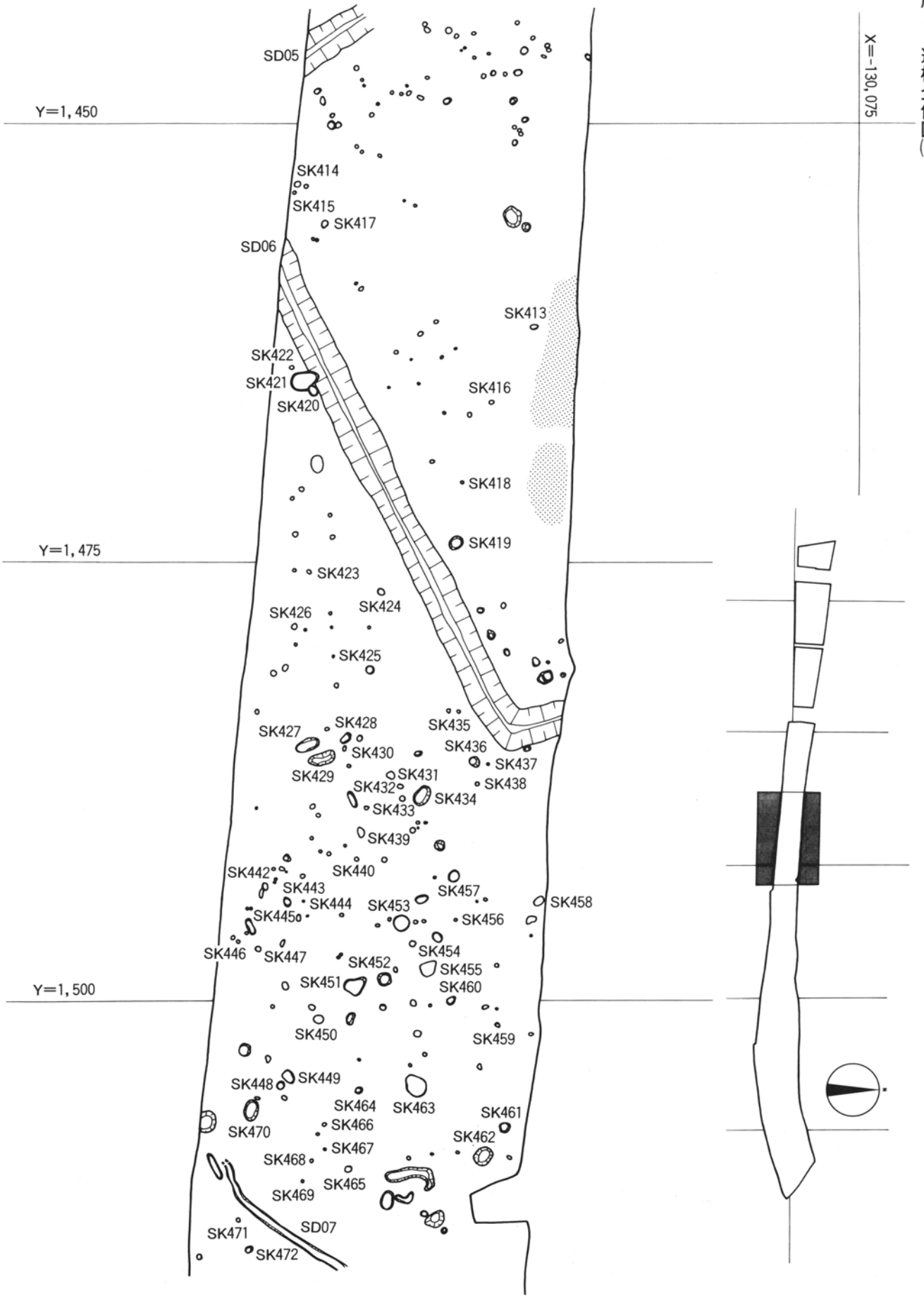
図版3　遺構全体図(3)


X=-130,075
Y=1,350
Y=1,375
SB01
SB02
SB12
SK117
SK118
SK119
SK120
SK121
SK122
SK123
SK124
SK125
SK126
SK127
SK128
SK129
SK131
SK132
SK134
SK135
SK136
SK137
SK138
SK139
SK140
SK141
SK142
SK143
SK144
SK145
SK146
SK147
SK148
SK149
SK150
SK151
SK155
SK157
SK160
SK161
SK162
SK164
SK166
SK167
SK168
SK169
SK170
SK171
SK172
SK173
SK174
SK175
SK176
SK177
SK178
SK181
SK183
SK184
SK186
SK188
SK189
SK202
SK204
SK205
SK206
SK211
SK213
SK214
SK216
SK220
SK229
SK230
SK236
SK237
SK238
SK240
SK241
SK243
SK246
SK251
SK266
SK275
SK276
SK279
SK283
SK284
SK289
SK292
SK298
SK299
SK300
SK306
SK307
SK308
SK310
SK319
SK320
SK324
SK342
SK347
SK353
SK360
SK361
SK363
SK366
SK367
SK369
SX02
SK73
SK74
SK75
SK76
SK77
SK78
SK79
SK80
SK81
SK82
SK83
SK84
SK85
SK86
SK87
SK88
SK89
SK90
SK91
SK92
SK93
SK94
SK95
SK97
SK100
SK101
SK102
SK103
SK104
SK105
SK106
SK107
SK108
SK109
SK110
SK111
SK112
SK113
SK114
SK115
SK116

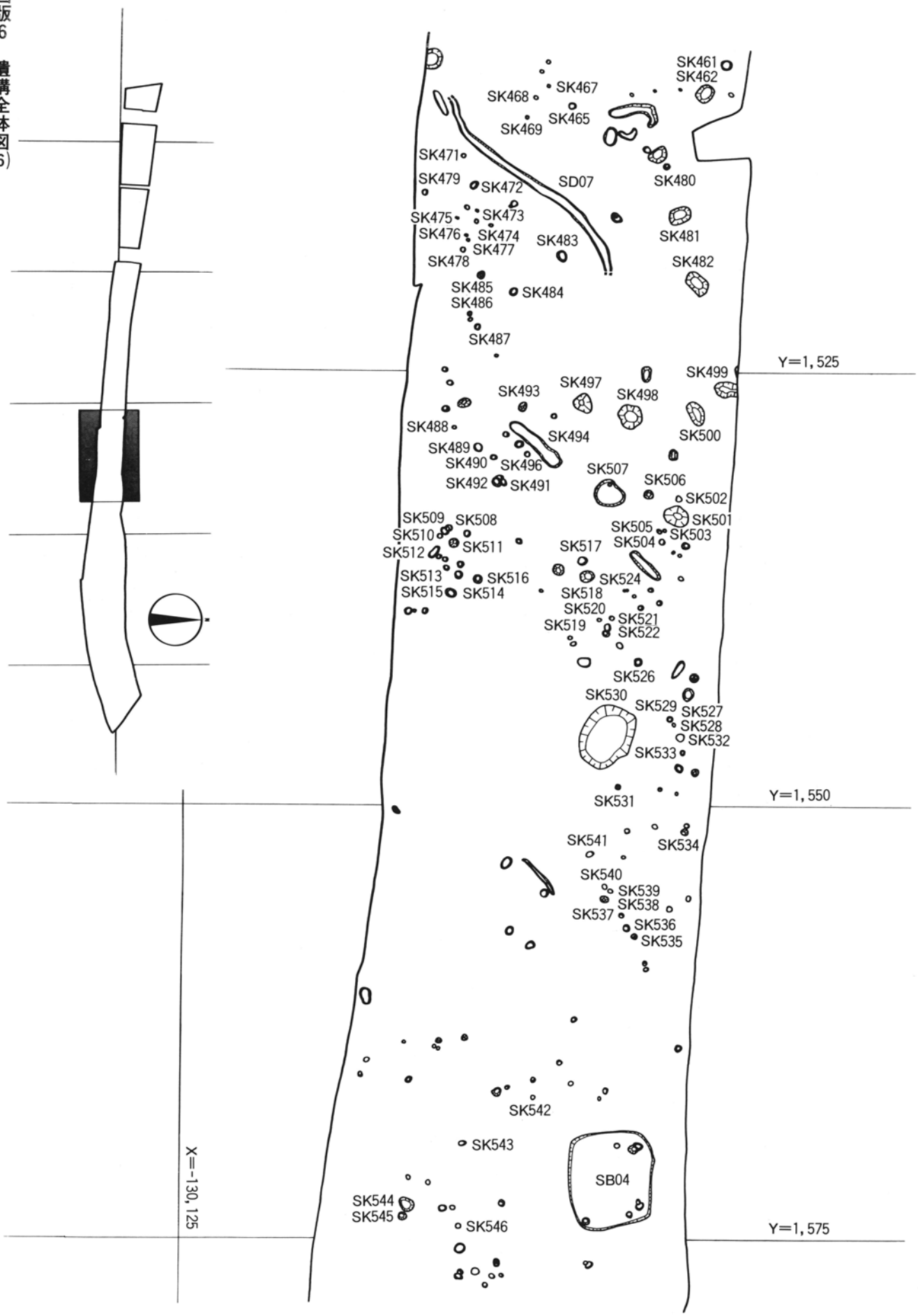
図版4　遺構全体図(4)


X=130,075
Y=1,400
Y=1,425
Y=1,450
SB03
SK374
SK372
SK370
SK371
SK375
SK373
SK377
SK376
SK379
SK382
SK381
SK378
SK380
SK383
SK385
SK384
SK386
SD02
SK387
SK388
SD03
SK390
SK389
SK391
SD04
SK393
SK392
SK396
SK398
SK397
SK395
SK404
SK399
SK402
SK403
SK401
SK400
SK405
SK408
SK407
SD05
SK406
SK409
SK410

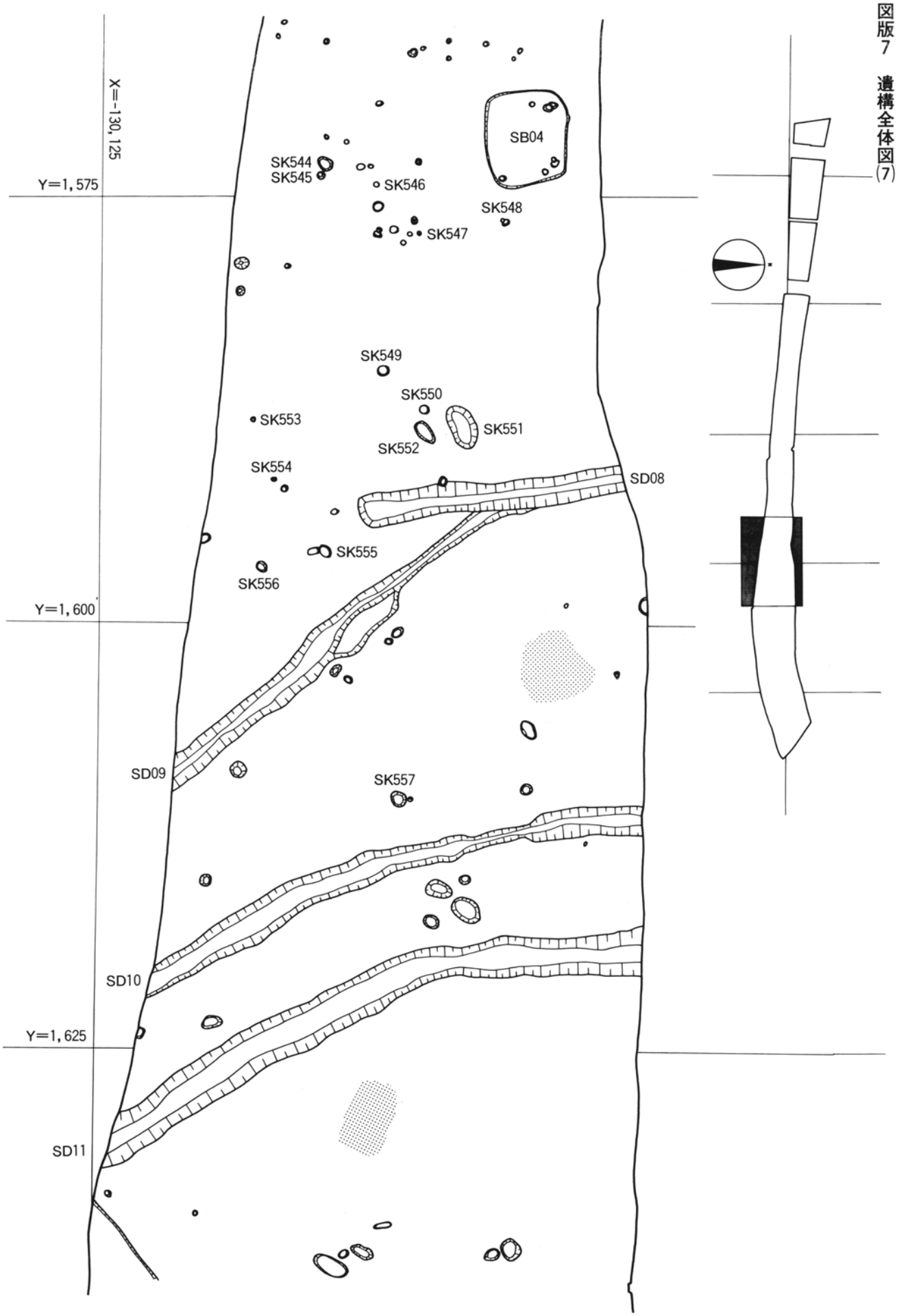
図版5　遺構全体図(5)


X=-130,075
Y=1,450
Y=1,475
Y=1,500
SD05
SD06
SD07
SK414
SK415
SK417
SK413
SK422
SK421
SK420
SK416
SK418
SK419
SK423
SK424
SK426
SK425
SK427
SK428
SK435
SK430
SK436
SK437
SK429
SK431
SK438
SK432
SK434
SK433
SK439
SK440
SK442
SK443
SK457
SK444
SK453
SK458
SK445
SK456
SK446
SK447
SK454
SK452
SK455
SK451
SK460
SK450
SK459
SK448
SK449
SK464
SK463
SK461
SK466
SK470
SK462
SK467
SK468
SK465
SK469
SK471
SK472

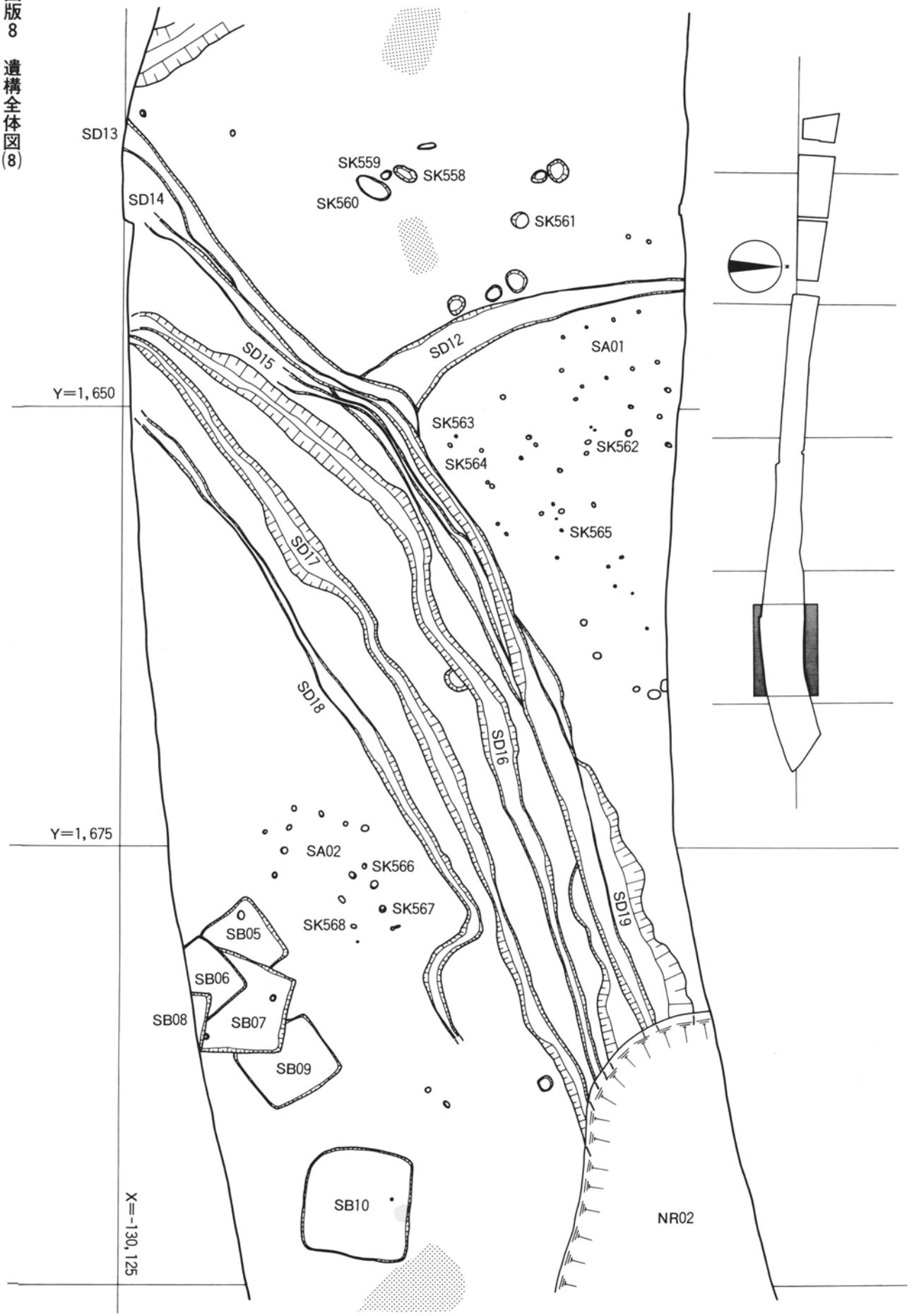
図版6　遺構全体図(6)


SK461
SK462
SK468
SK467
SK465
SK469
SK471
SK479
SK472
SD07
SK480
SK475
SK473
SK476
SK474
SK477
SK483
SK481
SK478
SK482
SK485
SK486
SK484
SK487
Y=1,525
SK499
SK497
SK493
SK498
SK488
SK494
SK500
SK489
SK490
SK496
SK507
SK492
SK491
SK506
SK502
SK509
SK508
SK501
SK510
SK505
SK503
SK512
SK511
SK517
SK504
SK513
SK516
SK524
SK515
SK514
SK518
SK520
SK521
SK519
SK522
SK526
SK530
SK529
SK527
SK528
SK532
SK533
SK531
Y=1,550
SK541
SK534
SK540
SK539
SK538
SK537
SK536
SK535
SK542
SK543
SB04
SK544
SK545
SK546
Y=1,575
X=-130,125

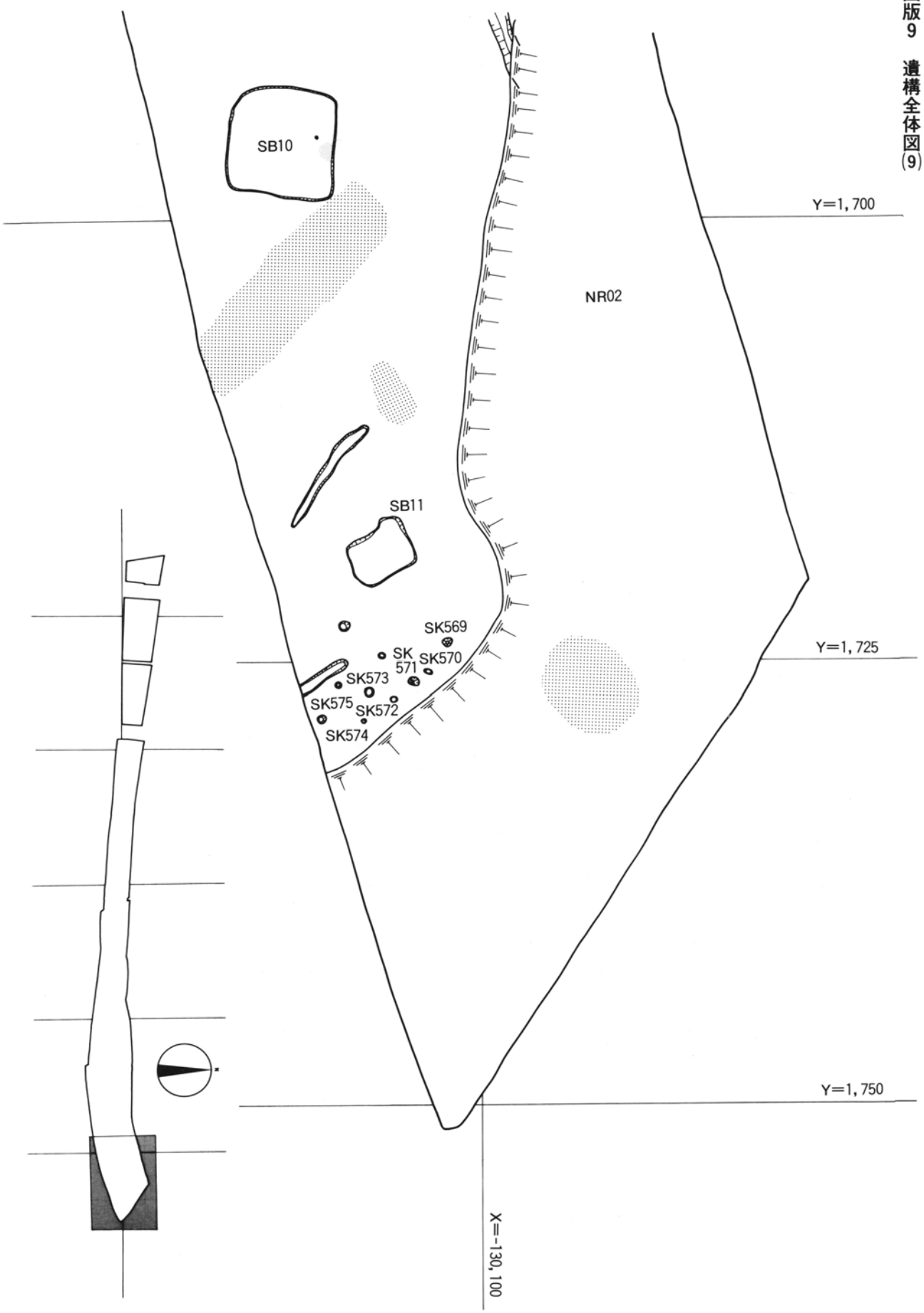
図版7　遺構全体図(7)


X=-130,125
Y=1,575
Y=1,600
Y=1,625
SB04
SK544
SK545
SK546
SK547
SK548
SK549
SK550
SK551
SK552
SK553
SK554
SK555
SK556
SK557
SD08
SD09
SD10
SD11

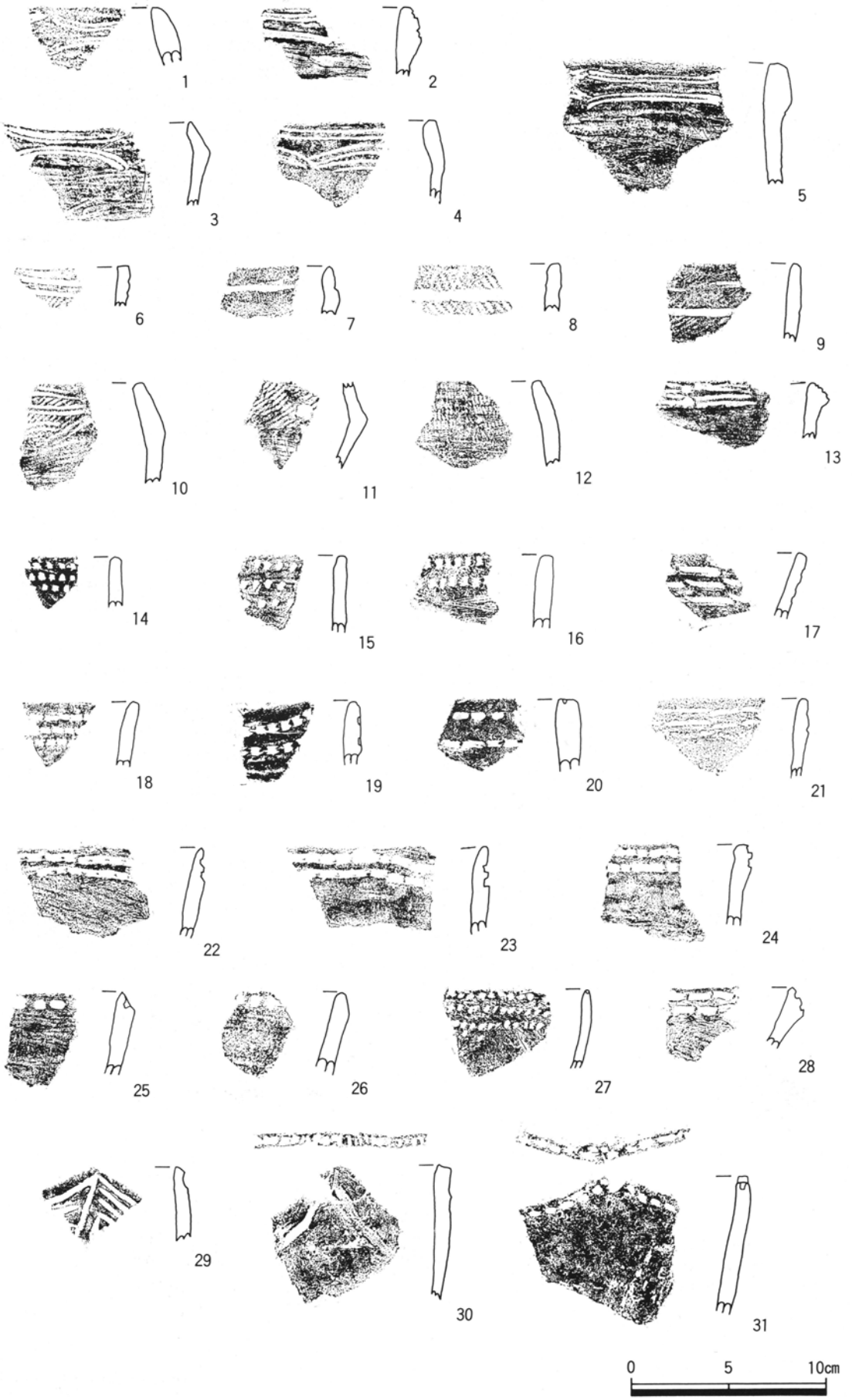
図版8　遺構全体図(8)

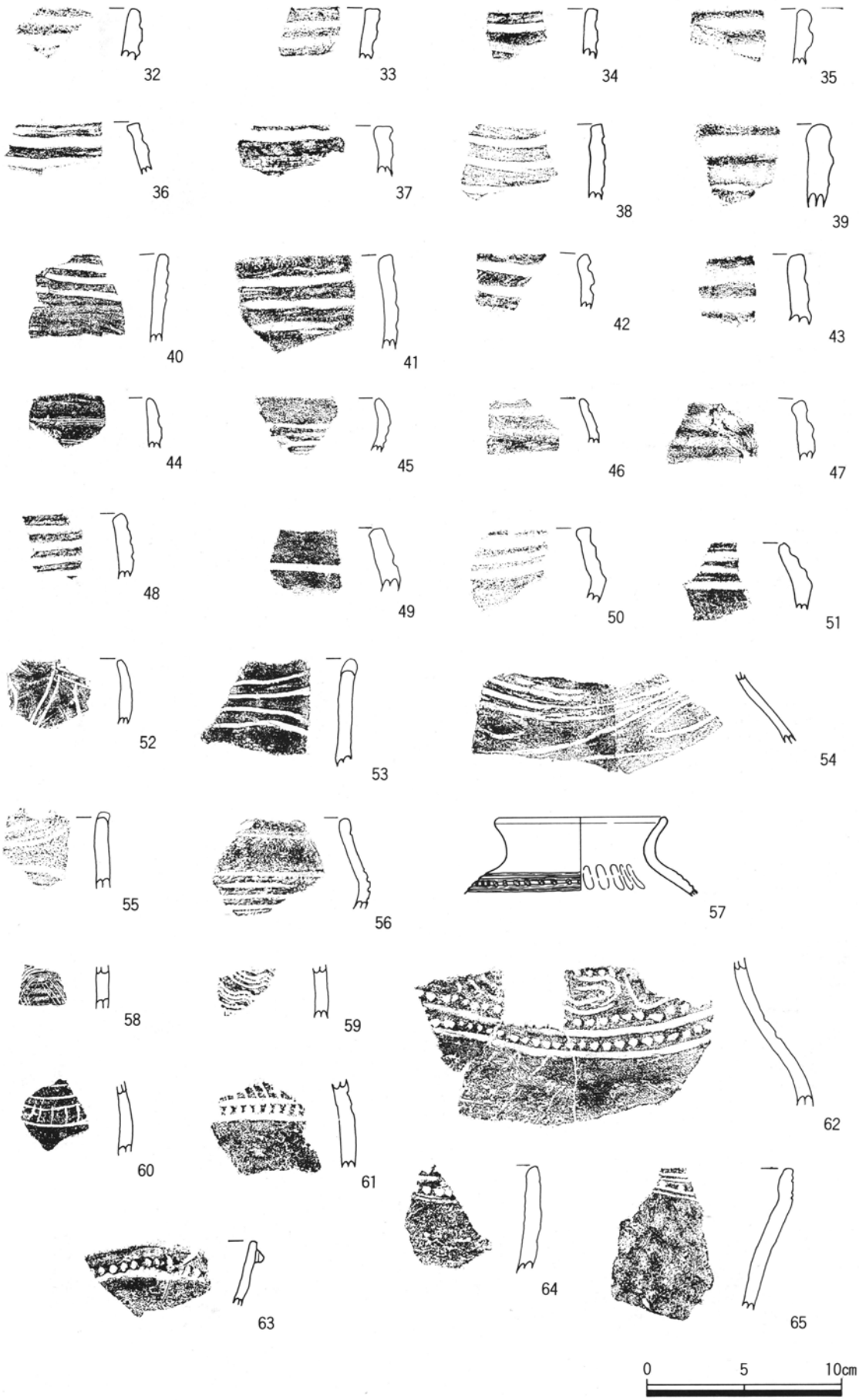

SD13
SD14
SK559
SK558
SK560
SK561
SD12
SA01
SD15
Y=1,650
SK563
SK564
SK562
SK565
SD17
SD18
SD16
Y=1,675
SA02
SK566
SK567
SK568
SD19
SB05
SB06
SB08
SB07
SB09
SB10
NR02
X=-130,125

図版9　遺構全体図(9)

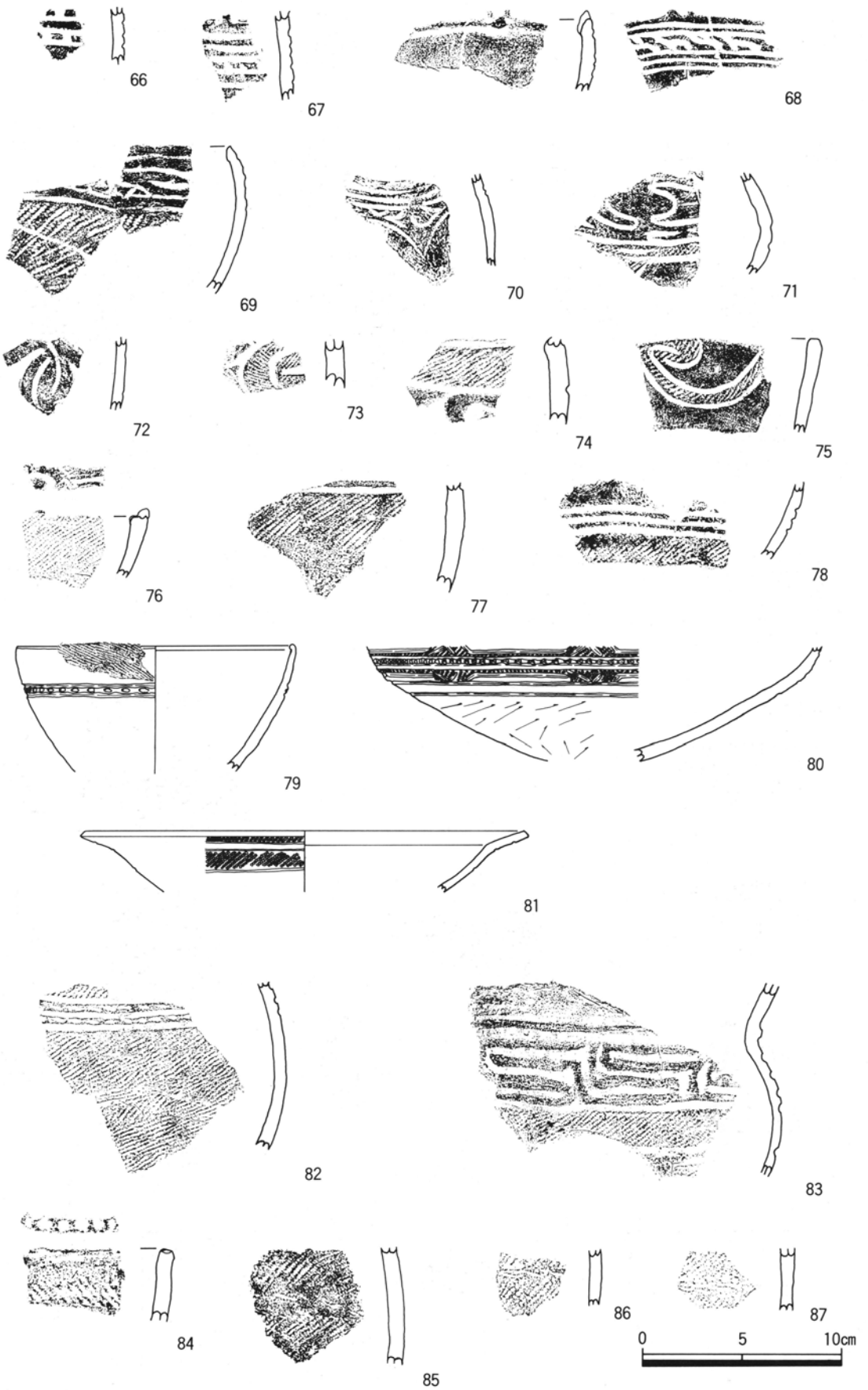

SB10
SB11
NR02
SK569
SK
571
SK570
SK573
SK575
SK572
SK574
Y=1,700
Y=1,725
Y=1,750
X=-130,100

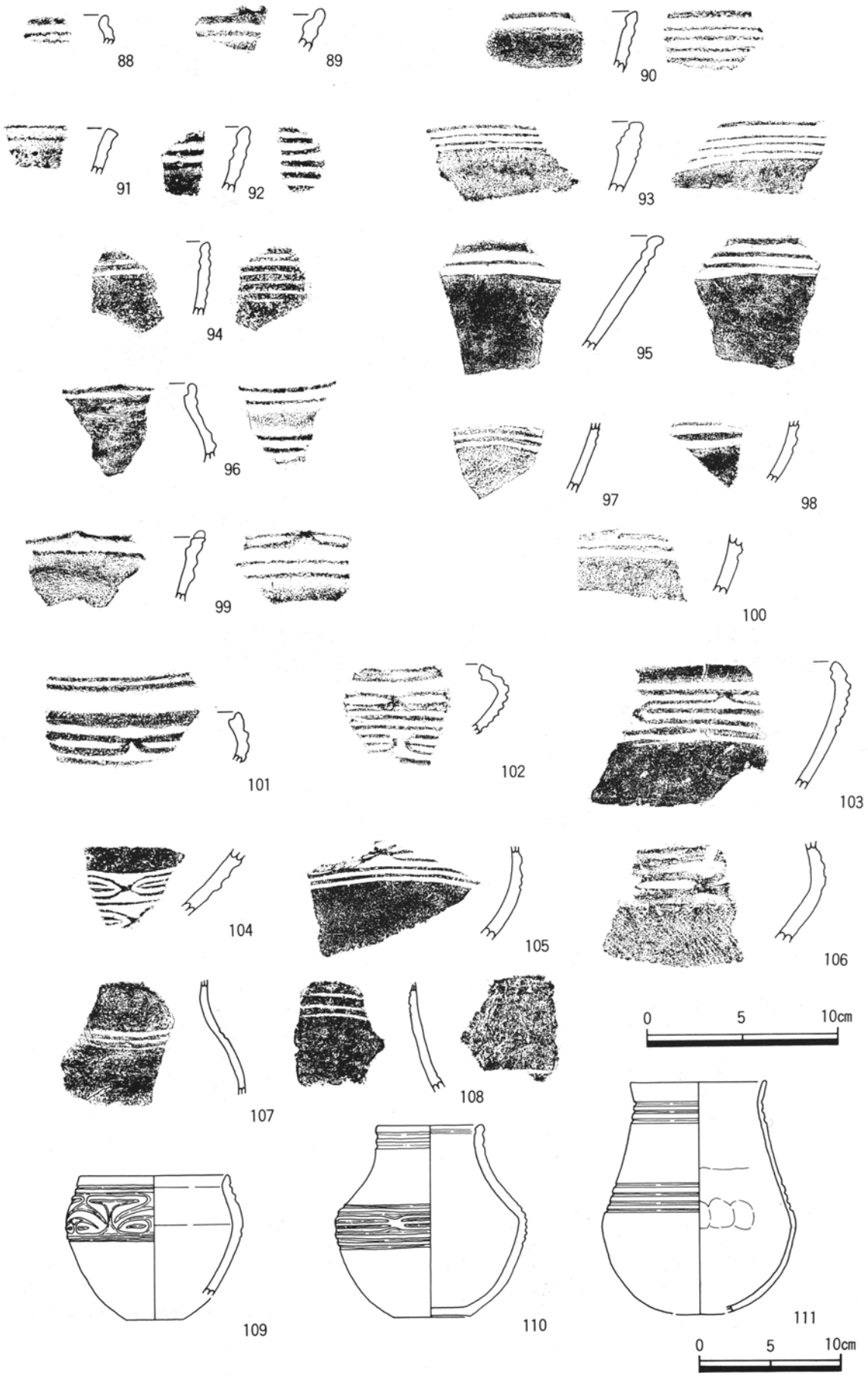
図版10　縄文土器(1)


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
0
5
10cm

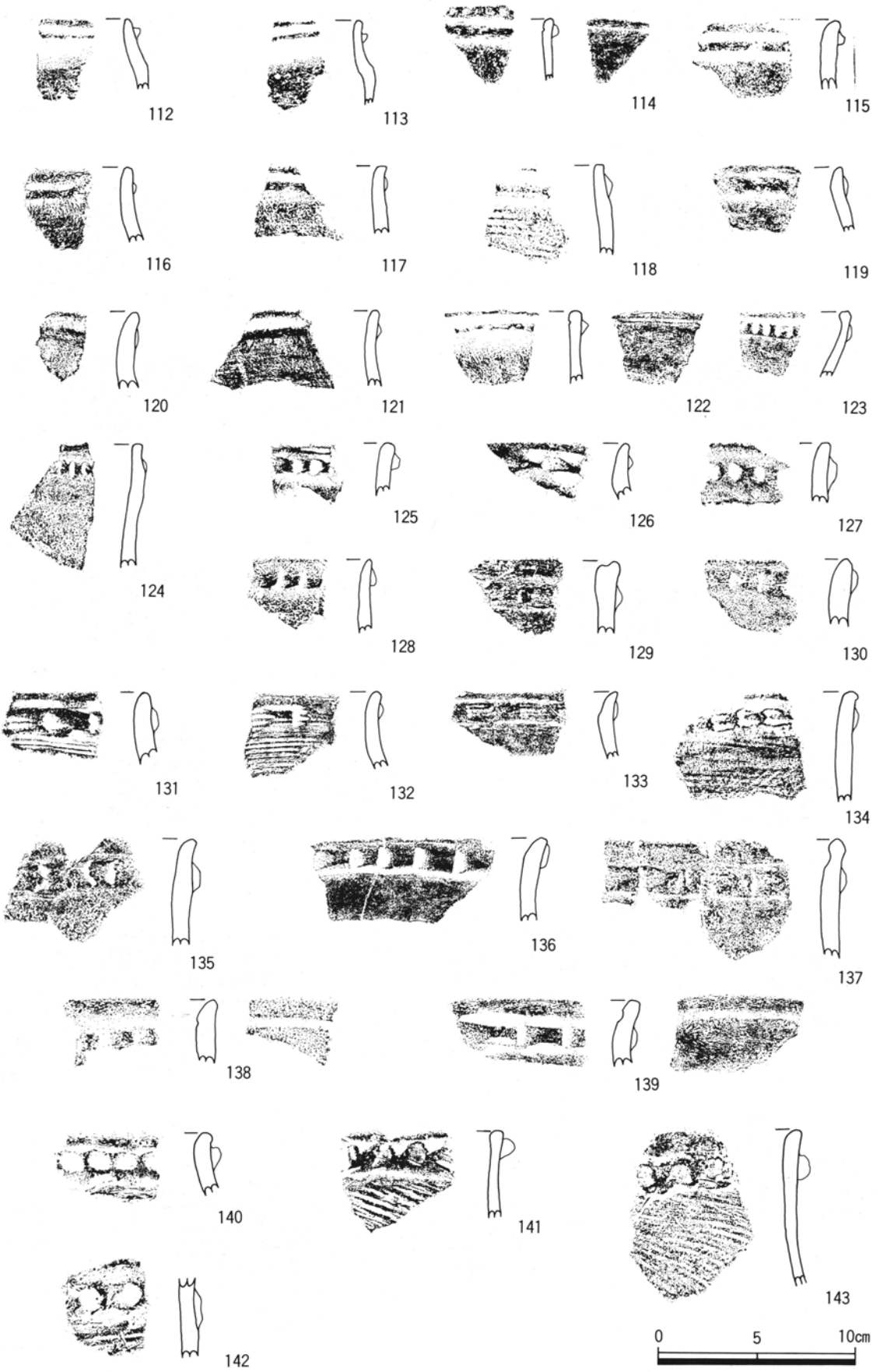

32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
0
5
10cm

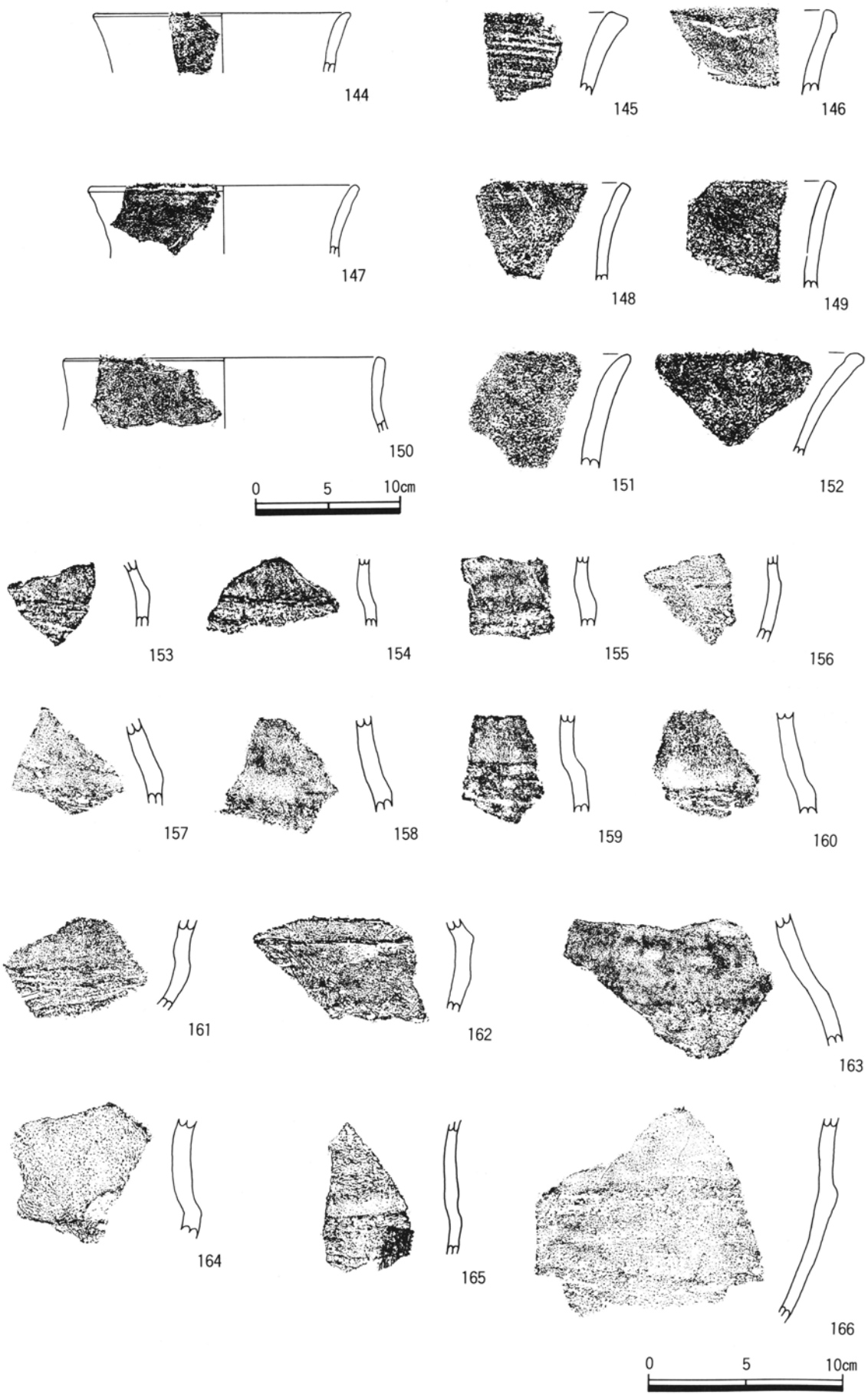
図版12　縄文土器(3)


66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
0
5
10cm

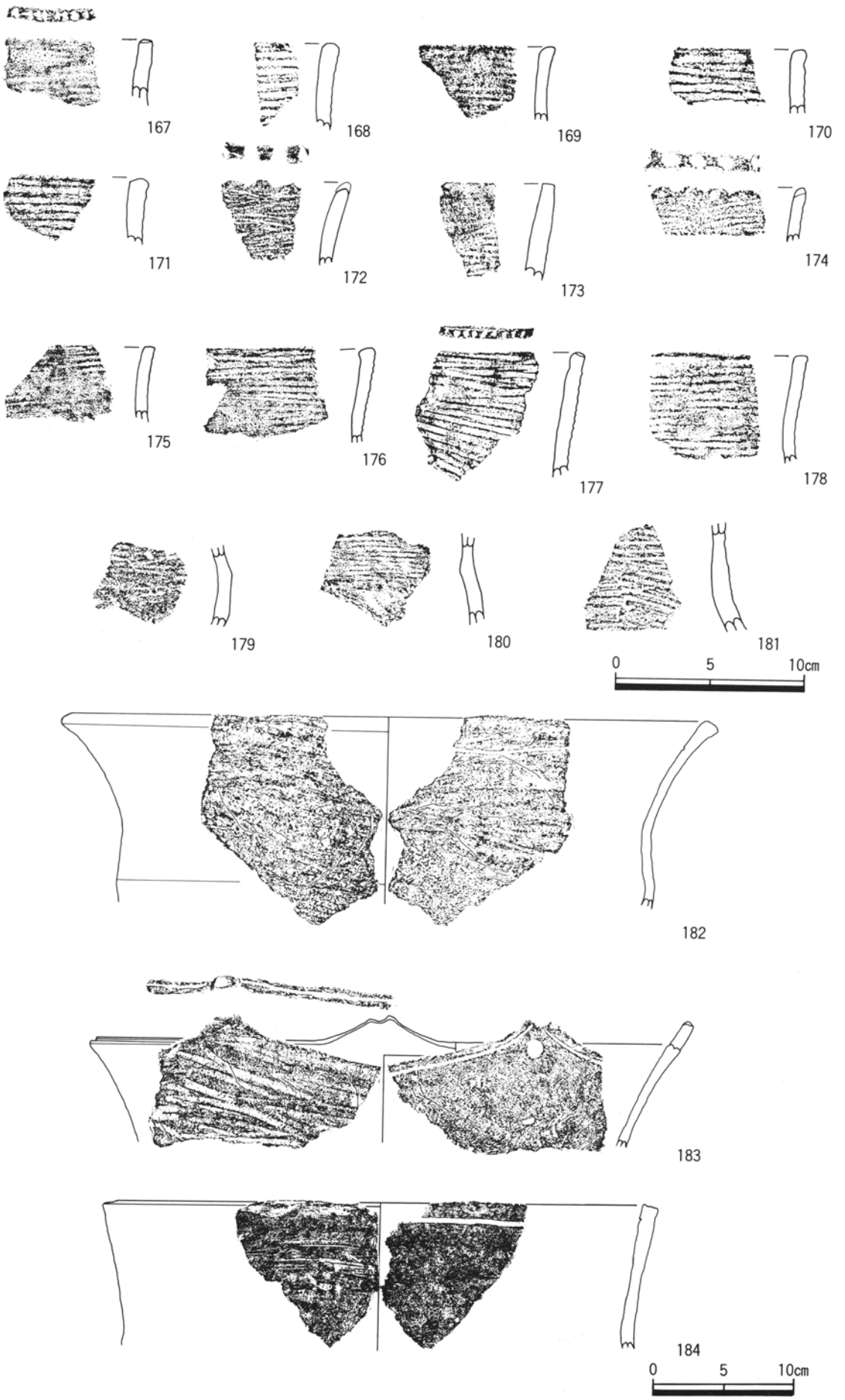

88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
0 5 10cm
109
110
111
0 5 10cm

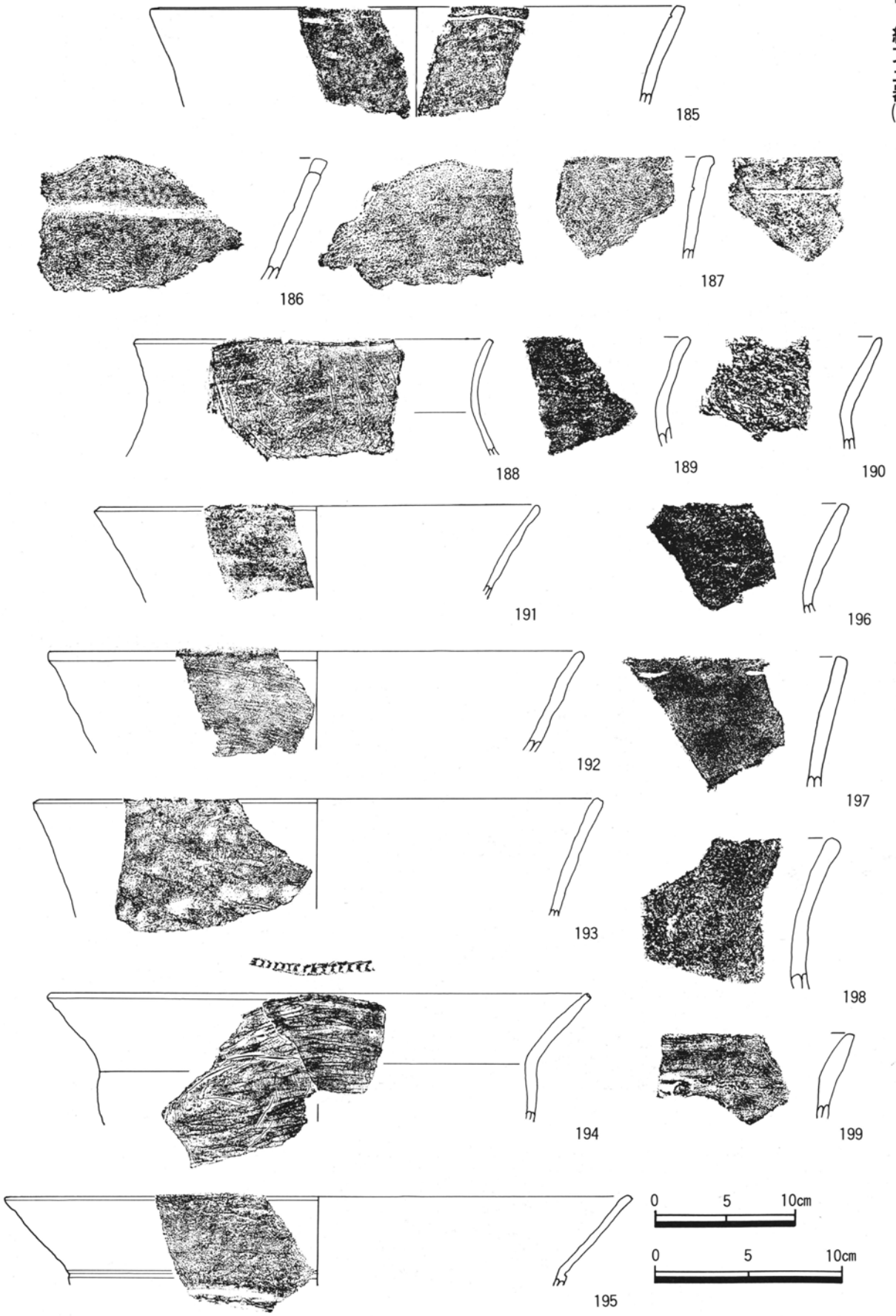
図版14　縄文土器(5)


112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
0
5
10cm

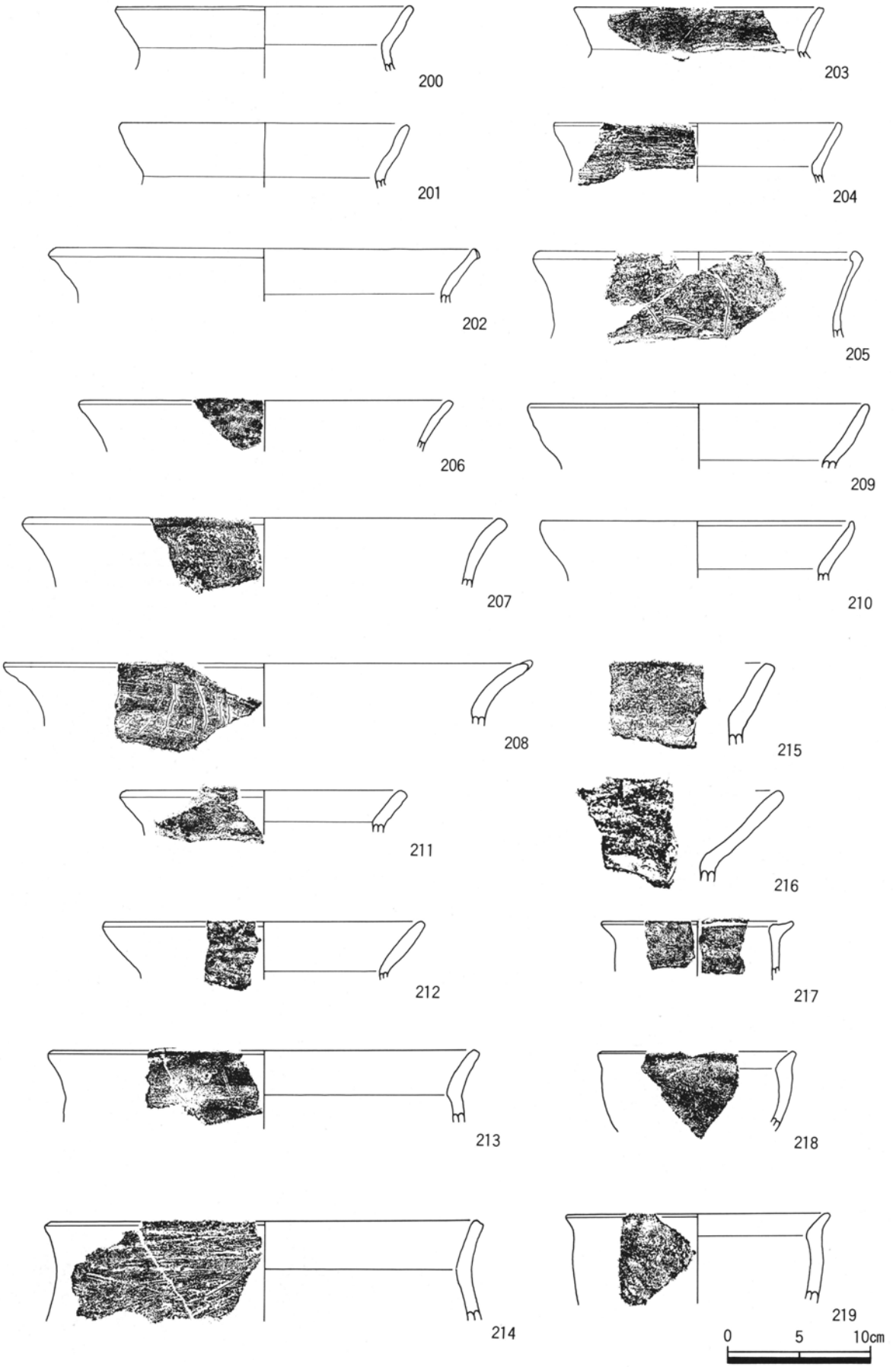

144
145
146
147
148
149
150
151
152
0 5 10cm
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
0 5 10cm

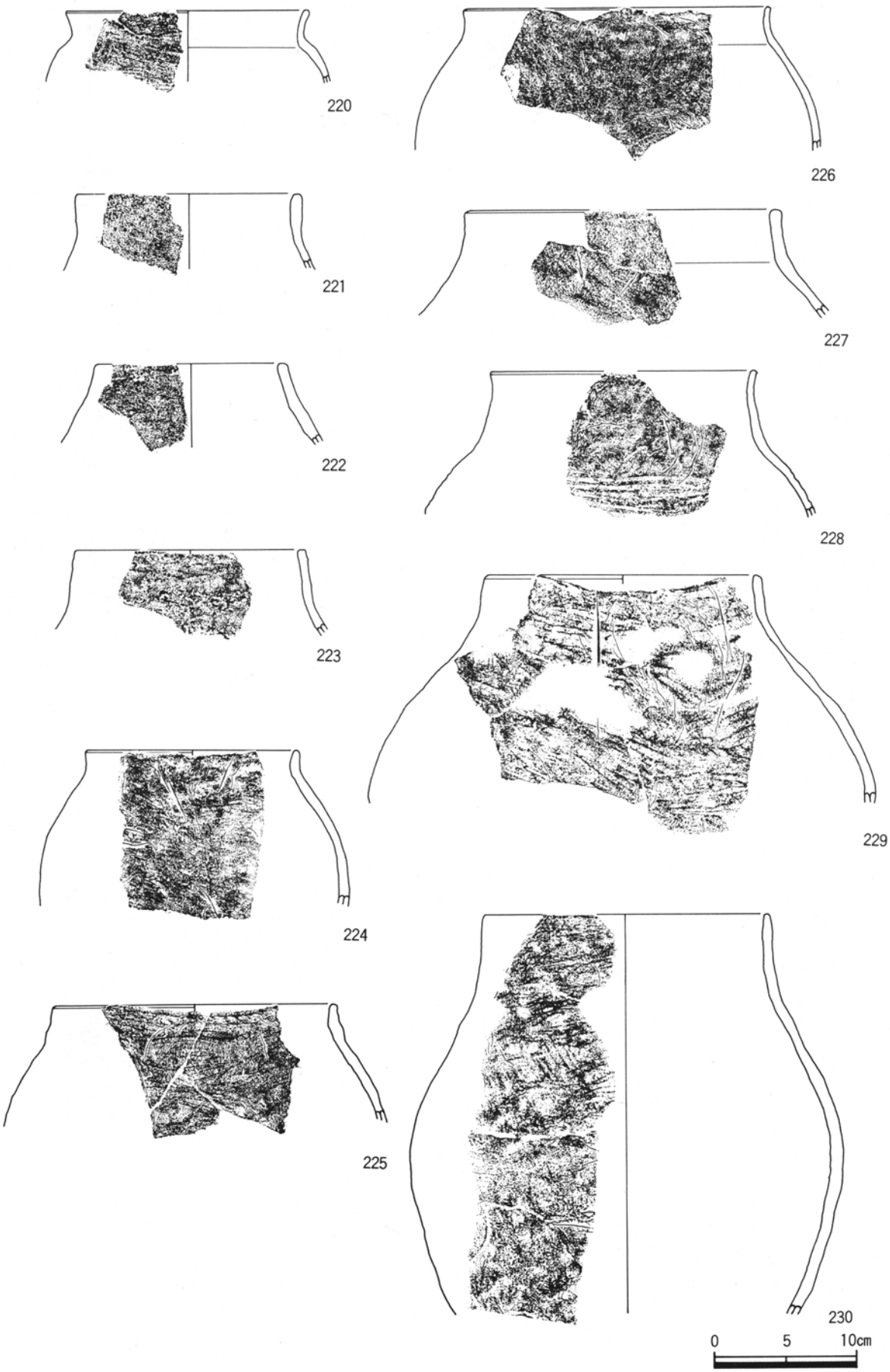
図版16　縄文土器(7)


167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
0 5 10cm
182
183
184
0 5 10cm

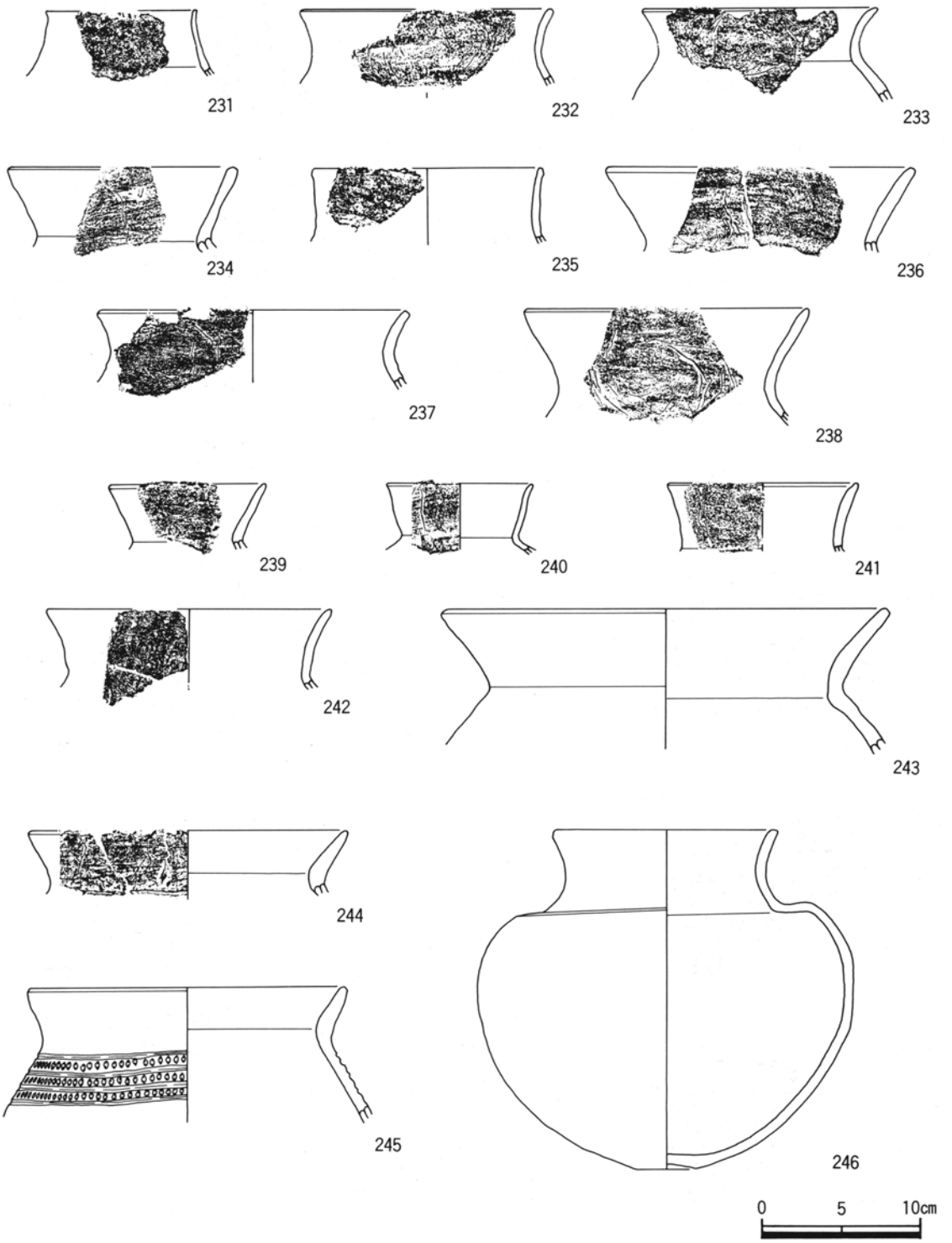

185
186
187
188
189
190
191
196
192
197
193
198
194
199
195
0 5 10cm
0 5 10cm

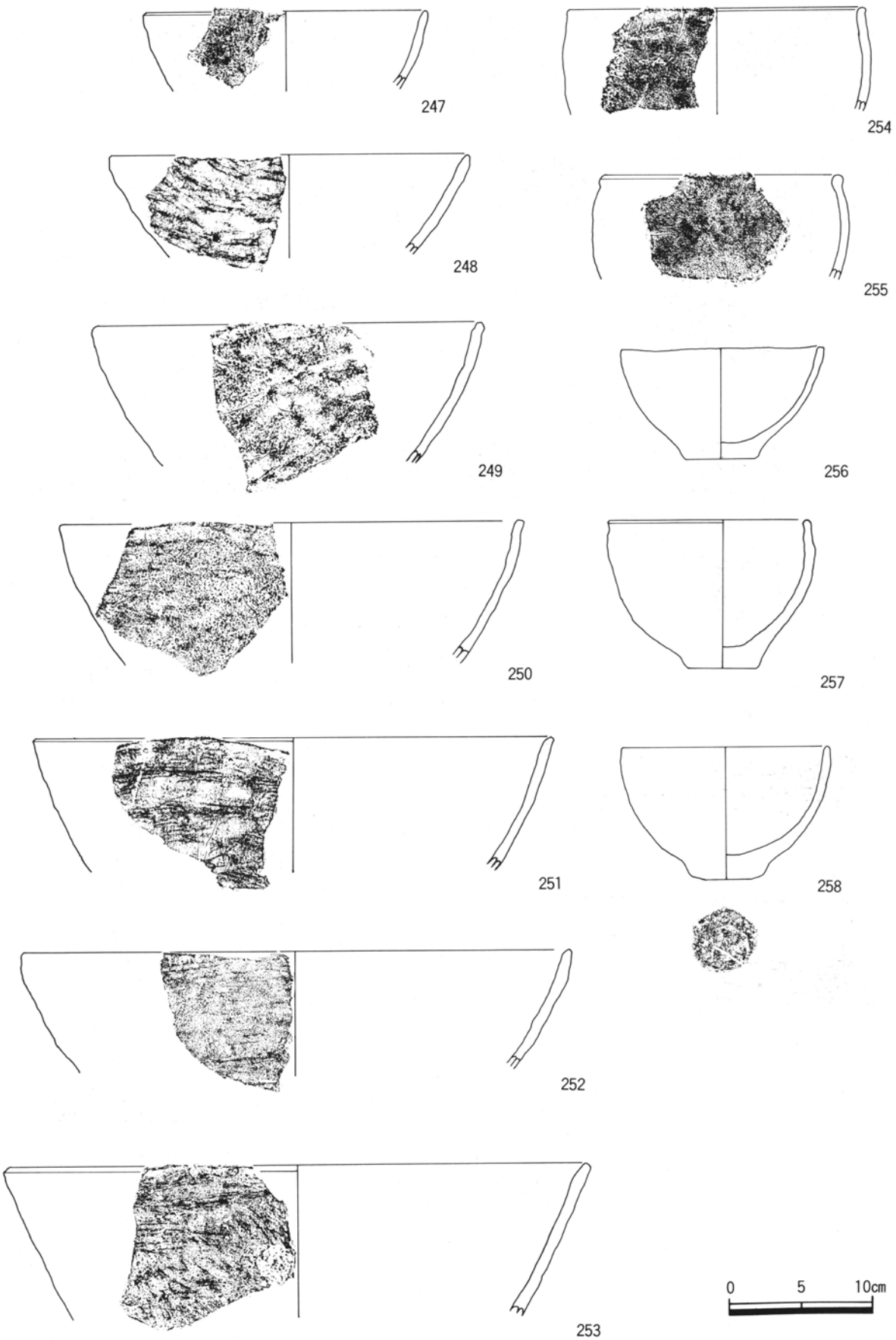
図版18　縄文土器(9)

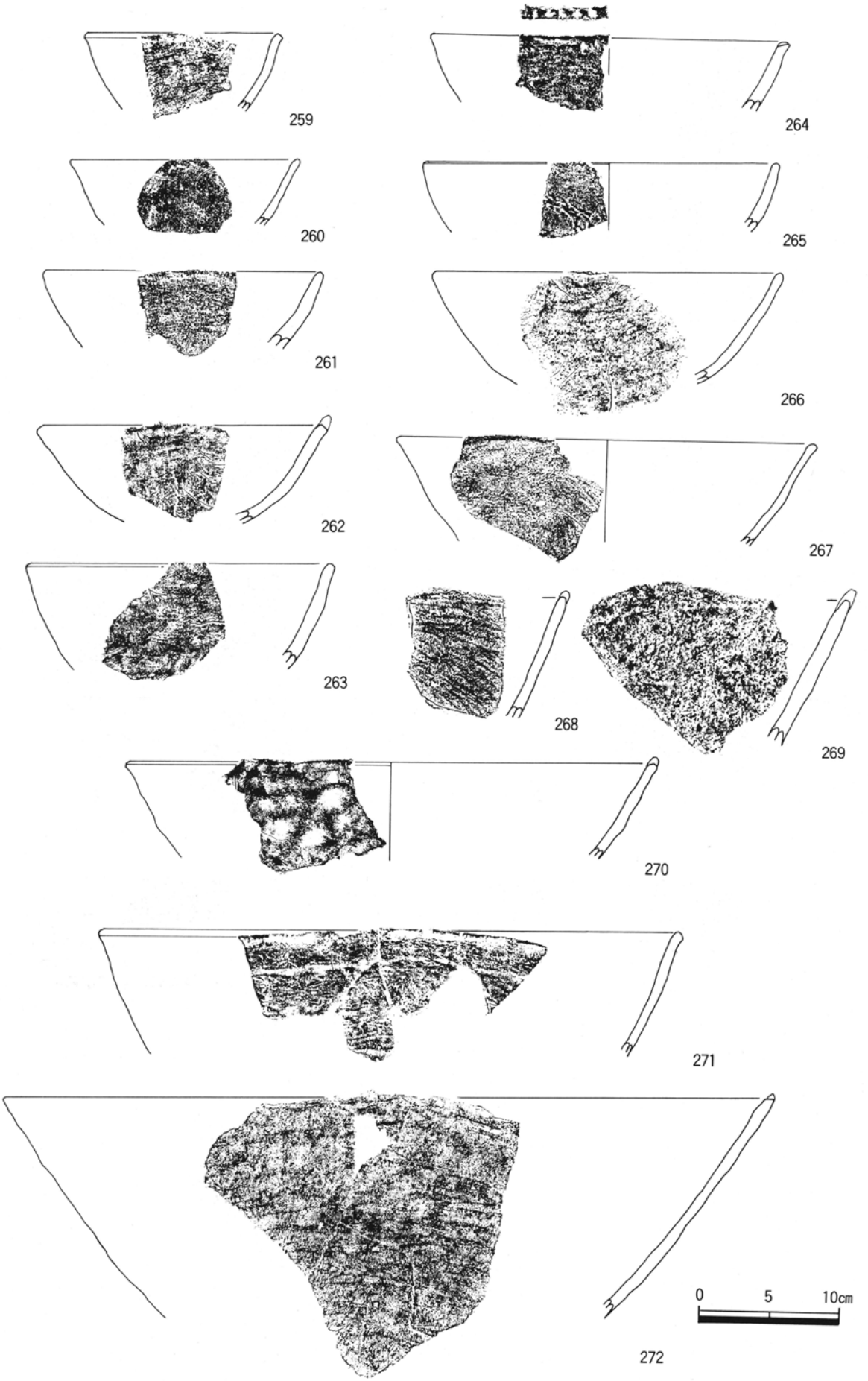

200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
0
5
10cm

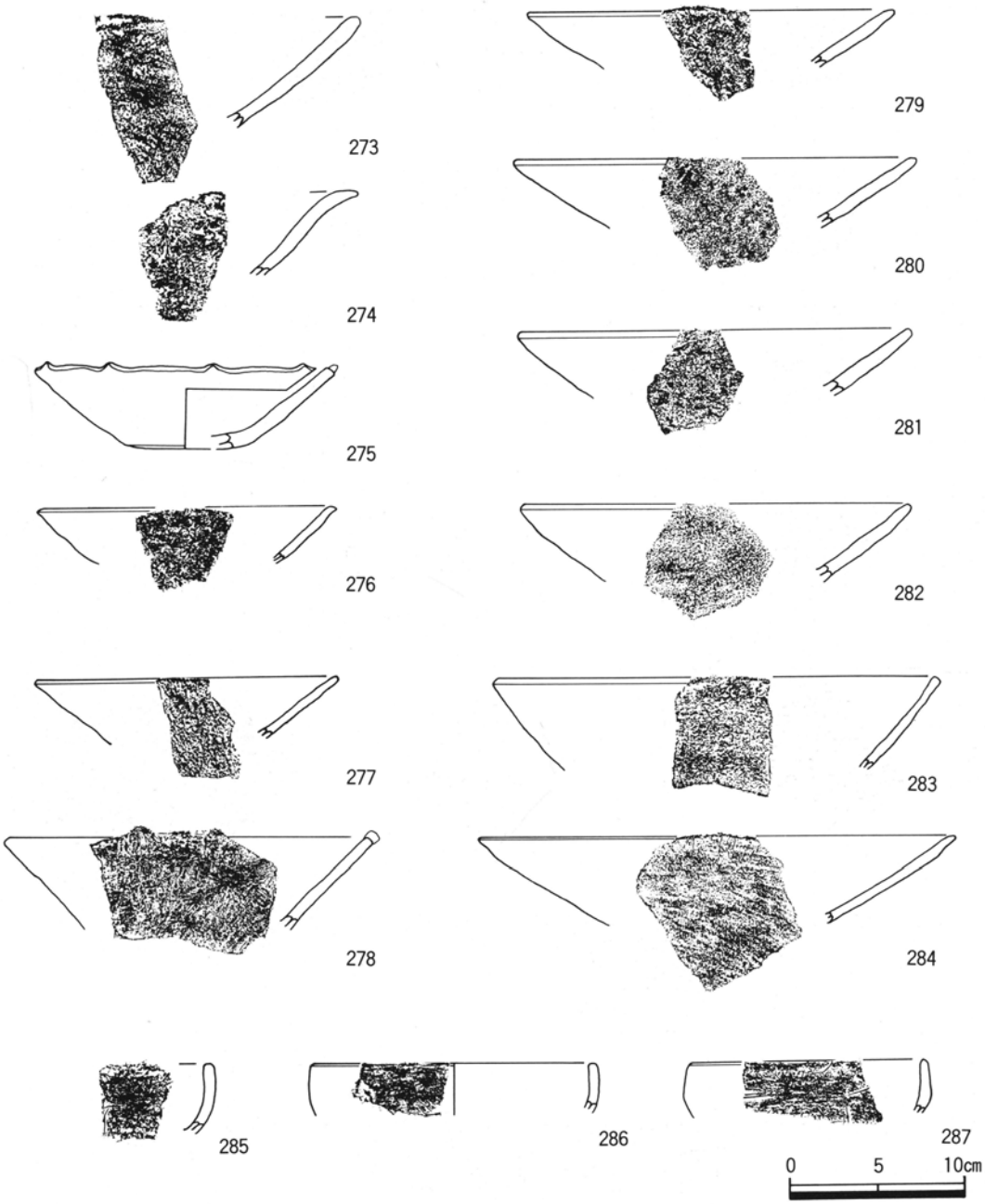

220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
0
5
10cm

図版20　縄文土器(11)

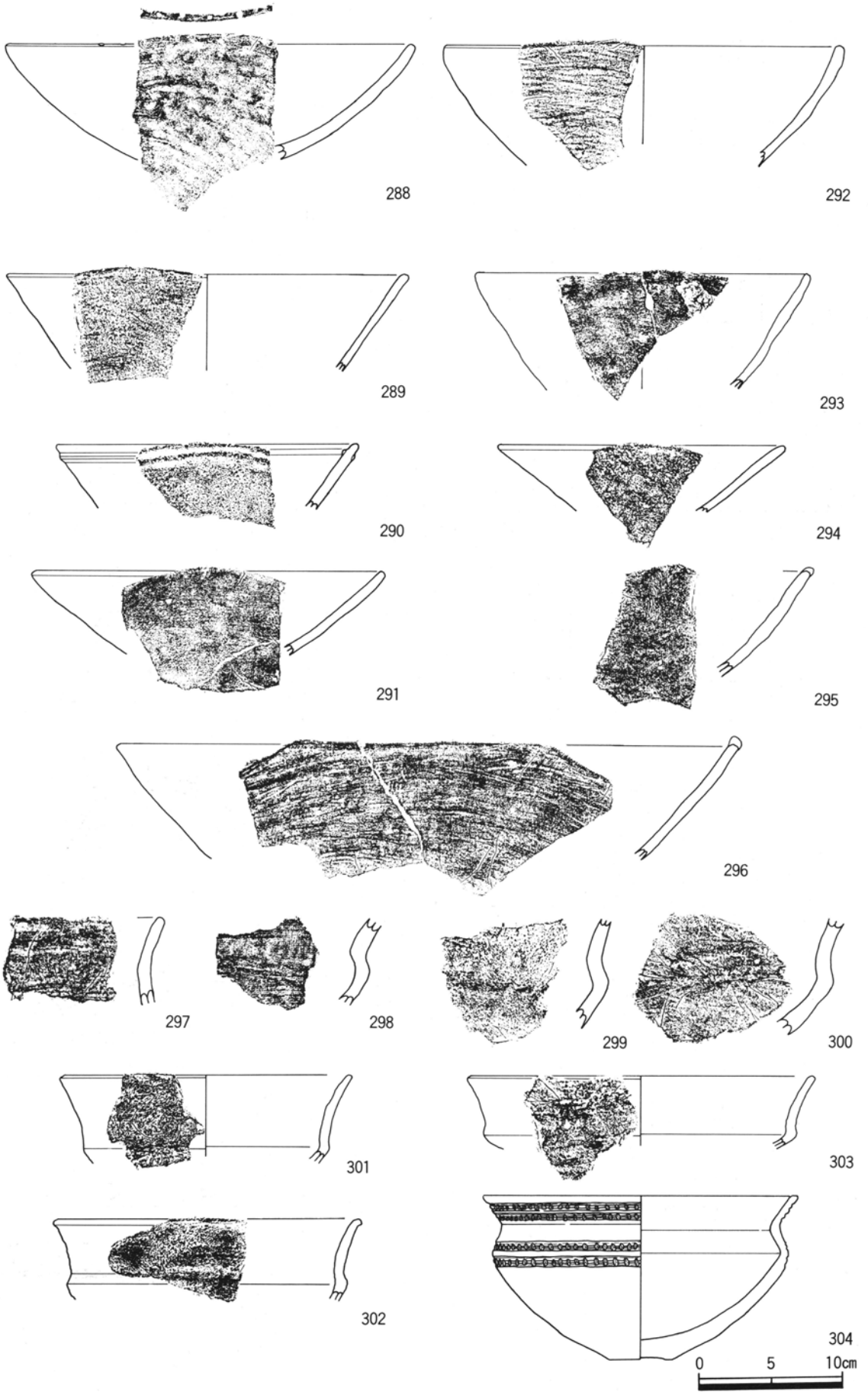

231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
0
5
10cm

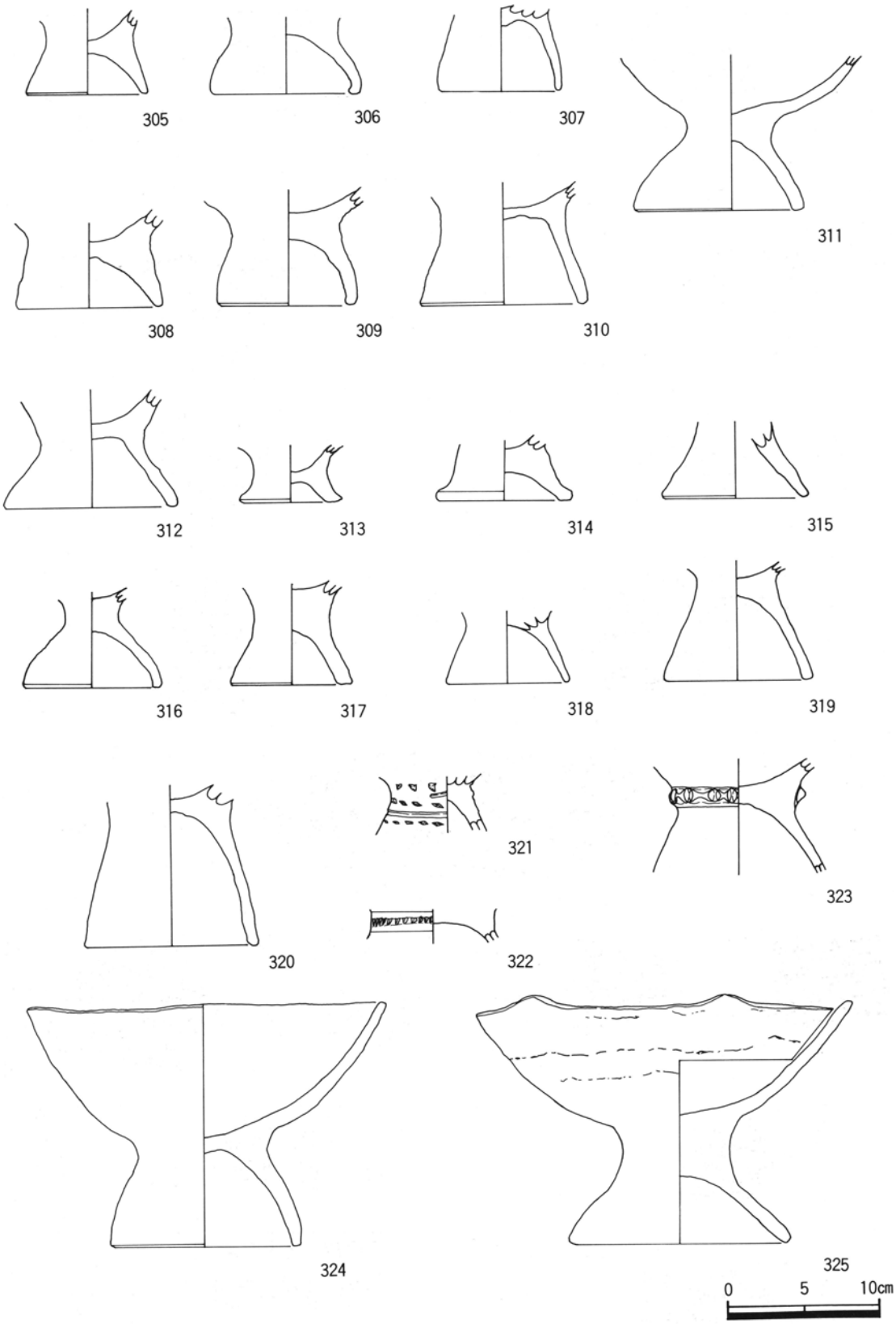

247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
0
5
10cm


259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
0
5
10cm

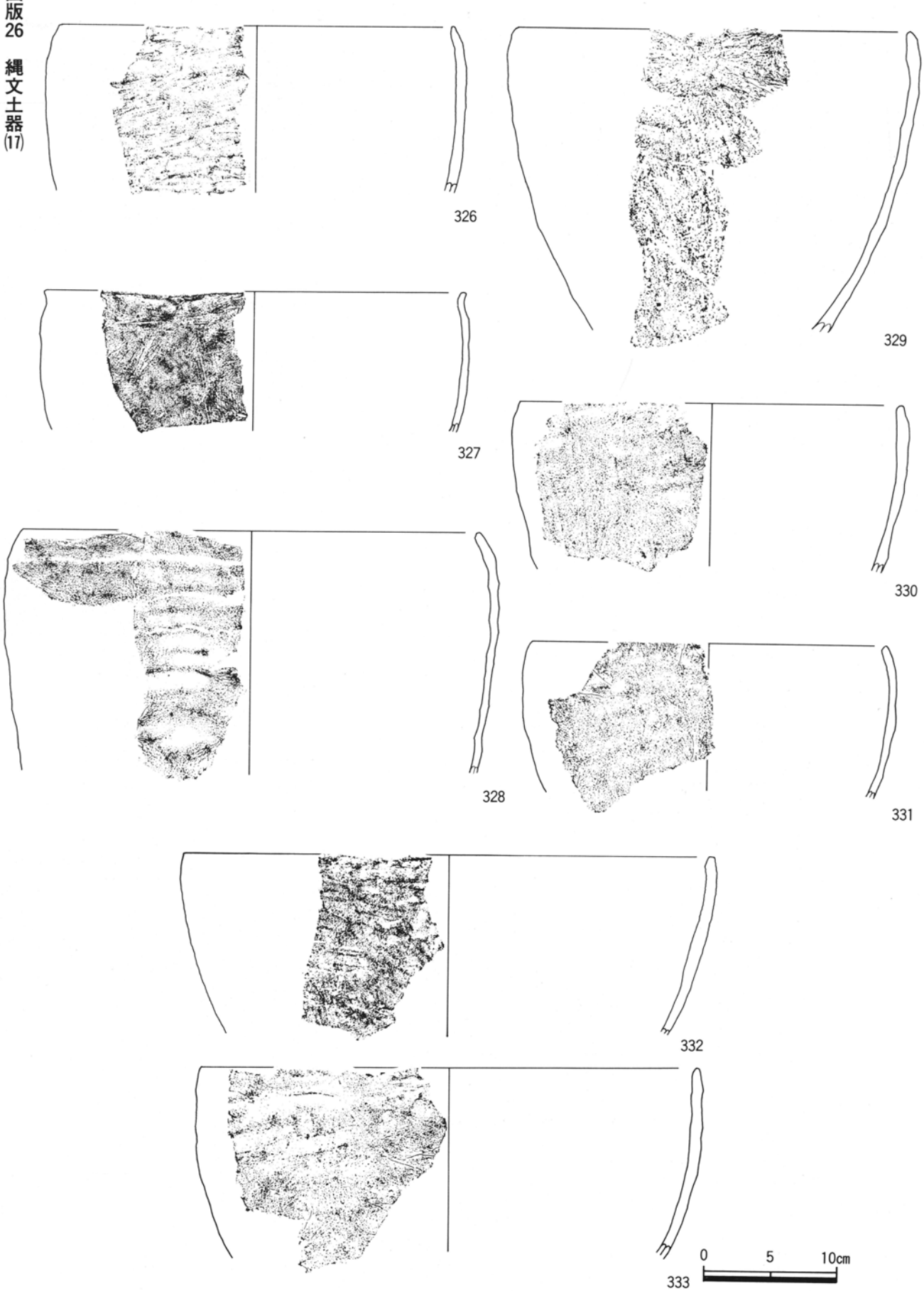

273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
0
5
10cm

図版24　縄文土器(15)


288
292
289
293
290
294
291
295
296
297
298
299
300
301
303
302
304
0
5
10cm


305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
0
5
10cm

図版26　縄文土器(17)

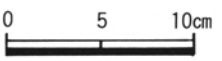


334

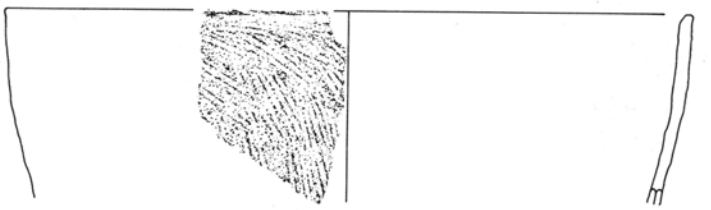
335

336

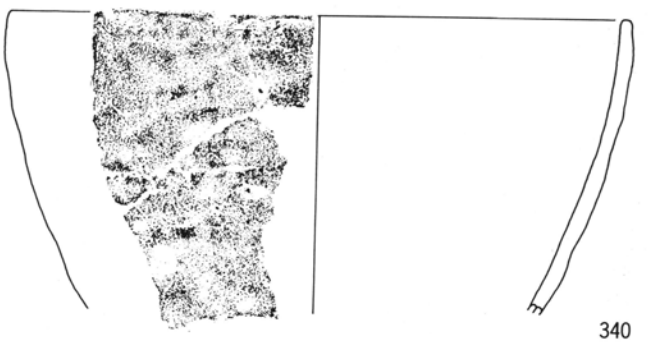
337

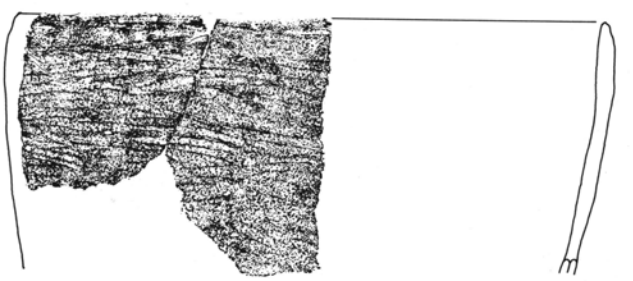

0
5
10cm

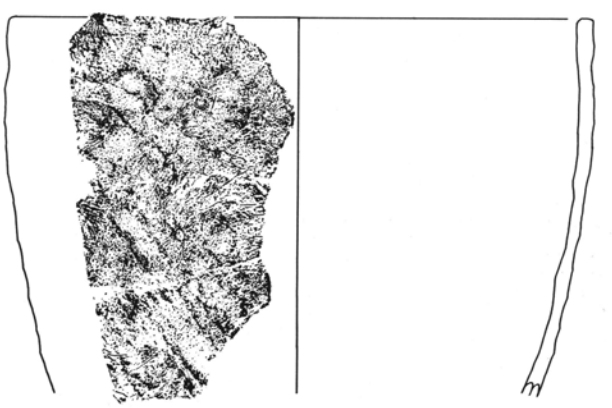
図版28　縄文土器(19)

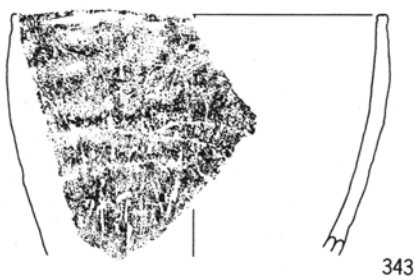

338

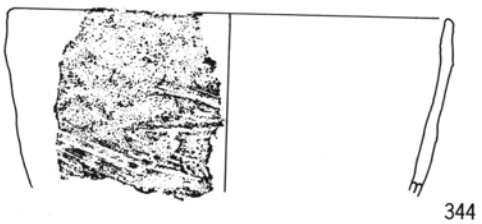
339


340

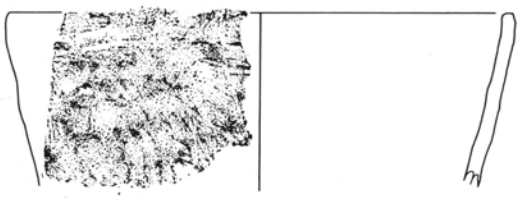

341


342

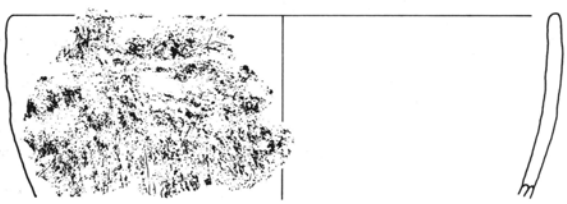

343


344

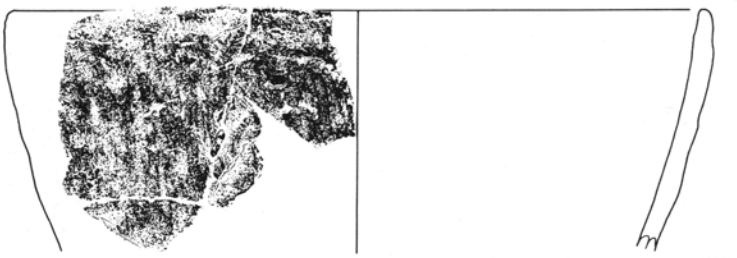
345

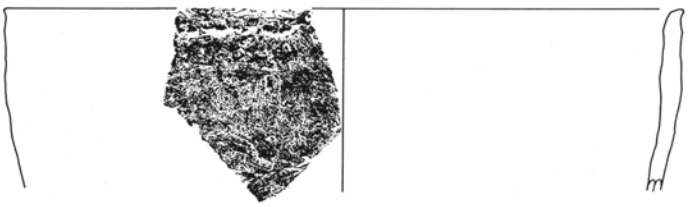

346

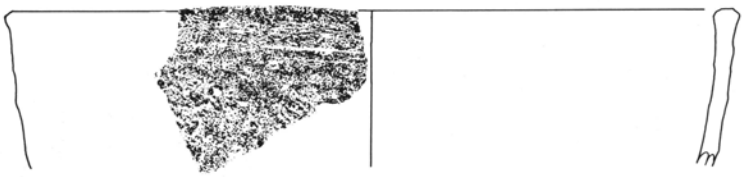
347

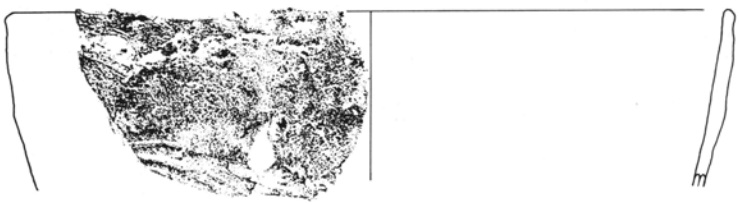

348

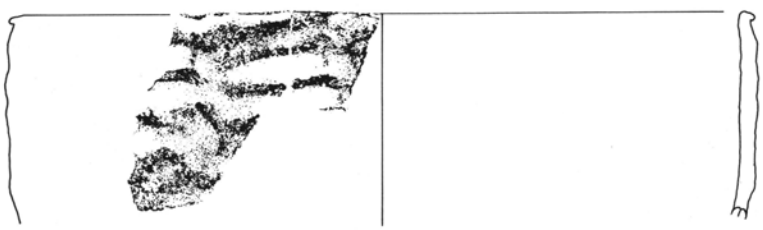
0　5　10cm

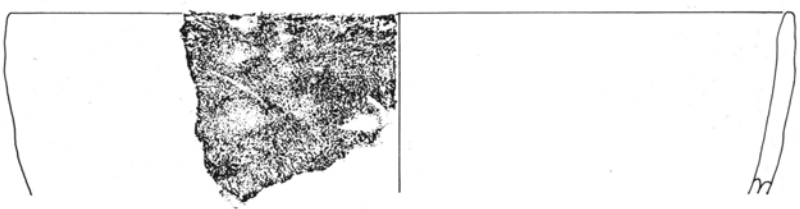






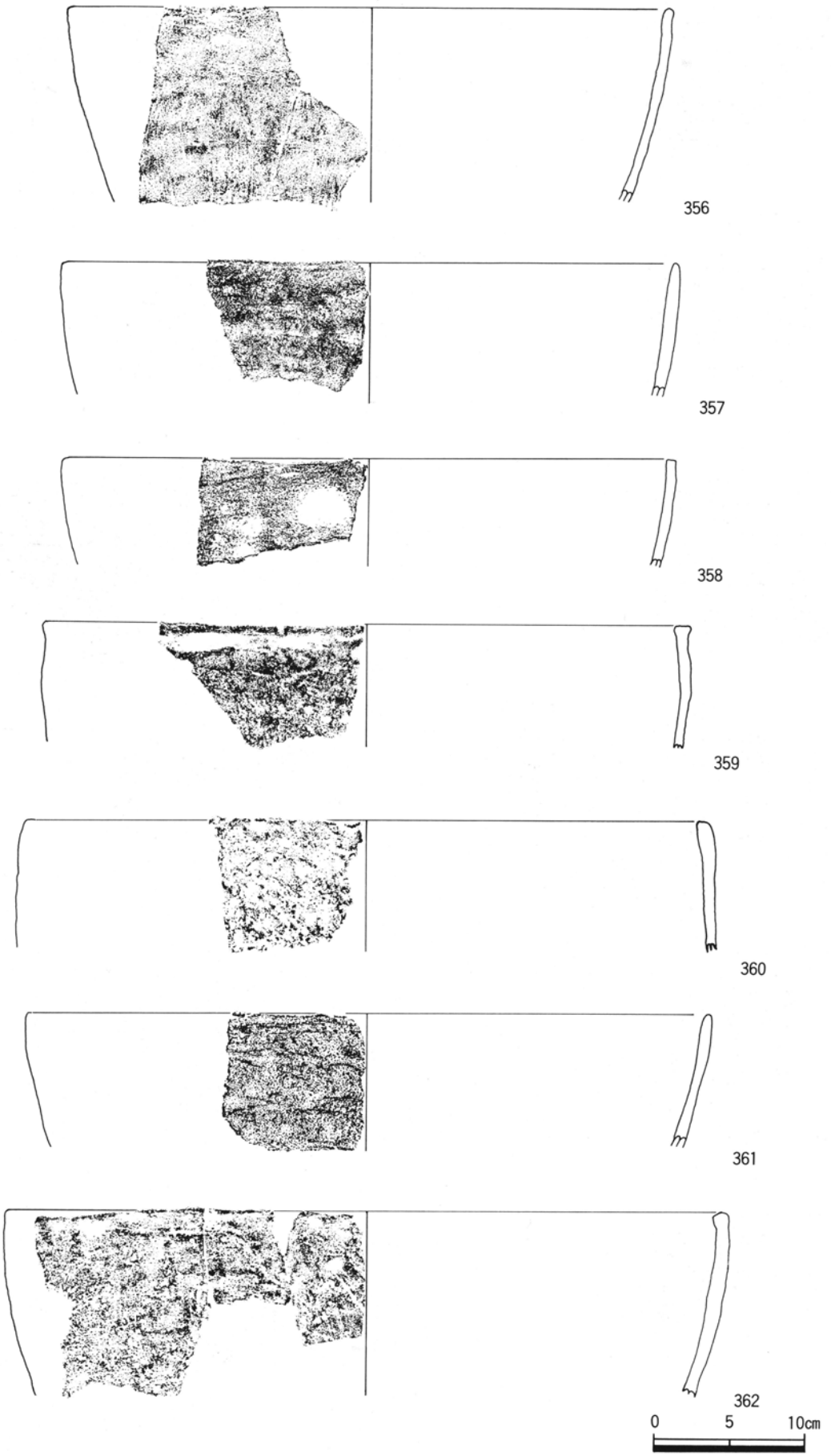


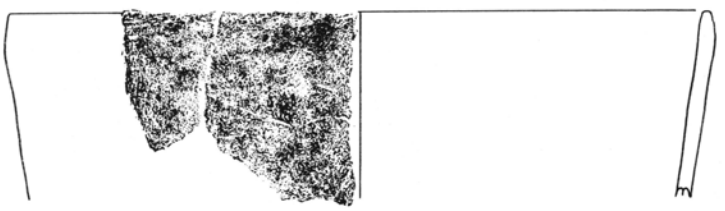


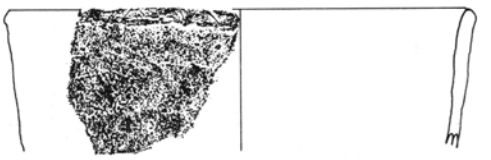


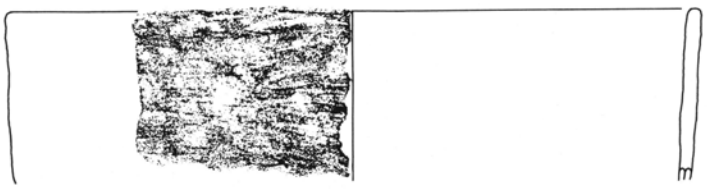
0　5　10cm

図版30　縄文土器(21)

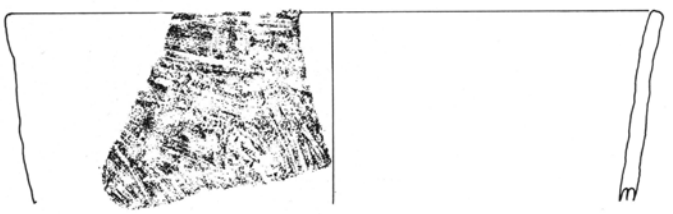



363


369

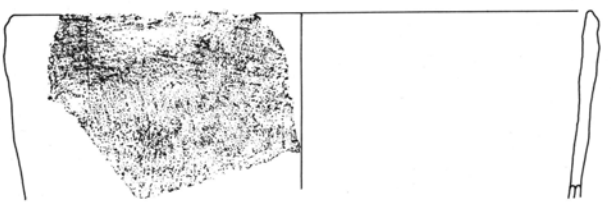

364

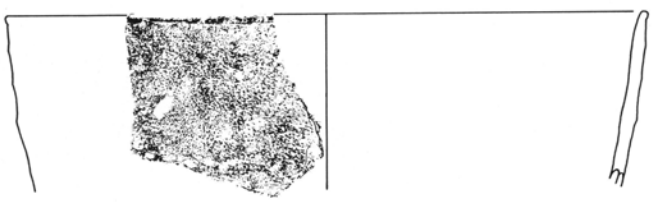
370

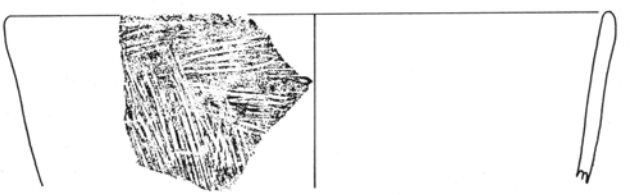

365

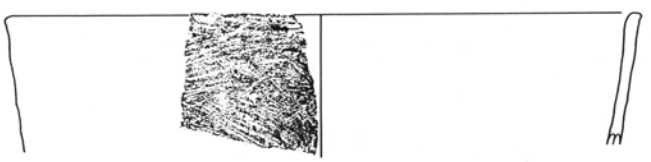
371

366


372


367

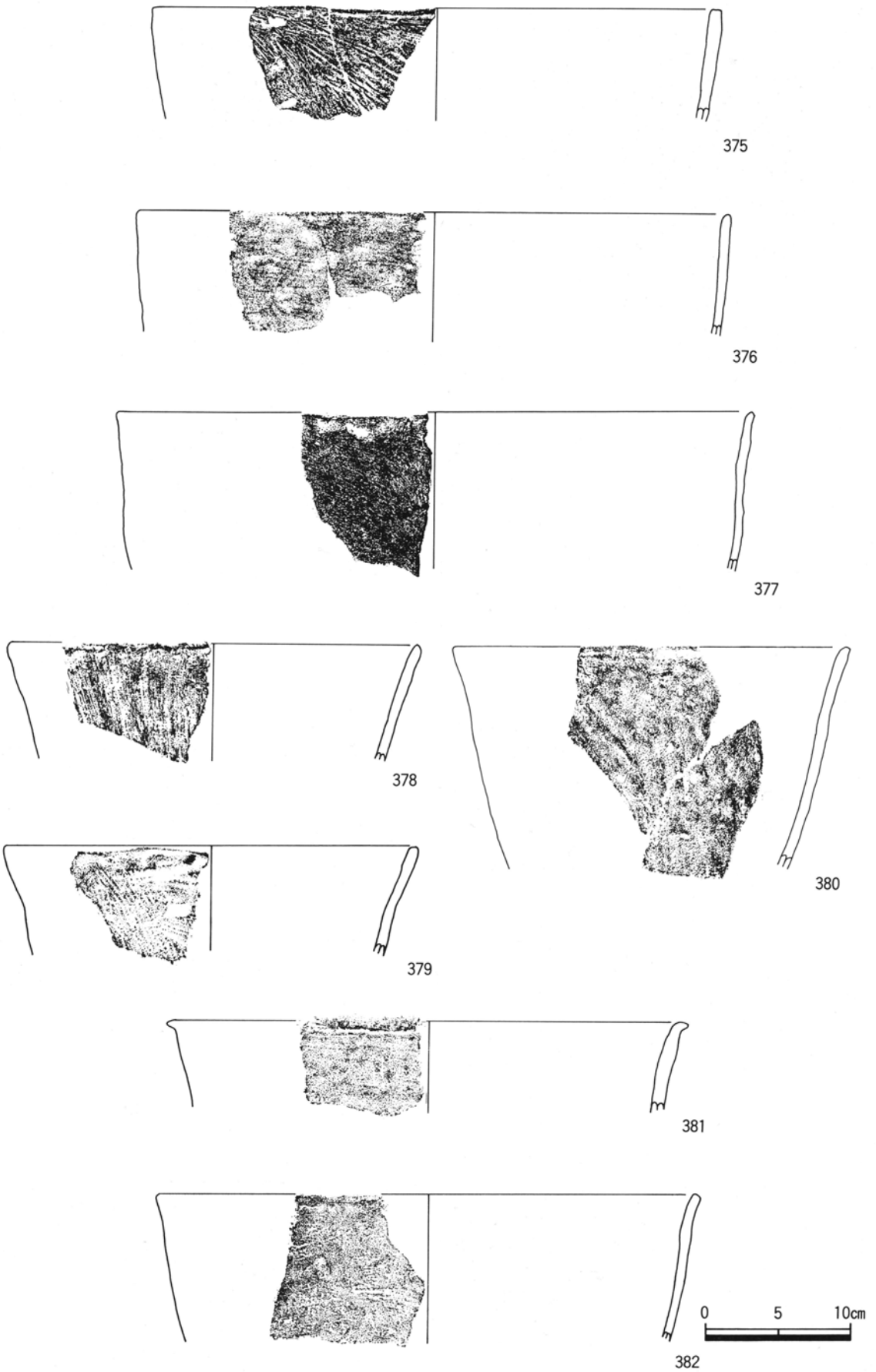

373

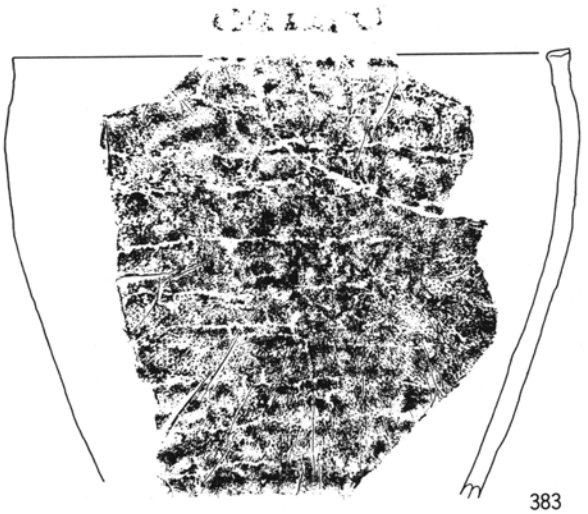

368

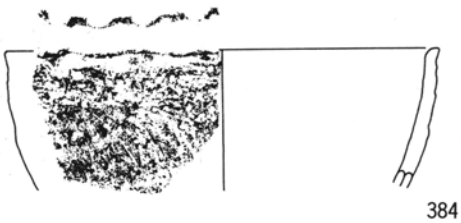
374

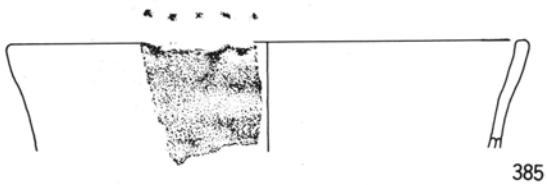
0　5　10cm

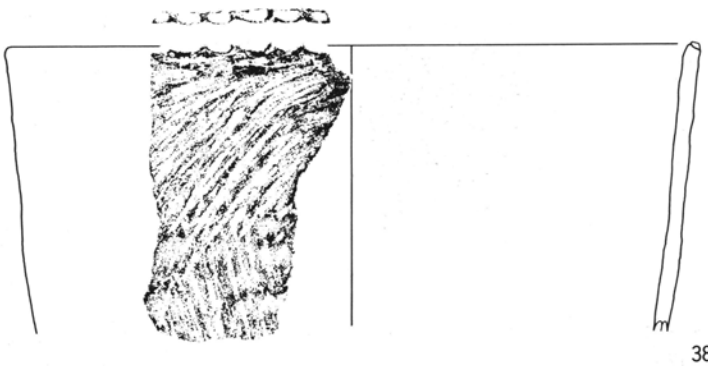
図版32　縄文土器(23)

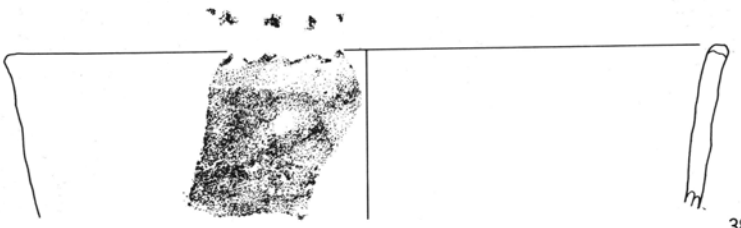


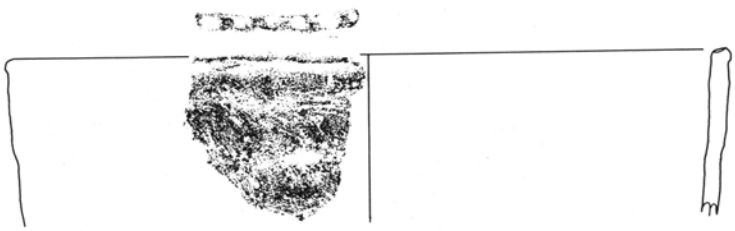

383

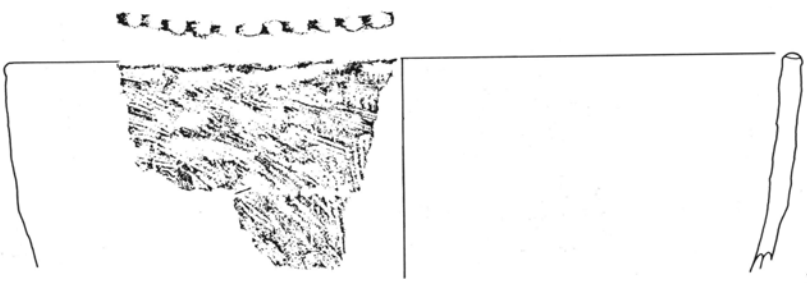

384

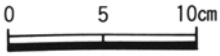

385


386

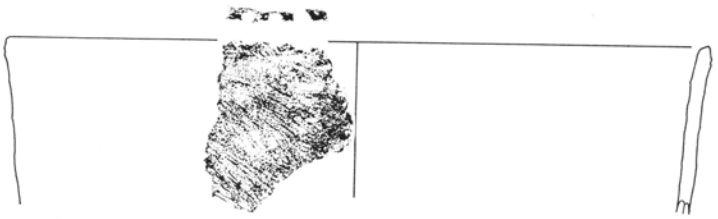

387


388

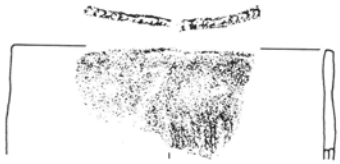

389



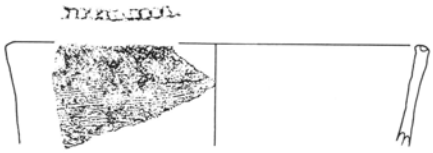
図版34　縄文土器(25)



390

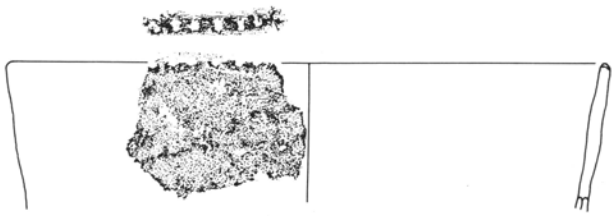


393

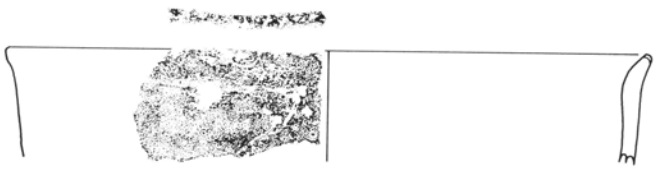


394

391

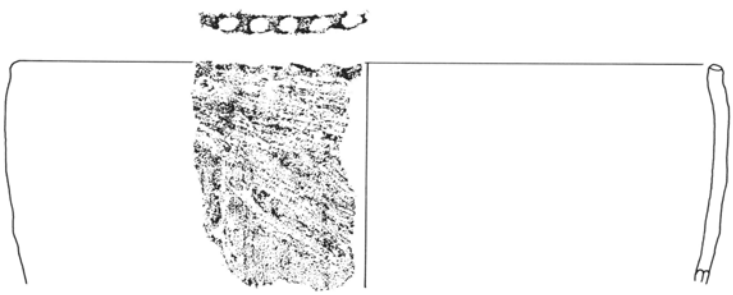


395



392

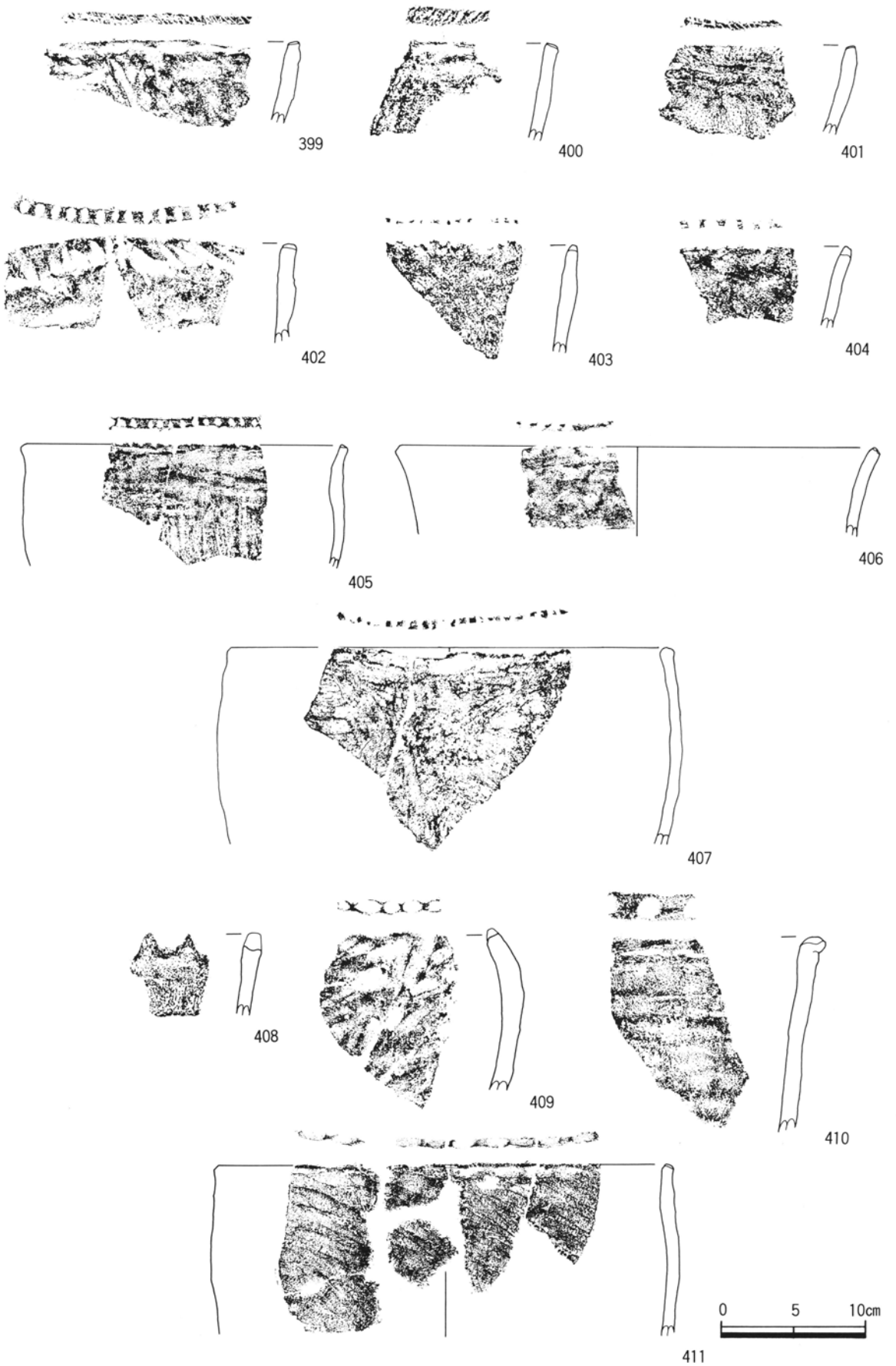
396

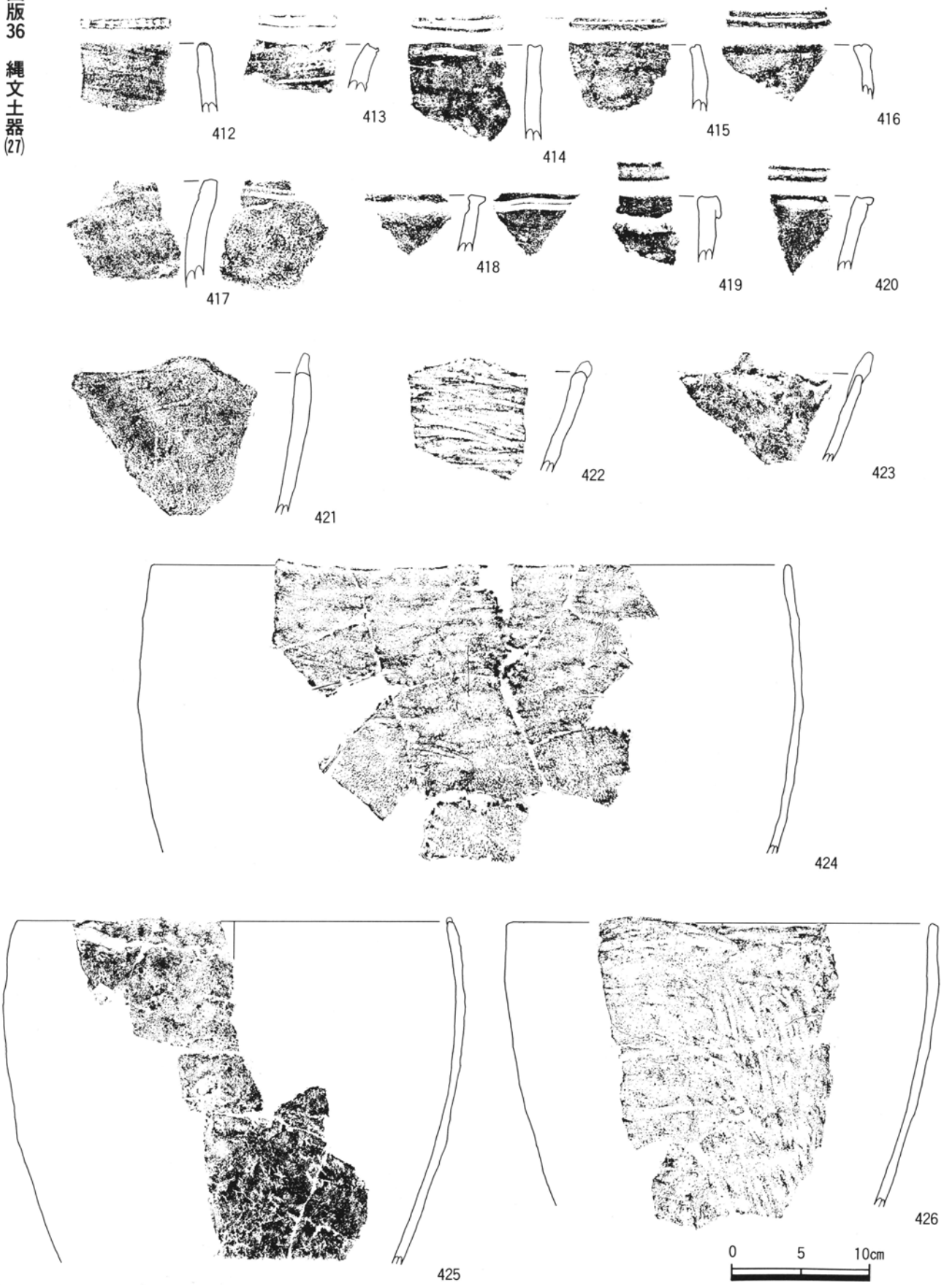


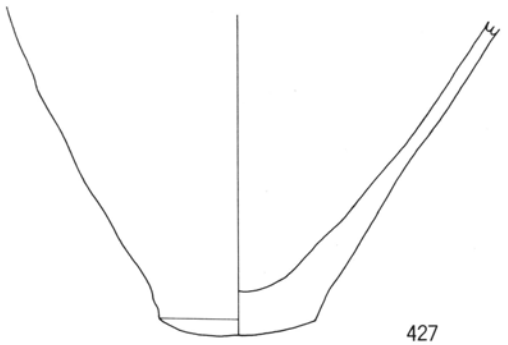
397

398

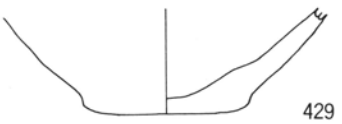
0　5　10cm


399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
0
5
10cm

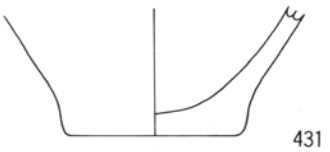

412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
0
5
10cm

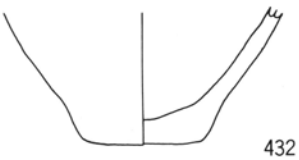

427

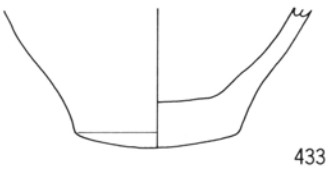
428

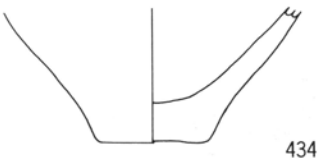

429

430

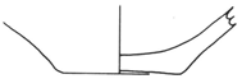

431


432


433

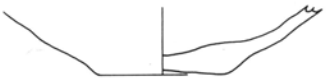

434

435


436

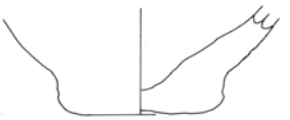
437

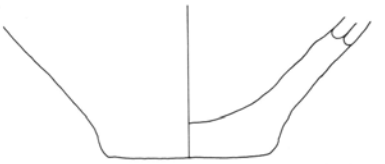
438

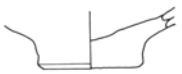

439

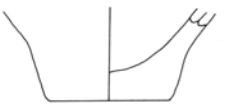
440

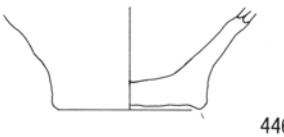
441

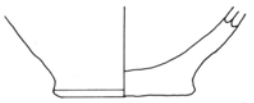

442

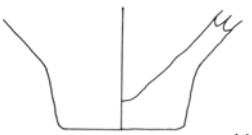

443

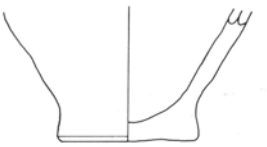

444

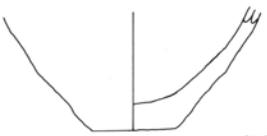

445

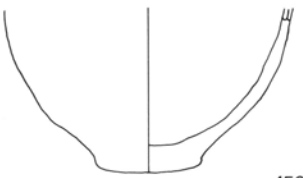

446

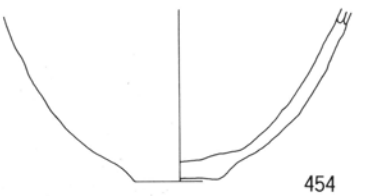

447

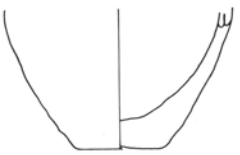

448

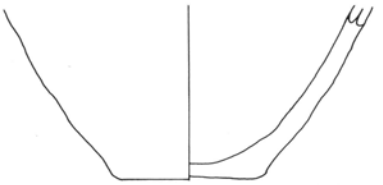

449

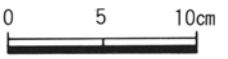

450

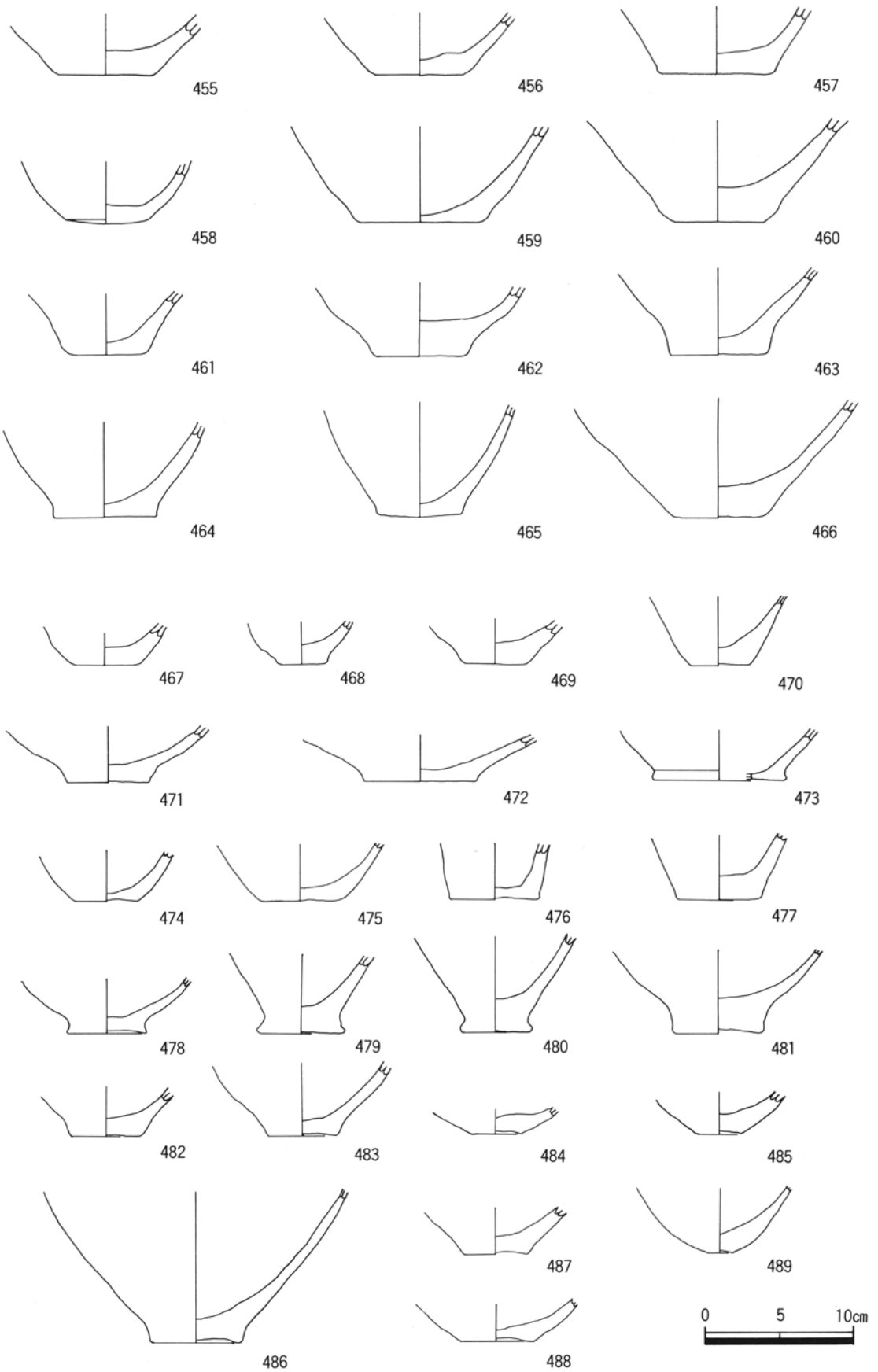

452

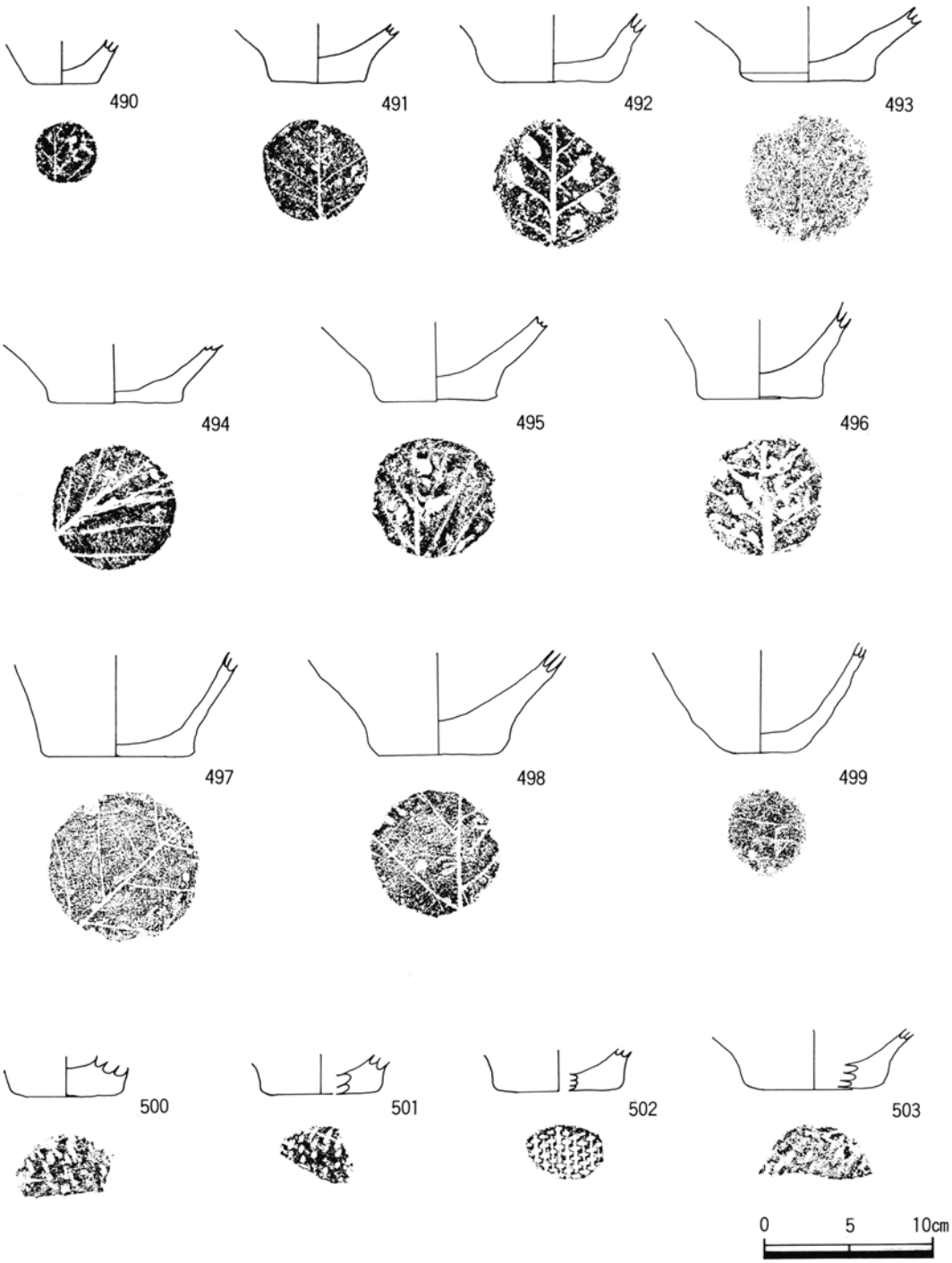

454

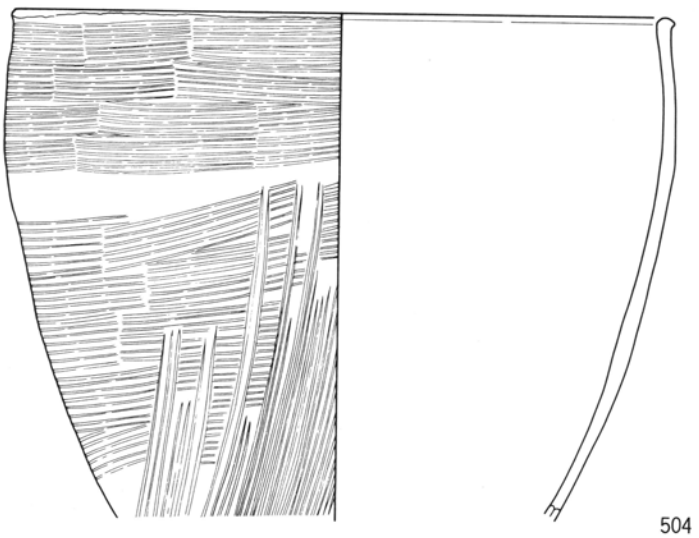

451


453

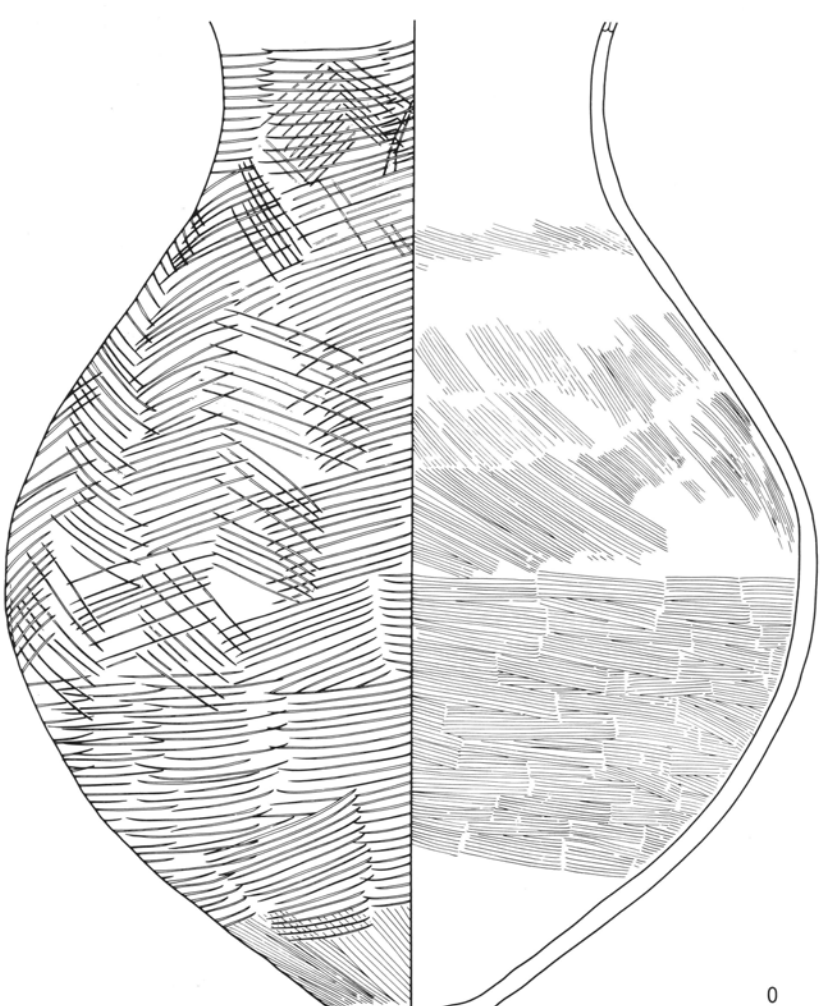

0
5
10cm


455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
0
5
10cm


490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
0
5
10cm

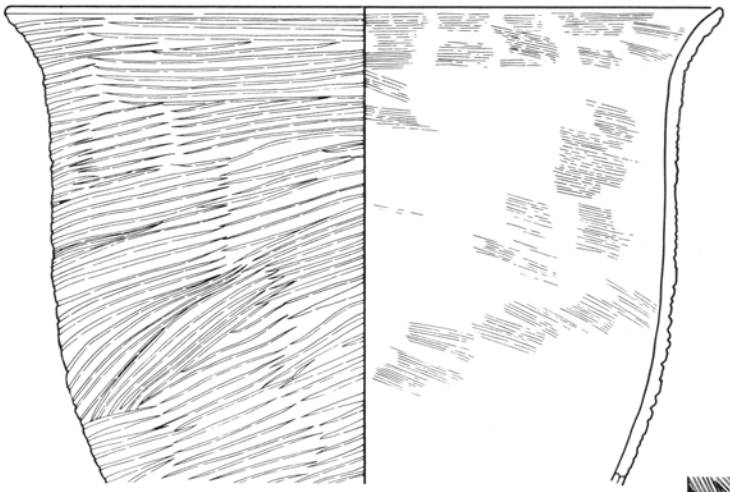


504

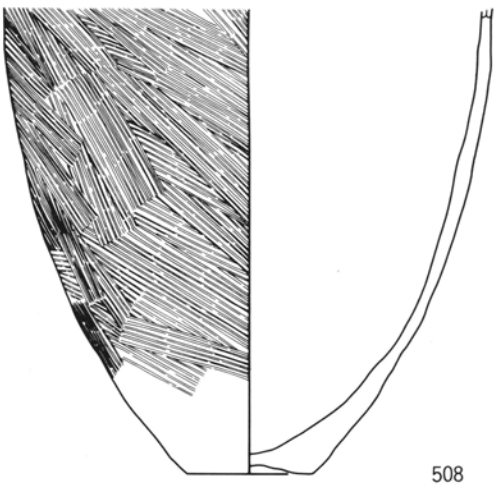


505

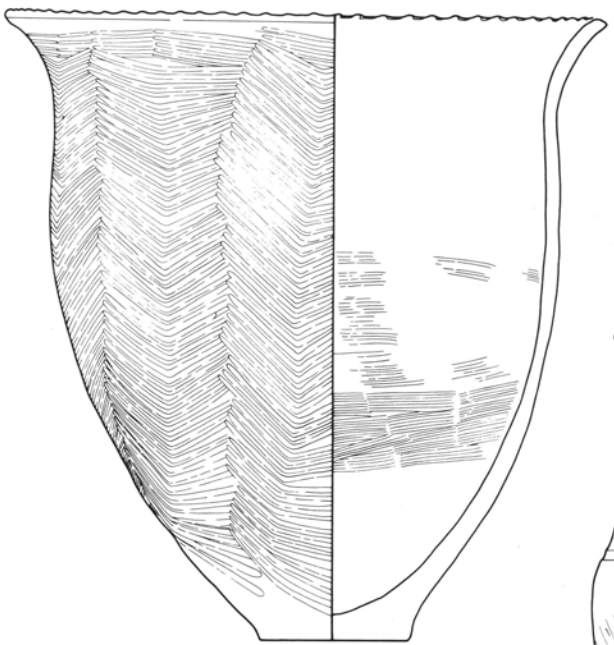
0　5　10cm



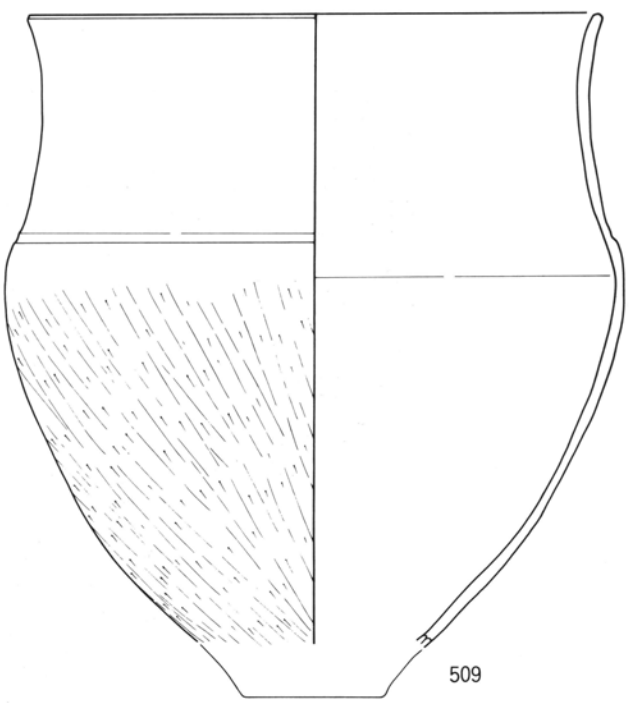
506



508



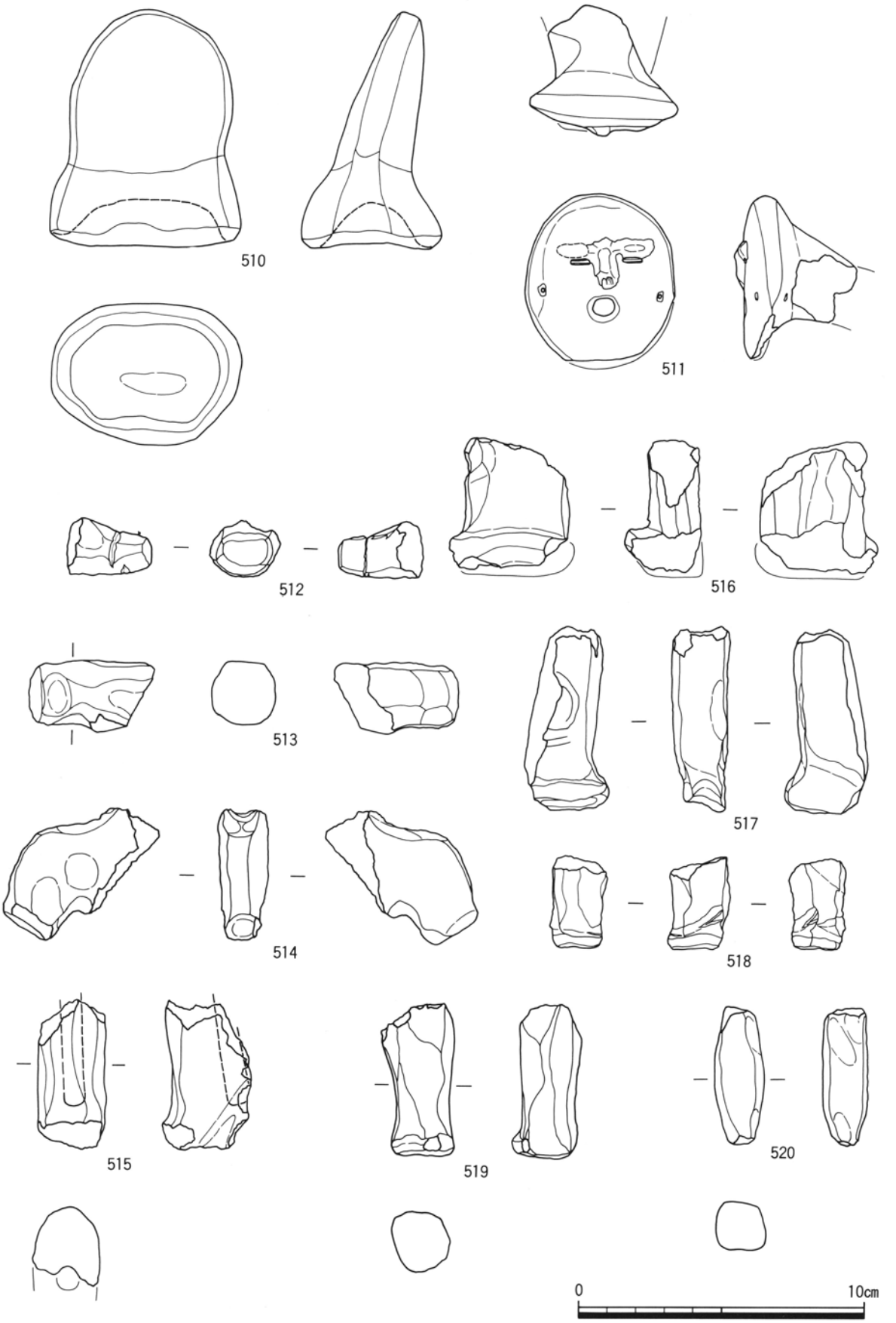
507

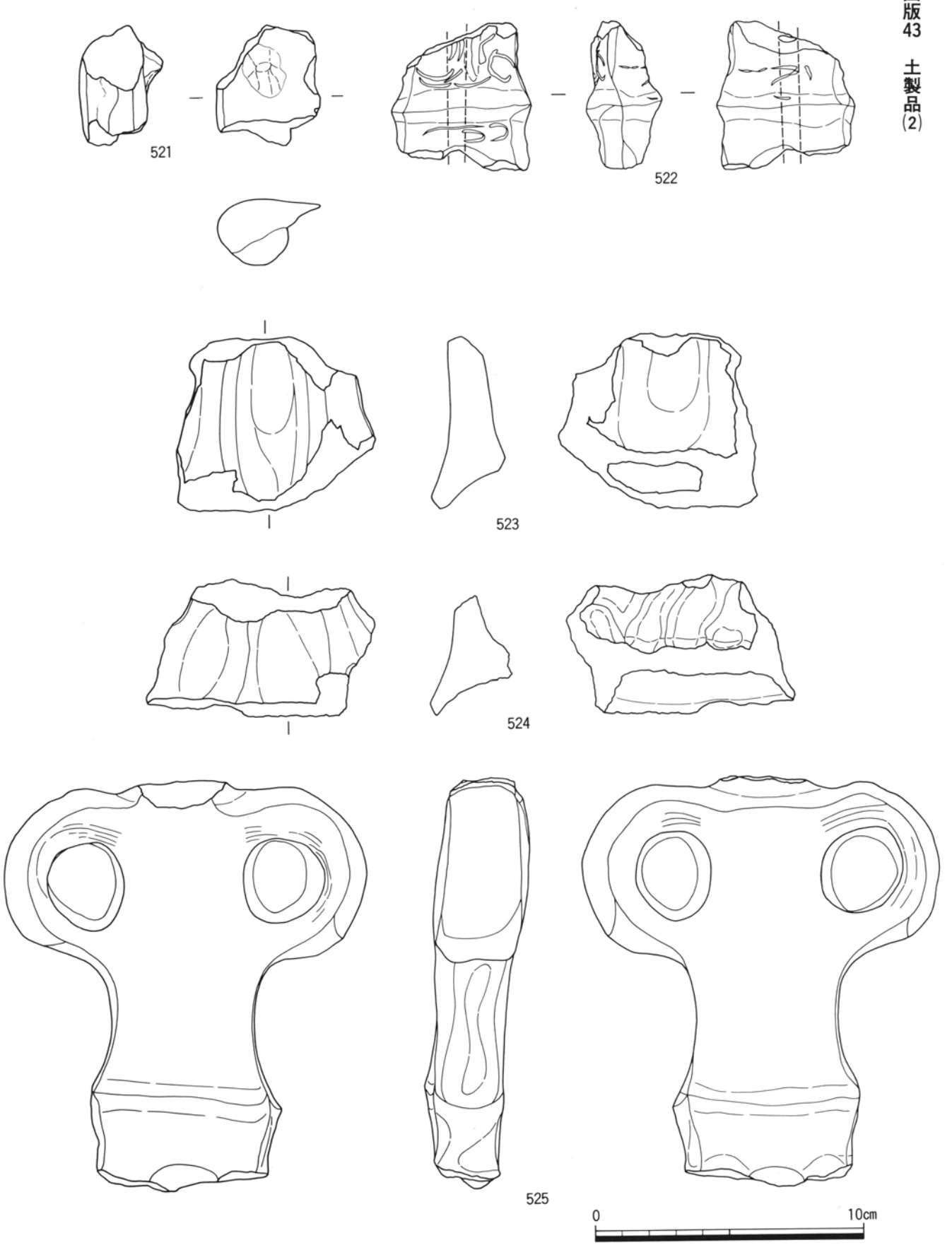


509

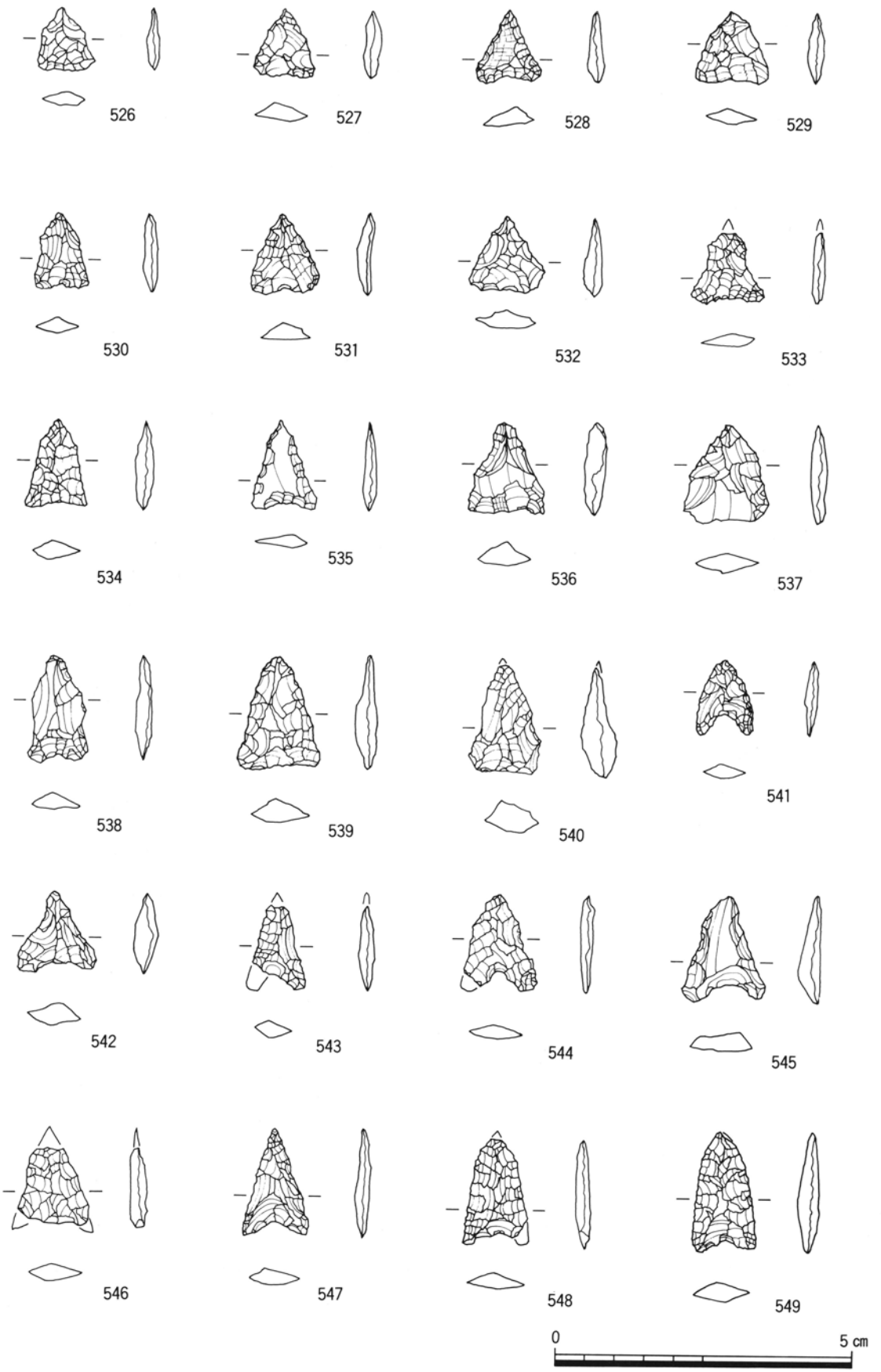
0　5　10cm

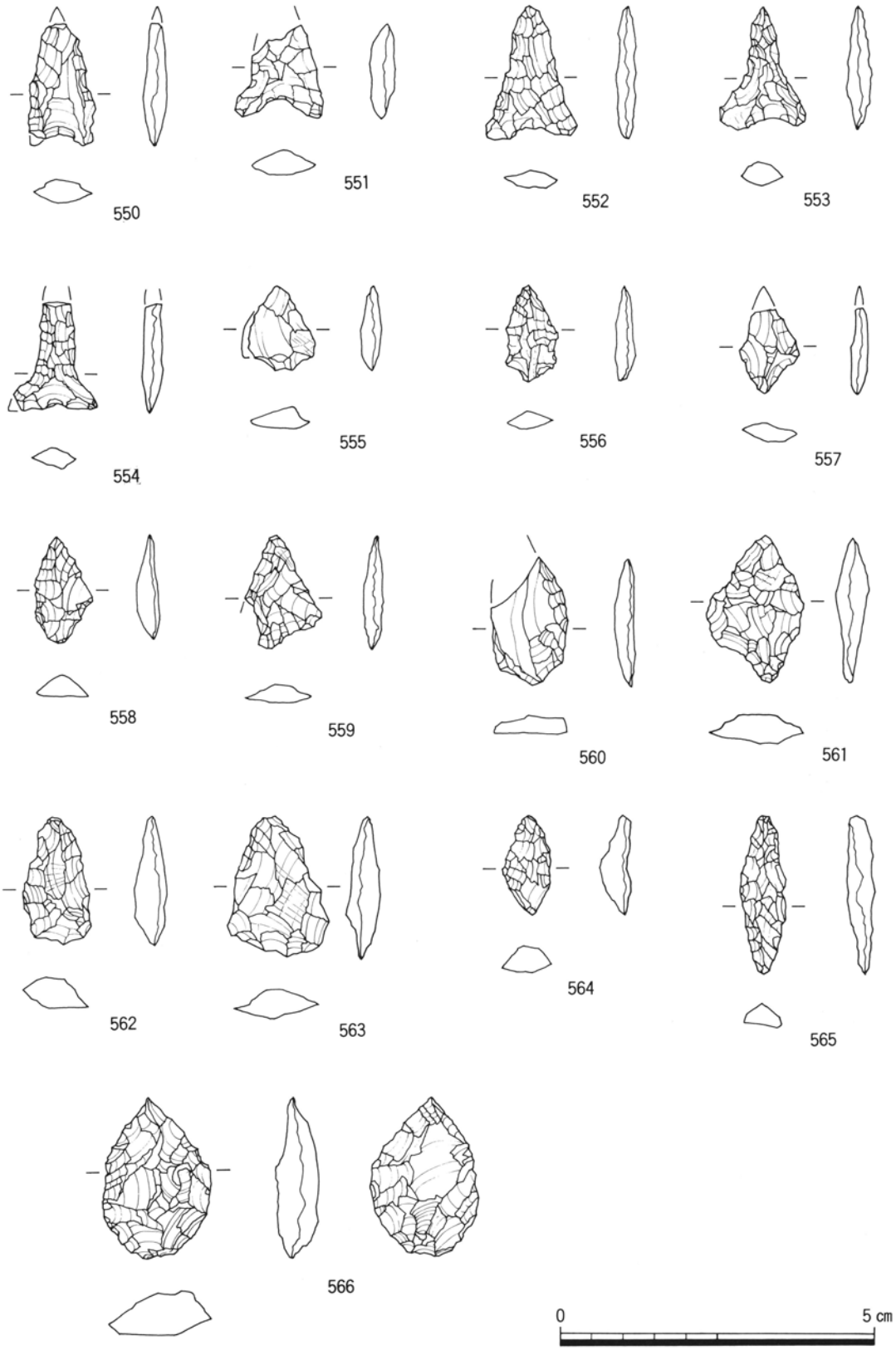
図版42　土製品(1)



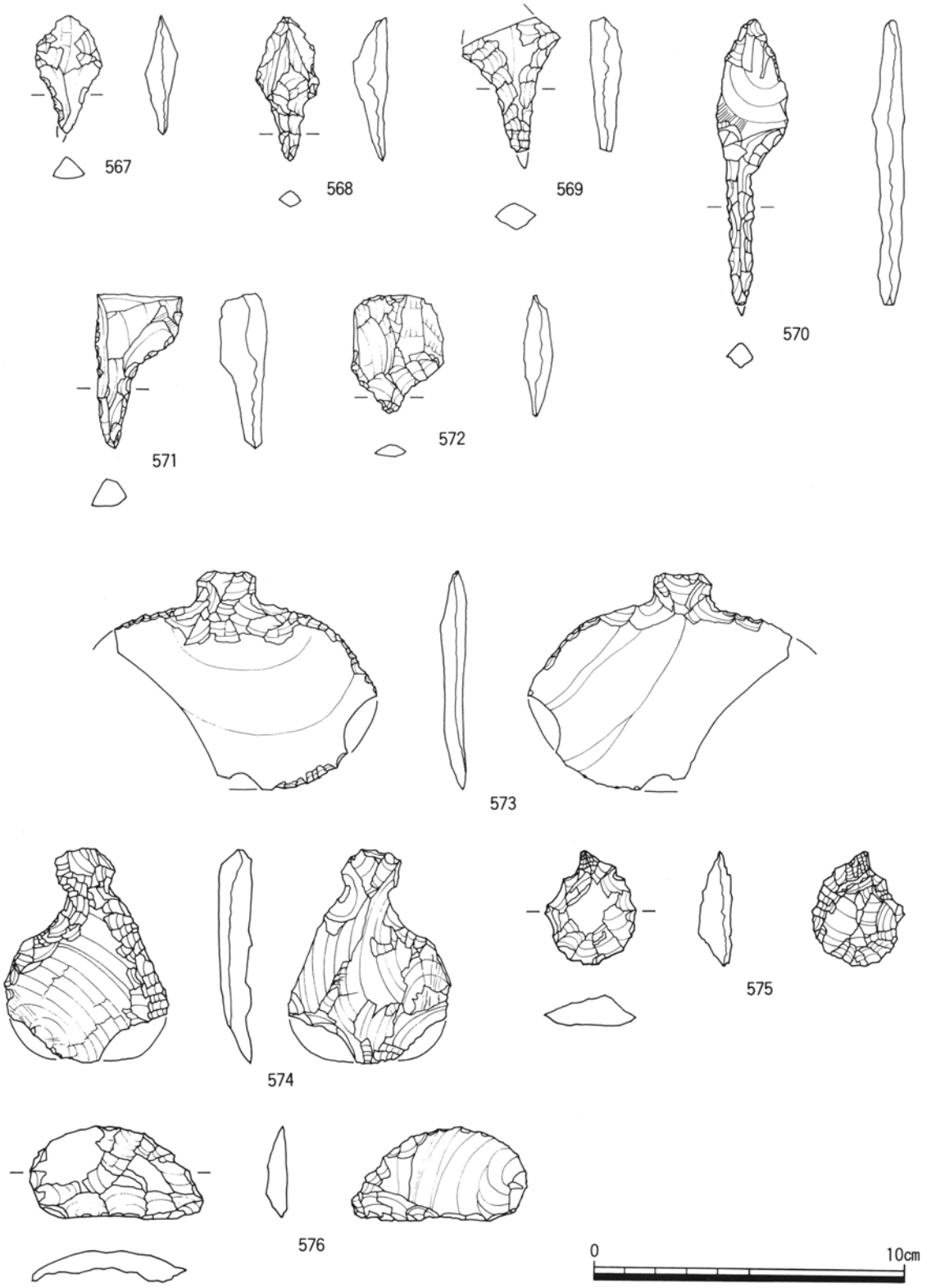

521
522
523
524
525
0
10cm

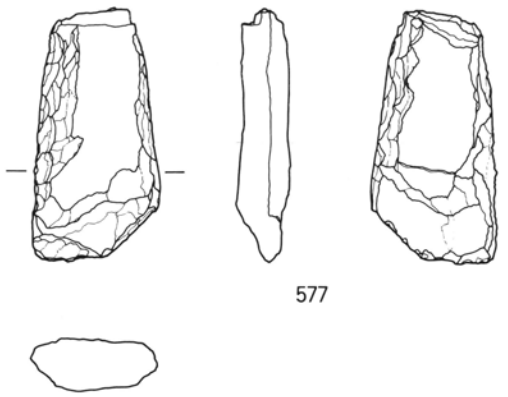
図版44 石器(1)

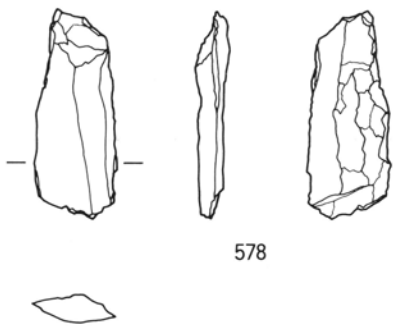

526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
0
5 cm

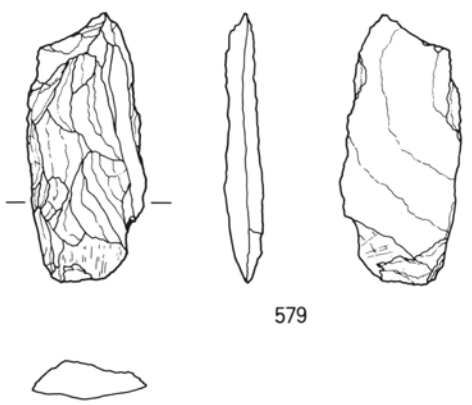

550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
0
5 cm

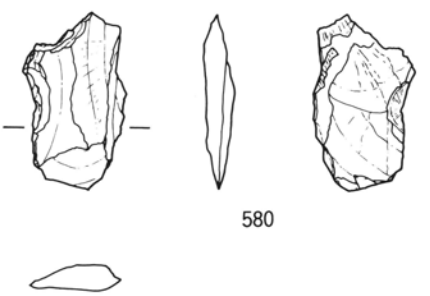
図版46 石器(3)



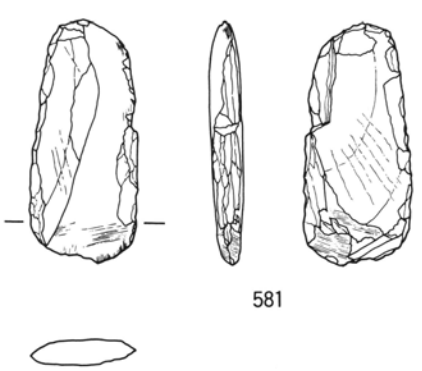

577

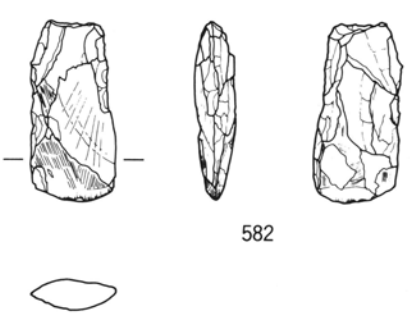

578

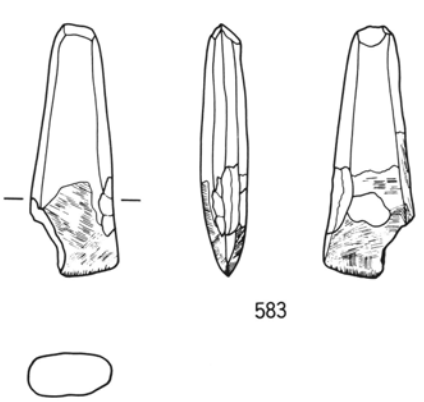

579

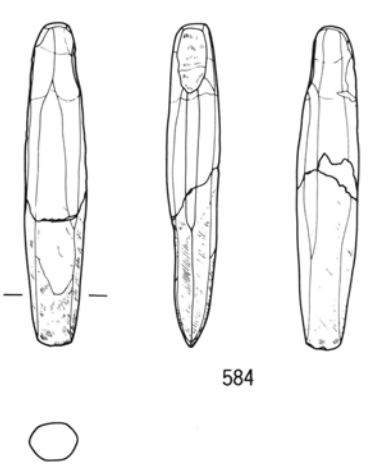

580

0 10cm

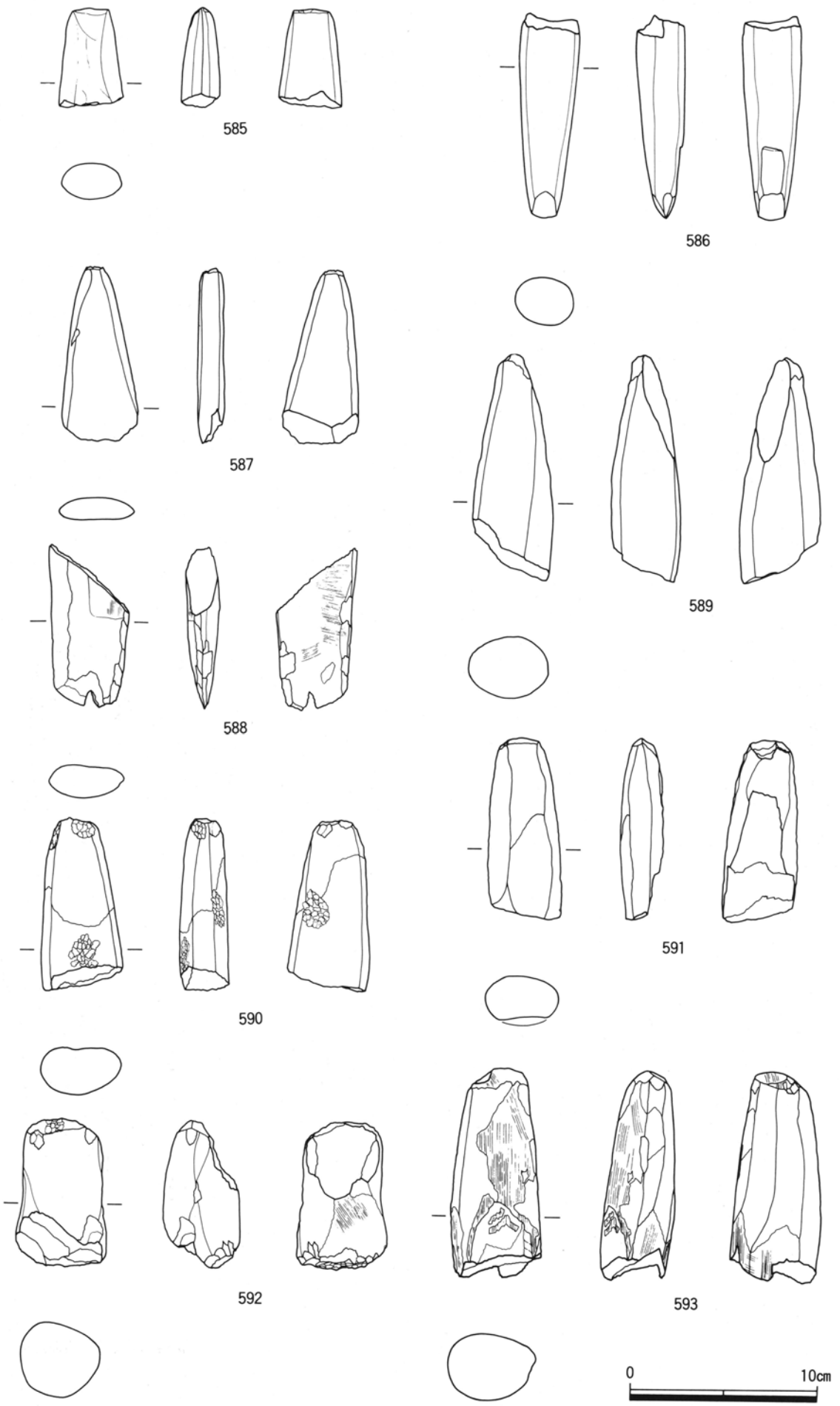

581

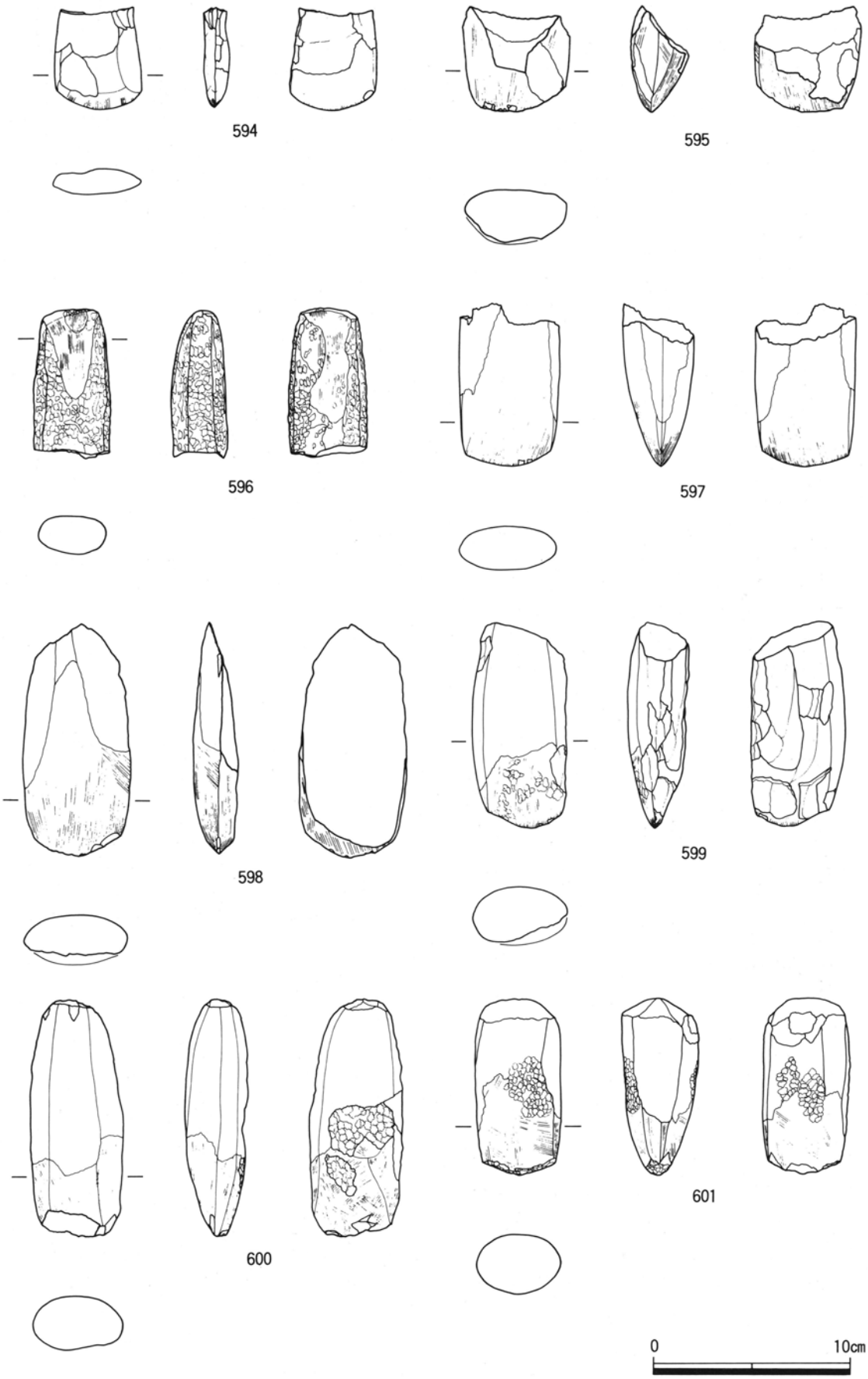

582


583

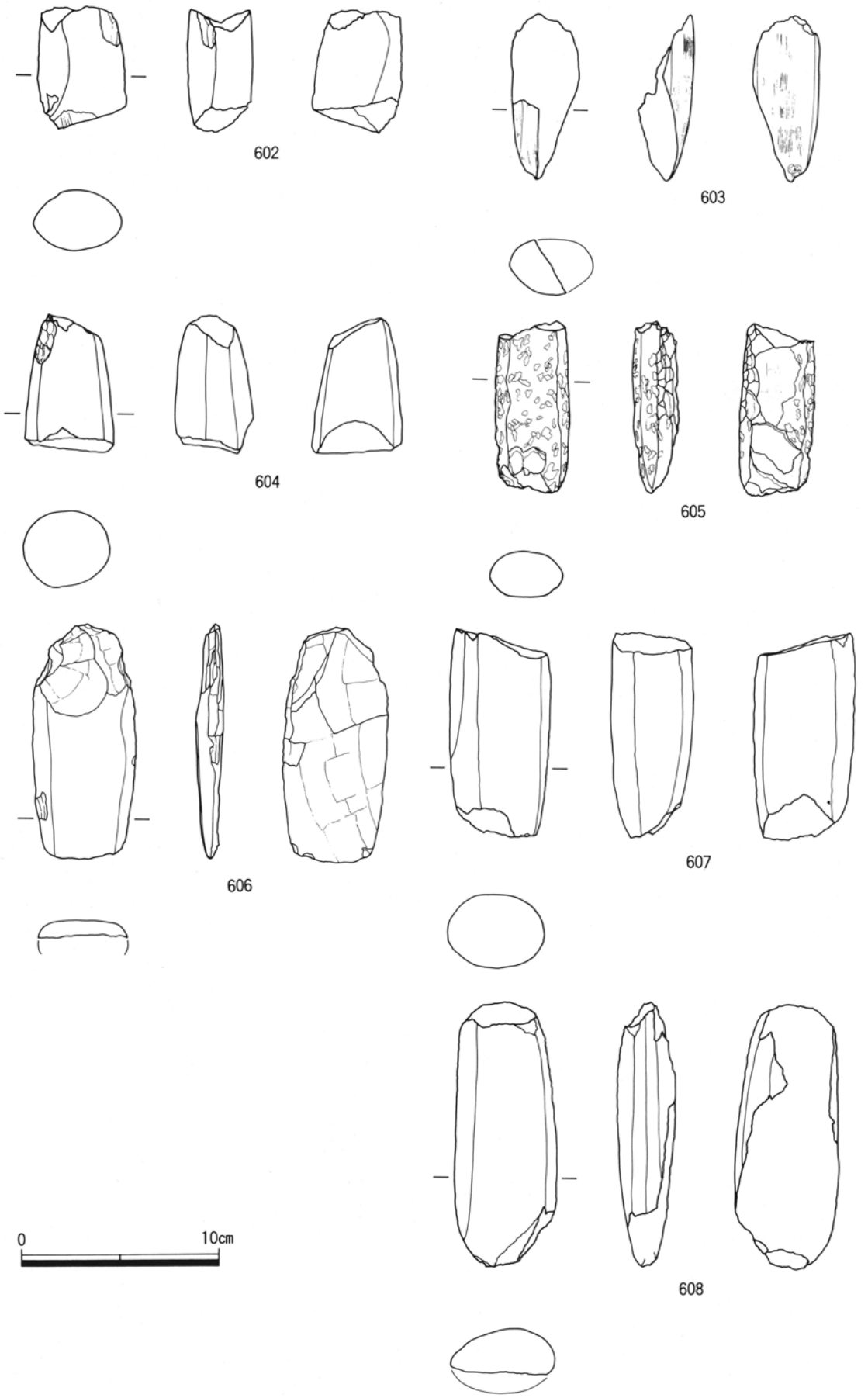

584

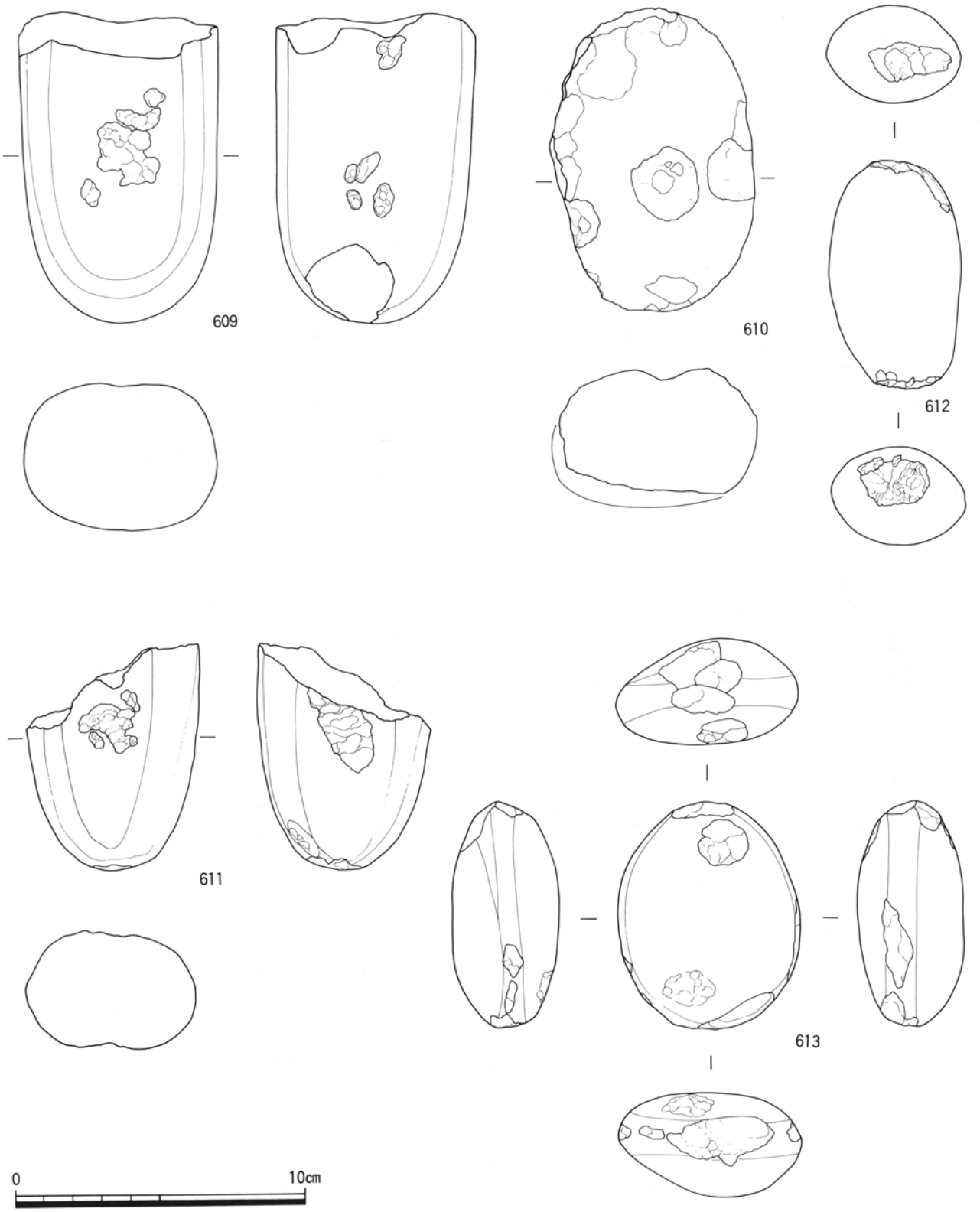
図版48 石器(5)



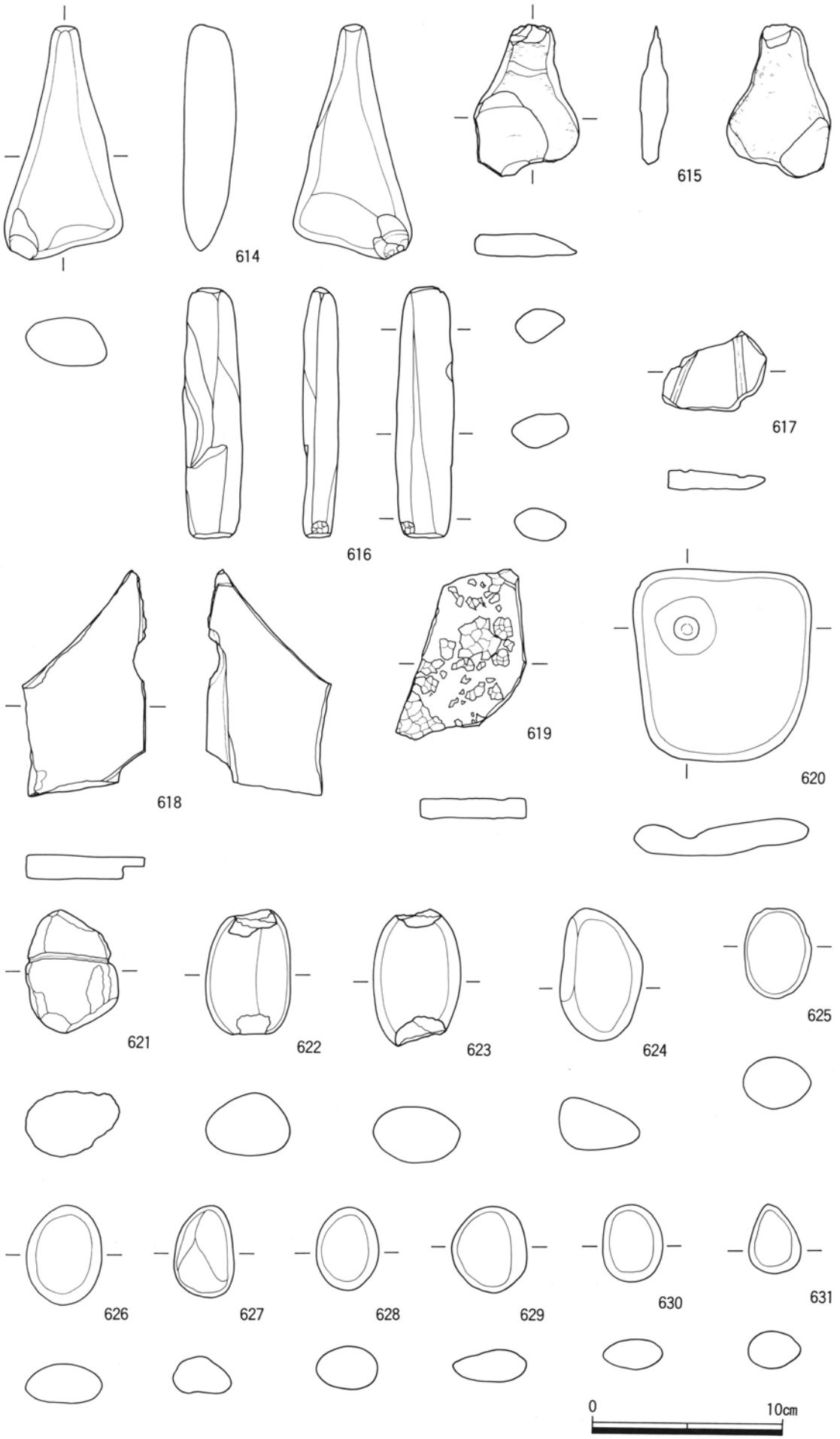

594
595
596
597
598
599
600
601
0
10cm

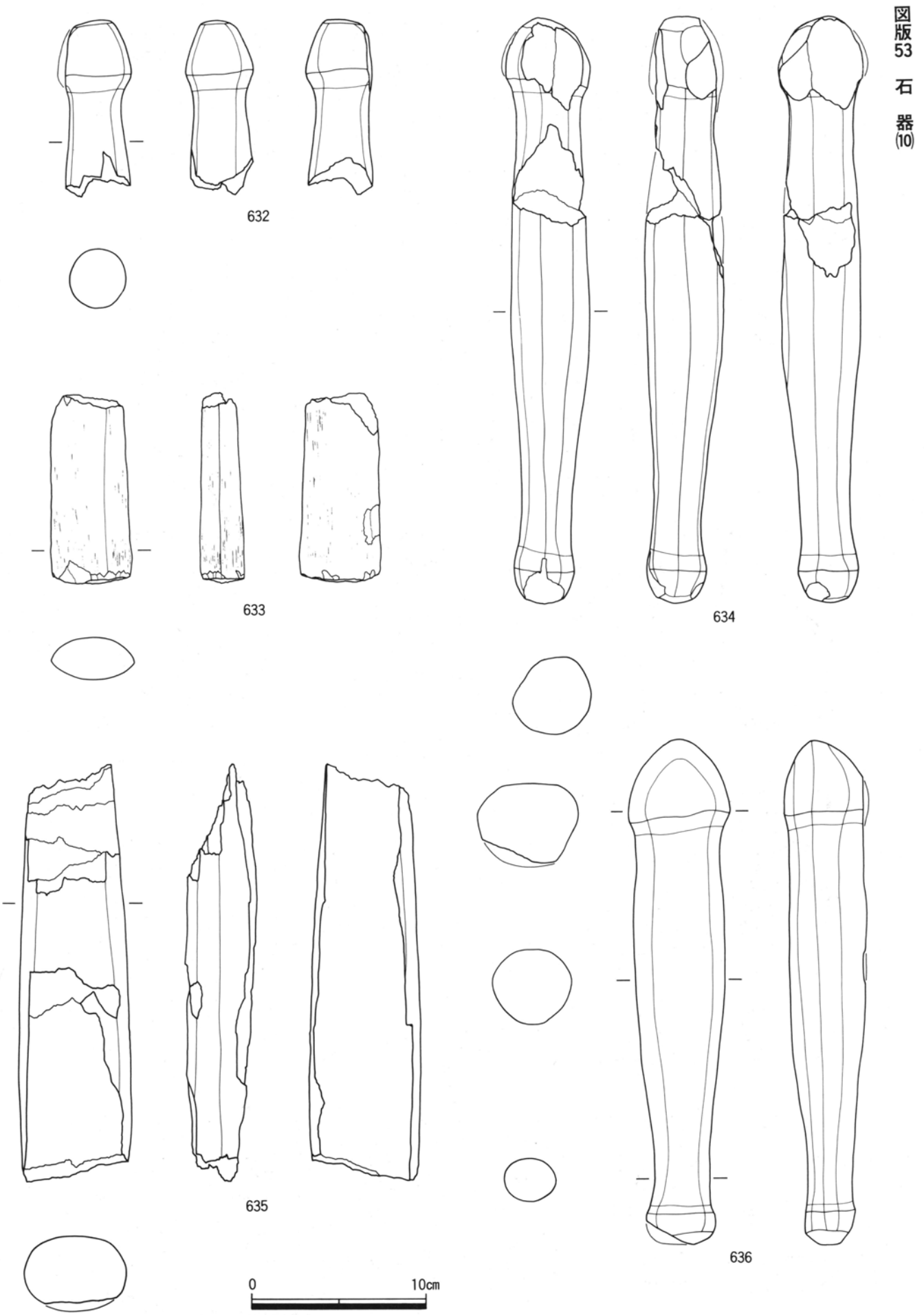
図版50 石器(7)



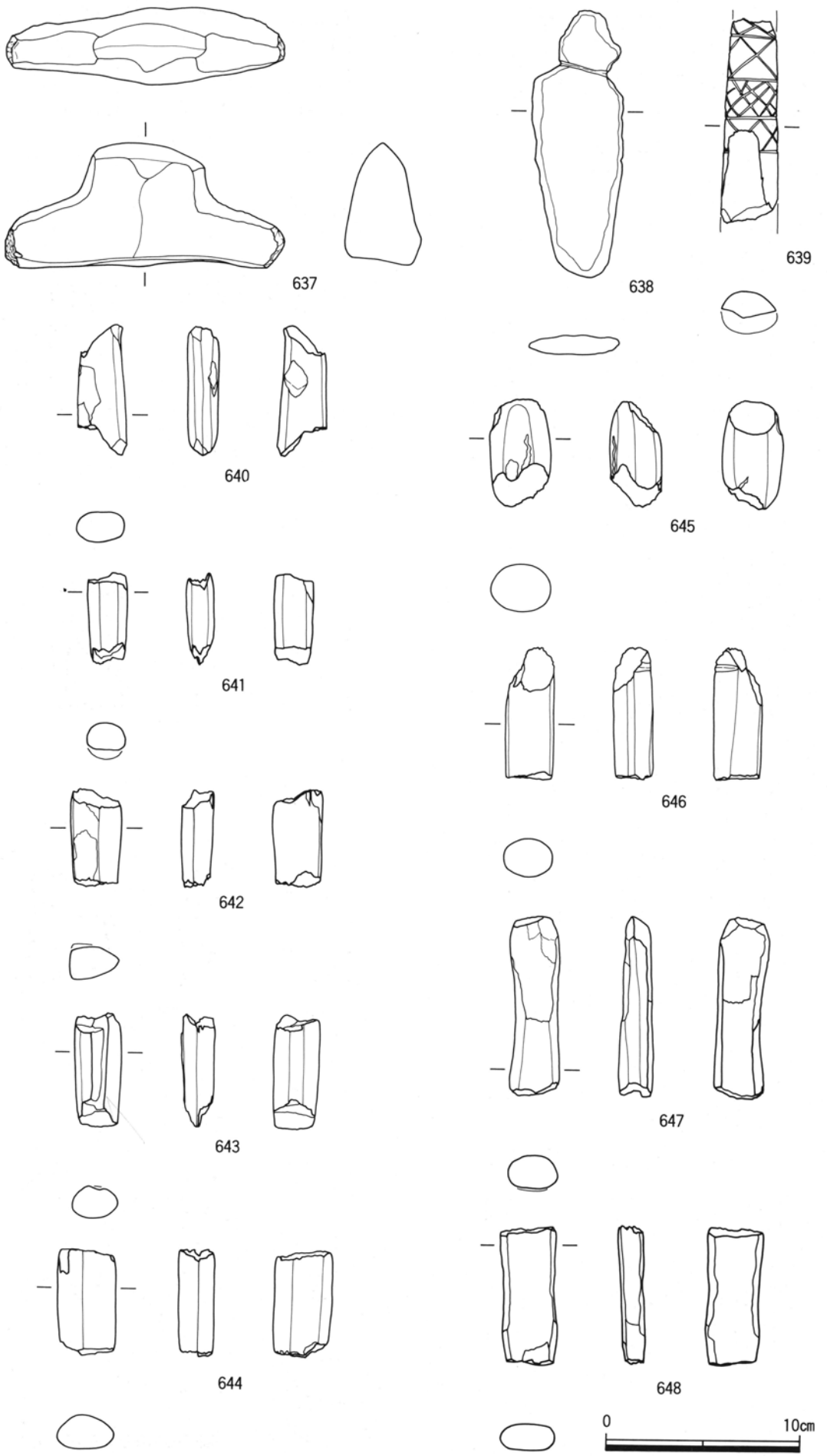

609
610
612
611
613
0
10cm

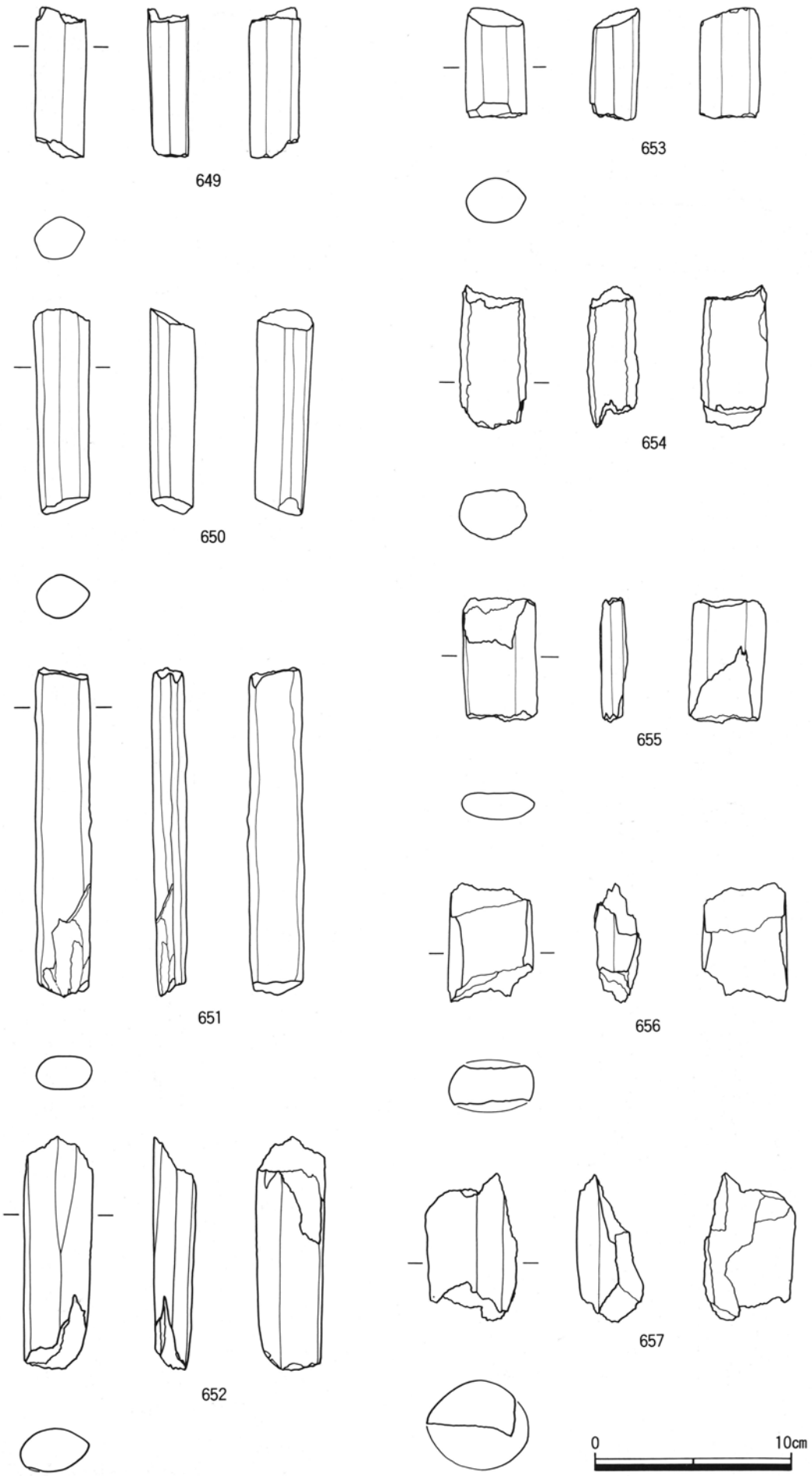
図版52 石器(9)


614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
0
10cm

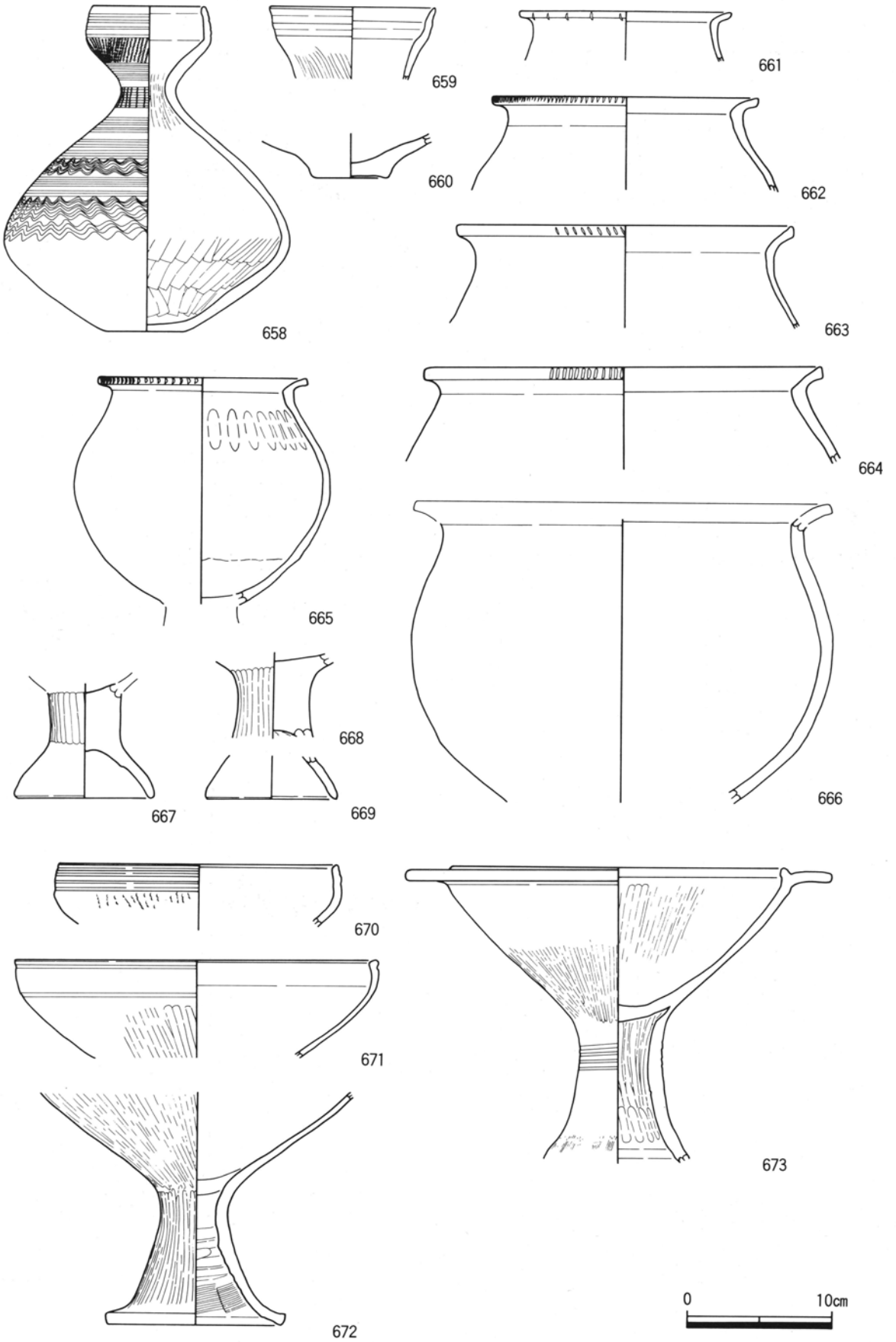

632
633
634
635
636
0
10cm

図版54 石器(11)

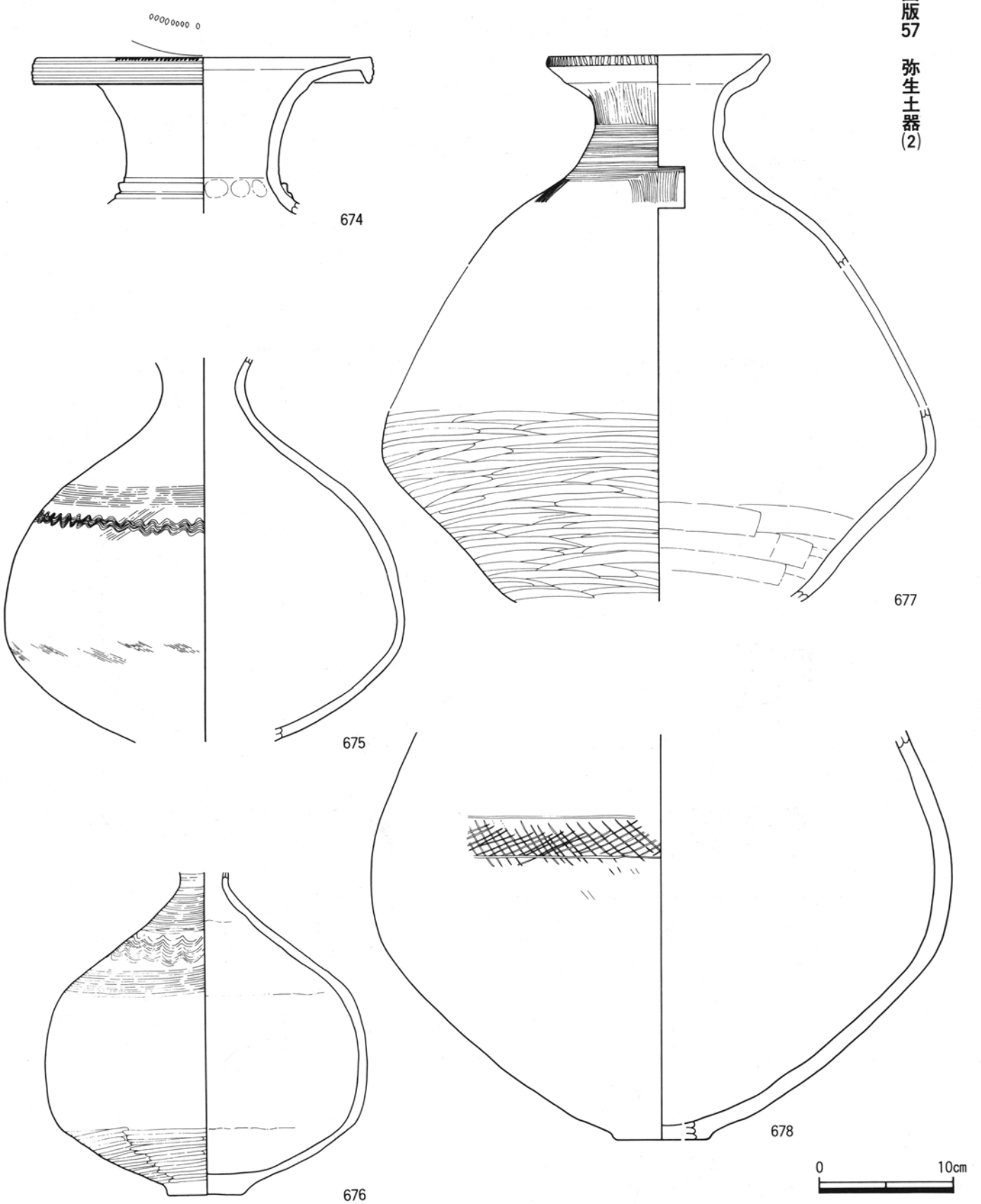



649
650
651
652
653
654
655
656
657
0
10cm

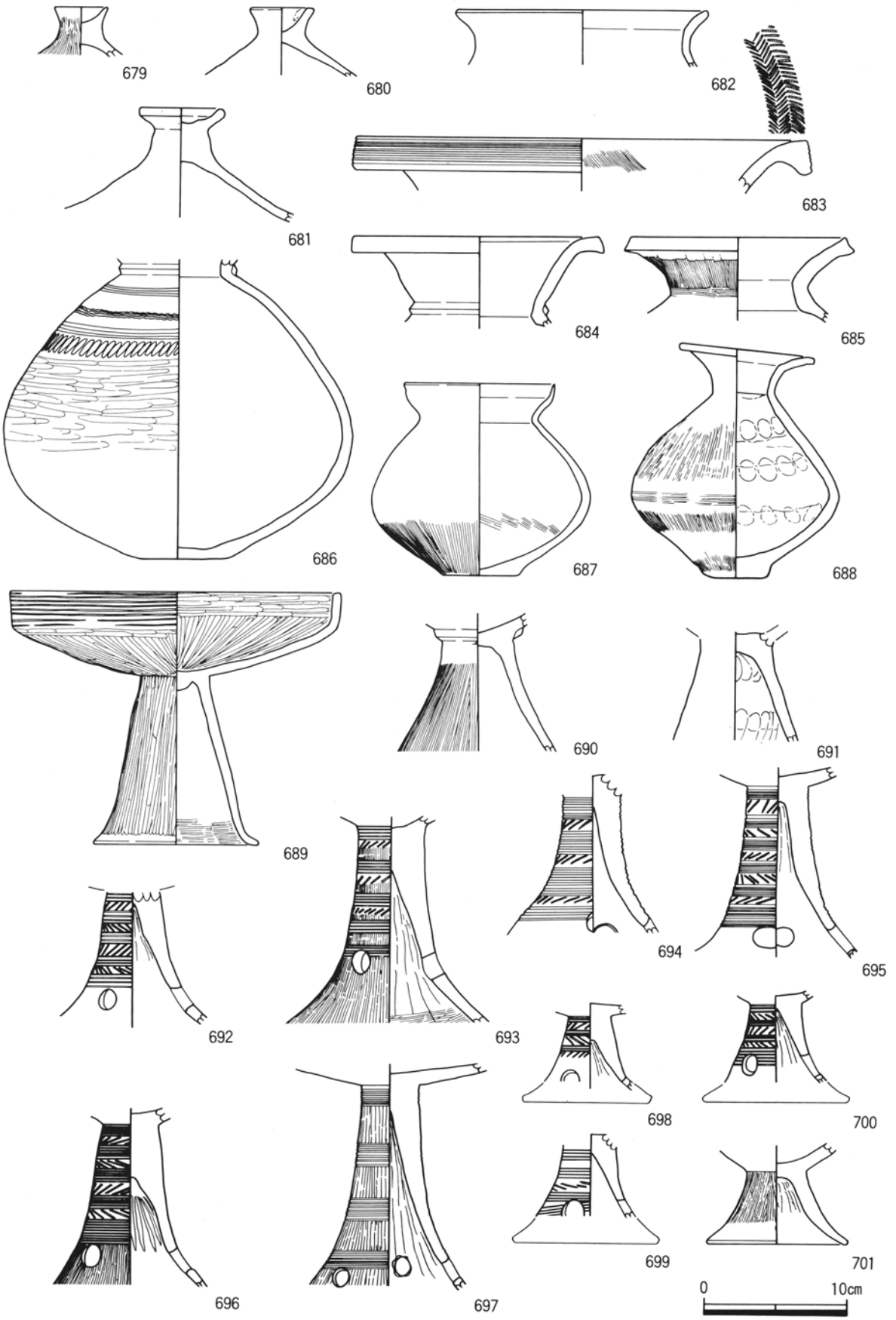
図版56　弥生土器(1)

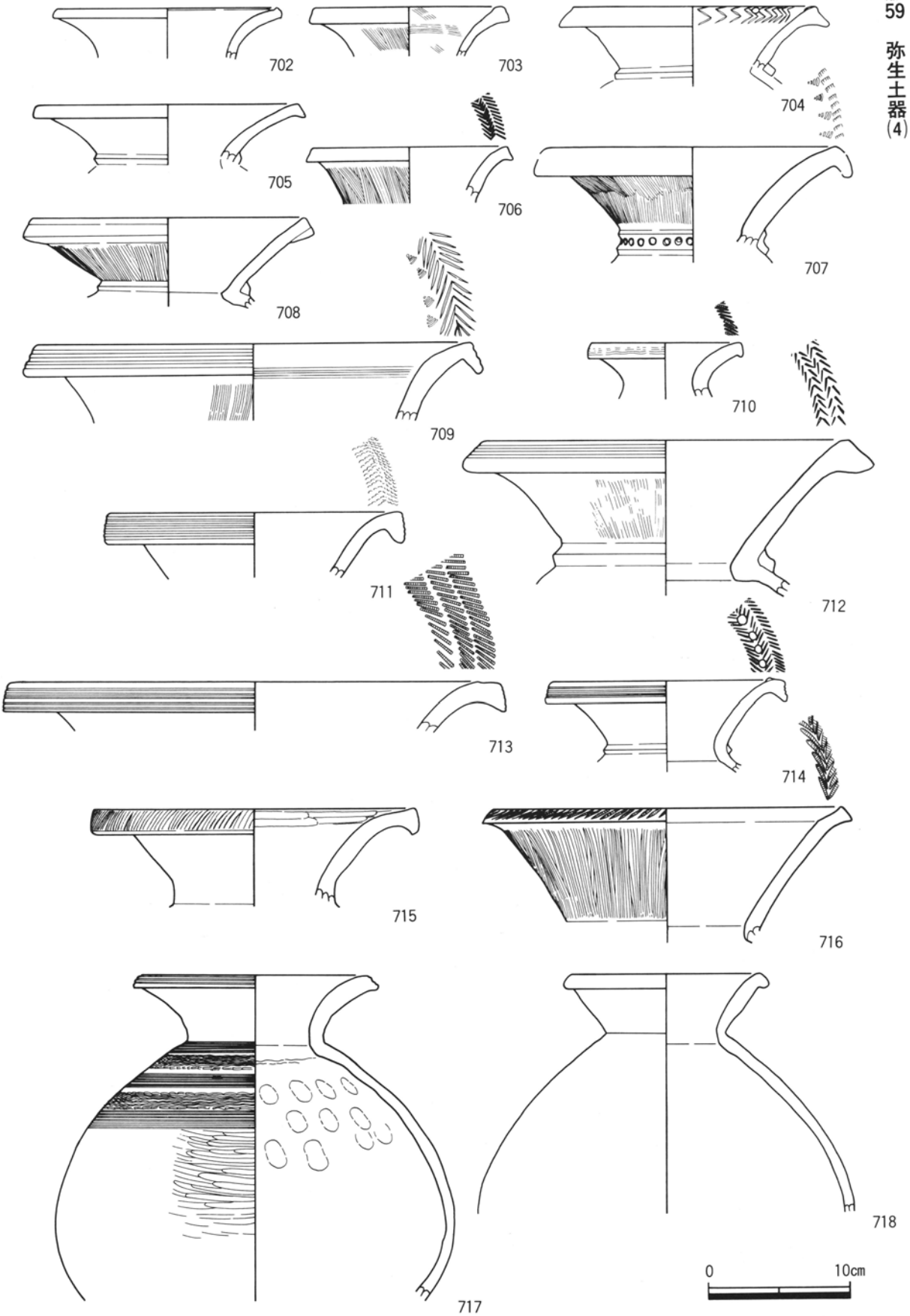

658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
0
10cm

図版57　弥生土器(2)

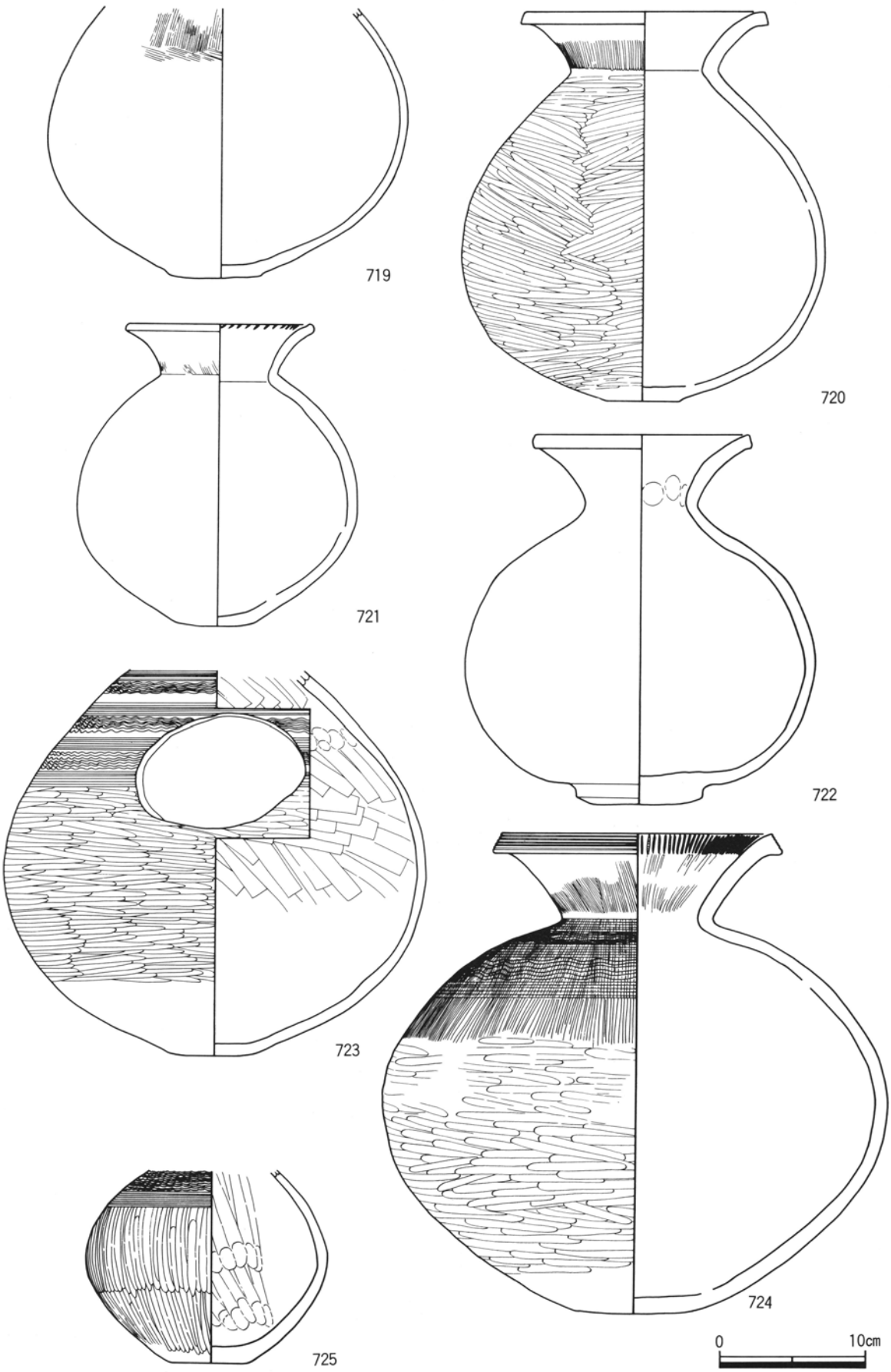


図版58　弥生土器(3)

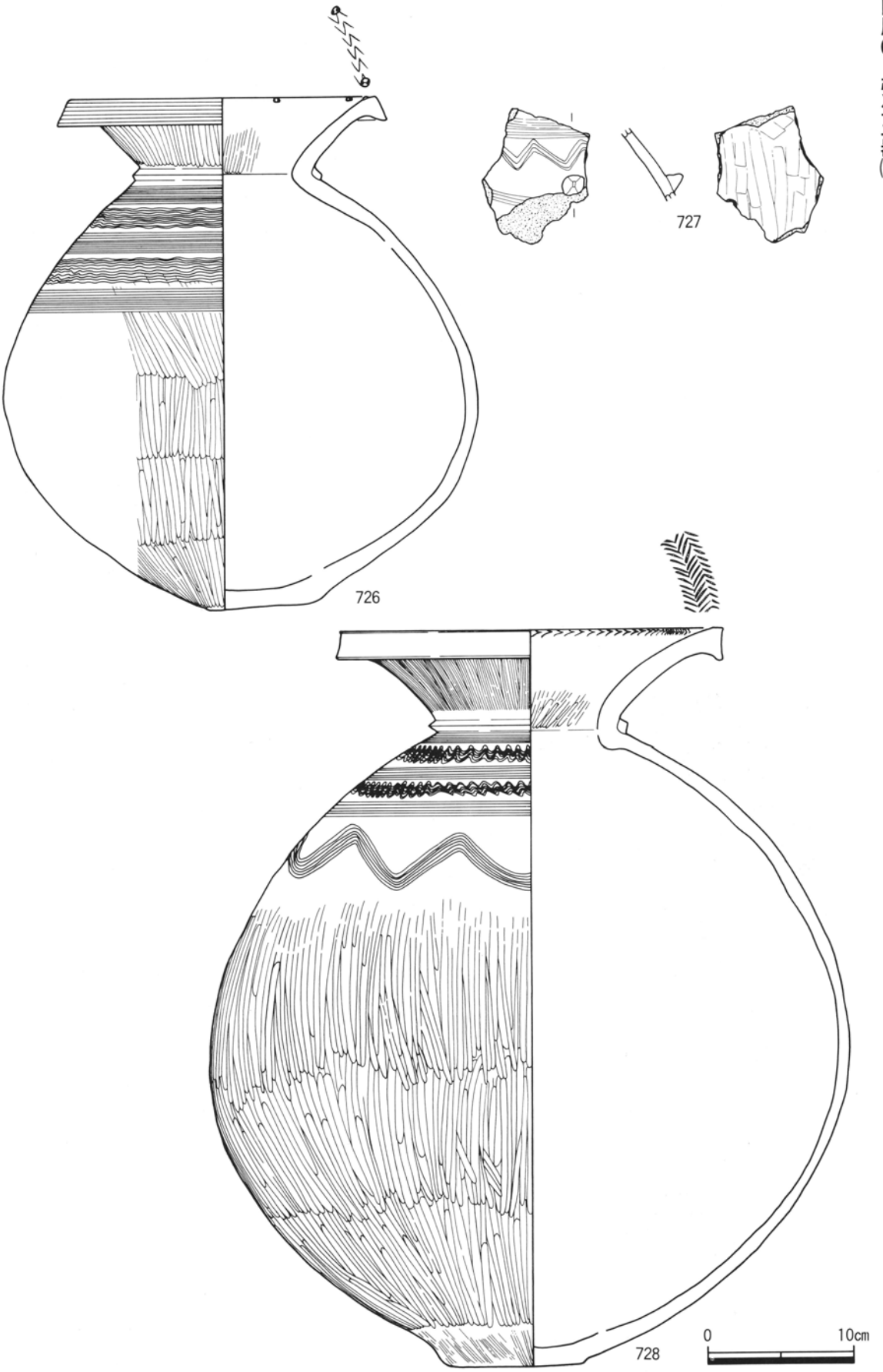

679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
0
10cm


702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
0
10cm

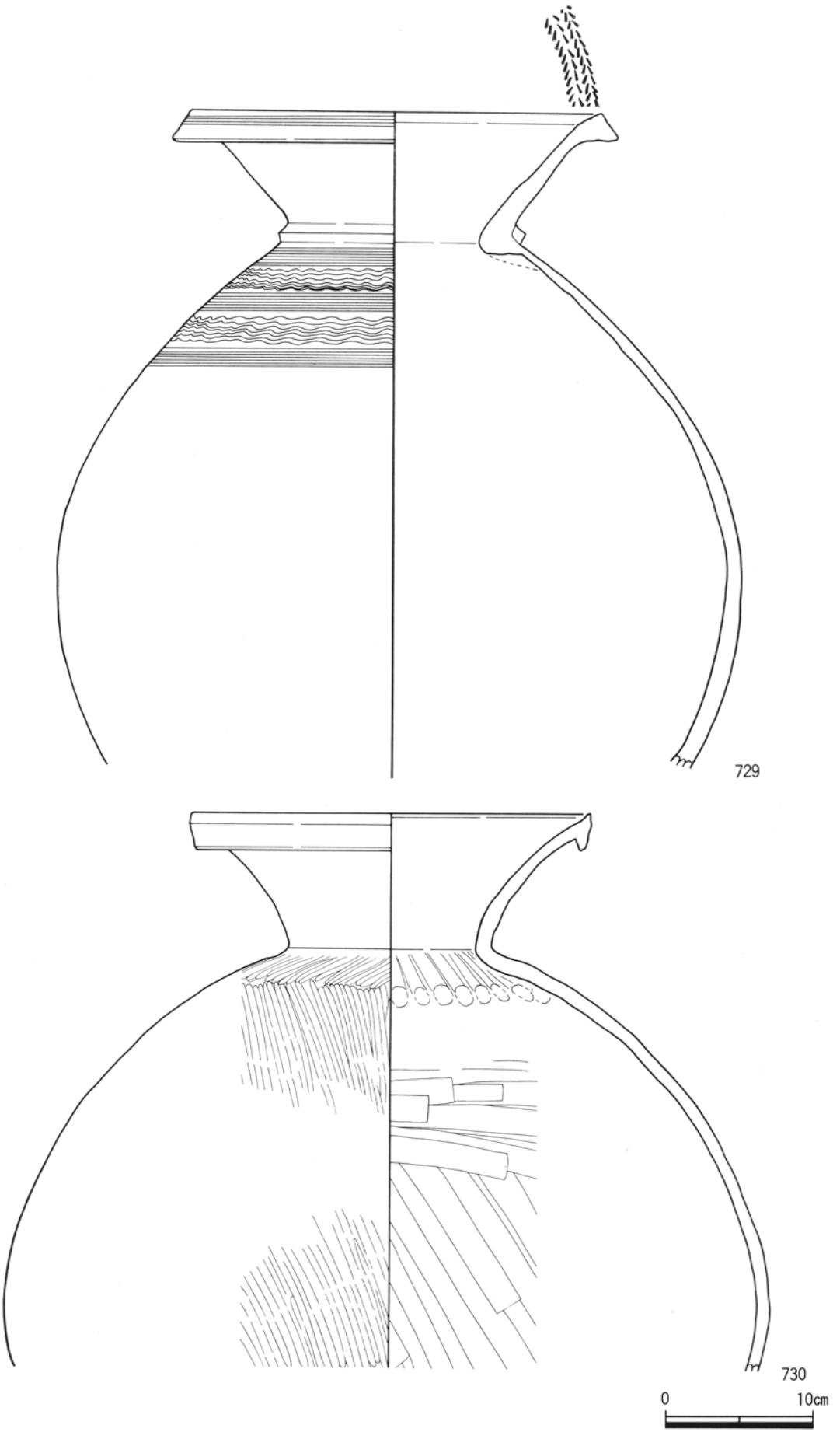
図版60　弥生土器(5)

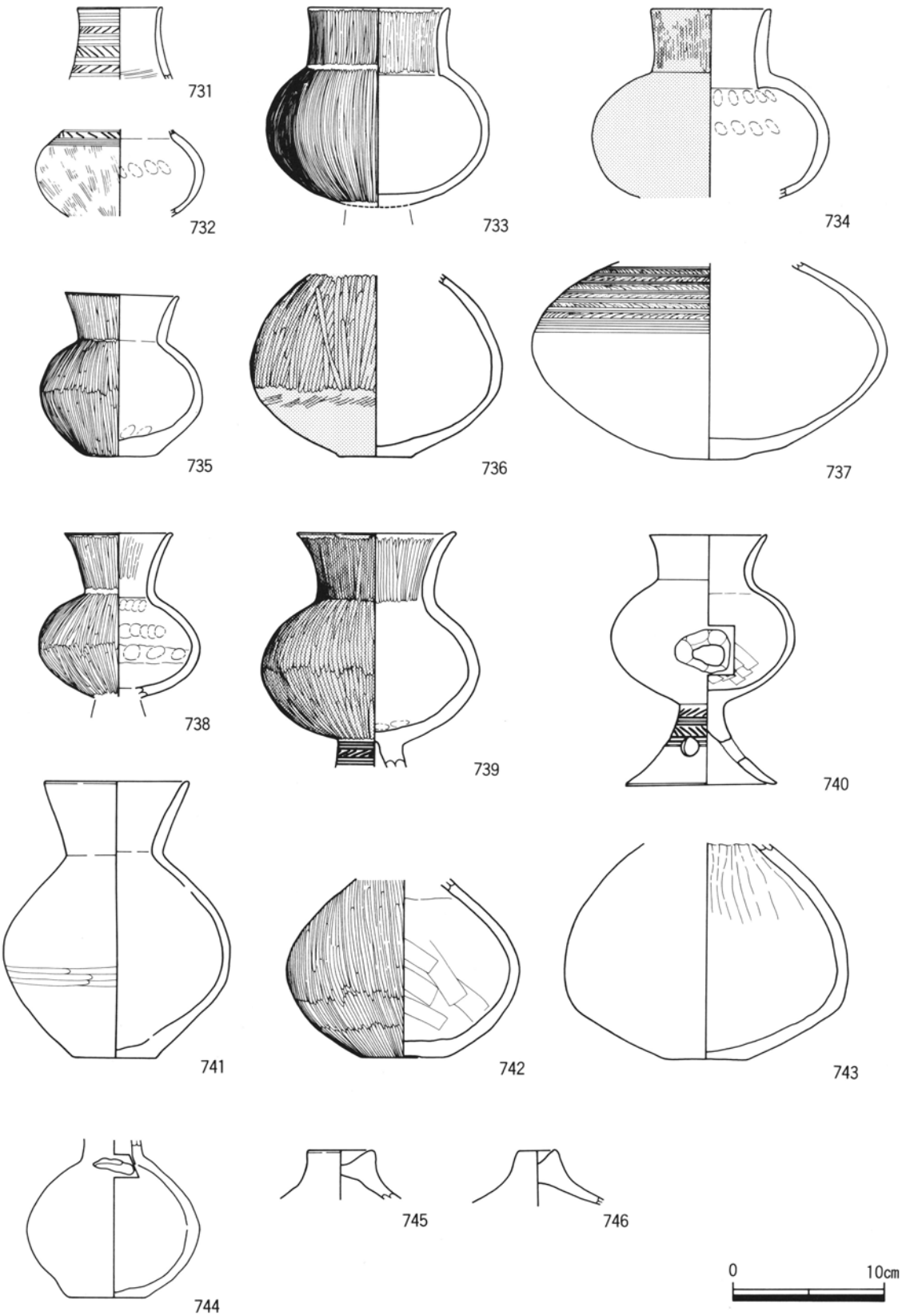


図版61　弥生土器(6)

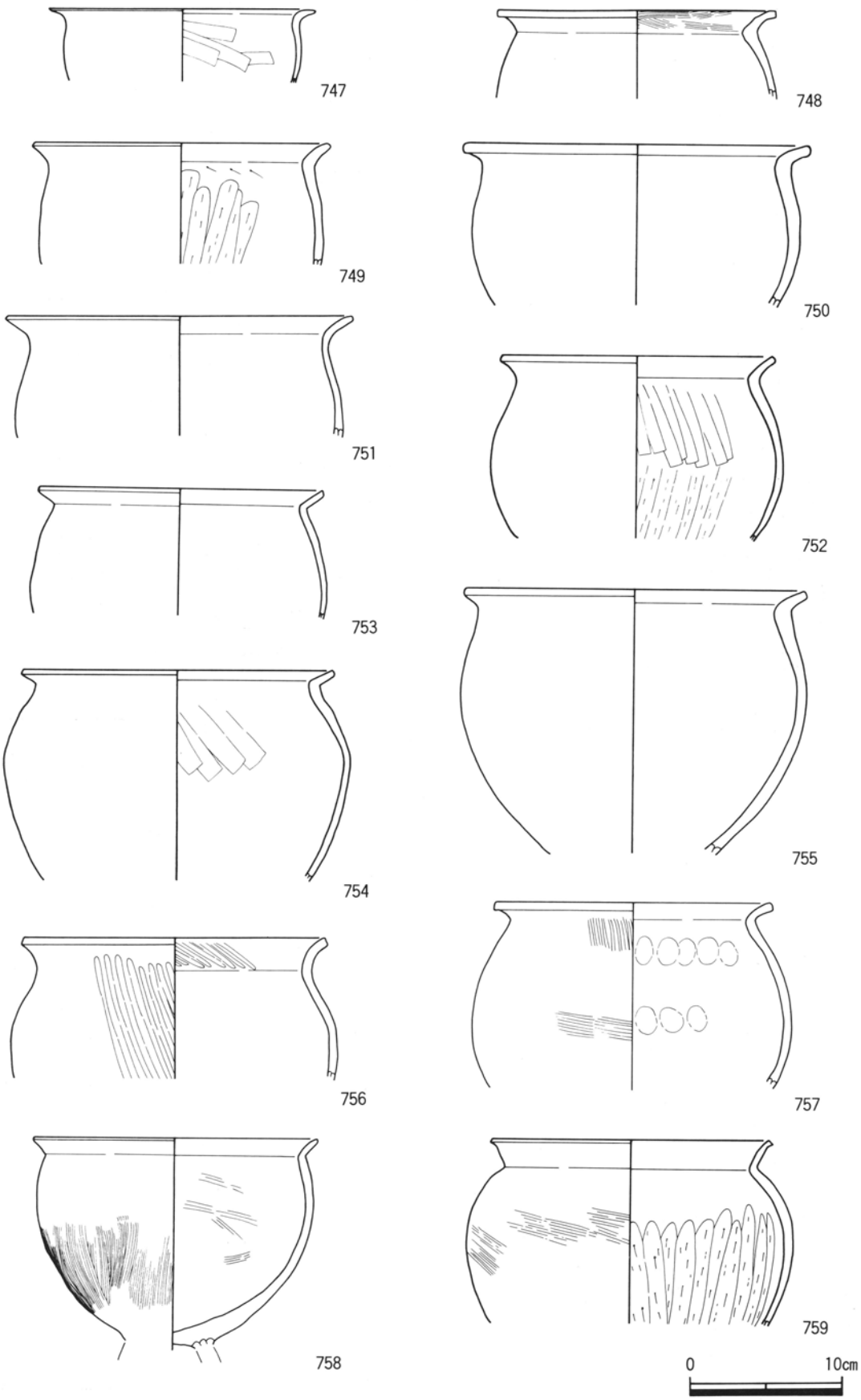


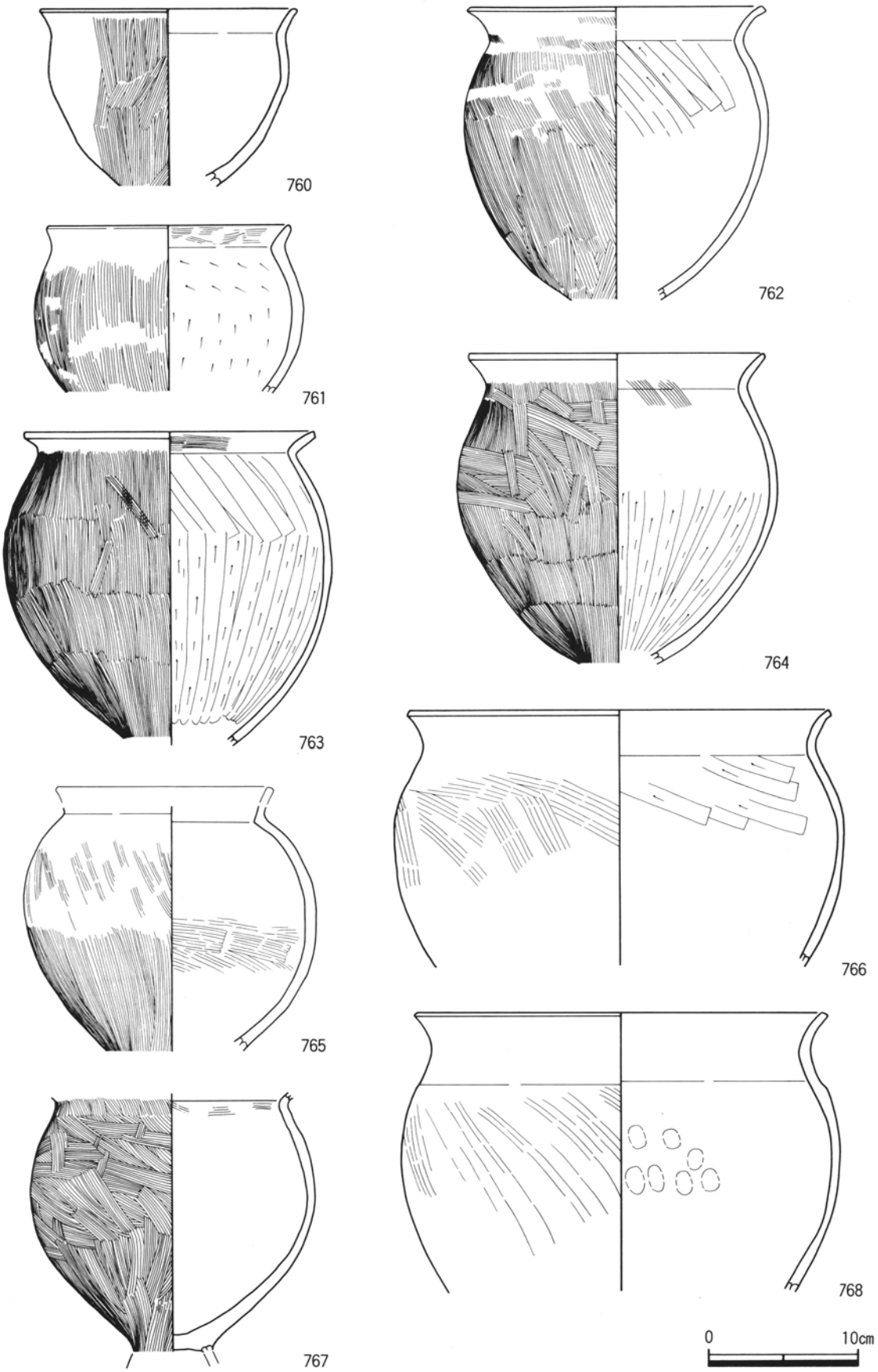
図版62　弥生土器(7)



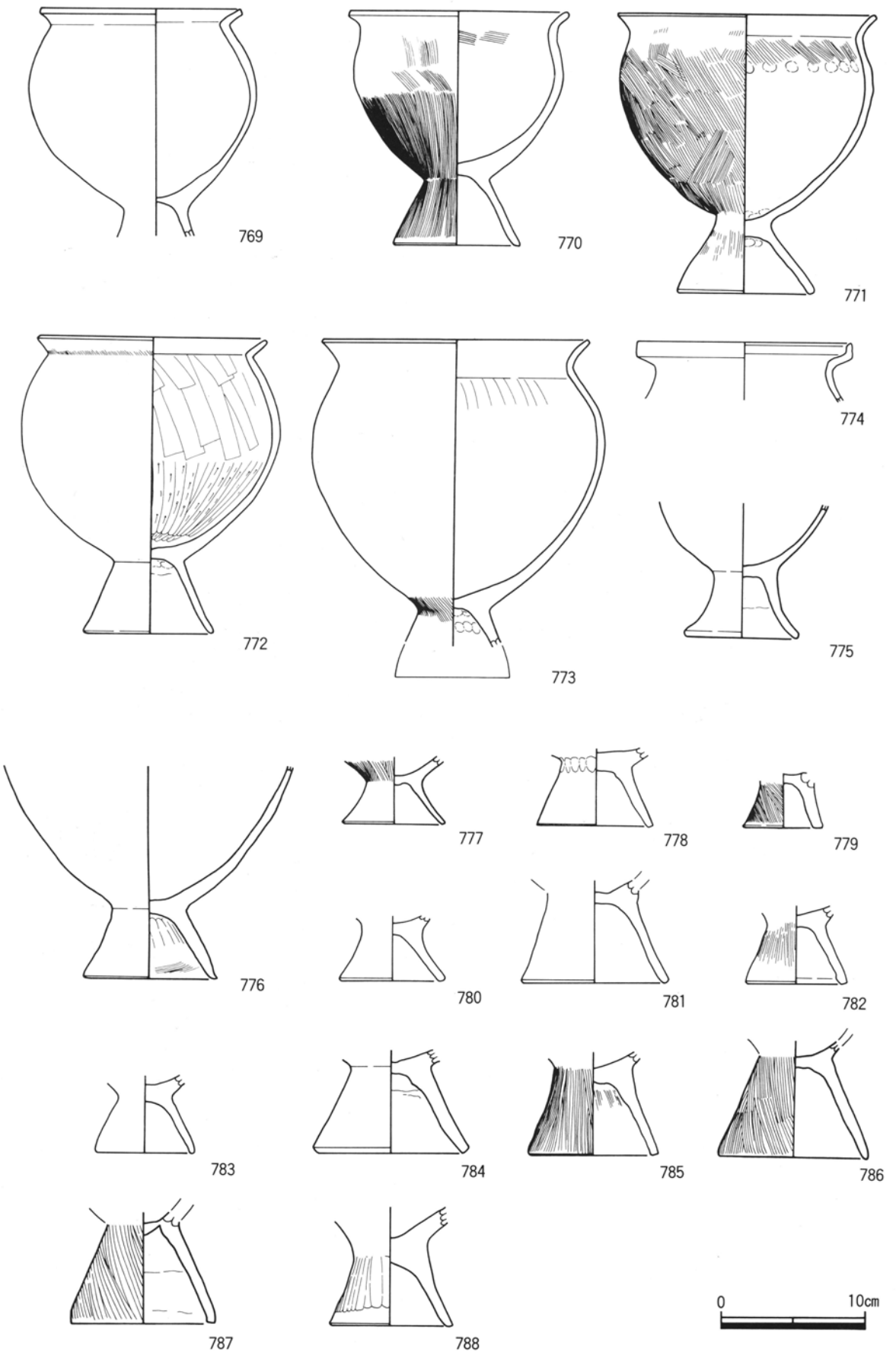

731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
0
10cm

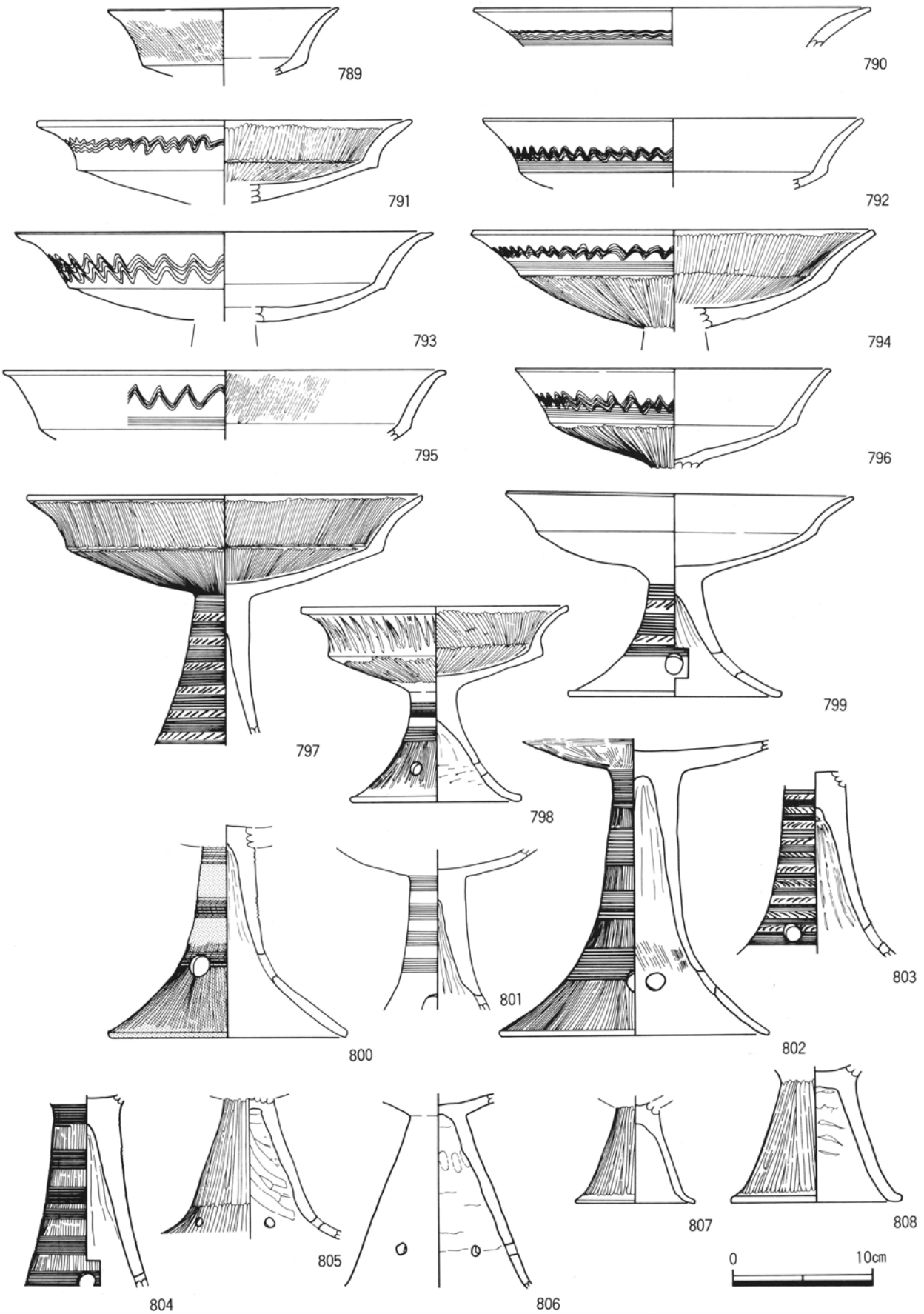
図版64　弥生土器(9)

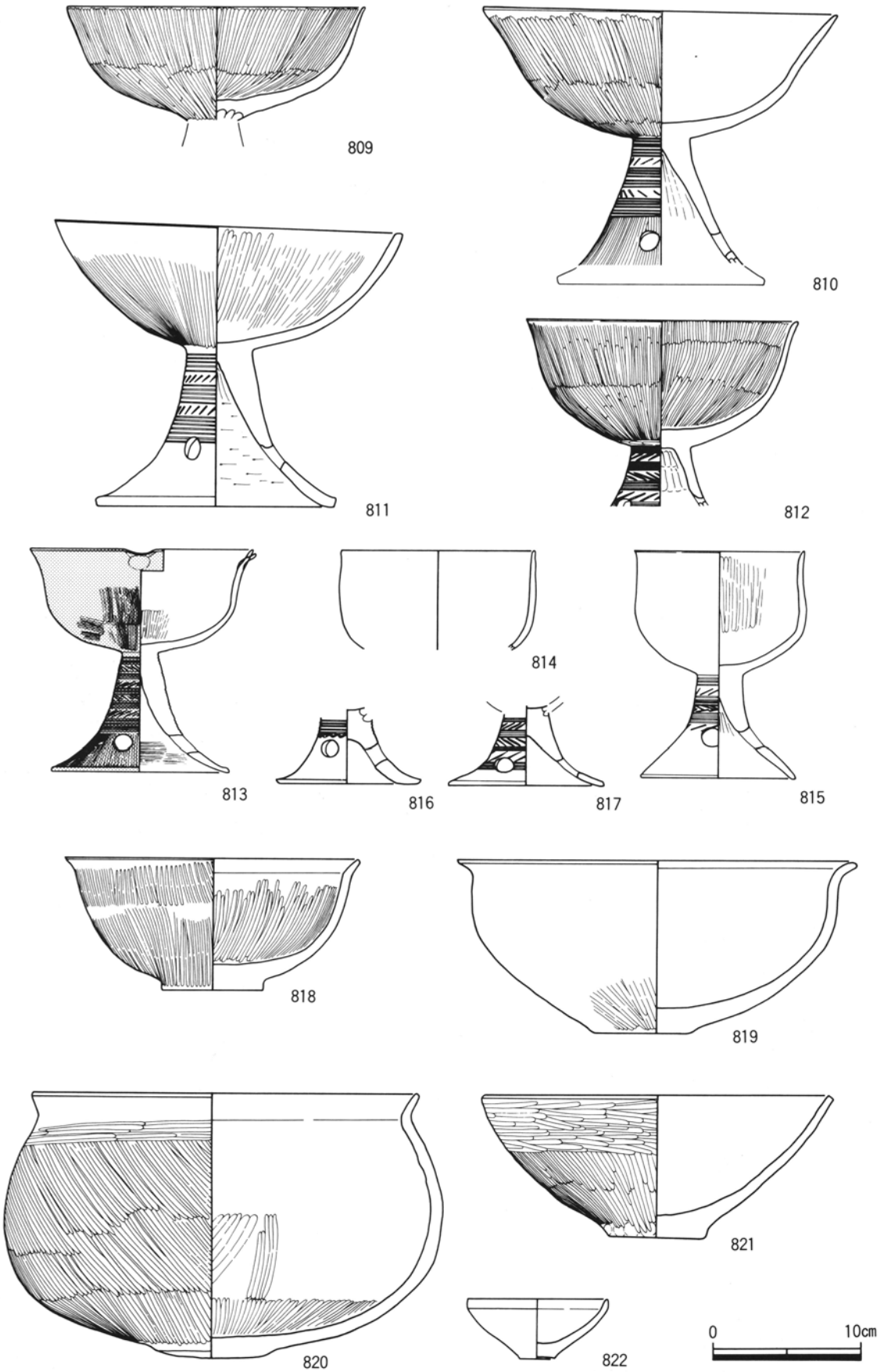


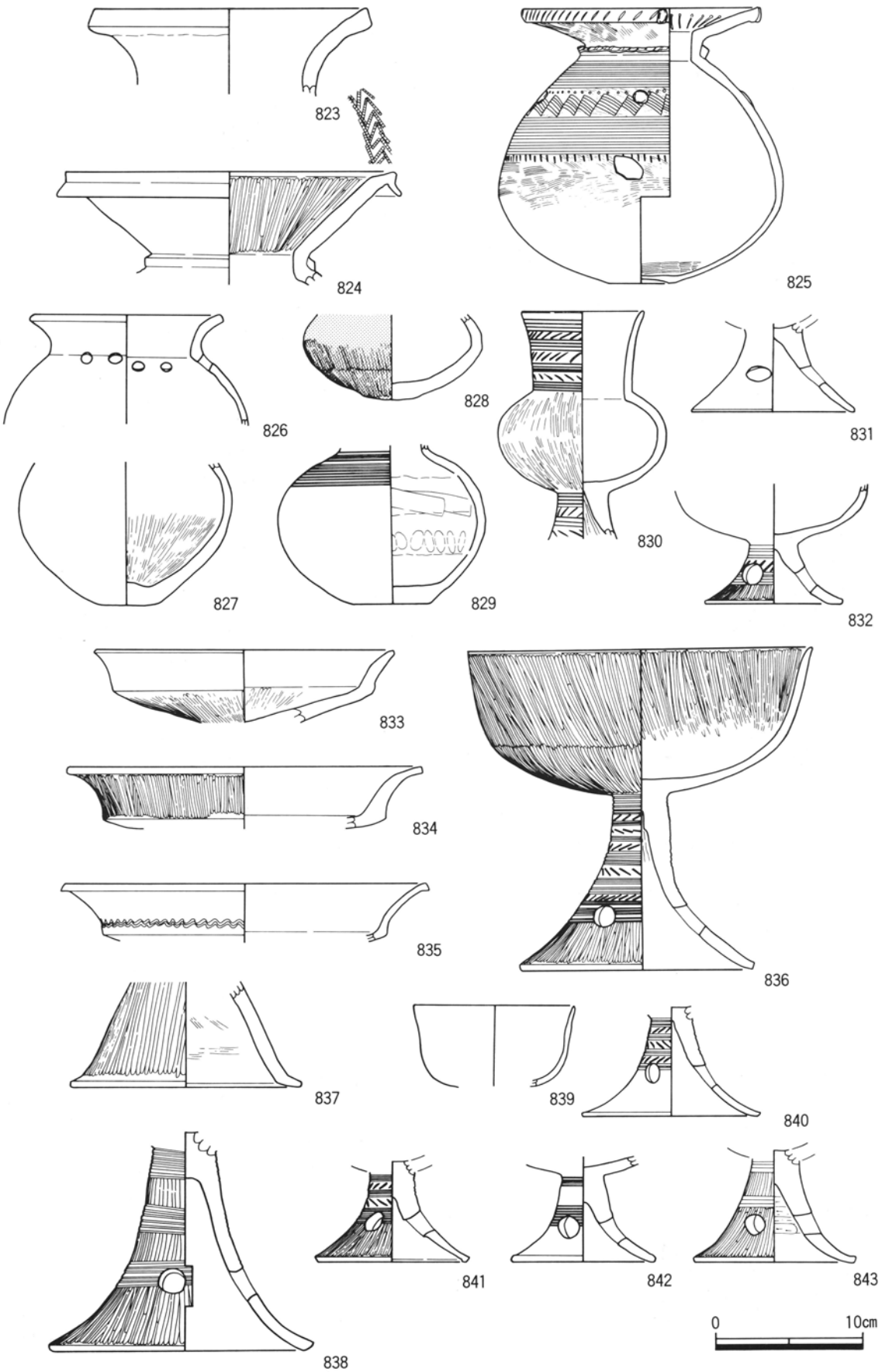

760
761
762
763
764
765
766
767
768
0
10cm

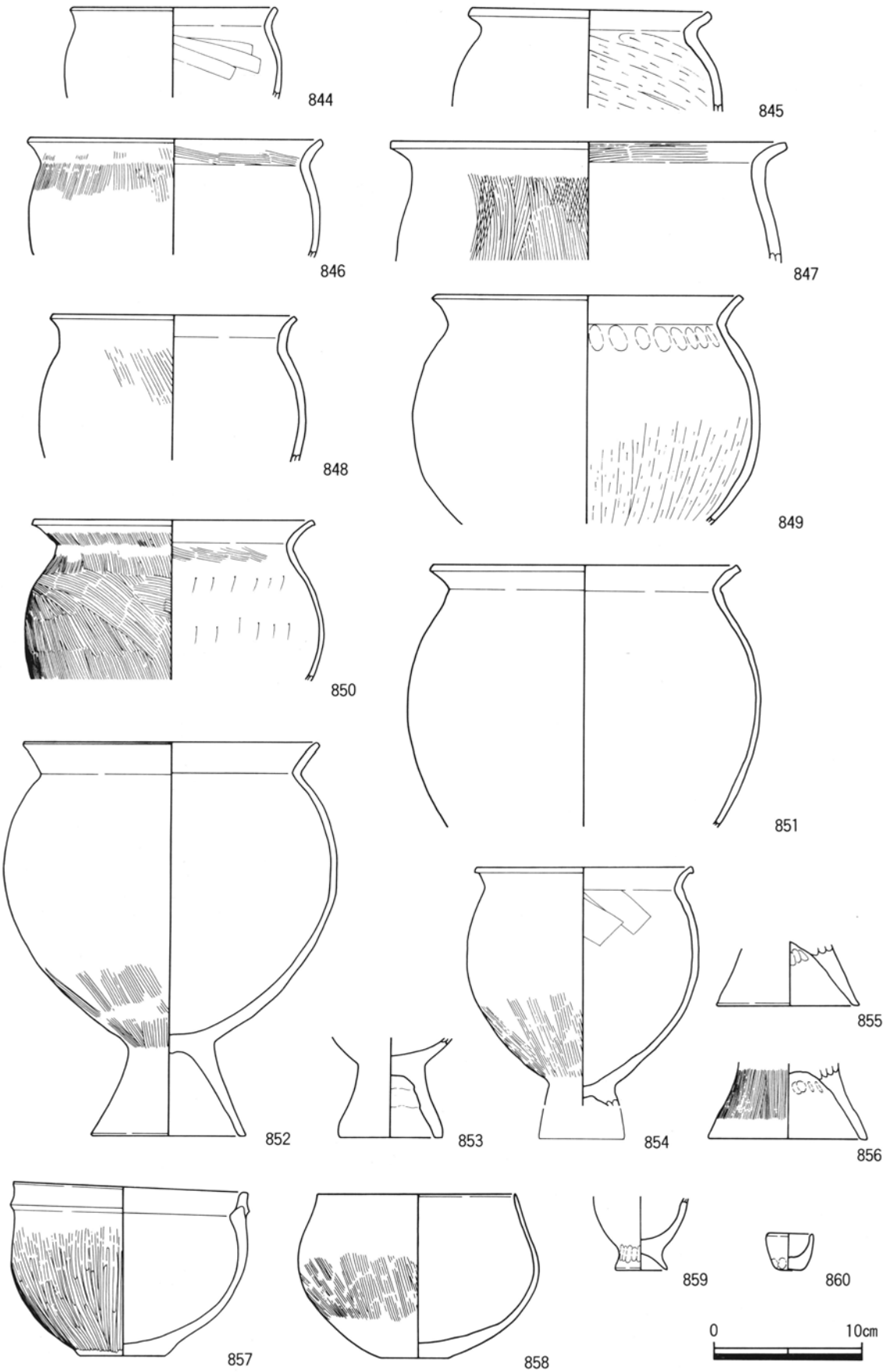
図版66　弥生土器(11)

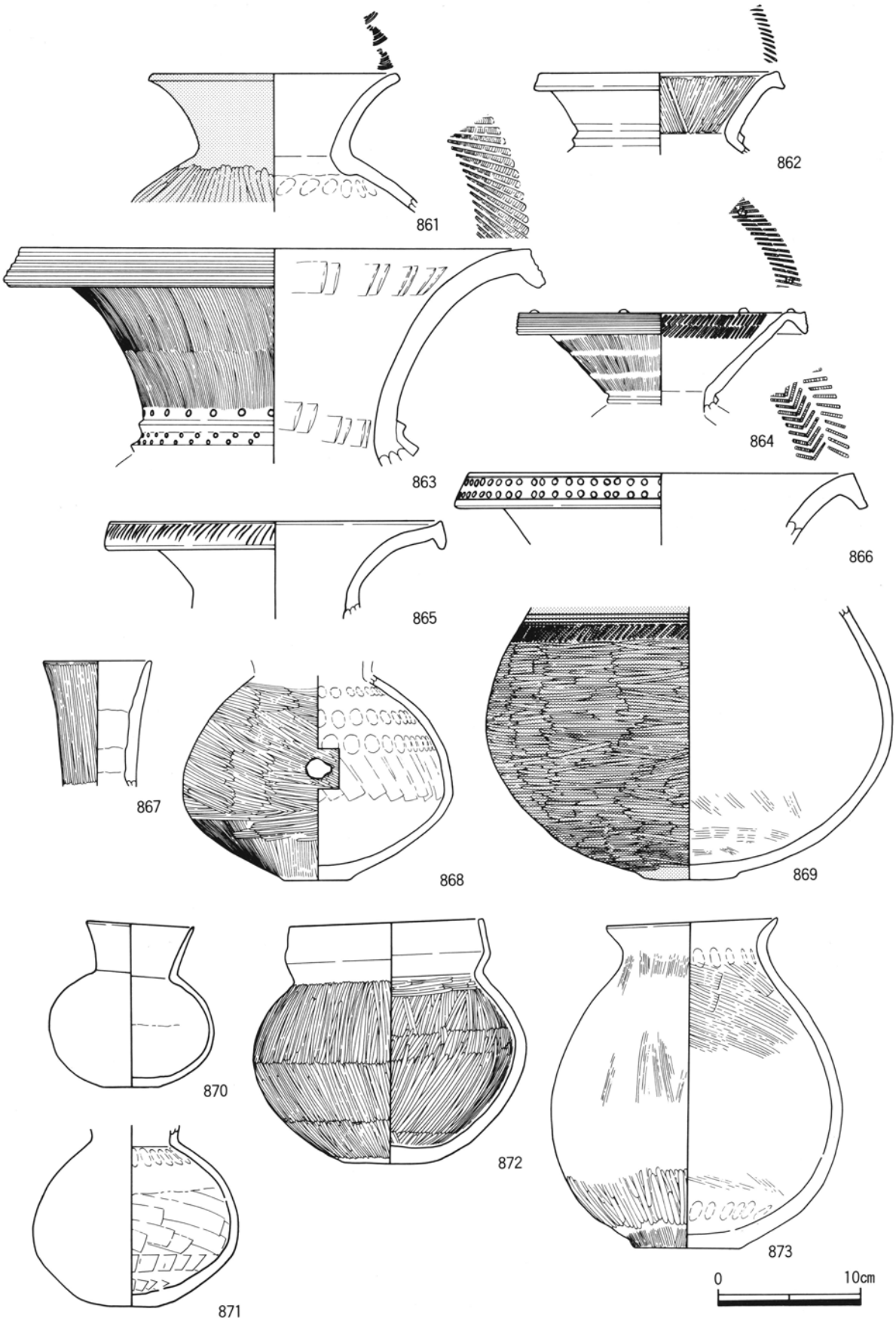

769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
0
10cm

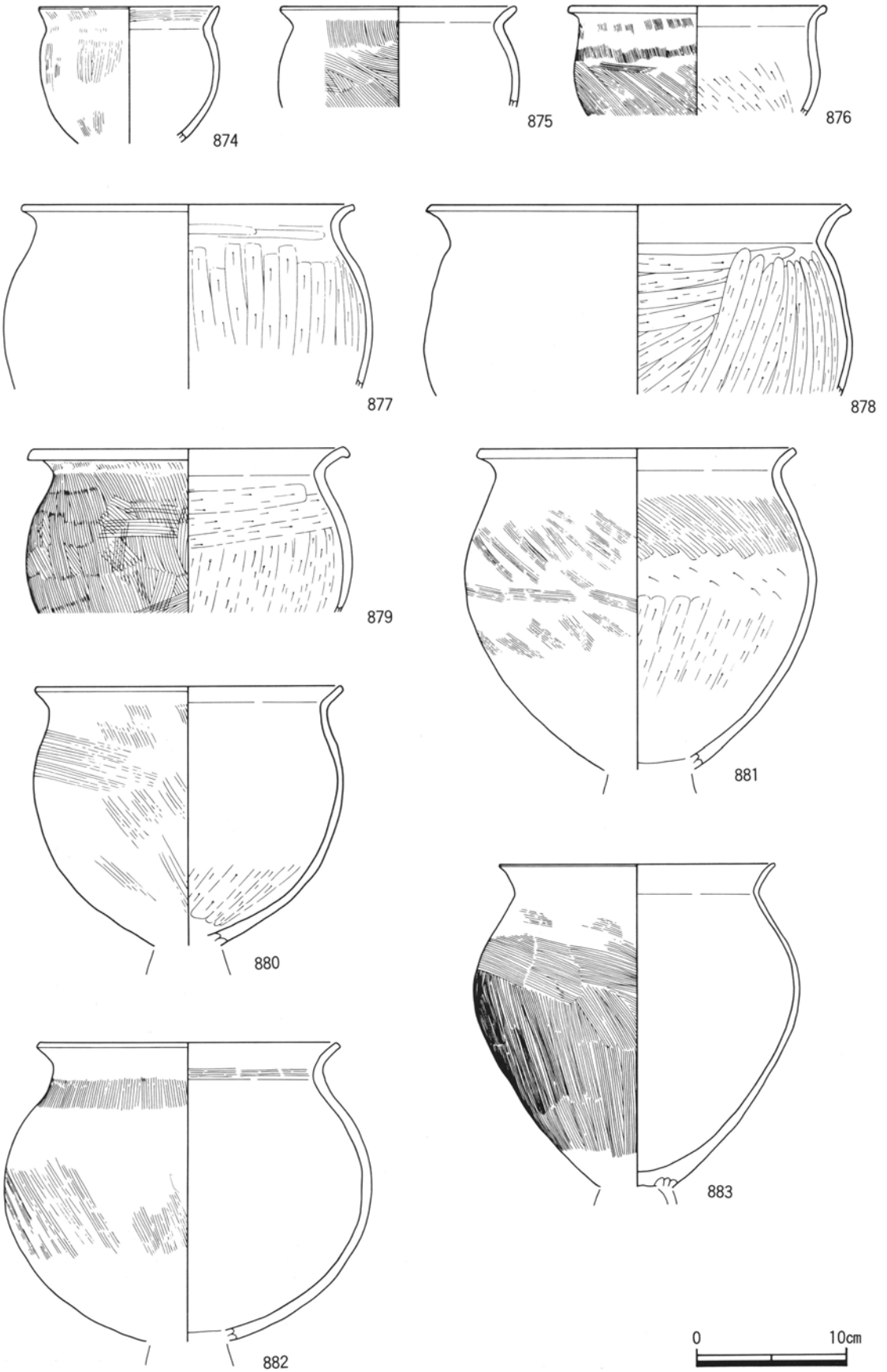

789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
0
10cm

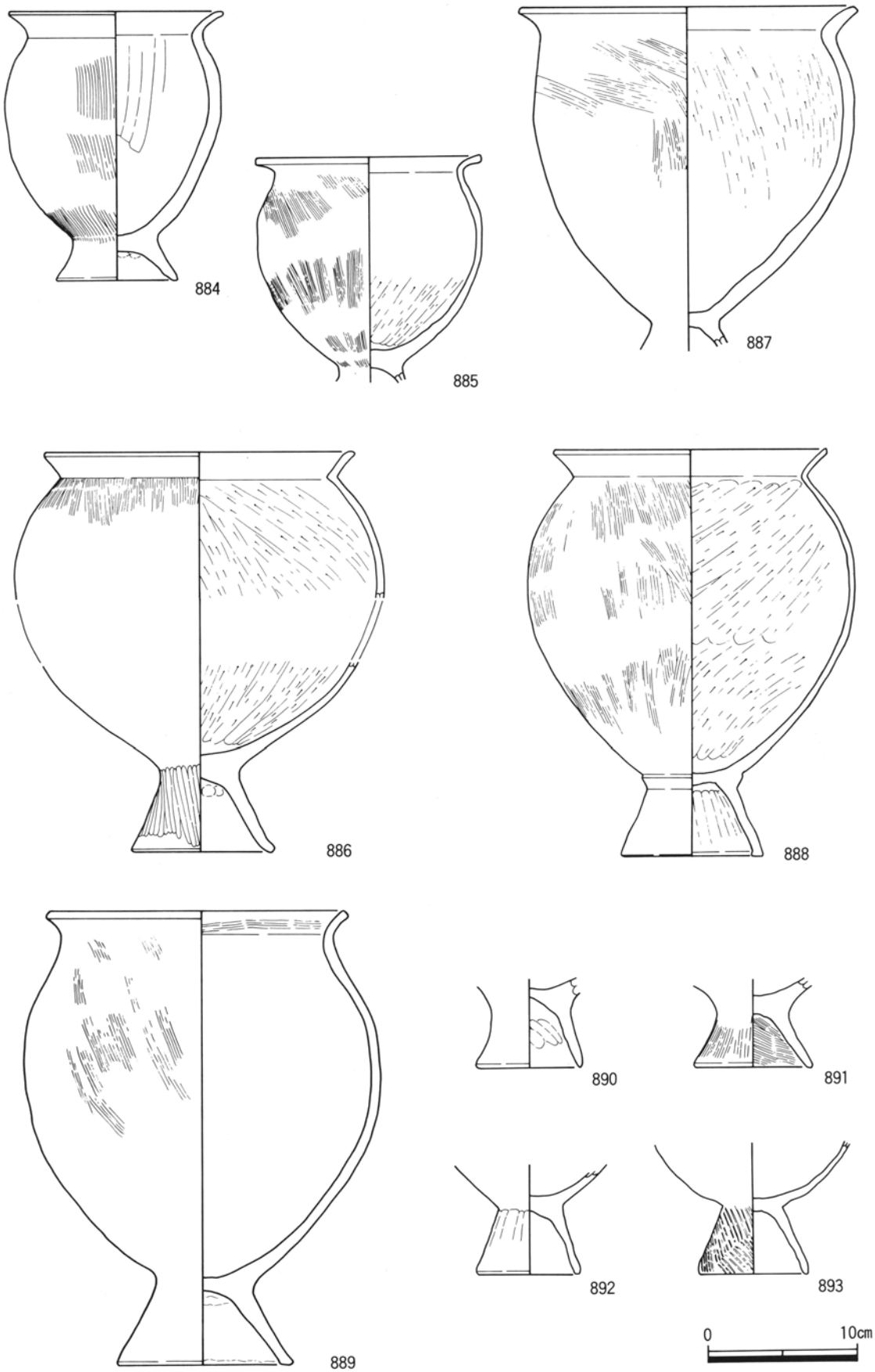

809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
0
10cm

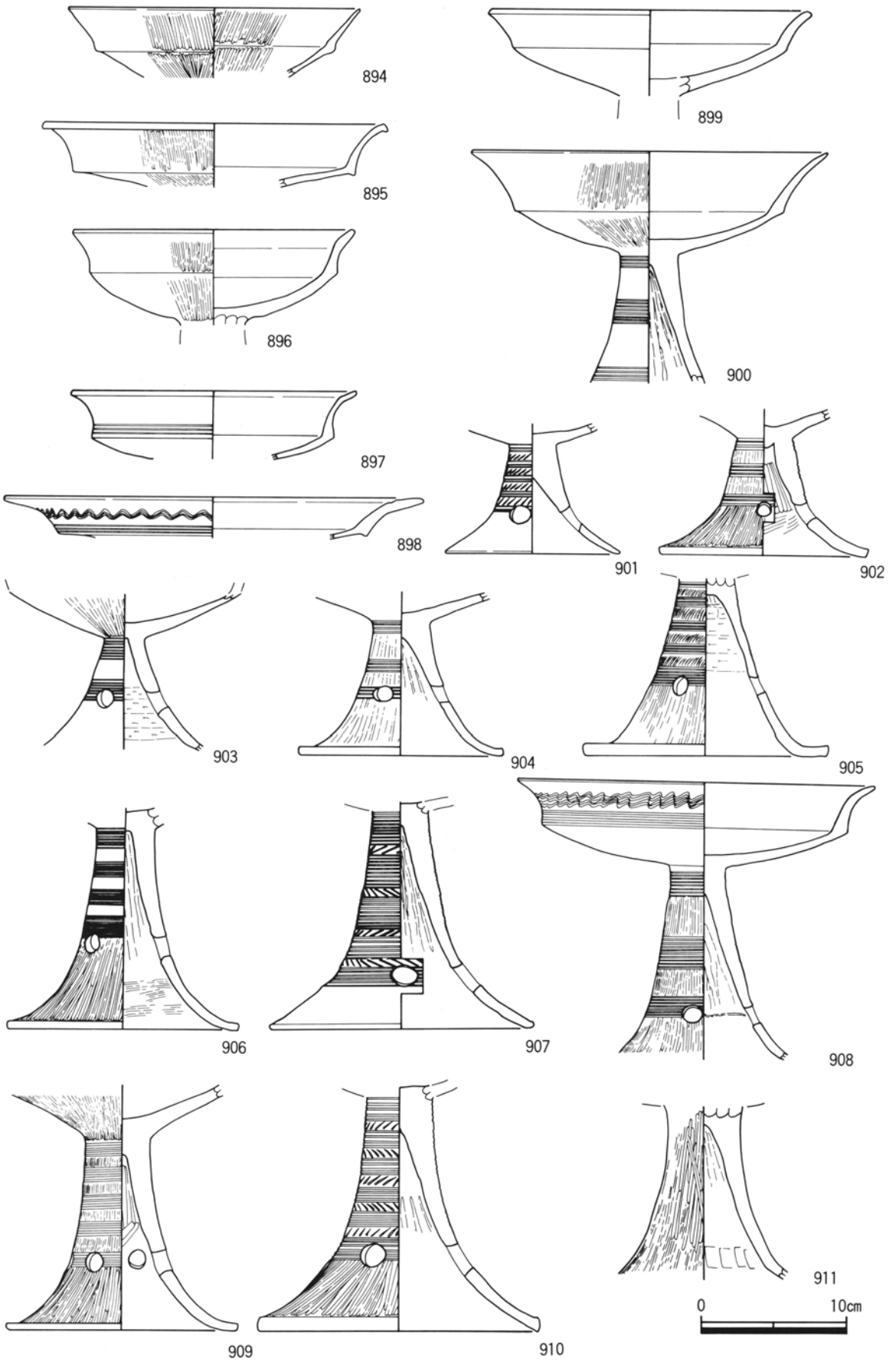

823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
841
842
843
0
10cm

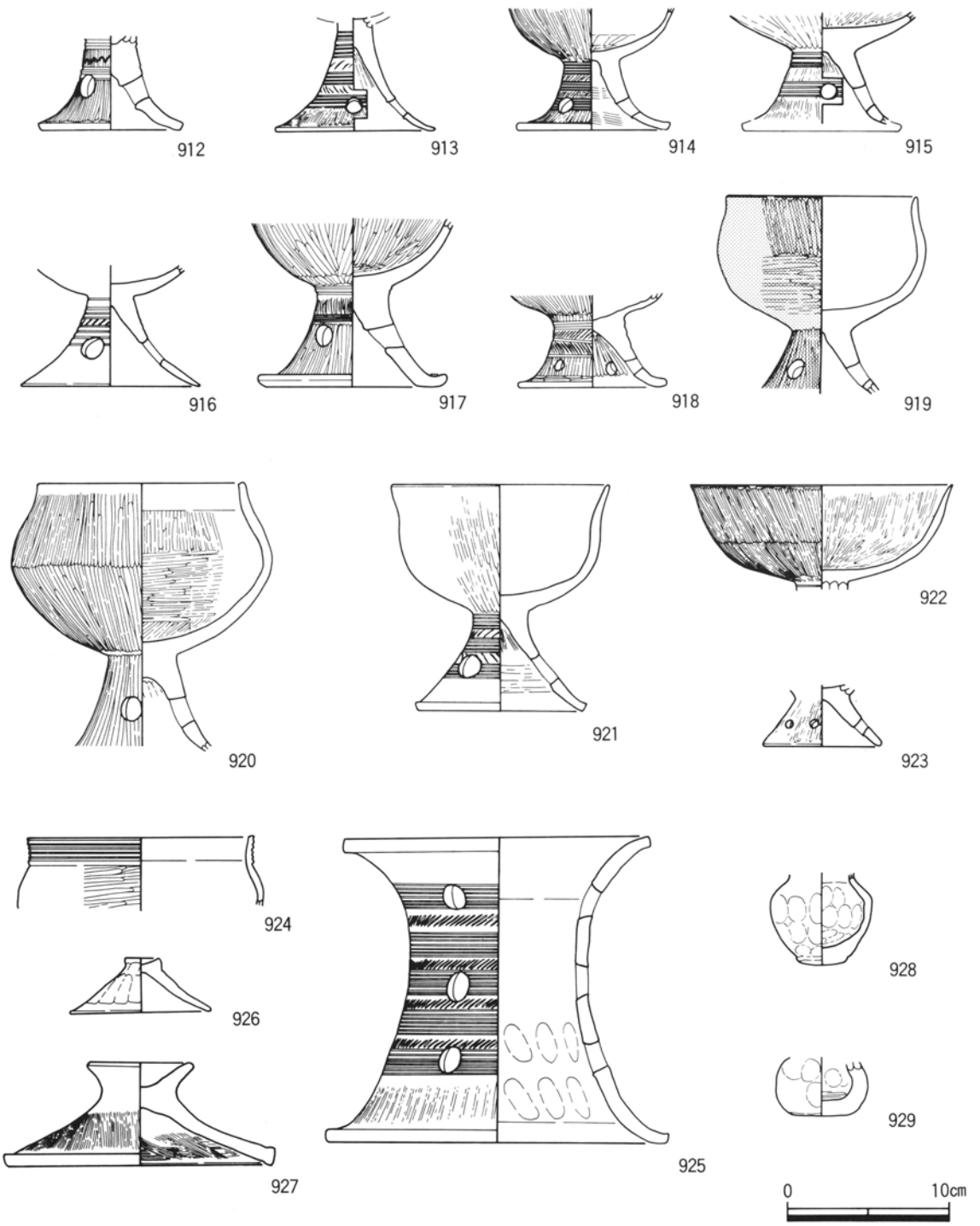

844
845
846
847
848
849
850
851
852
853
854
855
856
857
858
859
860
0
10cm

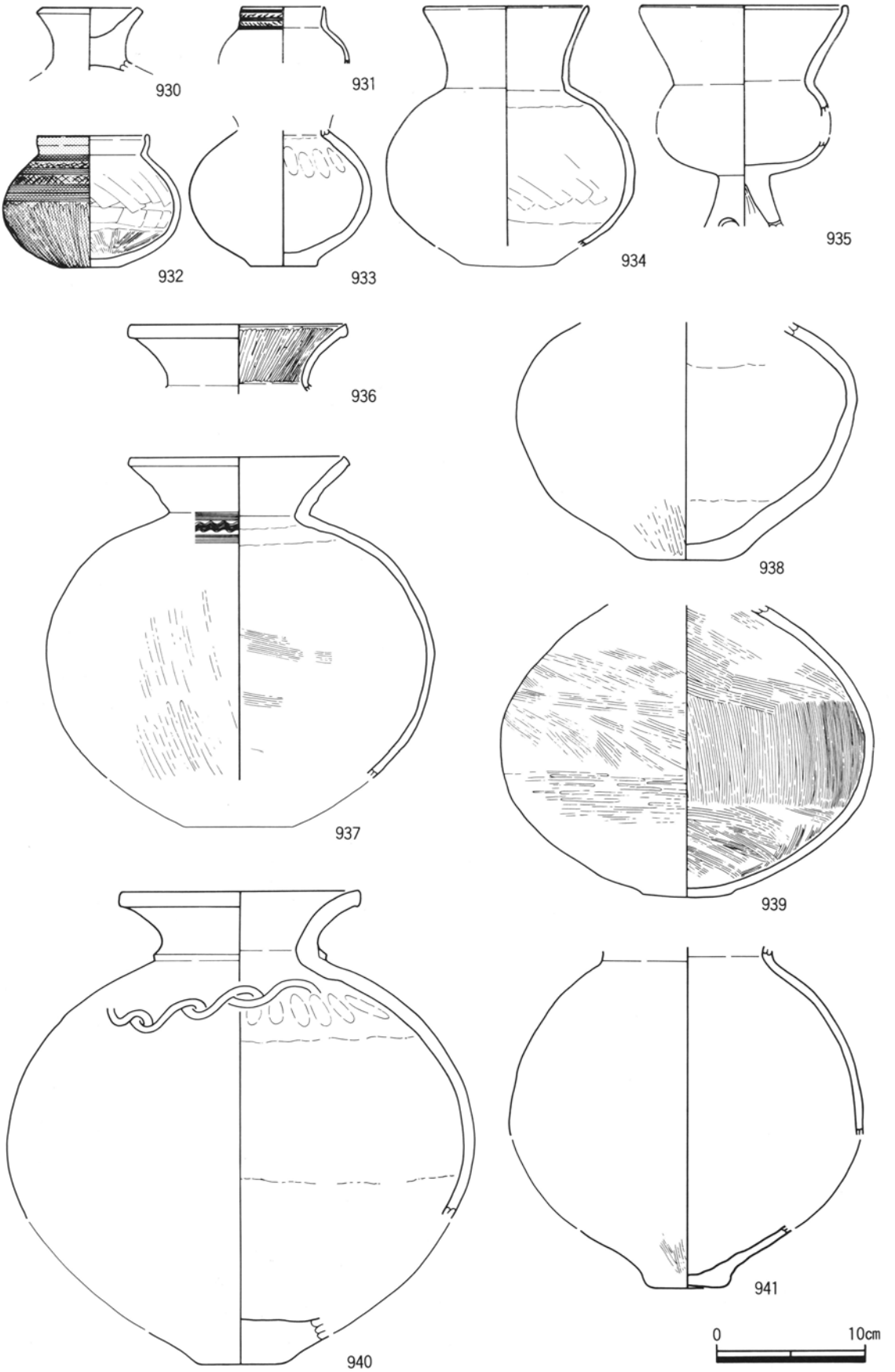

861
862
863
864
865
866
867
868
869
870
871
872
873
0
10cm

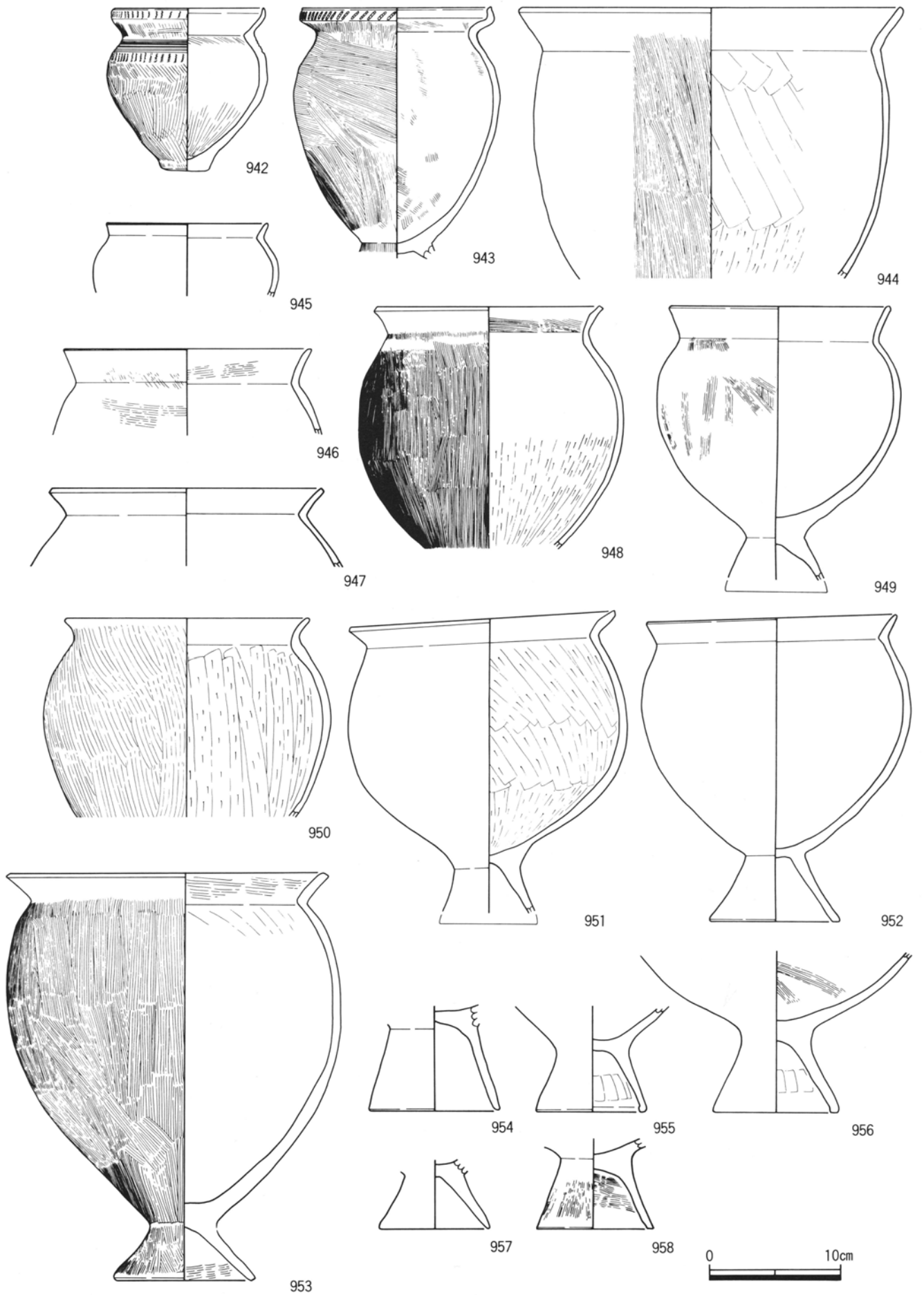

874
875
876
877
878
879
880
881
882
883
0
10cm


884
885
887
886
888
889
890
891
892
893
0
10cm

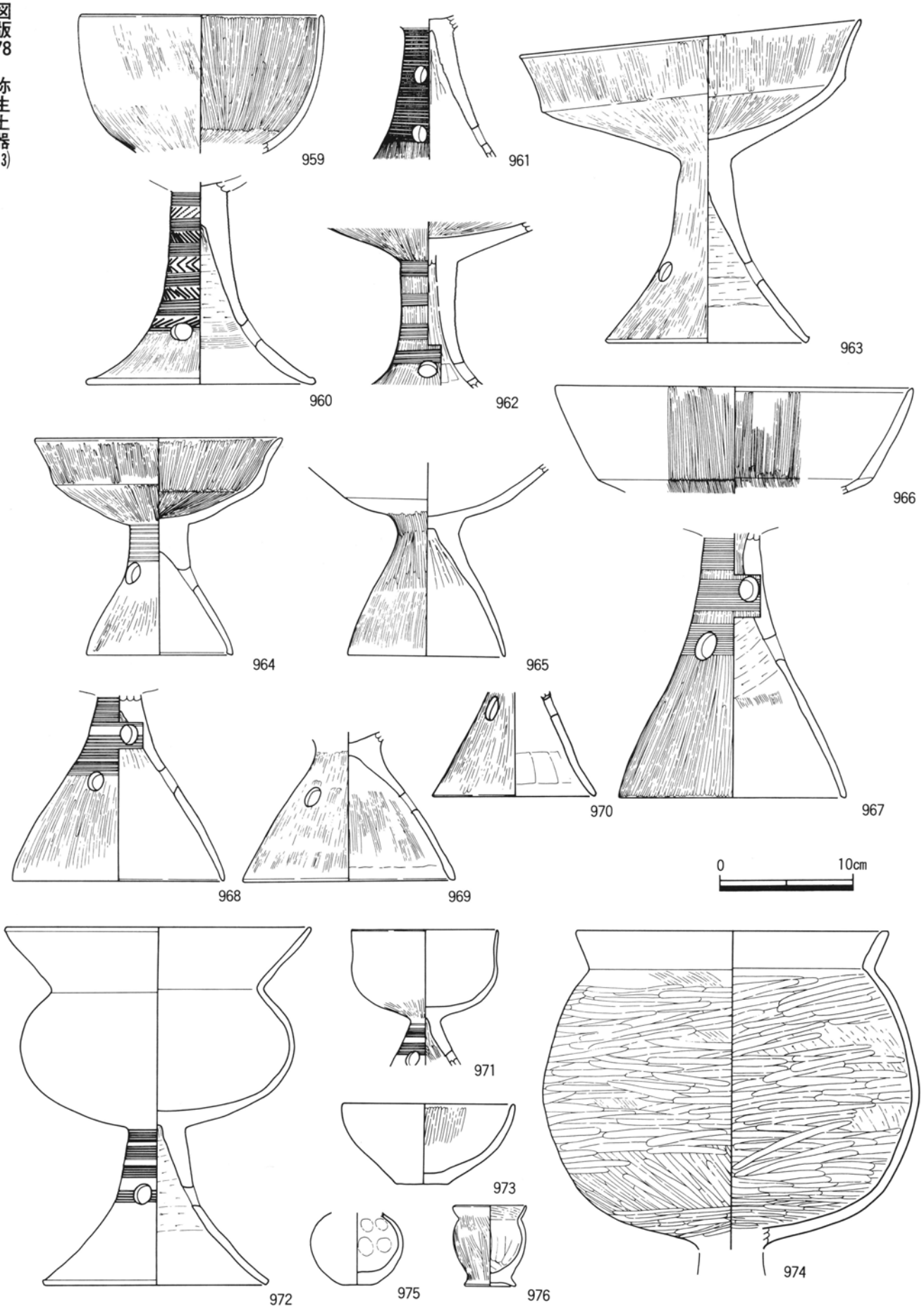

894
895
896
897
898
899
900
901
902
903
904
905
906
907
908
909
910
911
0
10cm

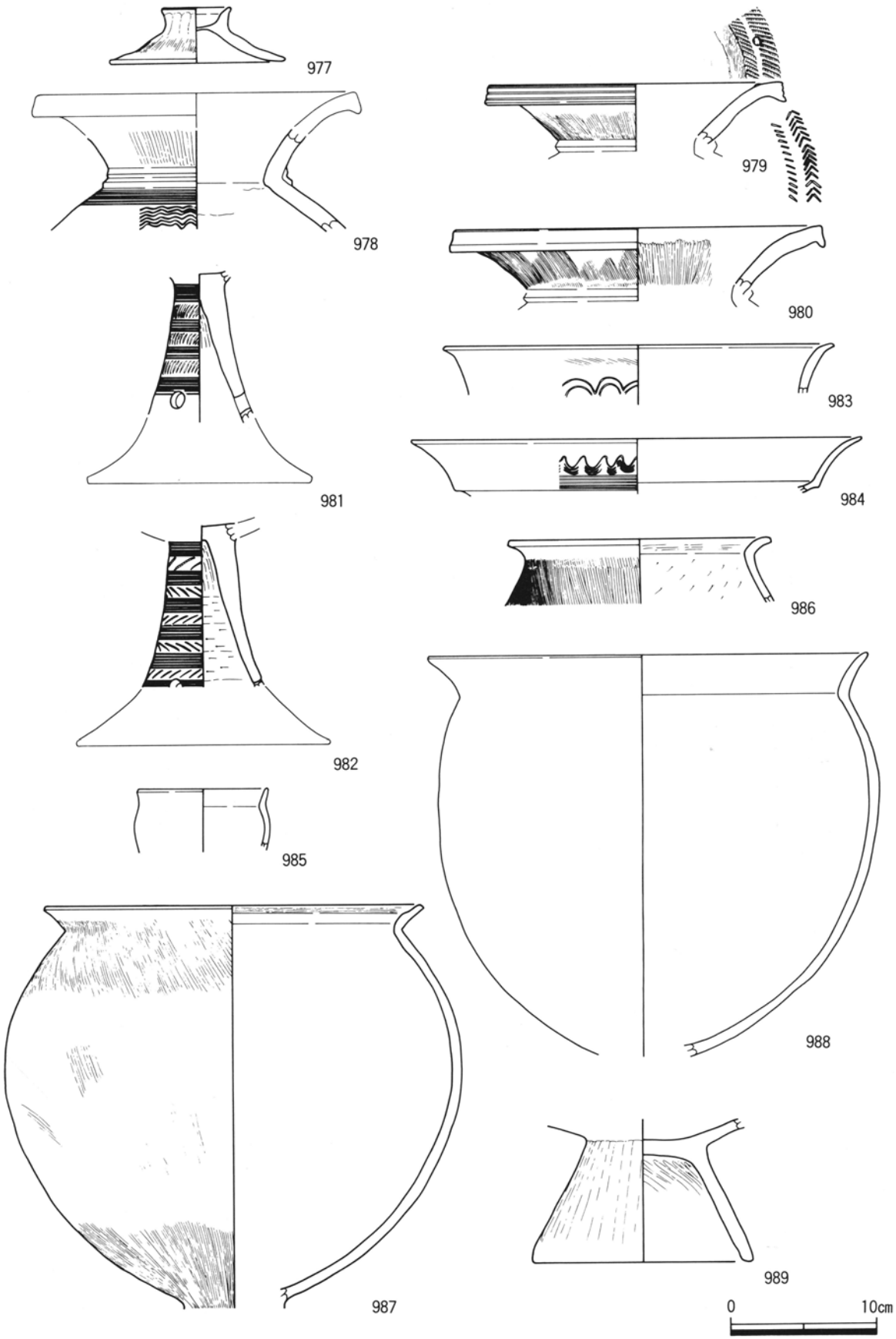

912
913
914
915
916
917
918
919
920
921
922
923
924
925
926
927
928
929
0
10cm

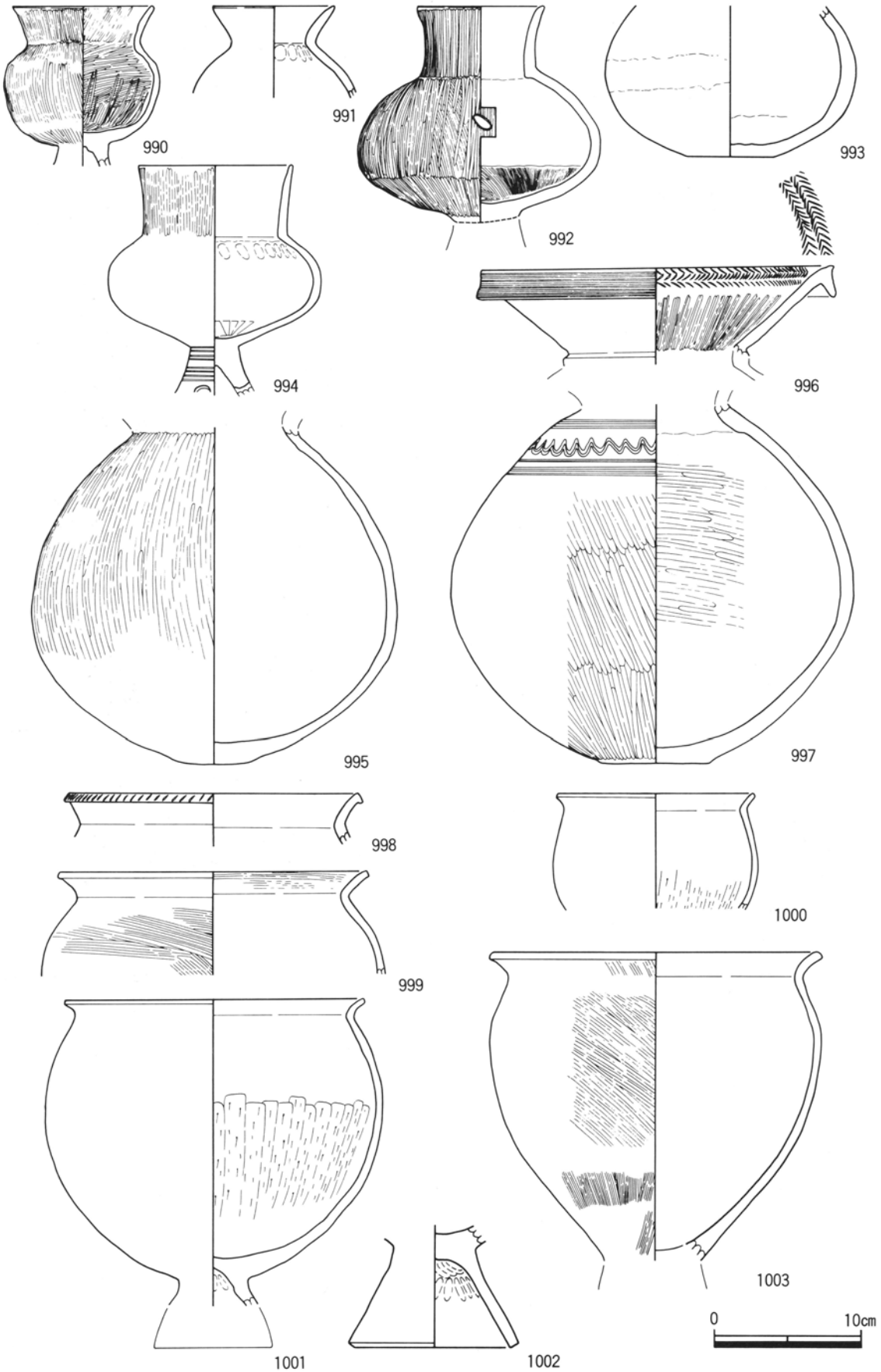

930
931
932
933
934
935
936
937
938
939
940
941
0
10cm

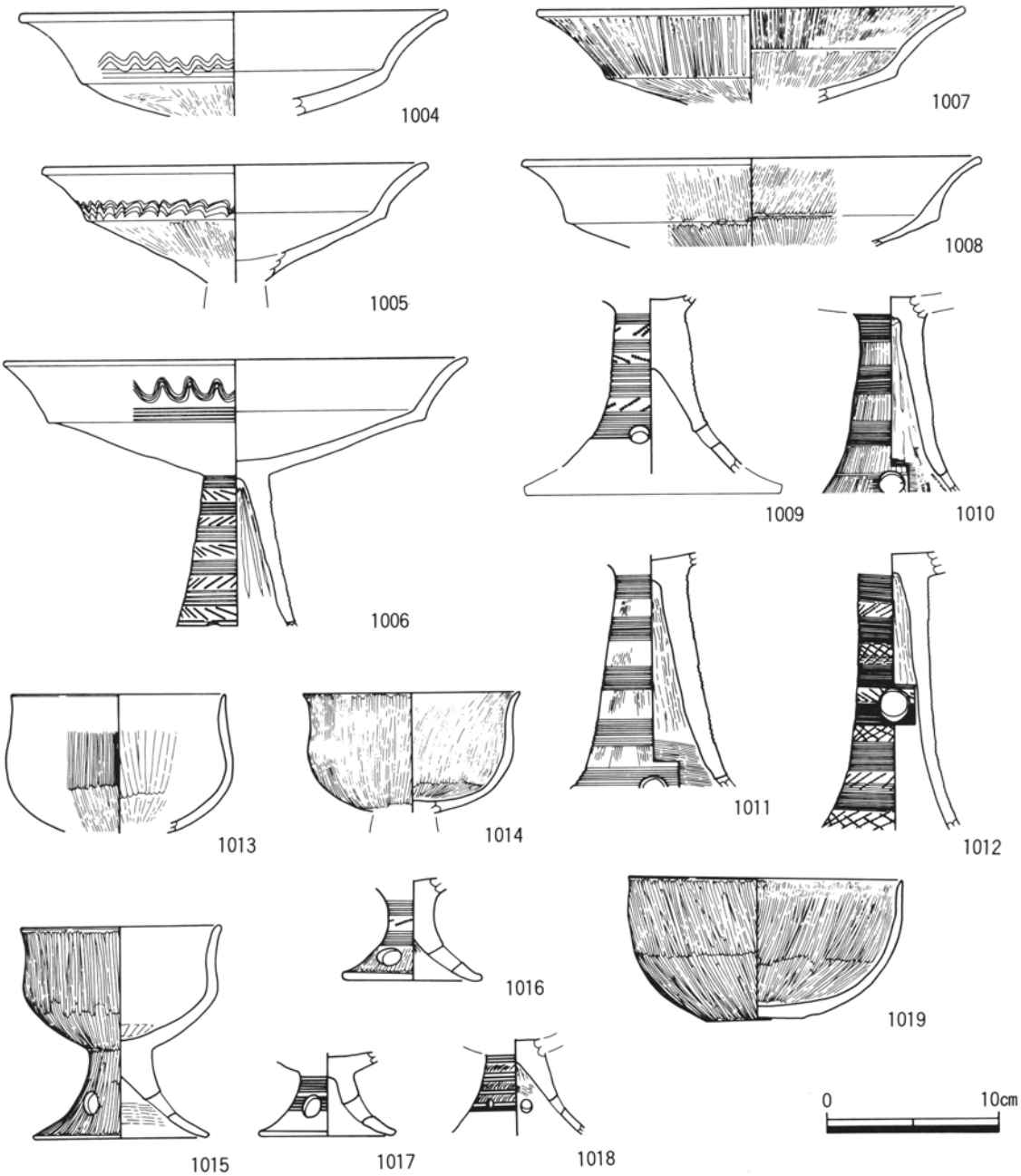

942
943
944
945
946
947
948
949
950
951
952
953
954
955
956
957
958
0
10cm

図版78　弥生土器(23)

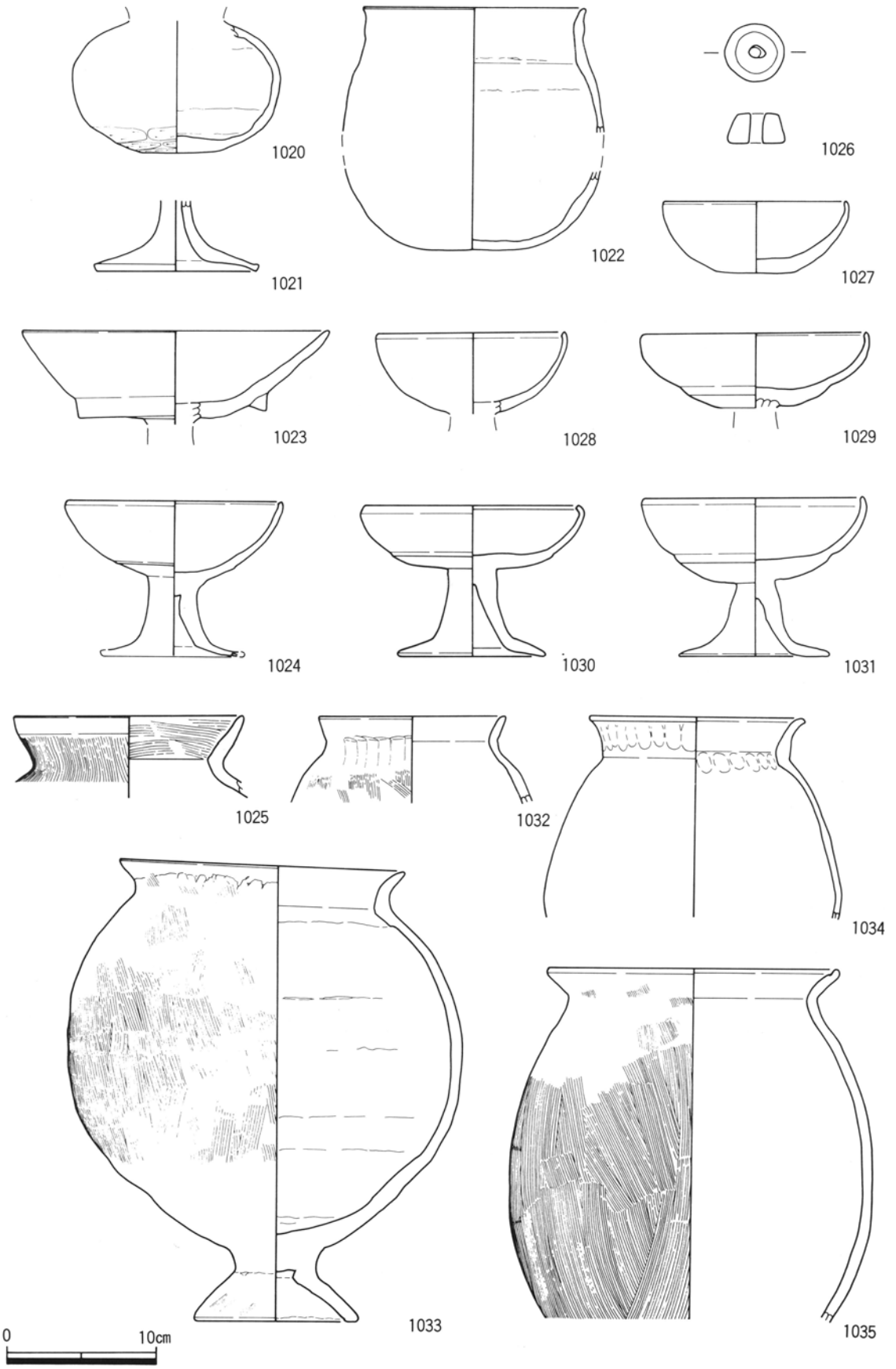

959
960
961
962
963
964
965
966
967
968
969
970
971
972
973
974
975
976
0
10cm

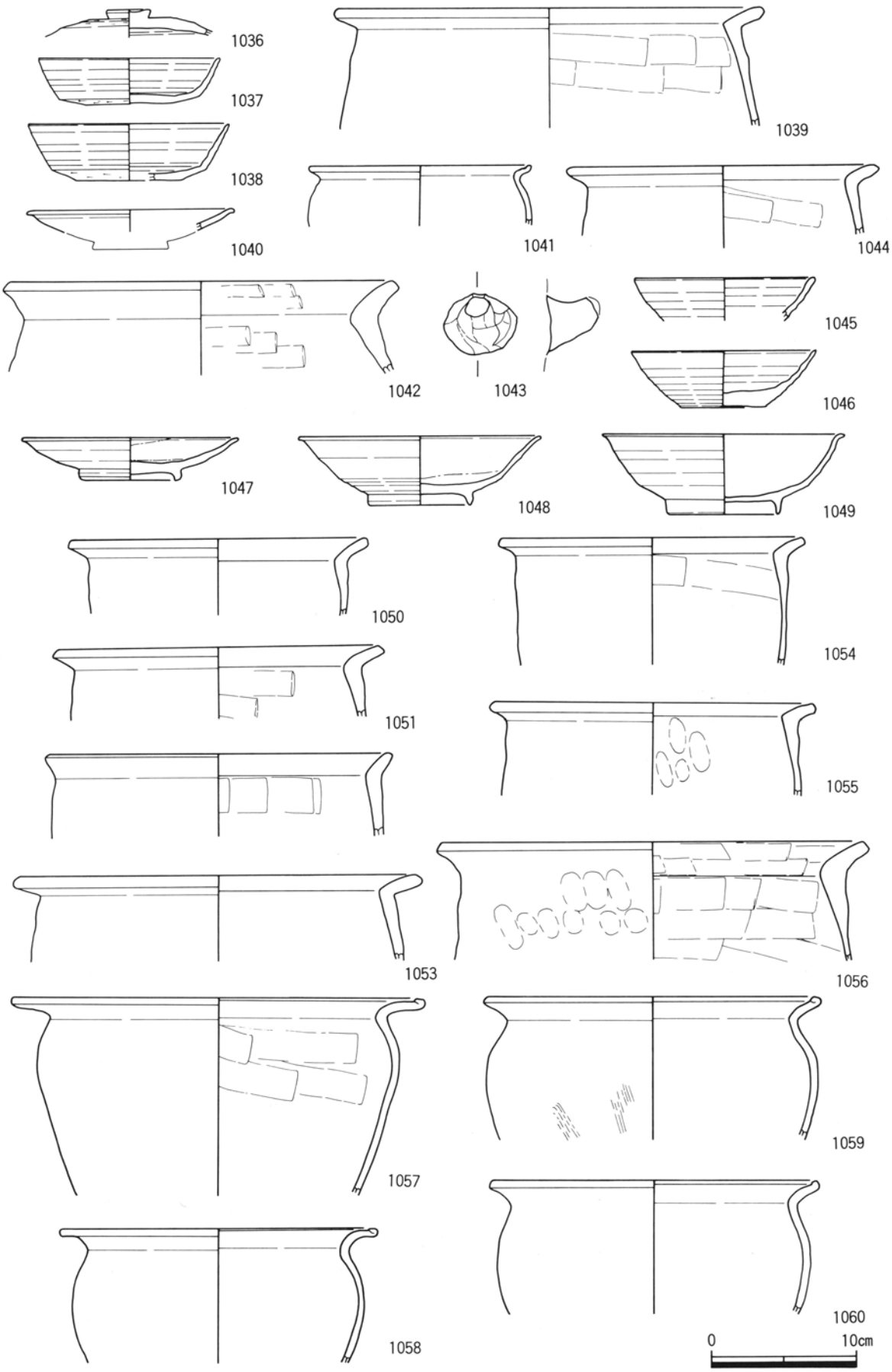

977
978
979
980
981
982
983
984
985
986
987
988
989
0
10cm

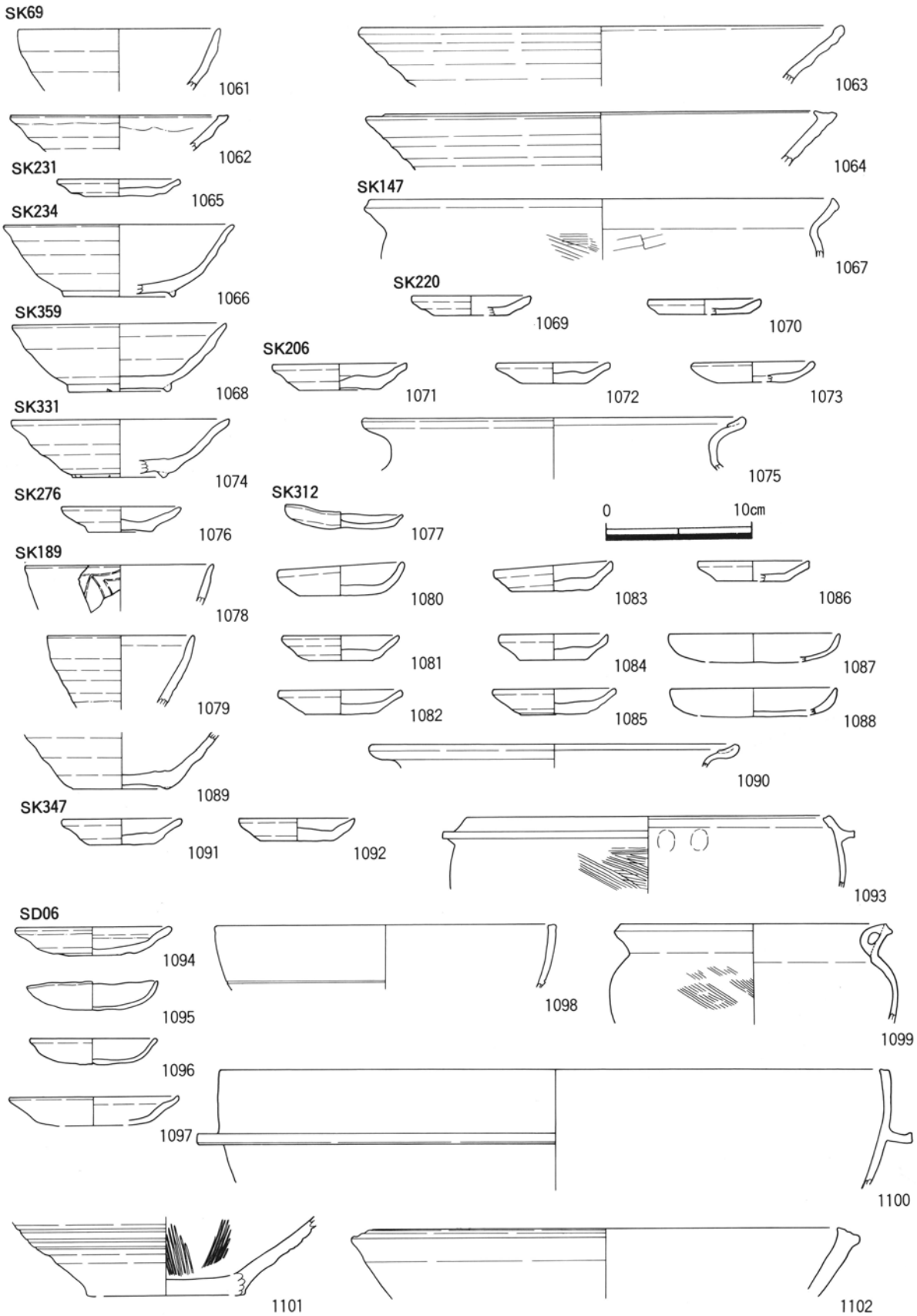

990
991
992
993
994
995
996
997
998
999
1000
1001
1002
1003
0
10cm

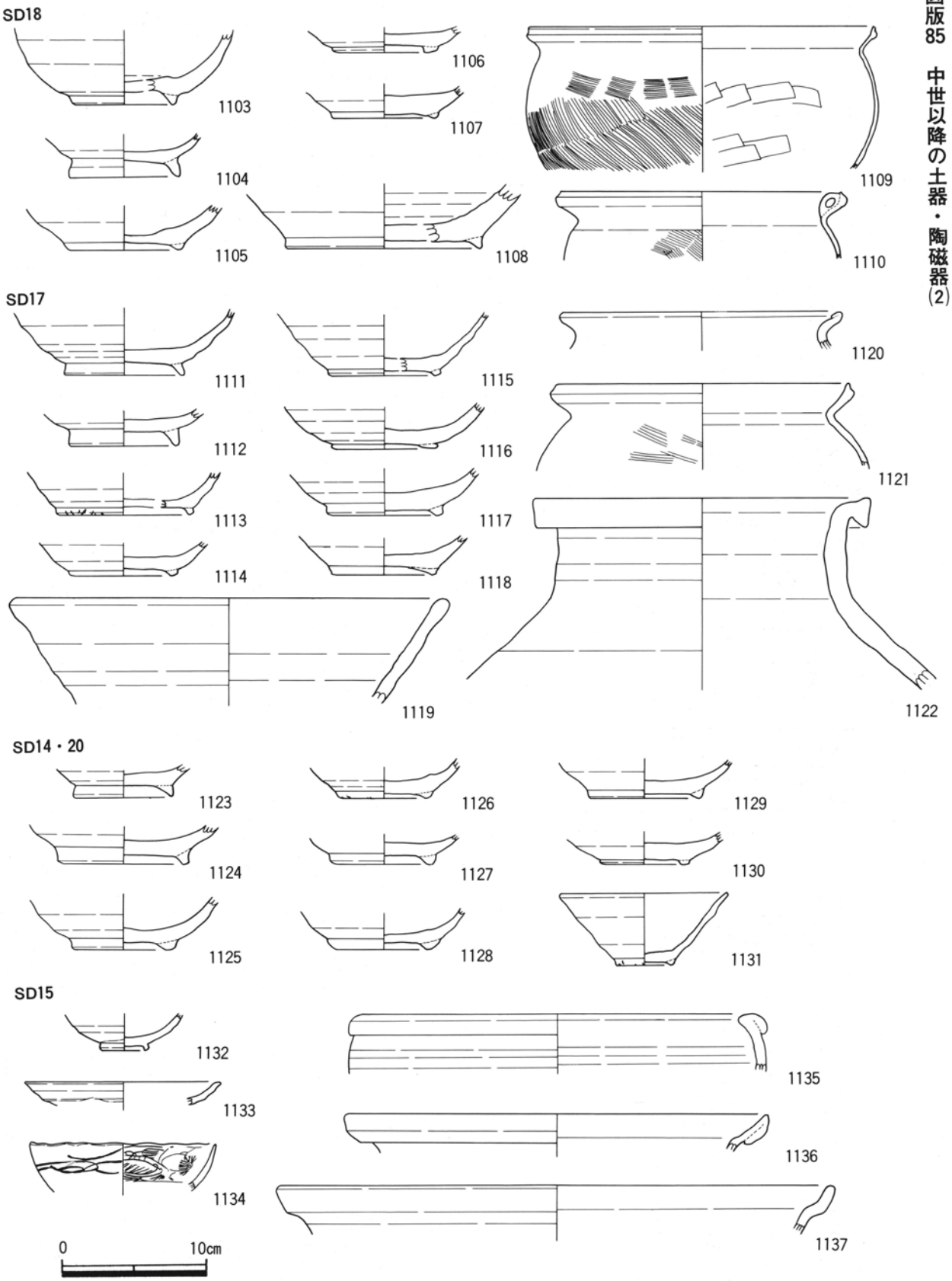

1004
1007
1005
1008
1006
1009
1010
1011
1012
1013
1014
1016
1019
1015
1017
1018
0
10cm

図版82　古墳時代の土師器・須恵器ほか




1036
1037
1038
1040
1039
1041
1044
1042
1043
1045
1046
1047
1048
1049
1050
1054
1051
1055
1053
1056
1057
1059
1058
1060
0
10cm


SK69
1061
1062
1063
1064
SK231
1065
SK147
1067
SK234
1066
SK220
1069
1070
SK359
1068
SK206
1071
1072
1073
SK331
1074
1075
SK276
1076
SK312
1077
0
10cm
SK189
1078
1080
1083
1086
1079
1081
1084
1087
1082
1085
1088
1089
1090
SK347
1091
1092
1093
SD06
1094
1095
1098
1099
1096
1097
1100
1101
1102


SD18
1103
1104
1105
1106
1107
1108
1109
1110
SD17
1111
1112
1113
1114
1115
1116
1117
1118
1119
1120
1121
1122
SD14・20
1123
1124
1125
1126
1127
1128
1129
1130
1131
SD15
1132
1133
1134
1135
1136
1137
0
10cm